

18の凸面は側縁に斜交する斜格子叩きを施し、横ナデを加える。18の凹面は糸切り痕を留める。19・20の凸面は横ナデを施し、19・20の凹面は模骨痕を留める。21・22の凸面は側縁に沿って縄叩きを施す。22の凸面は縄叩きの後、強い横ナデを施す。

23は無段式丸瓦。23の凸面は側縁に直交する平行叩きを施し、横ナデを加える。

24は有段式丸瓦。24の凸面は横ナデを施す。

25・26は平瓦。25の凸面は横ナデに加えて縦ナデを施し、凹面は模骨痕を留める。26の凸面は横ナデを施す。27は無段式丸瓦。27の凸面は横ナデを施す。

28は有段式丸瓦。28の凸面は強い縦ナデを施し、側面は凹面側に削りを施し、凸面側は未調整である。

29～31は塑像螺髪。いずれも砲弾形を呈し、型作りである。螺線は幅が広く、底面から右巻きである。採色の痕跡は見られない。29は底面径21mm。底面は径7mmの孔を穿ち、底面を斜めに削る。2箇所型の型合わせ痕が残る。30は底面径23mm。底面は径6mmの孔を穿ち、底面を2段に斜めに削る。2箇所の型合わせ痕が残る。31の底面は孔を穿ち、2箇所の型合わせ痕が残る。

## F. 第12次調査8トレンチの調査

### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は24.45mである。

表土の耕作土となる黒褐色土(層厚0.2～0.3m)下、トレンチ南端では標高24.05～24.1m前後で創建期講堂基壇北辺の検出面に、北端では標高23.95mで創建期講堂基壇に伴う整地面に至る。

創建期講堂基壇および整地面に挟まれた溝の埋土が堆積層にあたり、黒褐色土が堆積する。この部分から須恵器杯蓋(杯H蓋)4点、杯(杯A)3点、杯蓋(杯B蓋)3点、杯(杯B)1点、甕1点、皿1点、須恵器小片3点、土師器甕7点、皿8点、製塩土器1点、無段式丸瓦2点、平瓦3点、瓦小片4点が破片で出土(第72図1～11)。

創建期講堂基壇および整地面下、23.8～23.85mにおいて地山面となる褐色粘土層、褐色砂礫土層の上面に至る。

### ② 検出遺構の概要

表土下で創建期講堂基壇SB120801北辺を検出するとともに、基壇に伴う掘込地業、溝SD120801、整地面を検出した。また、基壇および整地面の断割部分の地山面で小穴2基(P120801・P060502)を検出した。

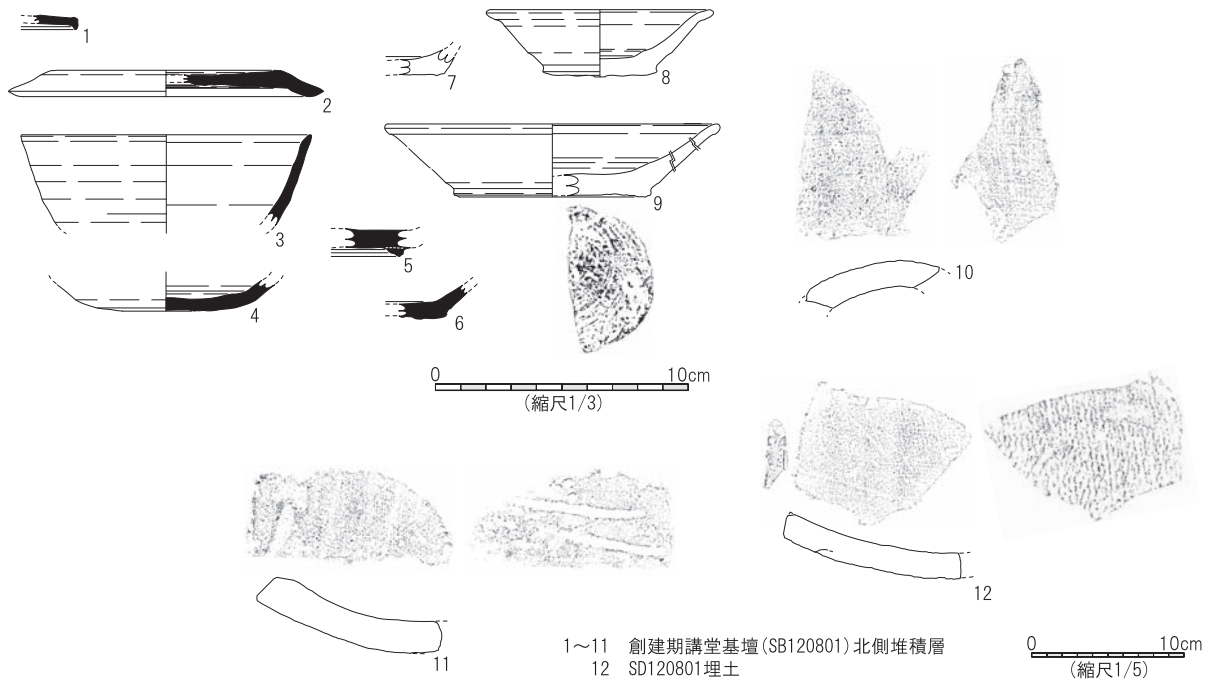
なお、このトレンチは茶の樹木の合間をぬって掘削しており、未掘部分を多く残している。

### ③ 建物基壇および整地面

〈創建期講堂基壇SB120801〉

SB120801は基壇積み土と北辺、これに伴う掘込地業、溝、整地面を平面、土層断面で検出した。基壇面の標高は24.05～24.1m、基壇積み土は黒褐色土、暗褐色土からなり、小ブロック単位にある程度水平に盛土する。基壇外装は見られない。

基壇構築に伴う掘込地業は基壇北辺から南に向けて施され、地山面から掘り込み、底面の標高23.8mまで掘削し、基壇の盛土を施している。掘込地業北辺と基壇盛土との間は溝状をなし、基壇北辺の雨落ち溝であったものと考えられる。溝の北側は標高23.95mで整地面をなし、黒褐色土を大ブロック単位で水平に盛土し、その上面を整地面とする。



第72図 興道寺廃寺第12次調査8トレンチ出土遺物実測図

④ 溝

SD120801は南北幅1.24m、最深0.15m。断面形状は船底状で、黒褐色土、黒褐色砂質土、暗褐色土を埋土にもつ。底面付近の埋土から平瓦1点が破片で出土した(第72図12)。

⑤ 小穴

P120801の平面形態は円形で、南北0.32m、東西検出長0.30m、深さ0.27m。P120802はP060502の未掘部分を検出した。

⑥ 出土遺物

第72図1～11は講堂基壇北側の堆積層、12はSD120801埋土から出土した。

1・2は須恵器杯蓋(杯B蓋)。1は天井部から口縁部にかけて直線的に伸び、口縁端部を鋭く下方に折り返す。2は口縁部が短く外下方に伸び、口縁端部をそのまま鋭く収める。3・4は須恵器杯(杯A)。口縁部の内外面を横ナデする。4の底部は丸みを帯び、外面にヘラ切り痕が残る。5は須恵器杯(杯B)。高台は低く、外方に張り出す。6は須恵器皿。底部は平らで、強く屈曲しながら立ち上がる。

7～9は土師器皿。7の底部は平らで、外面に糸切り痕を留める。8の底部は径がさほど大きくなく、外面にヘラ切り痕が残る。口縁部が外上方に真っすぐ伸び、口縁端部を鋭く外方に引き出す。全体的に煤が付着する。9の底部は平高台で、外面に糸切り痕を留める。口縁部は外方に真っすぐ伸びる。

10は無段式丸瓦。10の凸面は縄叩きの後、強い横ナデを施す。

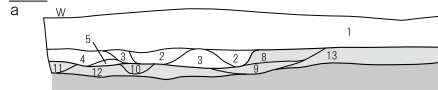
11は平瓦。11の凸面は強い縦ナデを施す。

12は平瓦。12の凸面は側縁に沿って縄叩きを施す。





24.3m

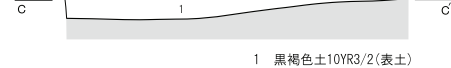


- |                         |                           |              |
|-------------------------|---------------------------|--------------|
| 1 黒褐色土10YR3/2(表土)       | 8 同上10YR3/3(地山土混じる)       | 2-7 堆積層      |
| 2 同上10YR3/2(径2cmまでの礫含む) | 9 同上10YR3/3(径2cmまでの礫多く含む) | 8-13 創建期講堂基壇 |
| 3 同上10YR2/2(地山土混じる)     | 10 黒褐色土10YR3/2(粗砂含む)      | 14 地山層       |
| 4 同上10YR2/3             | 11 同上10YR3/2(径2cmまでの礫含む)  |              |
| 5 同上10YR3/2(粗砂多く含む)     | 12 同上10YR3/2(径10cmまでの礫含む) |              |
| 6 同上10YR3/2(地山土混じる)     | 13 暗褐色土10YR3/3(地山土混じる)    |              |
| 7 暗褐色土10YR3/3           | 14 黄褐色土10YR5/6(地山土)       |              |

24.3m

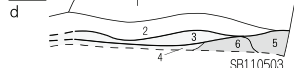


24.3m



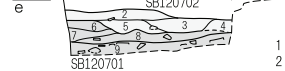
1 黒褐色土10YR3/2(表土)

24.3m



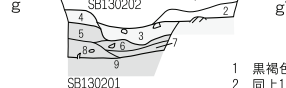
- |                           |              |
|---------------------------|--------------|
| 1 黒褐色土10YR2/2(表土)         | 2 堆積層        |
| 2 同上10YR2/2(粗砂含む)         | 3 再建期講堂基壇整地層 |
| 3 同上10YR2/2(微細遺物混じる、粗砂含む) | 4 再建期金堂基壇整地層 |
| 4 暗褐色土10YR3/3(地山土混じる)     | 5・6 創建期講堂基壇  |
| 5 黒褐色土10YR2/3             |              |
| 6 同上10YR3/2(径1cmまでの礫含む)   |              |

24.3m



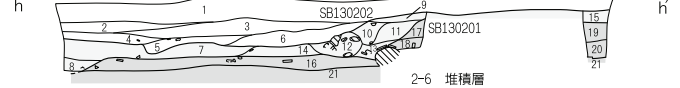
- |                 |   |
|-----------------|---|
| 2-5 再建期講堂基壇・整地層 | 1 |
| 6-8 創建期講堂基壇     | 2 |
| 9 創建期講堂基壇整地層    | 3 |
|                 | 4 |
|                 | 5 |
|                 | 6 |
|                 | 7 |
|                 | 8 |
|                 | 9 |

24.3m



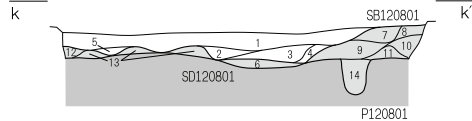
- |                              |                 |
|------------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色土10YR3/2(表土)            | 2 堆積層           |
| 2 同上10YR2/3(瓦混じる、径2cmまでの礫含む) | 3-4 再建期講堂基壇・整地層 |
| 3 同上10YR2/3(微細遺物混じる)         | 5-8 創建期講堂基壇・整地層 |
| 4 同上10YR3/2(径2cmまでの礫含む)      | 9 創建期講堂基壇整地層    |
| 5 同上10YR2/3(微細遺物混じる、粗砂含む)    |                 |
| 6 同上10YR2/3(瓦混じる、径5cmまでの礫含む) |                 |
| 7 同上10YR3/2(瓦混じる)            |                 |
| 8 同上10YR2/2(瓦・微細遺物混じる)       |                 |
| 9 暗褐色粘土10YR3/3(瓦多く混じる)       |                 |

24.3m



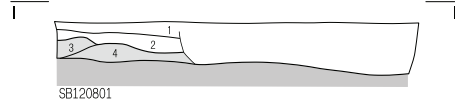
- |                                 |                   |                                 |
|---------------------------------|-------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色土10YR3/2(表土)               | 2-6 堆積層           | 11 同上10YR3/2(径5cmまでの礫含む)        |
| 2 同上10YR2/3(瓦混じる、径2cmまでの礫多く含む)  | 7-15 再建期講堂基壇・整地層  | 12 同上10YR3/2(径10cmまでの礫多く含む)     |
| 3 同上10YR2/3(粗砂・径2cmまでの礫多く含む)    | 16-21 創建期講堂基壇・整地層 | 13 同上10YR2/3(微細遺物混じる)           |
| 4 同上10YR2/3(瓦混じる、径1cmまでの礫含む)    |                   | 14 同上10YR2/3(径3cmまでの礫少し含む)      |
| 5 同上10YR2/3(粗砂含む)               |                   | 15 同上10YR3/2(径2cmまでの礫含む)        |
| 6 同上10YR2/3(粗砂・径5cmまでの礫含む)      |                   | 16 暗褐色粘土10YR3/3(瓦多く混じる)         |
| 7 同上10YR2/2(微細遺物混じる、径1cmまでの礫含む) |                   | 17 黒褐色土10YR3/2(径2cmまでの礫含む)      |
| 8 同上10YR2/3(軟質)                 |                   | 18 同上10YR2/2(粗砂含む)              |
| 9 同上10YR3/2                     |                   | 19 同上10YR2/3(微細遺物混じる、粗砂含む)      |
| 10 同上10YR3/2(瓦混じる、粗砂含む)         |                   | 20 同上10YR2/2(瓦・微細遺物混じる)         |
|                                 |                   | 21 暗褐色粘土10YR3/3(よく締まる、瓦・礫若干混じる) |

24.3m



- |                               |                  |
|-------------------------------|------------------|
| 1 黒褐色土10YR3/2(表土)             | 2-5 堆積層          |
| 2 暗褐色土10YR3/3(径3cmまでの礫含む)     | 6-14 創建期講堂基壇・整地層 |
| 3 黒褐色砂質土10YR3/2(径10cmまでの礫含む)  |                  |
| 4 黒褐色土10YR2/3(径5cmまでの礫含む)     |                  |
| 5 同上10YR3/2                   |                  |
| 6 同上10YR2/3                   |                  |
| 7 同上10YR3/2(よく締まる、径5cmまでの礫含む) |                  |
| 8 同上10YR3/2                   |                  |
| 9 同上10YR3/2(径3cmまでの礫含む)       |                  |
| 10 同上10YR3/2(径3cmまでの礫含む)      |                  |
| 11 暗褐色土10YR3/3(地山土ブロック混じる)    |                  |
| 12 黒褐色土10YR3/2                |                  |
| 13 同上10YR2/3(地山土混じる)          |                  |
| 14 暗褐色土10YR3/3(地山土ブロック混じる)    |                  |

24.3m



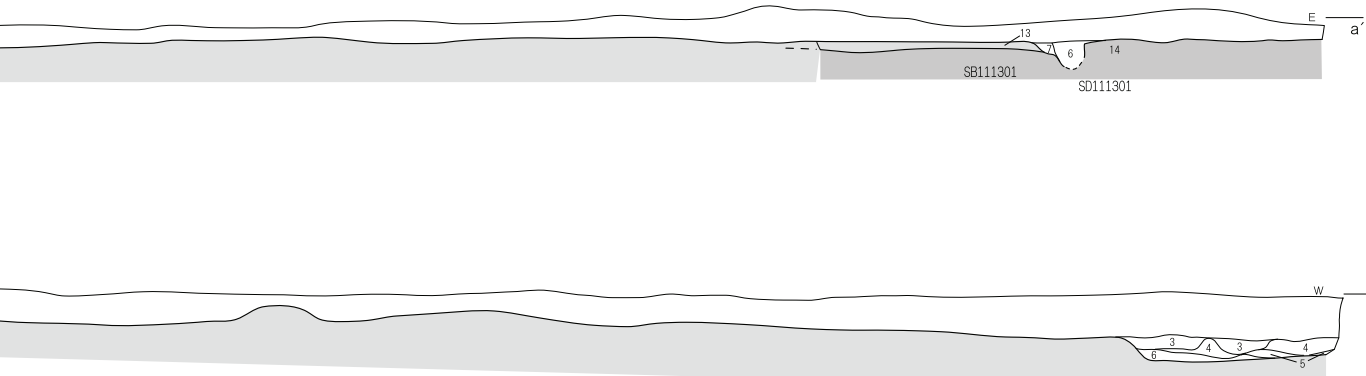
- |                             |
|-----------------------------|
| 1 黒褐色土10YR3/2(表土)           |
| 2 同上10YR2/3(径1cmまでの礫含む)     |
| 3 黒褐色砂礫土10YR2/2(径3cmまでの礫主体) |
| 4 黒褐色粘質土10YR2/3(よく締まる)      |

創建期基壇・整地層

再建期基壇・整地層

地山層

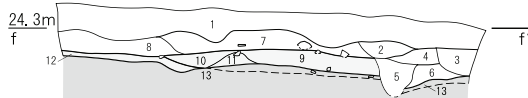
0



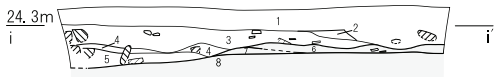
- |                           |                         |
|---------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色土10YR3/2(表土)         | 4 同上10YR3/2(軟質、粗砂含む)    |
| 2 暗褐色土10YR3/3             | 5 同上10YR2/3             |
| 3 黒褐色土10YR3/2(径2cmまでの礫含む) | 6 同上10YR2/3(径5cmまでの礫含む) |



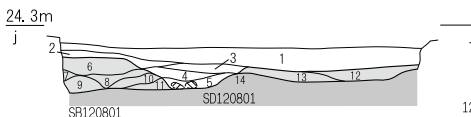
- 黒褐色土10YR2/3(表土)  
 同上10YR3/2(粗砂含む)  
 同上10YR3/2(微細遺物混じる)  
 同上10YR2/3(よく締まる、瓦礫多く混じる)  
 同上10YR3/2(径1cmまでの礫含む)  
 同上10YR2/2(径1cmまでの礫含む)  
 同上10YR3/2(微細遺物混じる、径1cmまでの礫含む)  
 同上10YR2/2(微細遺物混じる、径3cmまでの礫含む)  
 暗褐色土10YR3/3(瓦多く混じる)



- |                                 |                              |                 |
|---------------------------------|------------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色土10YR2/3(表土)               | 8 黒褐色土10YR3/2(微細遺物混じる、粗砂含む)  | 2-6 攪乱層         |
| 2 同上10YR3/2(攪乱、微細遺物混じる)         | 9 同上10YR2/3(よく締まる)           | 7-8 堆積層         |
| 3 同上10YR2/3                     | 10 同上10YR2/2(微細遺物混じる)        | 9-11 再建期講堂基壇整地層 |
| 4 同上10YR3/2(軟質)                 | 11 黒褐色砂質土10YR2/3(径5cmまでの礫含む) | 12 再建期講堂基壇整地層   |
| 5 同上10YR2/3(瓦混じる)               | 12 暗褐色粘質土10YR3/3(瓦混じる)       | 13 副建期講堂基壇整地層   |
| 6 同上10YR2/3(径5cmまでの礫含む)         | 13 褐色粘土10YR4/4(瓦混じる)         |                 |
| 7 暗褐色土10YR3/3(瓦混じる、径10cmまでの礫含む) |                              |                 |



- |                |                                  |
|----------------|----------------------------------|
| 2-5 堆積層        | 1 暗褐色土10YR3/3(表土)                |
| 6-7 再建期講堂基壇整地層 | 2 同上10YR3/3(径5cmまでの礫含む)          |
| 8 再建期金堂基壇整地層   | 3 黒褐色土10YR3/2(瓦混じる、径1cmまでの礫多く含む) |
|                | 4 同上10YR2/2(微細遺物混じる)             |
|                | 5 同上10YR2/2(瓦多く混じる)              |
|                | 6 同上10YR2/2(微細遺物混じる)             |
|                | 7 同上10YR2/3(黄褐色粘土混じる)            |
|                | 8 暗褐色粘質土10YR3/3                  |

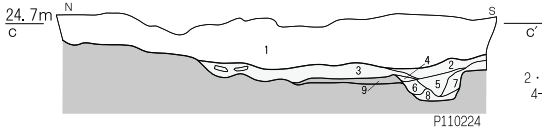
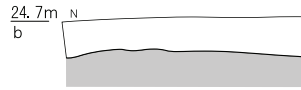


- |                           |                                |                  |
|---------------------------|--------------------------------|------------------|
| 1 黒褐色土10YR3/2(表土)         | 8 同上10YR2/3                    | 2-5 堆積層          |
| 2 同上10YR3/2(微細遺物混じる)      | 9 同上10YR3/2(径1cmまでの礫含む)        | 6-11 再建期講堂基壇     |
| 3 同上10YR3/2(径5cmまでの礫含む)   | 10 同上10YR2/2                   | 12-13 再建期講堂基壇整地層 |
| 4 同上10YR2/2               | 11 同上10YR3/2(径10cmまでの礫含む)      | 14 地山層           |
| 5 同上10YR3/2(径10cmまでの礫含む)  | 12 同上10YR2/2(地山土細ブロック混じる)      |                  |
| 6 同上10YR3/2(径1cmまでの礫多く含む) | 13 同上10YR2/2(径5cmまでの礫含む)       |                  |
| 7 同上10YR3/2               | 14 褐色粘土～砂礫土10YR4/4(径5cmまでの礫含む) |                  |

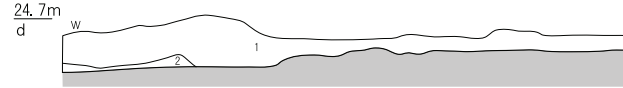
2m



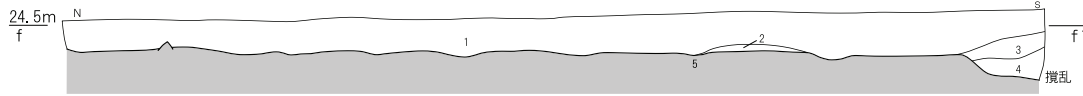
- 1 黒褐色土10YR3/2(表土)
- 2 暗褐色土10YR3/3
- 3 黄褐色砂礫土10YR5/6(径10cmまでの礫含む)



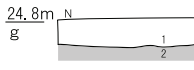
- 1 黒褐色土10YR3/2(表土)
- 2 同上10YR2/3(径1cmまでの礫含む)
- 3 同上10YR2/3(地山土混じる、径2cmまでの礫含む)
- 4 同上10YR3/2(地山土混じる)
- 5 同上10YR3/2(径2cmまでの礫含む)
- 6 黒褐色砂質土10YR3/2(地山土混じる)
- 7 灰黄褐色砂質土10YR4/2(径2cmまでの礫含む)
- 8 黒褐色砂質土10YR3/2(地山土混じる)
- 9 黒褐色土10YR2/3(よく締まる、粗砂含む)



- 1 黒褐色土10YR3/2(表土)
- 2 同上10YR3/2(軟質、地山土混じる)



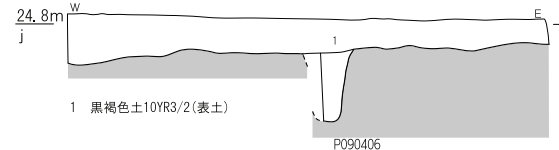
- 1 黒褐色土10YR3/2(表土)
- 2 暗褐色土10YR3/3(地山土ブロック混じる)
- 3 黒色土10YR2/1(地山土混じる)
- 4 黒褐色土10YR3/1(径2cmまでの礫含む)
- 5 褐色砂礫土10YR4/4(径1cmまでの礫含む)



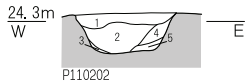
- 1 黒褐色土10YR3/2(表土)
- 2 褐色土～褐色砂礫土10YR4/4



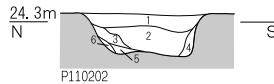
- 1 黒褐色土10YR3/2(表土)
- 2 褐色土～褐色砂礫土10YR4/4(径5cmまでの礫多く含む)



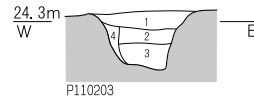
- 1 黒褐色土10YR3/2(表土)



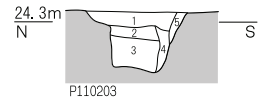
- 1 黒褐色土10YR2/3(地山土細ブロック混じる、径1cmまでの礫含む)
- 2 同上10YR2/2(地山土混じる)
- 3 同上10YR2/2(径1cmまでの礫含む)
- 4 同上10YR3/2(地山土混じる)
- 5 同上10YR3/2(地山土多く混じる)



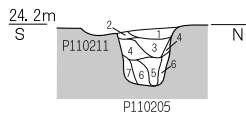
- 1 黒褐色土10YR2/3(地山土細ブロック混じる、径1cmまでの礫含む)
- 2 同上10YR2/2(地山土混じる)
- 3 同上10YR2/3
- 4 同上10YR2/2(径1cmまでの礫含む)
- 5 同上10YR2/3(地山土混じる)
- 6 同上10YR3/2(地山土多く混じる)



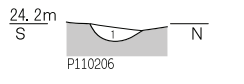
- 1 黒褐色土10YR2/3(地山土細ブロック混じる、径1cmまでの礫含む)
- 2 同上10YR2/3
- 3 同上10YR3/2(径1cmまでの礫含む)
- 4 同上10YR2/3(径1cmまでの礫含む)



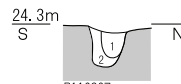
- 1 黒褐色土10YR2/3(地山土細ブロック混じる、径1cmまでの礫含む)
- 2 同上10YR2/3
- 3 同上10YR3/2(径1cmまでの礫含む)
- 4 同上10YR2/2(地山土細ブロック混じる、径1cmまでの礫含む)
- 5 同上10YR2/2(径1cmまでの礫含む)



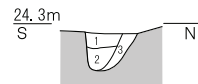
- 1 黒褐色土10YR2/3
- 2 同上10YR2/3(径1cmまでの礫含む)
- 3 同上10YR2/2
- 4 同上10YR3/2(地山土混じる)
- 5 黒色土10YR2/1
- 6 黒褐色土10YR2/2
- 7 黒色土10YR2/1(径1cmまでの礫含む)



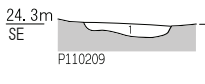
- 1 黒褐色土10YR2/3



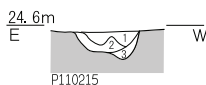
- 1 黒褐色土10YR3/2(径1cmまでの礫含む)
- 2 同上10YR3/2(地山土混じる、径1cmまでの礫含む)



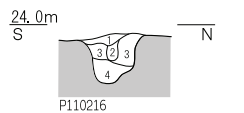
- 1 黒褐色土10YR3/2(径2cmまでの礫含む)
- 2 同上10YR2/3(地山土細ブロック混じる)
- 3 同上10YR3/2(径1cmまでの礫含む)



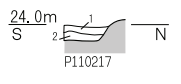
- 1 黒褐色土10YR3/2(径1cmまでの礫含む)



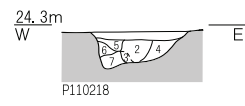
- 1 黒褐色土10YR2/3(径5cmまでの礫含む)
- 2 同上10YR2/3
- 3 同上10YR2/3(粗砂・径1cmまでの礫含む)



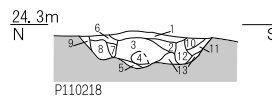
- 1 黒褐色土10YR2/2
- 2 同上10YR2/2(地山土混じる)
- 3 同上10YR3/2(地山土ブロック混じる)
- 4 同上10YR2/2(地山土混じる、粗砂含む)



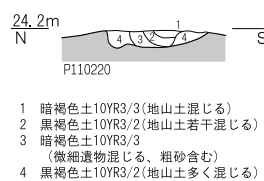
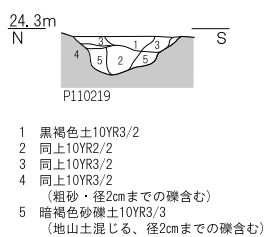
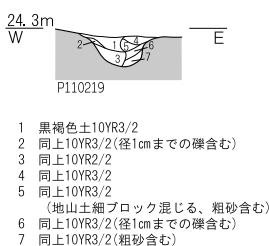
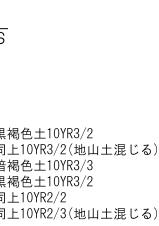
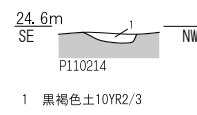
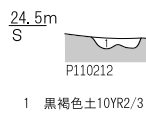
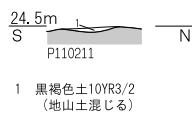
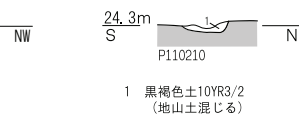
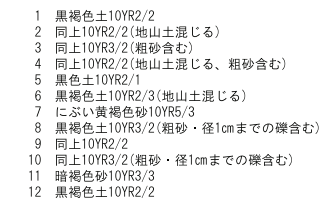
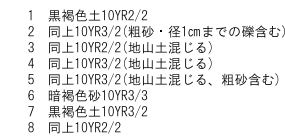
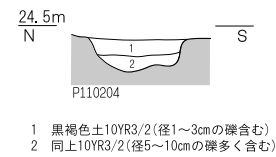
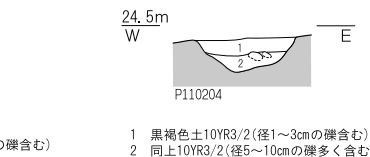
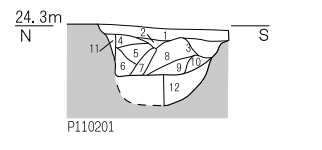
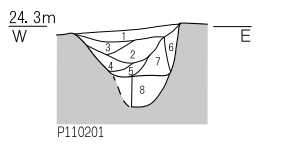
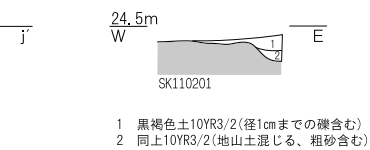
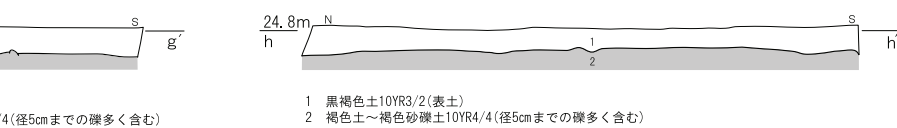
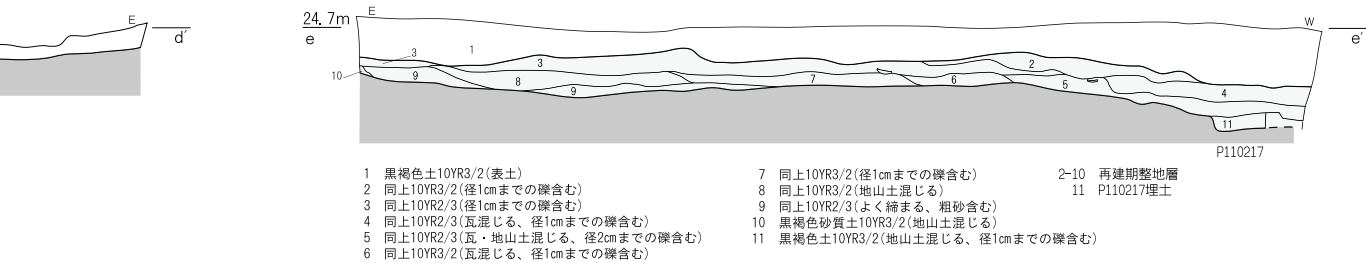
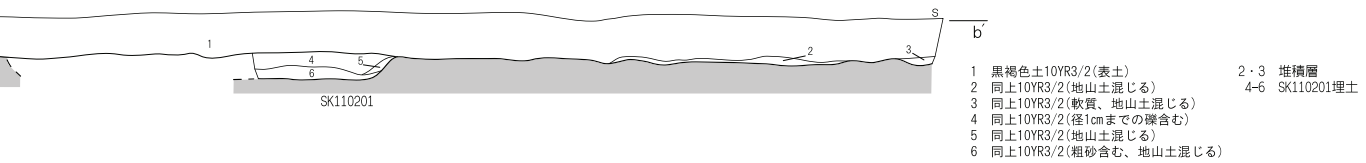
- 1 黒褐色土10YR3/2(地山土混じる)
- 2 暗褐色土10YR3/3



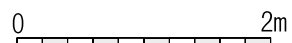
- 1 黒褐色土10YR2/3
- 2 同上10YR3/2(粗砂含む)
- 3 同上10YR3/2(地山土混じる)
- 4 同上10YR2/3(地山土混じる)
- 5 暗褐色土10YR3/3
- 6 黒褐色土10YR2/3(地山土混じる)
- 7 同上10YR2/2



- 1 黒褐色土10YR2/3
- 2 同上10YR3/2
- 3 同上10YR3/2(粗砂含む)
- 4 同上10YR3/2(地山土混じる)
- 5 同上10YR2/3(地山土混じる)
- 6 暗褐色土10YR3/3
- 7 同上10YR3/3(粗砂含む)
- 8 黒褐色土10YR2/3
- 9 同上
- 10 暗褐色土10YR3/3
- 11 黒褐色土10YR3/2
- 12 同上
- 13 同上



再建期基壇・整地層  
地山層・旧表土層







## 第5項 中門基壇北東側の調査

### A. 中門基壇北東側の調査概要

第8次調査で再建期中門基壇が確認されたことで、金堂・塔基壇と中門基壇との間には一定の距離があり、中門基壇と推定したものが南門基壇で、中門基壇そのものが北側に位置する可能性も考えられたこと、再建期中門基壇に接続すると考えられる南面回廊などの伽藍南限施設の存否が不明であることが第9次調査以後の課題として浮上した。

このため、金堂・塔基壇と中門基壇との間の様相確認のために第11次調査2トレンチを設定して調査を行ったところ、トレンチの南側に再建期の整地面を検出したに留まり、基壇遺構は検出されなかった。また、中門基壇東側の伽藍南限施設の存否確認のために第9次調査3・4トレンチを設定して調査を実施したところ、表土直下で地山面が検出され、回廊などの施設は検出できなかった。いずれのトレンチにおいても古墳時代後期の建物、柱穴列を検出し、寺院前史を考える上での成果があった。

### B. 第11次調査2トレンチの調査

#### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は24.65～24.8mである。

表土の耕作土となる黒褐色土（層厚0.15～0.45m）下、トレンチ南端では標高24.25～24.45mで黒褐色土、黒褐色砂質土からなる再建期の整地面に至り、整地面下、標高24.0～24.35mで地山面となる黄褐色砂礫土層の上面に至る。表土から無段式丸瓦1点、平瓦2点、瓦小片1点が出土。

トレンチ北端では標高24.4～24.6mで地山面に至る。地山面および再建期整地層は南に向かって緩やかに傾斜し、地山面の比高差は最大0.65mある。

#### ② 検出遺構の概要

表土下で再建期整地面を検出するとともに、地山面で土坑3基（SK110201～SK110203）、掘立柱建物跡1棟（SH110201）、柱穴・小穴24基（P110201～P110324）を検出した。

なお、調査地の南側は調査途上で検出された掘立柱建物跡の伸張を確認するために拡張したものである。掘立柱建物跡の展開を確認することを優先し、この部分で検出された再建期の整地層はトレンチの土層壁面で精査することとし、この整地層を除去して地山面まで掘削している。

#### ③ 整地面

整地面はトレンチ南側の拡張部分で検出した。整地面の標高24.25～24.45mで、西側が低くなる。整地面が分布する箇所は地山面が北から南に向けて標高が0.2～0.3mほど急激に低くなる場所であり、再建期に地山面の低いところに盛土による造成を施したものと考えられる。黒褐色土層、黒褐色砂質土層の上面を整地面とし、基本的には水平に盛土を施す。整地土から須恵器杯蓋（杯H蓋）2点、杯（杯H）もしくは杯蓋（杯H蓋）4点、高杯1点、甕1点、須恵器小片2点、土師器甕10点、製塩土器2点、鉄釘1点、素弁十葉蓮華文軒丸瓦1点、無段式丸瓦28点、三重弧文軒平瓦1点、平瓦77点が破片で出土した（第77図1～16）。

整地面下、標高24.05～24.3mに地山面が分布し、地山面を掘り込む土坑2基、柱穴・小穴9基を検出した。

#### ④ 掘立柱建物跡（柱穴）

P110201～P110204・P110218～P110220の7基の柱穴で掘立柱建物跡SH110201の一部を構成する。南北4間、東西2間以上を検出し、南北の柱筋の柱間は2.4mを基本に、一番北側では2.1mとなる。東西の柱筋の柱間は2.1m。南北と東西の柱筋は明確には直交しない。南北柱筋の柱穴の掘り方は径1m前後と大きく、底面まで深

く、断面形状は箱形、尖底状をなす。一方で東西柱筋の柱穴は掘り方も小ぶりで、底面まで浅く、断面形状も弧状である。ただし、底面は標高 24.0m前後に分布する傾向がある。南北柱筋の柱穴の埋土の最上位には幅の薄い水平堆積があり、柱穴の人為的な埋め戻しがあったものと考えられる。柱穴の埋土の出土遺物の年代から6世紀後半に伴う建物跡で、土坑 SK110202 がこの建物跡に付随する施設である可能性もある。

⑤ 土坑

SK110201 の平面形態は南北に長い崩れた長楕円形で、南北 3.11m、東西検出長 1.12m、深さ 0.20m。断面形状は箱形で、黒褐色土を埋土にもつ。

SK110202 の平面形態は東西に長い長楕円形で、南北 1.67m、東西 0.76m、深さ 0.06m。断面形状は弧状で、黒褐色土を埋土にもつ。埋土から口縁部が欠損する土師器甕 1 点、完形の椀 1 点が出土（第 76 図 1・2）。ともに正位に近い状態で底面から若干浮いて出土した。

SK110203 の平面形態は崩れた楕円形で、南北 1.35m、東西 1.77m。未掘のため、深さ、断面形状は不明。黒褐色系の埋土をもつ。

⑥ 柱穴・小穴

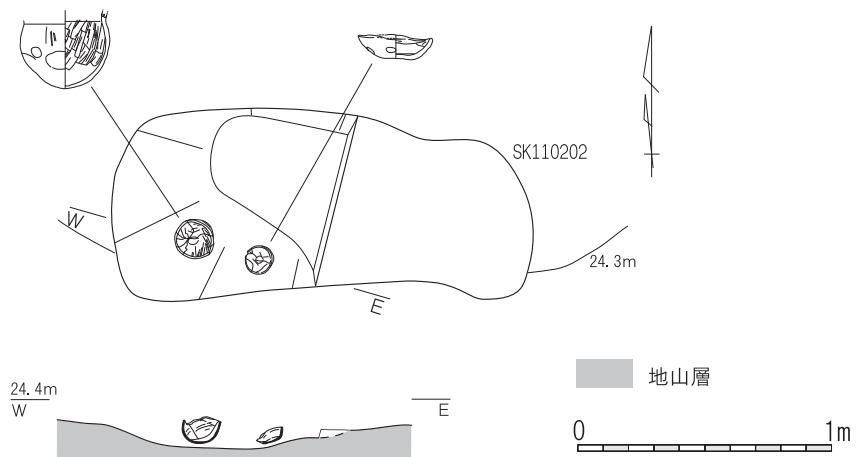
P110201～P110204・P110218～P110220 は掘立柱建物跡 SH110201 の一部を構成する。

P110201 の平面形態は楕円形で、南北 1.07m、東西 0.91m、深さ 0.65m。検出面で平瓦 1 点、埋土から土師器甕 6 点が細片で出土。P110202 の平面形態は楕円形で、南北 1.00m、東西 0.80m、深さ 0.30m。埋土から杯（杯H）もしくは杯蓋（杯H蓋） 1 点、土師器甕 3 点が細片で出土。P110203 の平面形態は崩れた円形で、南北 0.82m、東西 0.87m、深さ 0.48m。P110204 の平面形態は円形で、南北 0.79m、東西 0.78m、深さ 0.26m。P110218 の平面形態は楕円形で、南北 1.01m、東西 0.78m、深さ 0.30m。P110219 の平面形態は楕円形で、南北 0.83m、東西 0.67m、深さ 0.23m。P110220 の平面形態は崩れた円形で、南北検出長 0.99m、東西 1.03m、深さ 0.14m。

それ以外の柱穴、小穴を以下に列記する。

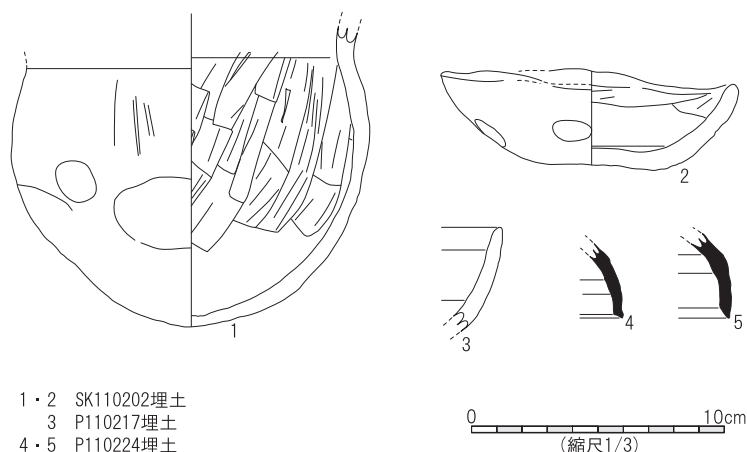
P110205 の平面形態は楕円形で、南北 0.59m、東西検出長 0.78m、深さ 0.45m。P110206 の平面形態は円形で、南北 0.43m、東西検出長 0.45m、深さ 0.11m。P110207 の平面形態は円形で、南北 0.42m、東西検出長 0.40m、深さ 0.30m。P110208 の平面形態は楕円形で、南北 0.30m、東西検出長 0.43m、深さ 0.29m。P110209 の平面形態は崩れた円形で、北西－南東 0.85m、北東－南西 0.83m、深さ 0.12m。P110210 の平面形態は楕円形で、南北 0.40m、東西 0.61m、深さ 0.08m。P110211 の平面形態は台形で、南北検出長 0.59m、東西検出長 0.78m、深さ 0.05m。P110212

の平面形態は円形で、南北 0.40m、東西 0.44m、深さ 0.07m。P110213 の平面形態は円形で、南北 0.43m、東西 0.47m、深さ 0.07m。P110214 の平面形態は楕円形で、南北 0.44m、東西 0.55m、深さ 0.06m。P110215 の平面形態は楕円形で、南北 0.62m、東西 0.77m、深さ 0.21m。P110216 の平面形態は楕円形で、南北 0.58m、



第 75 図 興道寺廃寺 SK110202 出土状況図 (縮尺 1/30)

東西検出長 0.46m、深さ 0.38m。  
 P110217 の平面形態は楕円形で、南北検出長 0.45m、東西検出長 0.87m、深さ 0.11m。埋土から土師器碗 1 点が破片で出土（第 76 図 3）。P110221 の平面形態は円形で、南北 0.71m、東西 0.79m、深さ 0.21m。埋土から須恵器杯（杯 H）もしくは杯蓋（杯 H 蓋） 1 点、土師器甕 2 点、製塩土器 2 点、瓦小片が細片で出土。P110222 の平面形態は楕円形で、南北 0.59m、東西 0.89m、深さ 0.05m。P110223 の平面形態は円形で、南北 0.43m、東西 0.59m、深さ 0.16m。P110224 の平面形態は円形で、南北 0.43m、東西検出長 0.33m、深さ 0.20m。埋土から須恵器杯蓋（杯 H 蓋） 2 点、土師器甕 3 点、製塩土器 2 点、瓦小片 1 点が破片で出土（第 76 図 4・5）。



1・2 SK110202埋土  
 3 P110217埋土  
 4・5 P110224埋土

第 76 図 興道寺廃寺第 11 次調査 2 トレンチ出土遺物実測図 1

### ⑦ 出土遺物

第 76 図 1・2 は SK110202 埋土、3 は SK110217 埋土、4・5 は P110224 埋土から出土した。

1 は土師器甕。底部は尖底気味に尖り、胴部はあまり張らない。胴部外面は縦刷毛を施し、一部横刷毛を加える。胴部内面は縦方向に削りを施し、胴部外面に広く煤が付着する。2 は土師器碗。口径 11.7 cm、器高 3.4 cm。平底の底部から口縁部が丸く立ち上がり、口縁端部を鈍く収める。口縁部から底部にかけての内外面に弱い横ナデを施す。口縁部外面に指頭圧痕を留める。

3 は土師器碗。口縁部の内外面に横ナデを施し、口縁端部の外面に強い横ナデを加える。

4・5 は須恵器杯蓋（杯 H 蓋）。4 は口縁端部に段をもち、口縁部と天井部の境に沈線を巡らす。5 は口縁端部に弱い段をもつ。

第 77 図 1～16 は中門基壇北側の再建期整地層から出土した。

1・2 は須恵器杯蓋（杯 H 蓋）。1 の天井部は外面に回転ヘラ削りを施す。2 の天井部と口縁部の境は鈍い稜をもち、口縁端部は緩い段をなす。

3 は土師器甕。把手の外面に刷毛目を施す。

4 は鉄釘。現存長 14.8 cm。基部の断面は 0.8mm×0.6mm で長方形を呈する。

5 は素弁十葉蓮華文軒丸瓦。蓮弁の一部の範傷がある。

6～10 は無段式丸瓦。6 は器壁を薄く作る。6～9 の凸面は横ナデを施す。6・7 の凹面は布綴じ合わせ痕を留める。8 の凹面は部分的に縦ナデを施す。9 の凹面は横骨痕を留める。10 の凸面は横ナデに加えて一部、削り状の強い縦ナデを施す。

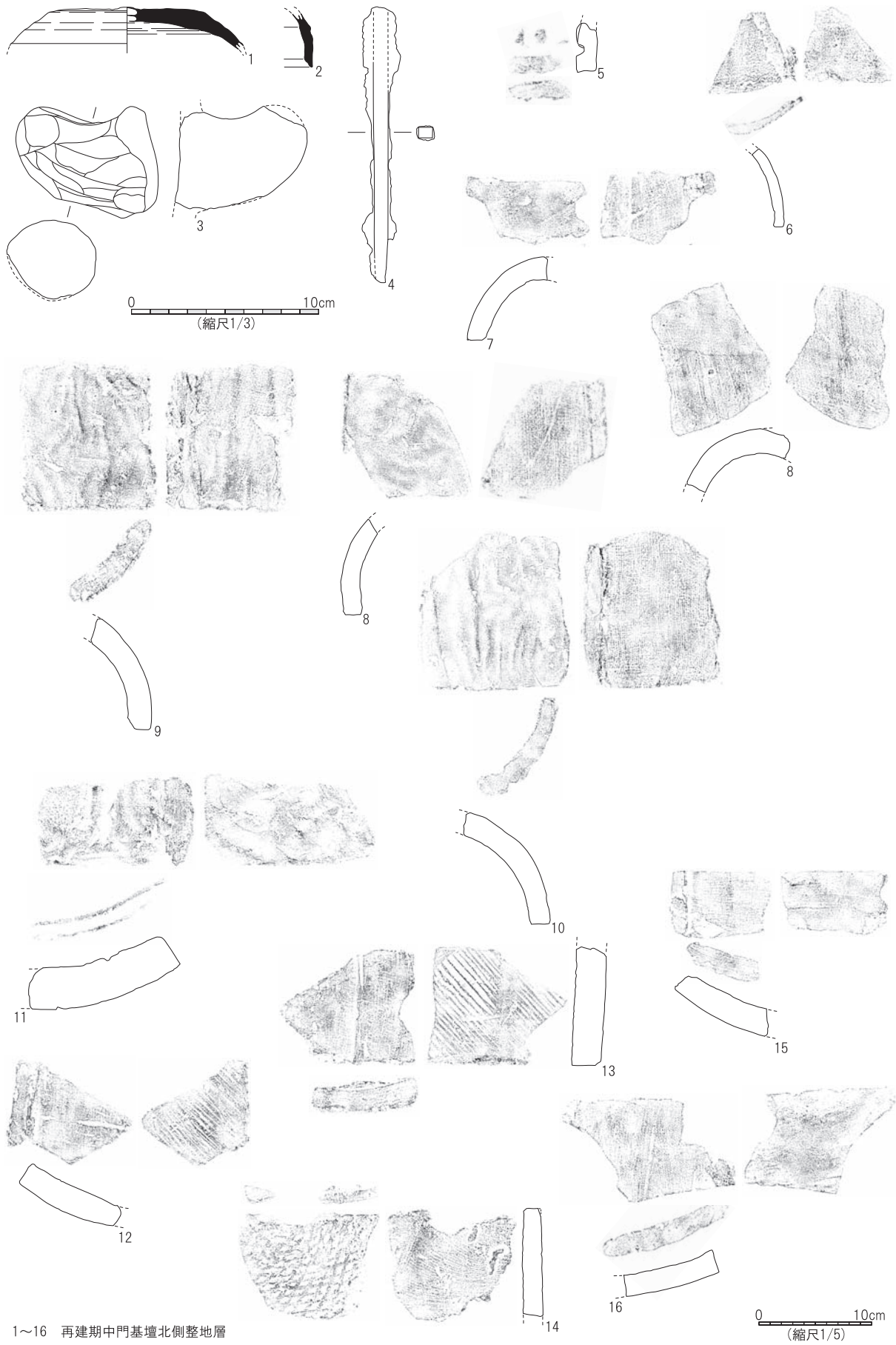
11 は三重弧文軒平瓦。瓦当の弧線は鈍く、平瓦部の凸面は横ナデを施し、凹面は横骨痕を留める。

12～16 は平瓦。12・13 の凸面は側縁に斜交する平行叩きを施し、叩き目が残る。凹面は縦ナデを施す。14 の凸面は側縁に沿った斜格子叩きを施し、叩き目が残る。15・16 の凸面は横ナデを施し、凹面に横骨痕を留める。

## C. 第 9 次調査 3 トレンチの調査

### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は 24.5～24.6m。



1~16 再建期中門基壇北側整地層

第77図 興道寺廃寺第11次調査2トレンチ出土遺物実測図2



表土の耕作土となる黒褐色土（層厚 0.2～0.3m）下、標高 24.25m 付近で地山面となる褐色砂礫土層の上面に至る。地山面の傾斜は見られない。

## ② 検出遺構の概要

地山面で柱穴・小穴 2 基（P090301・P090302）を検出した。トレンチの南端で耕作攪乱 1 基が確認されている。

## ③ 柱穴・小穴

P090301 は第 9 次調査トレンチで検出した柱穴 5 基（P090401～P090405）とともに柱穴列 SA090401 を構成する。P090301 の平面形態は崩れた円形で、南北 0.62m、東西 0.68m、深さ 0.30m。柱穴の掘り方も大きく、底面まで深い。

P090302 の平面形態は楕円形で、南北 0.32m、東西 0.26m、深さ 0.12m。

## D. 第 9 次調査 4 トレンチの調査

### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は 24.8～24.9m。

表土の耕作土となる黒褐色土（層厚 0.2～0.4m）下、標高 24.45～24.65m 付近で地山面となる褐色土層の上面に至る。地山面は北に向かってわずかに傾斜する。

### ② 検出遺構の概要

地山面で竪穴建物跡 1 棟（SB090401）、土坑 1 基（SK090401）、柱穴列 1 基（SA090401）、柱穴・小穴 13 基（P090401～P090413）を検出した。トレンチの西側は第 1 次調査 2 トレンチと重複し、竪穴建物跡 1 基（SB010201）、土坑 1 基（SK010204）、柱穴 6 基（P010204～P010209）を再検出した。

### ③ 竪穴建物跡

SB090401 は竪穴建物の北東隅部を検出した。第 1 次調査 2 トレンチの調査で建物床面に掘り込まれた土坑 1 基、柱穴・小穴 5 基が検出され、4 本の柱で主柱穴になる構造であることが判明している。平面形態が歪な方形を呈し、南北検出長 0.82m、東西検出長 1.12m、深さ 0.22m。東西の規模は約 3.3m に復元できる。床面の標高約 24.4m、断面形状は凹凸の激しい床面から建物の北側の壁面が直線的に立ち上がる。埋土に黒褐色土、黄褐色土をもつ。

床面の直上付近から須恵器甕の胴部が割れた状態で出土した（第 78 図 1）。以前の調査で須恵器杯（杯 H）、杯蓋（杯 H 蓋）、甕、土師器甕、製塩土器などが出土しているが、この中でも製塩土器と似たような出土状況である。出土遺物の年代から 7 世紀前葉、TK209 型式並行期の建物跡と考えられる。

### ④ 柱穴列（柱穴）

前述の P090301 と P090401～P090405 の 6 基の柱穴で直角に折れる SA090301 を構成する。東西 4 間、南北 2 間を検出した。東西の柱筋の柱間は 1.8m 前後、南北の柱筋のはっきりしないが、1.8m ほどと考えられる。柱穴の掘り方は 1m 前後と径も大きく、断面形状も箱形で、底面まで深い。掘立柱建物跡の一部である可能性もある。7 世紀後半から 8 世紀前半に伴う時期と考えられる。

### ⑤ 土坑

SK090401 の平面形態は溝状の崩れた長楕円形で、南北 3.86m、東西 1.18m。土坑の南端は以前の調査で検出

している。深さ 0.46m、断面形状は船底状で、東側が急激に立ち上がる。黒色土、黒褐色土を埋土にもち、土師器甕 1 点が破片で出土。

⑥ 柱穴・小穴

P090401～P090405 は柱穴列 SA090301 の一部を構成する。

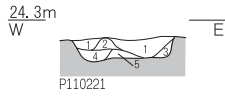
P090401 の平面形態は円形で、南北 0.66m、東西検出長 0.61m、深さ 0.30m。P090402 の平面形態は円形で、南北 0.65m、東西 0.68m、深さ 0.34m。P090403 の平面形態は円形で、南北 0.60m、東西 0.62m、深さ 0.44m。P090404 の平面形態はやや崩れた円形で、南北 0.58m、東西 0.60m、深さ 0.19m。P090405 の平面形態は円形に近い隅丸方形で、東西、南北 0.54m、深さ 0.43m。埋土から須恵器小片 1 点、土師器甕 2 点、製塩土器 5 点が出土。

それ以外の柱穴、小穴を以下に列記する。

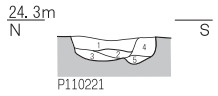
P090406 の平面形態は隅丸方形で、南北 0.60m、東西検出長 0.54m、深さ 0.46m。P090407 の平面形態は楕円形で、南北 0.34m、東西 0.49m、深さ 0.22m。P090408 の平面形態は円形で、南北 0.30m、東西 0.28m、深さ 0.17m。P090409 の平面形態は円形で、南北 0.36m、東西 0.30m、深さ 0.16m。P090410 の平面形態は円形で、径 0.36m、深さ 0.20m。P090411 の平面形態は円形で、径 0.40m、深さ 0.20m。P090412 の平面形態は楕円形で、南北 0.62m、東西 0.72m、深さ 0.35m。P090413 の平面形態は楕円形で、南北 0.52m、東西 0.40m、深さ 0.33m。



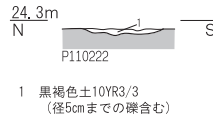
第 78 図 興道寺廃寺第 9 次調査 4 トレンチ出土遺物実測図



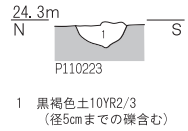
- 1 黒褐色土10YR3/2  
(地山土多く混じる、径1cmまでの礫含む)
- 2 同上10YR3/2(径3cmまでの礫含む)
- 3 同上10YR3/2(地山土多く混じる)
- 4 黒色土10YR1, 7/1(地山土混じる)
- 5 黒褐色土10YR3/2



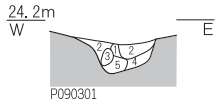
- 1 黒褐色土10YR3/2  
(地山土多く混じる、径1cmまでの礫含む)
- 2 同上10YR3/2
- 3 同上10YR3/2(地山土多く混じる)
- 4 黒色土10YR1, 7/1(地山土混じる)
- 5 同上10YR1, 7/1



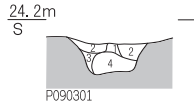
- 1 黒褐色土10YR3/3  
(径5cmまでの礫含む)



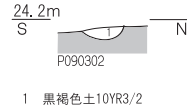
- 1 黒褐色土10YR2/3  
(径5cmまでの礫含む)



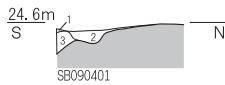
- 1 黒色土10YR2/1(地山土ブロック混じる)
- 2 黒褐色土10YR2/2(地山土細ブロック混じる)
- 3 同上10YR3/2(径1cmまでの礫密に含む)
- 4 褐色粗砂10YR3/3
- 5 黒褐色土10YR2/2(地山土ブロック若干混じる)



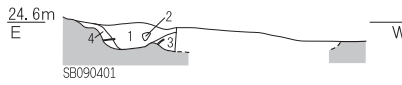
- 1 黒色土10YR2/1(地山土ブロック混じる)
- 2 黒褐色土10YR2/2(地山土細ブロック混じる)
- 3 褐色粗砂10YR3/3
- 4 黒褐色土10YR2/2(地山土ブロック若干混じる)



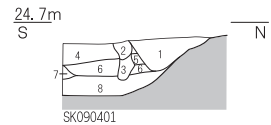
- 1 黒褐色土10YR3/2



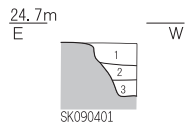
- 1 黒褐色土10YR3/1(地山土ブロック混じる)
- 2 同上10YR3/2
- 3 暗褐色土10YR3/3



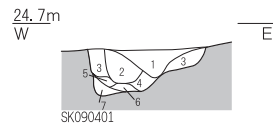
- 1 黒褐色土10YR3/1(地山土ブロック混じる)
- 2 黄褐色土10YR4/4
- 3 暗褐色土10YR3/3
- 4 黒褐色土10YR3/2



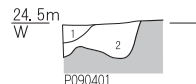
- 1 黒褐色土10YR3/1
- 2 同上10YR2/3
- 3 同上10YR2/3(粗砂含む)
- 4 同上10YR2/2
- 5 同上10YR2/3
- 6 暗褐色土10YR3/3(地山土細ブロック混じる)
- 7 黒褐色土10YR2/2
- 8 暗褐色土10YR3/3



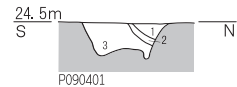
- 1 黒褐色土10YR3/1
- 2 同上10YR2/2
- 3 暗褐色土10YR3/3



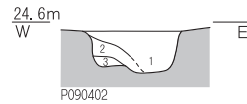
- 1 黒褐色土10YR2/2(径1cmまでの礫含む)
- 2 同上10YR2/3(径1cmまでの礫含む)
- 3 同上10YR2/2(径5cmまでの礫含む)
- 4 黒色土10YR1, 7/1
- 5 黒褐色土10YR2/3(地山土細ブロック混じる)
- 6 同上10YR3/2(地山土細ブロック混じる)
- 7 暗褐色土10YR3/3(径1cmまでの礫含む)



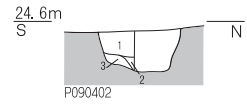
- 1 黒褐色土10YR2/2
- 2 同上10YR2/3(第2次調査埋め戻し土)



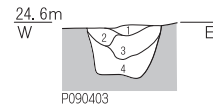
- 1 黒褐色土10YR2/2
- 2 同上10YR2/3(地山土ブロック混じる)
- 3 同上10YR2/3(第2次調査埋め戻し土)



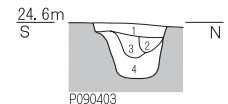
- 1 黒褐色土10YR3/2(第2次調査埋め戻し土)
- 2 同上10YR2/2
- 3 同上10YR2/3(地山土細ブロック混じる)



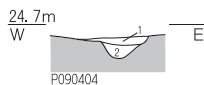
- 1 黒褐色土10YR2/2(粗砂含む)
- 2 同上10YR2/2
- 3 同上10YR2/3(地山土細ブロック混じる)



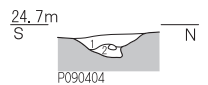
- 1 黒褐色土10YR3/2
- 2 黒色土10YR1, 7/1
- 3 黒褐色土10YR2/2
- 4 同上10YR3/2



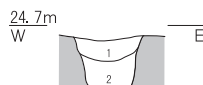
- 1 黒褐色土10YR3/2
- 2 黒色土10YR1, 7/1
- 3 黒褐色土10YR2/2
- 4 同上10YR3/2



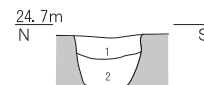
- 1 黒褐色土10YR2/3
- 2 同上10YR2/2



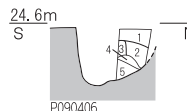
- 1 黒褐色土10YR2/3
- 2 同上10YR2/2



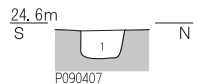
- 1 黒褐色土10YR2/2
- 2 黒色土10YR1, 7/1



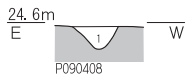
- 1 黒褐色土10YR2/2
- 2 黒色土10YR1, 7/1



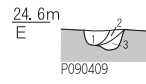
- 1 暗褐色土10YR3/3  
(径3cmまでの礫含む、  
地山土細ブロック混じる)
- 2 黒褐色土10YR3/3
- 3 暗褐色土10YR3/3
- 4 黒褐色土10YR2/3(地山土細ブロック混じる)
- 5 同上10YR2/3



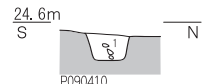
- 1 黒褐色土10YR3/2  
(径5cmまでの礫含む)



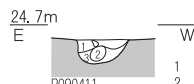
- 1 黒褐色砂質土10YR2/2  
(粗砂主体、径3cmまでの礫含む)



- 1 黒褐色土10YR3/2
- 2 暗褐色土10YR3/3
- 3 暗褐色粗砂10YR3/3

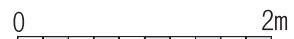


- 1 黒褐色土10YR2/2  
(径5cmまでの礫含む)



- 1 黒色土10YR1, 7/1
- 2 褐色細砂10YR4/6
- 3 黒色土10YR2/1

再建期基壇・整地層  
地山層



第79図 興道寺廃寺中門基壇北東側土層断面図2 (縮尺1/60)

## ⑦ 出土遺物

第78図1はSB090401床面から出土。

1は須恵器甕。破片数8点で同一個体の一部を構成する。胴部の上位1/3付近に最大径をもつ肩が張る器形で、胴部外面は格子叩きを施し、内面は同心円の当て具痕を留める。胴部上位の外面はカキ目調の横ナデを施す。

## 第6項 伽藍東限の調査

### A. 伽藍東限の調査概要

第1期調査で伽藍東限に関する調査成果が全くない状況で、第9次調査3・4トレンチの調査で伽藍南限施設の検出を目指したが、やはり成果を上げることはできなかった。このため、第10次調査において塔基壇の東側に所在するものと考えられた伽藍東限施設の検出を目的として、塔基壇の東側に1～3トレンチを設定して面的調査を実施したところ、表土直下で地山面を検出したが、回廊などの施設は検出できなかった。ただし、第9次調査3・4トレンチと同様、古墳時代後期の柱穴列を検出するとともに、寺院創建期に並行すると考えられる8世紀前半までの竪穴建物跡、掘立柱建物跡を検出し、寺院造営にかかる工房的施設の一端が明らかとなった。

### B. 第10次調査1トレンチの調査

#### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は25.2mである。

表土の耕作土となる黒褐色土（層厚0.2～0.4m）下、トレンチの南端では標高25.0m付近で地山面となる黄褐色粘土層、黄褐色砂礫土層の上面に至るが、トレンチの中央から北にかけては黒褐色土（層厚0.1～0.2m）からなる堆積層が分布し、標高24.7mで地山面に至る。地山面は北に向かって緩やかに傾斜し、0.3mの比高差をもつ。表土から須恵器杯蓋（杯H蓋）3点、土師器甕25点、製塩土器12点、三重弧文軒平瓦1点、平瓦1点、瓦小片2点が破片で出土。

#### ② 検出遺構の概要

地山面で竪穴建物跡2棟（SB100101・SB100102）、土坑7基（SK100101～SK100107）、柱穴列3基（SA100101～SA100103）、柱穴・小穴13基（P100101～P100142）を検出した。地山面に耕作攪乱が及んでいる。

#### ③ 竪穴建物跡

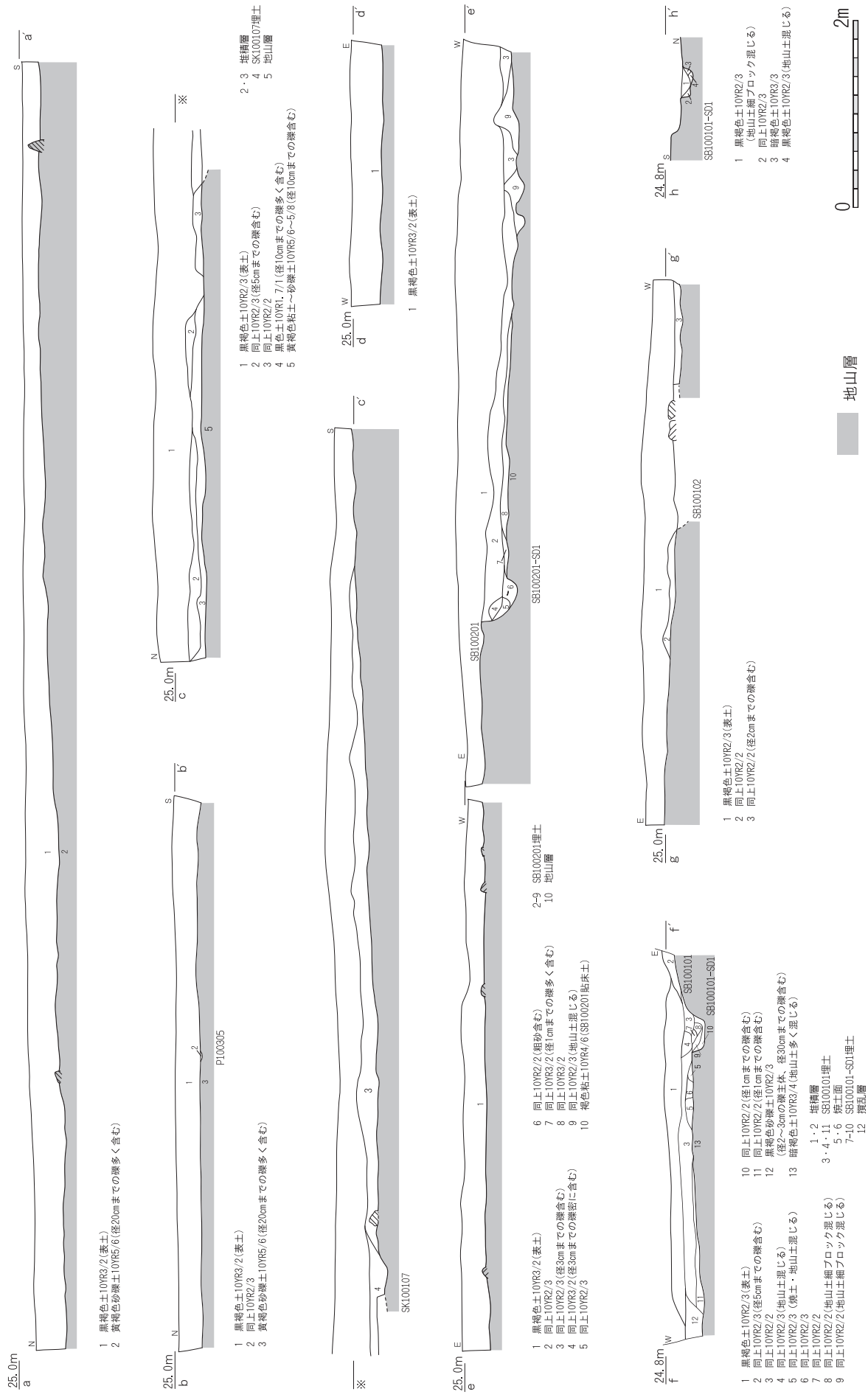
SB100101は竪穴建物の南東隅部を検出した。第10次調査2トレンチ南端でこの竪穴建物の北側（SB100201）を検出している。平面形態は歪な長方形で2トレンチ検出部分を含めて南北6.91m、東西5.82mと南北に長い。

床面の標高は約24.6m前後、床面までの深さ0.22m。床面の断面形状は平らで西側が若干深くなる。埋土は黒褐色土で、須恵器皿1点、土師器甕12点、製塩土器8点が破片で出土した（第84図1・2）。なお、この建物の検出面で銭貨5点が出土しているが（第84図3～7）、この遺構に伴うものではないと考えられる。

床面の北東隅部付近、溝の内側の床面には東西0.54mの範囲に被熱面が残り、焼土が0.07mほど盛り上がって分布する。

建物の周壁に沿って幅0.40mの溝1基（SB100101-SD1）を廻らせ、建物南辺では周壁と溝との間に幅0.5m前後のテラス状の平坦面をもつ。溝の深さ0.15m、箱形の断面形状をもち、黒褐色土を埋土にもつ。埋土から土師器甕1点、製塩土器2点が破片で出土した（第84図8）

建物北東隅部で、平面形態が円形で、南北0.50m 東西0.48m 深さ0.16mの柱穴1基（SB100101-P1）を検出した。



第80図 興道寺廃寺伽藍東限遺構土層断面図1 (縮尺1/60)







第82図 興道寺廃寺伽藍東取遺構土層断面図3 (縮尺1/60)



第83図 興道寺廃寺伽藍東限遺構土層断面図4 (縮尺1/60)

SB100102 は竪穴建物の北東隅部を検出した。平面形態は方形で、南北検出長 2.21m、東西検出長 2.80m。床面の標高は約 24.4m 前後、床面までの深さ 0.08m。床面の断面形状は平らで東側が若干深くなり、黒褐色土を埋土にもつ。埋土から須恵器甕 1 点、土師器甕 3 点、製塩土器 1 点が破片で出土した（第 84 図 9）。

建物の床面を掘り込む土坑 2 基（SB100102-SK1、SB100102-SK2）、柱穴 1 基（SB100102-P2）、小穴 1 基（SB100102-P2）を検出した。SB100102-P2 は支柱穴の 1 つと考えられる。

SB100102-SK1 の平面形態は長楕円形で、南北検出長 0.52m 東西 0.61m 深さ 0.18m。断面形状は弧状で、黒褐色土、黒褐色砂礫土を埋土にもつ。須恵器甕 1 点、土師器甕 2 点が出土。SB100102-SK2 の平面形態は長楕円形で、南北 0.76m 東西 0.95m 深さ 0.34m。断面形状は北側が深くなる尖底状で、黒褐色土を埋土にもつ。

SB100102-P1 の平面形態は崩れた円形で、南北 0.28m 東西 0.31m 深さ 0.20m。SB100102-P2 の平面形態は円形で、南北 0.25m 東西 0.24m 深さ 0.15m。埋土から土師器甕 1 点が破片で出土（第 84 図 10）。

#### ④ 柱穴列（柱穴）

柱穴の掘り方の径が大きい P100109、P100113、P100115、柱穴 2 基に相当すると考えられる SK100106、掘り方の径が小さい P100121、P100124 の 7 基の柱穴が直線に並び、SA100101 を構成する。6 間分を検出した。南北の柱筋の柱間は 1.5m 前後と考えられる。掘り方の径が大きい柱穴は、断面形状も箱形、あるいは崩れた箱形で底面まで深く、掘立柱建物跡などの一部である可能性もある。南北軸の方位から 7 世紀後葉から 8 世紀前半に伴う時期と考えられる。

P100104、P100110、P100117 の 3 基の柱穴が直線に並び、SA100102 を構成する。2 間分を検出した。P100111 は P100110 の建て替えに伴う柱穴の可能性もある。東西の柱筋の柱間は 3.2m 前後と長く、柱穴の掘り方の径はやや大きい。6 世紀後半から 7 世紀前半に伴う時期と考えられる。

P100103、P100105、P100117 の 3 基の柱穴が直線に並び、SA100103 を構成する。2 間分を検出した。SA100102 の東側に位置し、平行する。東西の柱筋の柱間は 3.0m 前後と長く、柱穴の掘り方の径はやや大きい。P100105 が柱筋からやや西側に外れる。6 世紀後半から 7 世紀前半に伴う時期と考えられる。

#### ⑤ 土坑

SK100101 の平面形態は不定形で、北東—南西検出長 4.77m 北西—南東検出長 2.60m、最深 0.35m。断面形状は箱形で中央が一段深くなり、黒褐色土、暗褐色土を埋土にもつ。埋土から弥生土器 1 点、須恵器杯蓋（杯H蓋）4 点、杯（杯H）1 点、甕 1 点、隼 1 点、台付壺 1 点、杯（杯A）1 点、杯蓋（杯B蓋）1 点、平瓶 1 点、土師器皿 3 点、甕 36 点、製塩土器 8 点が破片で出土した（第 84 図 11～16）。寛永通宝は SK100101 の検出面から出土したもので（第 84 図 17）、遺構に伴うものではないと考えられる。

SK100102 の平面形態は崩れた円形で、南北検出長 1.43m 東西検出長 0.71m 最深 0.26m。断面形状は不定形で 2 か所が小穴状に深くなる。黒褐色土を埋土にもち、須恵器碗 1 点、平瓦 2 点が破片で出土。

SK100103 の平面形態は崩れた円形で、南北 1.20m 東西検出長 1.15m 最深 0.16m。断面形状は船底状で、暗褐色土、黒褐色土を埋土にもつ。

SK100104 の平面形態は崩れた楕円形で、南北 0.98m 東西 0.93m 最深 0.41m。断面形状は弧状で、中心がやや高くなる。暗赤褐色土、赤褐色土からなる焼土を埋土にもち、土師器甕 4 点が細片で出土。なお、埋土には磁石に付く鉄粉が含まれ、北側の竪穴建物 SB100101 床面の被熱面と関連する遺構である可能性がある。

SK100105 の平面形態は屈曲する溝状で、北西—南東 1.67m 北東—南西 0.71m 最深 0.16m。断面形状は尖底状で浅く、黒褐色土を埋土にもつ。柱穴列 SA100102 の柱穴 P100103 の柱の抜き取り坑か。

SK100106 の平面形態は短い溝状で、南北 2.13m、東西 0.98m。深さは 0.31m で、南北端でさらに深くなる。断面形状は半円状で、黒褐色土を埋土にもつ。土坑の南北端の一段深くなる部分は柱穴列 SA100102 の柱穴 2 基を構成するものと考えられ、その間の挟まれた部分は柱の抜き取り坑と考えられる。埋土から土師器甕 2 点が細

片で出土（第84図18）。

SK100107の平面形態は崩れた円形で、南北検出長2.24m 東西検出長1.24m 最深0.20m。断面形状は弧状で、黒褐色土、黒色土を埋土にもつ。

#### ⑤ 柱穴・小穴

P100109、P100113、P100115、P100121、P100124はSA100101の一部を構成する柱穴である。

P100109の平面形態は円形で、南北0.85m、東西0.97m、深さ0.34m。P100113の平面形態は崩れた円形で、南北1.04m、東西1.09m、深さ0.32m。埋土から製塩土器1点が破片で出土。P100115の平面形態は崩れた円形で、南北0.78m、東西0.91m、深さ0.38m。埋土から須恵器杯蓋（杯H蓋）1点、甕1点、須恵器小片1点、土師器甕3点、製塩土器2点が細片で出土。P100121の平面形態は崩れた円形で、南北0.59m、東西0.51m、深さ0.11m。P100124の平面形態は楕円形で、南北0.44m 東西0.35m 深さ0.11m。

P100104、P100110、P100117はSA100102の一部を構成する柱穴で、P100111はP100110の建て替えの可能性はある。

P100104の平面形態は円形で、南北0.56m、東西0.57m、深さ0.14m。埋土から製塩土器3点が細片で出土。P100110の平面形態は円形で、南北0.54m、東西0.54m、深さ0.18m。P100117の平面形態は崩れた円形で、南北0.81m、東西0.71m、深さ0.32m。埋土から須恵器杯蓋（杯H蓋）1点が細片で出土。P100111の平面形態は崩れた円形で、南北0.65m、東西0.60m、深さ0.18m。

P100103、P100105、P100114はSA100103の一部を構成する柱穴である。

P100103の平面形態は隅丸方形で、南北検出長0.74m、東西検出長0.69m、深さ0.18m。埋土から須恵器杯（杯H）1点が破片で出土（第84図19）。P100105の平面形態は円形で、南北0.47m、東西0.52m、深さ0.47m。P100114の平面形態は崩れた円形で、南北0.55m、東西0.57m、深さ0.43m。埋土から須恵器杯蓋（杯H蓋）1点、土師器甕1点が破片で出土（第84図20）。

それ以外の柱穴、小穴を以下に列記する。

P100101の平面形態は円形で、南北0.39m、東西0.46m、深さ0.22m。P100102の平面形態は楕円形で、南北0.71m、東西0.52m、深さ0.19m。埋土から土師器甕1点、製塩土器4点が細片で出土。P100106の平面形態は楕円形で、南北0.55m、東西0.73m、深さ0.06m。P100107の平面形態は崩れた円形で、南北0.43m、東西0.55m、深さ0.25m。P100108の平面形態は円形で、南北0.23m、東西0.25m、深さ0.09m。P100112の平面形態は崩れた円形で、南北0.70m、東西0.83m、深さ0.42m。P100116の平面形態は円形で、南北0.48m、東西0.46m、深さ0.22m。P100118の平面形態は円形で、南北0.44m、東西0.48m、深さ0.27m。P100119の平面形態は楕円形で、南北0.25m、東西0.35m、深さ0.17m。P100120の平面形態は楕円形で、南北0.40m、東西0.49m、深さ0.13m。P100122の平面形態は円形で、南北検出長0.48m、東西検出長0.36m、深さ0.15m。P100123の平面形態は円形で、南北0.32m、東西0.37m、深さ0.20m。P100125の平面形態は楕円形で、南北0.41m、東西0.34m、深さ0.18m。埋土から須恵器壺1点が破片で出土（第84図21）。P100126の平面形態は円形で、南北0.39m、東西0.32m、深さ0.14m。P100127の平面形態は円形で、南北0.26m、東西0.20m、深さ0.05m。P100128の平面形態は楕円形で、南北0.33m、東西0.20m、深さ0.11m。P100129の平面形態は円形で、南北0.25m、東西0.23m、深さ0.07m。P100130の平面形態は円形で、南北0.22m、東西0.24m、深さ0.08m。P100131の平面形態は崩れた円形で、南北0.23m、東西0.24m、深さ0.07m。P100132の平面形態は崩れた円形で、南北0.24m、東西0.31m、深さ0.10m。P100133の平面形態は円形で、南北0.26m、東西0.23m、深さ0.13m。P100134の平面形態は円形で、南北0.26m、東西0.25m、深さ0.11m。P100135の平面形態は円形で、南北0.26m、東西0.26m、深さ0.05m。P100136の平面形態は円形で、南北0.24m、東西0.14m、深さ0.03m。P100137の平面形態は崩れた円形で、南北0.20m、東西0.24m、深さ0.08m。P100138の平面形態は円形で、南北0.27m、東西0.25m、深さ0.08m。P100139の平面形態は円形で、南北0.28m、東

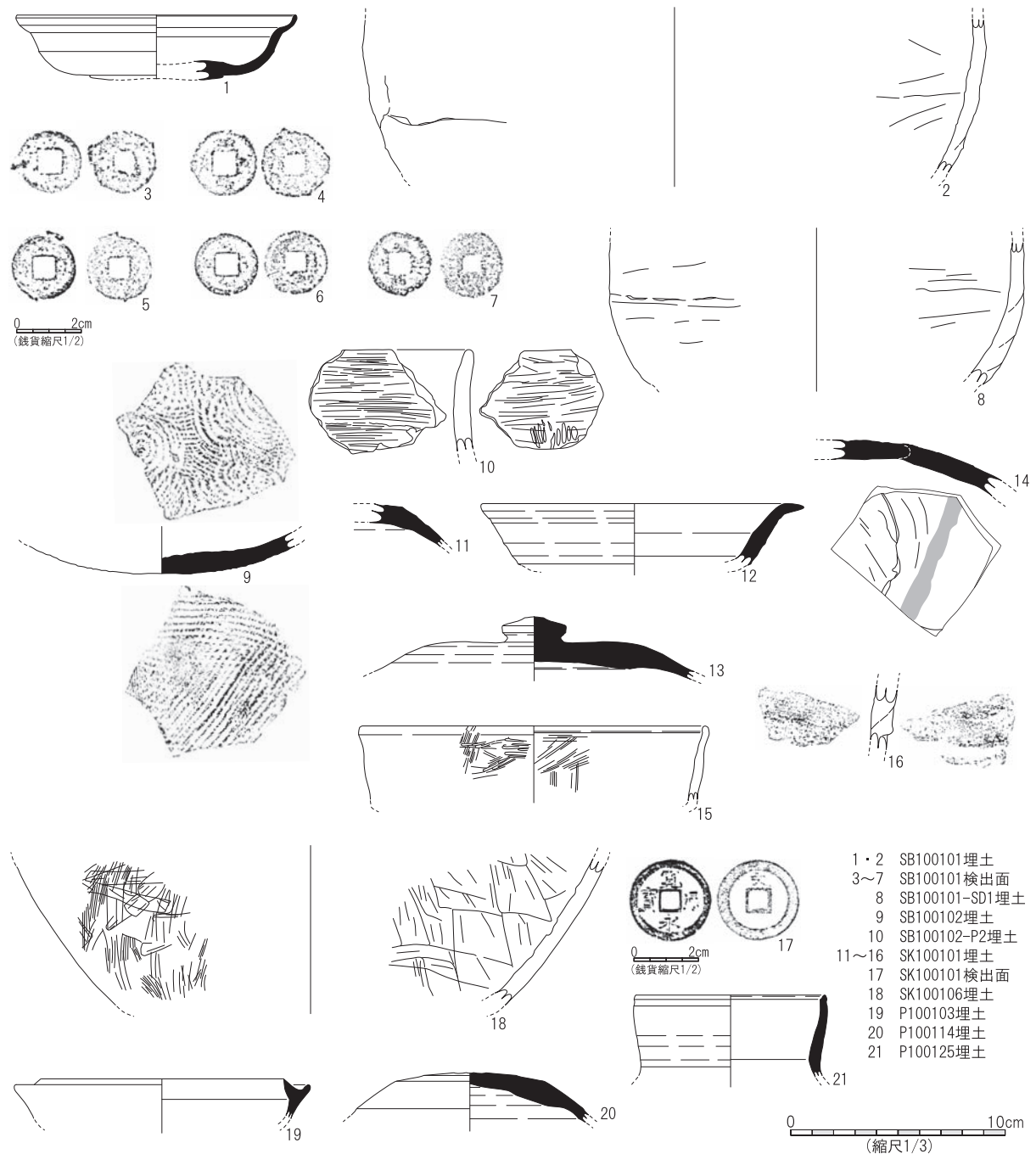


西0.29m、深さ0.12m。P100140の平面形態は円形で、南北0.31m、東西0.30m、深さ0.10m。P100141の平面形態は円形で、南北0.29m、東西0.28m、深さ0.08m。P100142の平面形態は円形で、南北0.26m、東西検出長0.29m、深さ0.07m。

⑥ 出土遺物

第84図1・2はSB100101埋土、3～7はSB100101検出面、8はSB100101-SD1埋土、9はSB100102埋土、10はSB100102-P2埋土、11～16はSK100101埋土、17はSK100101検出面、18はSK100106埋土、P100103埋土、20はP101014埋土、21はP100125埋土から出土した。

1は須恵器皿。復元口径13.0cm、器高3.0cm。体部が強く内彎し、さらに上外方に短く内彎して口縁端部を上方に丸く収める。内外面ともに強いナデを施す。



第84図 興道寺廃寺第10次調査1トレンチ出土遺物実測図

2は製塩土器。体部は丸みを帯びる。体部の径は30 cmほどに復元されるやや大型品であるが、器壁は7 mmほどとやや薄い。体部外面にはわずかに粘土紐積み上げ痕を残し、内面には弱い横ナデを施す。

3～7は銭貨。外縁外径が2 cmほどと小さく、4・7の文字面に辛うじて鋳文の痕跡が見られるが、腐食が著しいため判読できず銭種は不明。背面に鋳文はない。

8は製塩土器。体部の径は20 cm、器壁は7 mmほどであり、底部から丸みを帯びて立ち上がる。内外面調整は2の製塩土器と同様である。8の内外面には被熱痕が残る。

9は須恵器甕。底部は緩やかな弧状を呈し、外面は平行叩きを不定方向に施し、内面は緻密な同心円の当て具痕を留める。

10は土師器甕。口縁部は短く上方に延び、口縁端部を丸く収める。口縁部から頸部にかけての内面には櫛状工具による強い横ナデ、頸部外面には縦方向に粗い刷毛目を施す。

11は須恵器杯蓋（杯H蓋）。天井部外面に回転ヘラ削りを施す。12は須恵器杯（杯A）。復元口径14.2 cm。口縁部は外反しながら真つすぐ立ち上がり、口縁端部をさらに外方に引き出して鋭く収める。13は須恵器杯蓋（杯B蓋）。天井部外面は回転ヘラ削りの後、ナデを加える。14は須恵器平瓶。体部上位には成形時の円形粘土板の接合痕が残る。体部の内外面に釉が付着し、内面の釉は線状をなす。

15は土師器皿。復元口径16.0 cm。口縁部はほぼ直立し、口縁端部を丸く収め、口縁端部の内面に1条の沈線が廻る。胎土は精良で、口縁部の外面は横方向の細かい磨きを施し、口縁部内面には上位は斜方向、下位は下方の二段の暗文を施す。

16は製塩土器。器壁は1 cmほどと厚く、体部外面は明瞭な粘土紐積み上げ痕を留め、体部内面には横方向に強いナデを施す。船岡式とされる製塩土器の特徴を示す。

17は寛永通宝。背面には文の鋳文がある。

18は土師器甕。胴部外面は縦方向に粗い刷毛目を施した後、一部にナデを加える。胴部内面は縦方向に幅の広い削りを施し、一部を横方向に削る。

19は須恵器杯（杯H）。復元口径11.3 cm。口縁部は上方に短く立ち上がり、口縁端部を鋭く収める。20は須恵器杯蓋（杯H蓋）。天井部外面に回転ヘラ削りに加えて、2本の平行線からなるヘラ描きを施す。21は須恵器壺。復元口径8.8 cm。口縁部は上方に向けてわずかに内彎しながら立ち上がる。口縁端部に段をもつ。

## C. 第10次調査2トレンチの調査

### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は24.8～25.0mである。

表土の耕作土となる黒褐色土（層厚0.2～0.35m）下、トレンチの南端では標高24.8m付近で地山面となる黄褐色砂礫土層の上面に、トレンチの北端では標高24.5m付近で地山面の上面に至る。表土から須恵器杯蓋（杯H蓋）1点、杯蓋（杯B蓋）1点、土師器皿1点、塑像螺髪1点、宋銭とみられる銅製の銭貨1点が破片で出土（第85図7・8）。

地山面は北に向かって傾斜し、0.3mの比高差をもつ。

### ② 検出遺構の概要

地山面で竪穴建物跡1棟（SB100201）、掘立柱建物跡1棟（SH100201）、柱穴・小穴13基（P100201～P100113）を検出した。トレンチの西端が第2次調査2トレンチと重複し、溝1基（SD110201）、小穴1基（P100214）を再検出した。

### ③ 竪穴建物跡

SB100201 は竪穴建物跡の北側を検出した。第2次調査2トレンチ検出の土坑 SK020203 はこの竪穴建物の北西隅部にあたるのが判明し、また第10次調査1トレンチ検出の竪穴建物 SB100101 はこの南辺にあたる。平面形態は歪な長方形を呈し、床面の標高は約24.5m前後、床面までの深さ0.34mで、第10次調査1トレンチ検出の床面の南端より0.1mほど低い。床面の断面形状は平らで、中央に向かってわずかに低くなる。床面の中央では少なくとも南北2.41m、2.69mの範囲に褐色粘土からなる貼床が施され、よく締まっている。埋土は黒褐色土で、須恵器杯蓋（杯H蓋）4点、提瓶1点、須恵器壺1点、土師器甕10点、製塩土器2点、土壁5点、瓦小片1点が破片で出土した（第85図1～5）。

建物床面の東側と西側では周壁に沿って幅0.3～0.4mの溝1基（SB100201-SD1）を廻らせる。溝の深さ0.13m、箱形、弧状の断面形状をもち、黒褐色土を埋土にもつ。底面から浮いた状態で埋土から須恵器杯蓋（杯B蓋）1点、製塩土器1点が破片で出土した（第85図6）。建物の西辺で土坑1基（SB100201-SK1）、東辺で柱穴2基と西辺で柱穴1基（SB100201-P1～SB100201-P3）を検出した。SB100201-SK1の平面形態は隅丸方形で、南北検出長0.77m、東西0.65m、深さ0.19m。断面形状は弧状で、黒褐色土を埋土にもつ。埋土から土師器甕1点が細片で出土した。SB100201-P1の平面形態は楕円形で、南北0.37m 東西0.64m。SB100201-P2の平面形態は円形で、南北0.55m、東西0.62m、深さ0.22m。SB100201-P3は南北0.29m、東西0.25m、深さ0.14m。

出土遺物の年代から8世紀前半に伴う時期と考えられる。

### ④ 掘立柱建物跡

P100201、P100202、P100210～P100212の5基の柱穴および第2次調査2トレンチ検出の柱穴2基（P020201、SK020201）で掘立柱建物跡（SH100201）の一部を構成する。東西3間、南北2間を検出した。東西の柱筋の柱間2.1m、南北の柱筋の柱間2.7m前後である。柱穴の掘り方はやや大きい。底面まではさほど深くなく、断面形状も凹凸が激しい。黒褐色土を埋土にもつ。建物の南北軸の方位から南側の竪穴建物と同時期、8世紀前半に伴うものと考えられる。

### ⑤ 柱穴・小穴

P100201、P100202、P100210～P100212の5基の柱穴は掘立柱建物 SH100202 の一部を構成する。

P100201の平面形態は崩れた円形で、南北0.89m、東西0.81m、深さ0.22m。P100202の平面形態は崩れた円形で、南北0.84m、東西0.91m、深さ0.32m。P100210の平面形態は楕円形で、南北0.81m、東西0.49m、深さ0.18m。P100211の平面形態は円形で、南北0.84m、東西0.85m、深さ0.25m。P100212の平面形態は楕円形で、南北0.68m、東西0.89m、深さ0.35m。

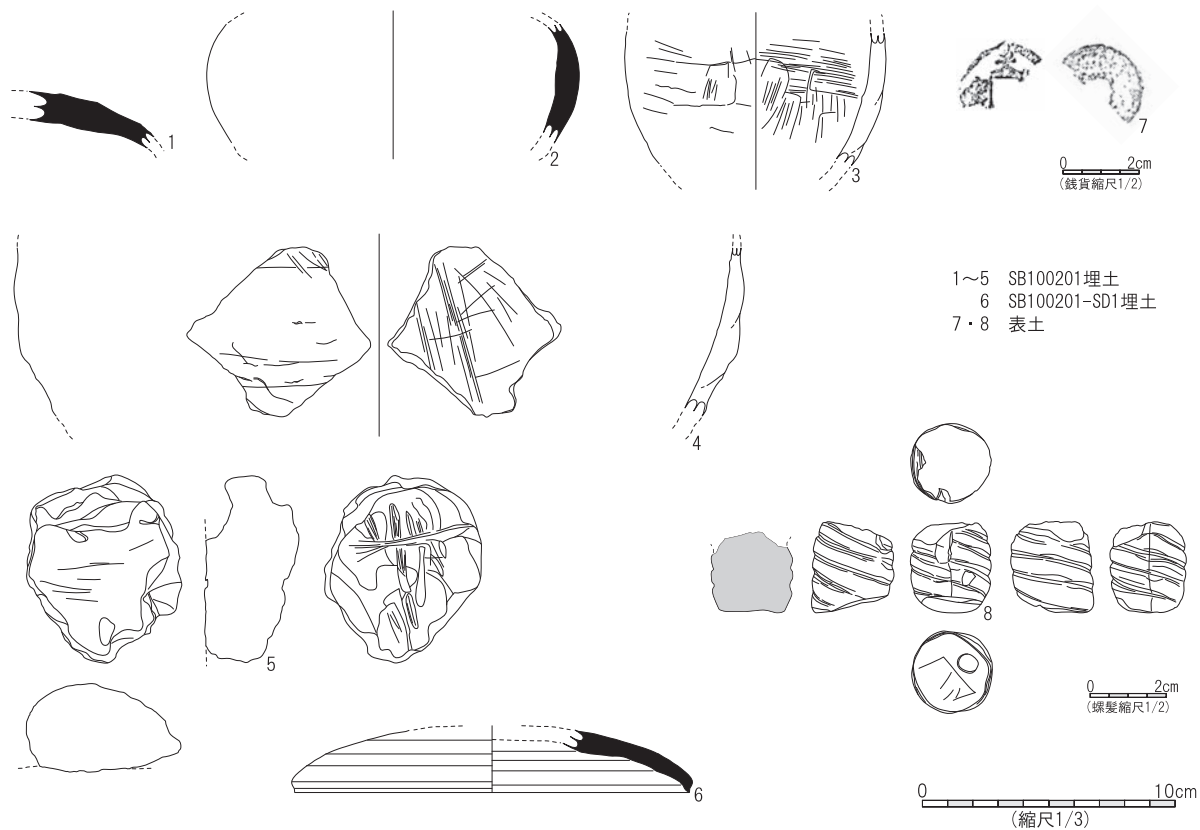
それ以外の柱穴、小穴を以下に列記する。

P100203の平面形態は円形で、南北0.71m、東西0.67m、深さ0.13m。P100204の平面形態は楕円形で、南北0.37m、東西0.47m、深さ0.08m。P100205の平面形態は楕円形で、南北0.41m、東西0.55m、深さ0.04m。P100206の平面形態は円形で、南北0.33m、東西0.37m、深さ0.05m。P100207の平面形態は円形で、南北0.40m 東西0.41m 深さ0.24m。P100208の平面形態は円形で、南北0.31m、東西検出長0.23m、深さ0.28m。P100209の平面形態は円形で、南北0.19m 東西0.22m 深さ0.04m。P100213の平面形態は円形で、南北0.39m、東西検出長0.50m、深さ0.11m。P100214は南北検出長0.30m、東西検出長0.44m。

### ⑥ 出土遺物

第85図1～5はSB100201埋土、6はSB100201-SD2埋土、7・8は表土から出土した。

1は須恵器杯蓋（杯H蓋）。天井部外面に回転ヘラ削りを施す。2は須恵器壺。体部外面にカキ目を施す。



第85図 興道寺廃寺第10次調査2トレンチ出土遺物実測図

3・4は製塩土器。ともに体部外面は横方向に弱いナデを施し、指頭圧痕を留める。3の体部内面は横ナデを施した後、体部下半から底部に向かって縦方向にナデを加える。4の体部内面は縦方向を基本としながら不定方向にナデを施す。

5は土壁。現存長7.4cm×6.2cm。現存最大厚3.8cm。胎土に多くの藁スサを含む。

6は須恵器杯蓋（杯B蓋）。復元口径15.6cm。器高は低く、なだらかに口縁部に至り、口縁端部は下方に鋭く収める。

7は錢貨。文字面鑄文の1文字目は天、4文字目は寶。

8は塑像螺髪。底面から1/3が現存し、砲弾状を呈するものと思われる。底面径21mm。対角の2箇所にて型合わせ痕が残る。底面は斜めに切断した後、孔を穿ち、底面の一部をナデ調整する。螺線は幅が広く、底面から右巻きである。採色の痕跡は見られない。

#### D. 第10次調査3トレンチの調査

##### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は25.0mである。

表土の耕作土となる黒褐色土（層厚0.2~0.25m）下、トレンチの南端では標高24.75~24.8m付近で地山面となる黄褐色砂礫土層の上面に至る。地山面は平坦である。

##### ② 検出遺構の概要

地山面で小穴5基(P100301~P100305)を検出した。

### ③ 小穴

P100301 の平面形態は円形で、南北 0.35m、東西 0.33m、深さ 0.02m。P100302 の平面形態は円形で、南北 0.57m、東西 0.54m、深さ 0.19m。P100303 の平面形態は円形で、南北 0.38m、東西 0.35m、深さ 0.12m。P100304 の平面形態は円形で、南北 0.33m、東西 0.33m、深さ 0.08m。P100305 の平面形態は円形で、南北 0.26m、東西検出長 0.24m、深さ 0.10m。

## 第7項 伽藍北限の調査

### A. 伽藍北限の概要

第10次調査に至るまで講堂基壇が未検出であった状況を考えれば、伽藍北限に関して具体的な検討が及ぶことはほとんどなかった。そのような状況の中、その帰属時期に検討の余地があったものの、第11・12次調査で講堂基壇が検出され始めたことで、第11次調査1トレンチで検出された再建期中門基壇の南西側の東西溝の存在を考えれば、講堂に接続するものか、講堂を取り込んでその北側を廻るものかはともかくとして、再建期の南面回廊に対応する北面回廊が存在する可能性も考えられた。一方、第10次1～3トレンチで伽藍東限施設が未検出であることを踏まえると、回廊などの整備は寺院の正面である南面のみに留まる可能性も考えられた。興道寺廃寺の伽藍域を考える上で、伽藍北限施設の存否、様相を確認する必要に迫られた。

第6次調査6トレンチでは東西に延びる溝の一部を検出しており、これが講堂基壇の東方に位置することから、この溝が伽藍北限に関連する可能性を考慮して、第13次調査3トレンチを設定して調査を行ったところ、東西に延びる溝が再検出され、伽藍北限は溝の内外で区画した可能性が高まった。

### B. 第13次調査3トレンチの調査

#### ① 基本層序

調査地は畑地は、地表面の標高は24.3～24.6mである。

表土となる耕作土の黒褐色土（層厚0.1～0.3m）下、トレンチ北端で暗褐色砂礫土（層厚0.1m）からなる堆積層が分布し、トレンチ北端では標高24.1m、トレンチ南端では標高24.5mで地山面となる黄褐色砂礫土の上面に至る。表土から平瓦1点が破片で出土。

地山面は北に向かって大きく傾斜し、0.4mの比高差をもつ。

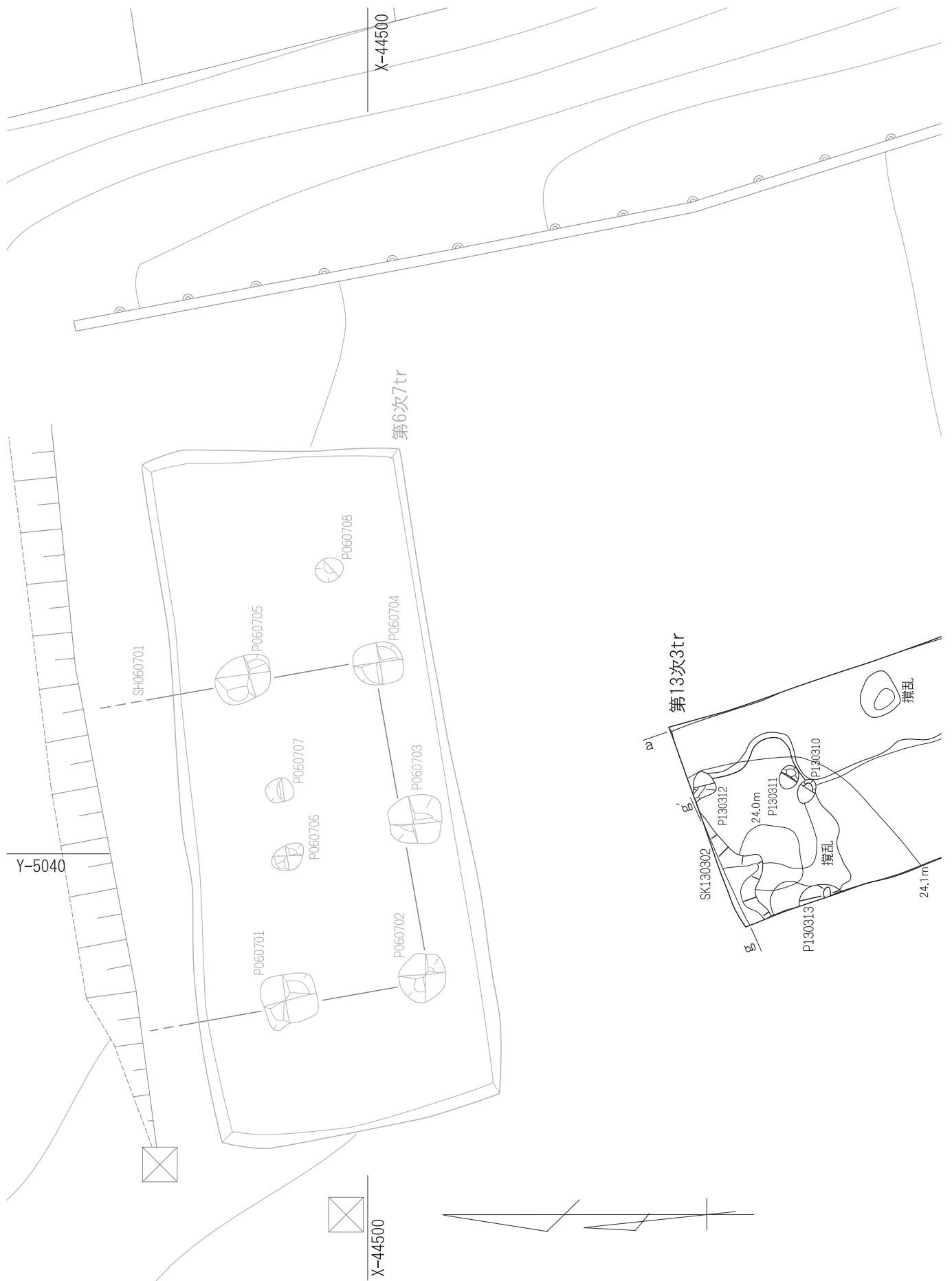
#### ② 検出遺構の概要

地山面で溝2基（SD130301・SD130302）、土坑2基（SK130301・SK130302）、柱穴・小穴14基（P130301～P130314）を検出した。地山面に耕作攪乱が及び、検出遺構の上面を削平しているものと考えられる。

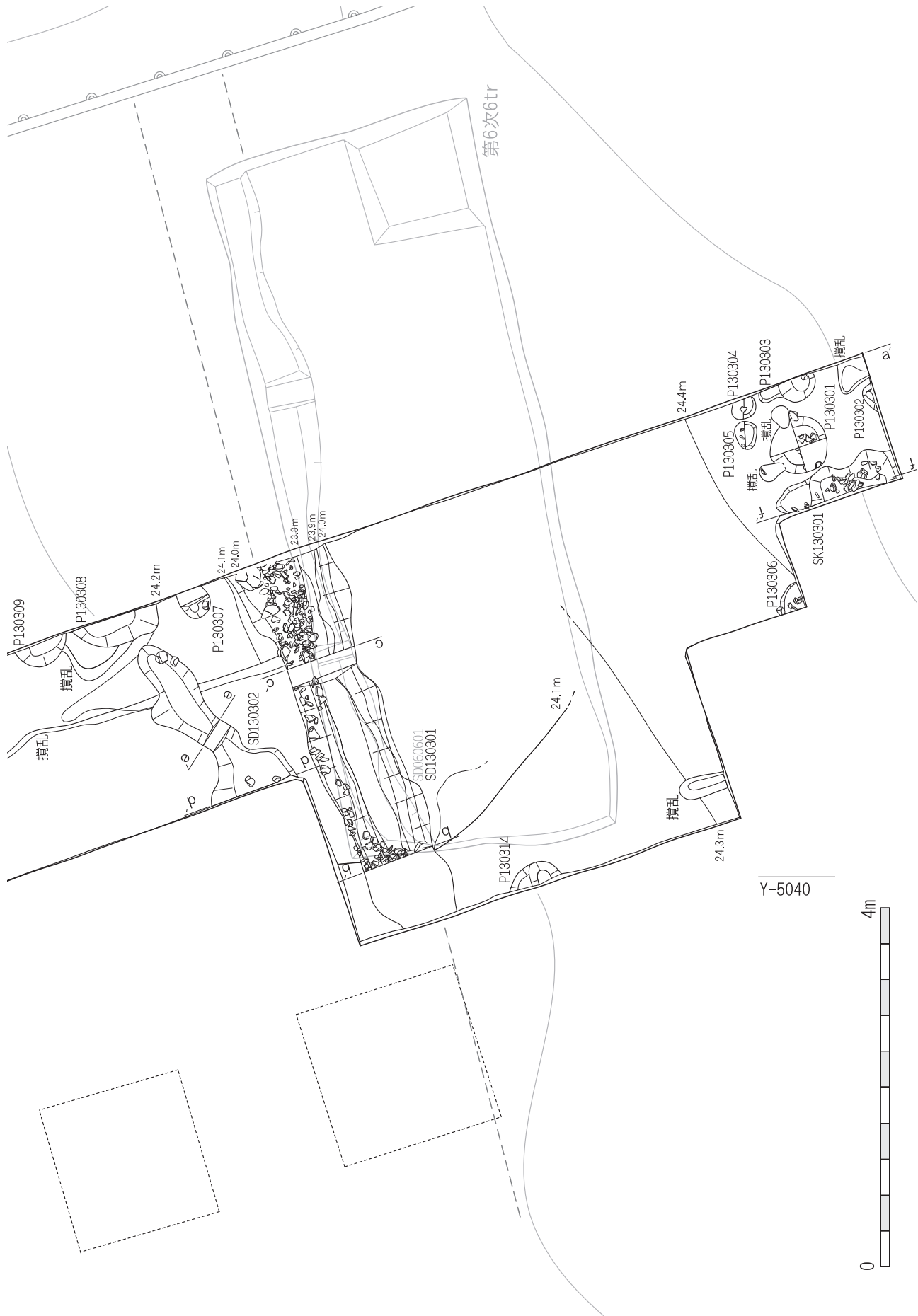
#### ③ 溝

SD130301は第6次調査6トレンチで断片的に検出しており、東西に延びる溝として報告している。南北最大幅1.12m、最小幅0.86m、最深0.33m。断面形状は丸みを帯びた尖底状で、黒褐色土を埋土にもち、北側から順に埋没した土層堆積を示している。埋土には拳大から人頭大ほどの自然礫が底面からかなり浮いた状態で含まれる。埋土から平瓦3点が破片で出土。

SD130302は東西に延びる。東西検出長2.05m、南北最大幅0.98m、最小幅0.39m。深さは0.03mと極めて浅く、断面形状はレンズ状で、黒褐色土を埋土にもつ。







第86图 興道寺廢寺伽藍北限遺構平面图 (縮尺 1/60)



#### ④ 土坑

SK100801の平面形態は崩れた楕円形で、南北検出長1.33m、東西検出長0.73m、深さ0.18m。断面形状は中央が深くなる尖底状であるが、底面の凹凸が激しい。黒褐色土、暗褐色土を埋土にもつ。拳大ほどの自然礫が底面から浮いた状態で多く混入する。

SK100802は北東—南西検出長1.76m、深さ0.17m。断面形状は箱形で、黒褐色土、暗褐色土を埋土にもつ。



第88図 興道寺廃寺第13次調査  
3トレンチ出土遺物実測図

#### ⑤ 柱穴・小穴

P130301は掘り方の径も大きく、柱穴と考えられる。平面形態は円形で、南北0.65m、東西0.63m、深さ0.23m。埋土から土師器甕6点、製塩土器4点が破片で出土。

それ以外の柱穴、小穴を以下に列記する。

P130302の平面形態は楕円形で、南北検出長0.17m、東西0.32m、深さ0.10m。P130303の平面形態は崩れた楕円形で、南北0.63m、東西検出長0.32m、深さ0.17m。P130304の平面形態は円形で、南北0.26m、東西検出長0.26m、深さ0.07m。埋土から土師器皿1点が破片で出土(第88図1)。P130305の平面形態は楕円形で、南北0.25m、東西0.31m、深さ0.05m。P130306の平面形態は円形で、南北検出長0.27m、東西検出長0.36m、深さ0.06m。P130307の平面形態は楕円形で、南北0.37m、東西検出長0.35m、深さ0.11m。P130308の平面形態は円形で、南北検出長0.97m、東西検出長0.31m、深さ0.16m。P130309の平面形態は円形で、南北検出長0.58m、東西検出長0.37m、深さ0.06m。P130310の平面形態は楕円形で、南北0.21m、東西0.28m、深さ0.10m。P130311の平面形態は円形で、南北0.22m、東西0.27m、深さ0.11m。P130312の平面形態は崩れた円形で、南北検出長0.27m、東西検出長0.34m、深さ0.06m。P130313の平面形態は円形で、南北検出長0.49m、東西検出長0.25m、深さ0.08m。P130314の平面形態は円形で、南北検出長0.58m、東西検出長0.34m、深さ0.09m。

#### ⑥ 出土遺物

第88図1はP130304埋土から出土。

1は土師器皿。平臺台の底部から口縁部が外方に延びる。底部外面は回転糸切り痕を留める。

## 第5節 興道寺廃寺寺域の調査

### 第1項 南門基壇と寺城南限の調査

#### A. 南門基壇と寺城南限の調査概要

寺城南限に関しては、『2007年報告』の中で第1次調査1・3トレンチ検出の溝SD010101(SD010301)の付近に所在が想定されたが、全く根拠がないものであった。第8次調査で中門基壇を検出したことで、その南側に南門基壇が存在する可能性が高まり、南門基壇の位置が寺城南限であることを考えれば、その後の調査の目的の1つとして南門基壇の検出に移行していったことは自明であった。

幸いにも中門基壇が良好な状態で検出されたことから南門基壇の検出にも期待が高まり、第11次調査では中門基壇の南側に11トレンチを設定して面的調査を行ったところ、再建期南門基壇の北辺などを検出した。このため、第12次調査では南門基壇西側の様相確認および南面築地を含めた基壇周辺の遺構分布状況を確認するために1～5トレンチを設定して調査を進めた。この調査では、再建期南門基壇の西辺を検出するとともに、再建期の整地面が基壇の南方に広がっている様相を確認したため、第13次調査では整地面の南側への広がりを確認

するために1トレンチを設定して調査を行ったところ、寺域外の南方まで広く再建期の整地面が展開している様相を確認した。

## B. 第11次調査11トレンチの調査

### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は24.5mである。

表土の耕作土となる黒褐色土（層厚0.15～0.25m）下、トレンチの中央付近では標高24.4m前後で再建期南門基壇の検出面に至るが、トレンチの北側と南側では表土下、黒褐色土、極暗褐色土、黒色土、暗褐色土（層厚0.15～0.45m）などからなる堆積層が分布し、標高23.9～24.0m付近で整地面となる黒色土層、黒褐色土層、暗褐色土層の上面に至る。なお、基壇の南側の一部では表土と堆積層との間に多量の拳大ほどの自然礫を含む礫層が第12次調査2トレンチからまたがって分布している。

表土から須恵器杯（杯H蓋）2点、杯（杯H）底部もしくは杯蓋（杯H蓋）天井部5点、甕10点、杯蓋（杯B蓋）1点、須恵器小片4点、土師器甕9点、皿1点、土師器小片1点、近世陶器1点、無段式丸瓦2点、平瓦5点、瓦小片9点が破片で出土し、礫層から須恵器甕5点、須恵器小片2点、種別不明の壺1点、土師器壺状の容器1点、越前焼甕1点、無段式丸瓦4点、平瓦34点が破片で出土した（第90図1～3・19～23）。

整地層下、標高24.0m前後で地山面となる黄褐色粘土層の上面に至るが、南北に並列する地山面を掘り込む溝2基を検出し、2基の溝の間には検出面の標高が24.2mである黒褐色土、暗褐色土、黄褐色土からなる盛土が見られる。溝の埋土は再建期の整地層と一体をなす。

### ② 検出遺構の概要

表土下で再建期南門基壇SB111101の積み土と北辺石積み、南辺の削平痕跡を検出するとともに、基壇に伴う整地面を検出した。また、再建期南門基壇および整地面下、断割部分で地山層から掘り込まれた溝2基（SD111101・SD111102）と溝に挟まれた地山面に盛土地層を検出している。

なお、トレンチ北端の一部は第8次調査3トレンチと重複するが、今回の調査では未掘である。

### ③ 建物基壇および整地面

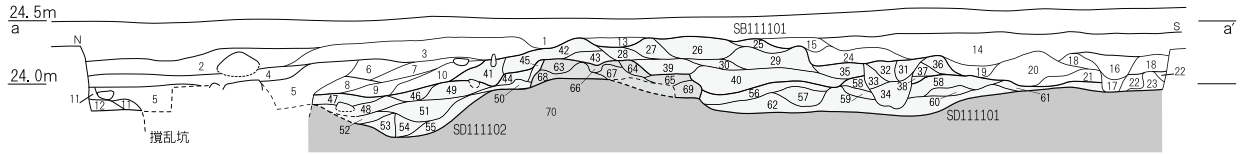
〈再建期南門基壇SB111101〉

SB111101は南北検出長6.12m、東西検出長6.62m、基壇積み土と基壇北辺・西辺の石積みを平面、土層断面で検出した。基壇の検出面は標高約24.4m。基壇積み土は黒色土、黒褐色土、暗褐色土からなり、版築状の締まりはなく、再建期中門基壇と同様、軟質の土砂を盛土する。

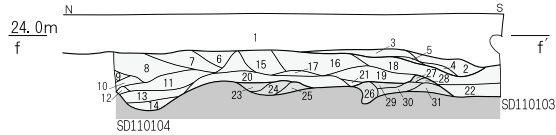
SB111101北東隅部から西辺にかけては外装の石積みが残る。北西隅部の石積みが辛うじて3段まで遺存する。基底石上面は標高24.05m、2段目上面は標高24.15m、3段目上面は標高24.3mの付近にあるが、2段目の石積みは前面に押し出され、逆に3段目の石積みは基壇側に押し返された断面形状を示しており、元位置を保っていない。石積みの検出長は南西隅部から東に約2.6mであるが、さらに東側の石積みは失われる。基壇南西隅部で元位置を保つ2石の基底石を確認した。その他の北辺石積みの基底石は前方に押し出された2段目の石積み下に埋没し、結果として基底石をほとんど確認できない。北西隅部の基底石2石は小ぶりな自然石を用いているが、長辺0.3～0.4m、短辺0.1～0.2mほどと総じて規格的な自然石を横位に長手積みする。石材の石種は花崗岩、砂岩が主体を占める。

基壇西辺の石積みについては、石積みの上位から西側の堆積層にかけて拳大の自然礫が密に堆積し、その除去に苦慮したことから石積みの上端のみを検出し、石積み全体の検出は第12次調査に持ち越し、2トレンチとして調査した。

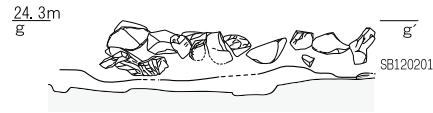




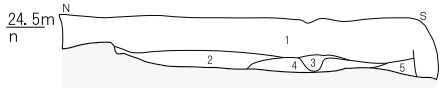
- |                               |                                 |                                   |                  |
|-------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|------------------|
| 1 黒褐色土10YR3/2(表土)             | 25 黒色土10YR1.7/1                 | 49 同上10YR2/1(粗砂含む)                | 2-4・6-24 堆積層     |
| 2 同上10YR3/2(径2cmまでの礫含む)       | 26 黒褐色土10YR2/2(径1cmまでの礫含む)      | 50 黒褐色土10YR2/2(径1cmまでの礫含む)        | 5 攪乱層            |
| 3 同上10YR3/2(径1cmまでの礫含む)       | 27 黒色土10YR1.7/1(径1cmまでの礫含む)     | 51 黒色土10YR1.7/1(径1cmまでの礫含む)       | 15-43 再建期南門基壇    |
| 4 極暗褐色土7.5YR2/3               | 28 黒褐色土10YR2/2(粗砂含む)            | 52 同上10YR1.7/1                    | 44-55 SD111102埋土 |
| 5 同上7.5YR2/3(人頭大礫含む)          | 29 黒色土10YR1.7/1                 | 53 同上10YR1.7/1                    | (再建期整地層)         |
| 6 黒褐色土10YR3/2(径1cmまでの礫含む)     | 30 同上10YR1.7/1                  | 54 同上10YR1.7/1                    | 56-62 SD111101埋土 |
| 7 同上10YR3/2(粗砂混じる)            | 31 同上10YR2/1(地山土混じる、径3cmまでの礫含む) | 55 同上10YR1.7/1(径1cmまでの礫含む)        | (再建期整地層)         |
| 8 同上10YR2/2(径3cmまでの礫含む)       | 32 黒褐色土10YR2/2(径1cmまでの礫含む)      | 56 暗褐色土10YR3/3(径1cmまでの礫含む)        | 63-69 創建期盛土層     |
| 9 同上10YR2/2(径1cmまでの礫含む)       | 33 同上10YR2/2(粗砂含む)              | 57 同上10YR3/3(地山土多く混じる、径1cmまでの礫含む) | 70 地山層           |
| 10 黒色土10YR1.7/1               | 34 同上10YR3/2(地山土混じる、径2cmまでの礫含む) | 58 同上10YR3/3(粗砂含む)                |                  |
| 11 黒褐色土10YR3/2(径5cmまでの礫含む)    | 35 同上10YR2/2(粗砂混じる)             | 59 同上10YR3/3(径3cmまでの礫含む)          |                  |
| 12 同上10YR2/2(地山土混じる)          | 36 同上10YR2/2(地山土混じる、径1cmまでの礫含む) | 60 同上10YR3/3(径1cmまでの礫密に含む)        |                  |
| 13 同上10YR3/2(径3cmまでの礫含む)      | 37 同上10YR2/2(地山土混じる)            | 61 同上10YR3/3(地山土多く混じる、径1cmまでの礫含む) |                  |
| 14 暗褐色土10YR3/3(径1cmまでの礫含む)    | 38 同上10YR2/2                    | 62 同上10YR3/3(径2cmまでの礫含む)          |                  |
| 15 同上10YR3/3                  | 39 同上10YR2/3(径1cmまでの礫含む)        | 63 黒褐色土10YR2/2(地山土混じる)            |                  |
| 16 黒褐色土10YR2/2                | 40 同上10YR2/2(径1cmまでの礫含む)        | 64 暗褐色土10YR3/3                    |                  |
| 17 暗褐色土10YR3/3(地山土ブロック混じる)    | 41 同上10YR2/2(径10cmまでの礫含む)       | 65 黒褐色土10YR2/3                    |                  |
| 18 黒褐色土10YR3/2(微細遺物混じる)       | 42 同上10YR2/2(粗砂含む)              | 66 黄褐色土10YR5/6                    |                  |
| 19 同上10YR2/3(径1~5cmの礫含む)      | 43 同上10YR2/2(地山土混じる)            | 67 同上10YR5/6(黒褐色土混じる)             |                  |
| 20 同上10YR2/3(瓦混じる、径1~5cmの礫含む) | 44 同上10YR2/2                    | 68 同上10YR5/6(黒褐色土ブロック混じる)         |                  |
| 21 同上10YR2/3(地山土混じる、粗砂含む)     | 45 暗褐色土10YR3/3                  | 69 暗褐色土10YR3/3                    |                  |
| 22 同上10YR2/2                  | 46 黒色土10YR1.7/1                 |                                   |                  |
| 23 極暗褐色土7.5YR2/3              | 47 同上10YR1.7/1(地山土ブロック混じる)      |                                   |                  |
| 24 黒褐色土10YR2/2(径1cmまでの礫含む)    | 48 同上10YR1.7/1                  |                                   |                  |



- |                          |                                  |
|--------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色土10YR3/2(表土)        | 18 同上10YR2/2(微細遺物混じる)            |
| 2 同上10YR2/2(よく締まる)       | 19 同上10YR2/2(径1cmまでの礫含む)         |
| 3 同上10YR3/2              | 20 同上10YR3/2(地山土混じる)             |
| 4 黒色土10YR2/1             | 21 同上10YR3/2(地山土混じる)             |
| 5 黒褐色土10YR2/2(粗砂含む)      | 22 同上10YR3/2(径1cmまでの礫含む)         |
| 6 同上10YR2/2              | 23 同上10YR2/3(地山土混じる)             |
| 7 黒褐色粘質土10YR2/3          | 24 暗褐色土10YR3/3(地山土混じる)           |
| 8 黒褐色土10YR3/2(微細遺物混じる)   | 25 同上10YR3/4(地山土混じる)             |
| 9 同上10YR3/2              | 26 黒褐色土10YR3/2(地山土混じる)           |
| 10 同上10YR3/2(地山土混じる)     | 27 同上10YR3/2(地山土混じる)             |
| 11 同上10YR2/3             | 28 同上10YR2/2                     |
| 12 黄褐色土10YR5/6           | 29 同上10YR2/2                     |
| 13 黒褐色土10YR2/2(地山土混じる)   | 30 同上10YR3/2(地山土多く混じる)           |
| 14 同上10YR3/2             | 31 同上10YR3/2(地山土混じる)             |
| (地山土混じる、径2cmまでの礫含む)      |                                  |
| 15 同上10YR2/2             | 2-5 SD110102埋土                   |
| 16 同上10YR2/2(径1cmまでの礫含む) | 6-22 SD110103・SD110104埋土(再建期整地層) |
| 17 同上10YR2/2             | 23-31 創建期盛土層                     |



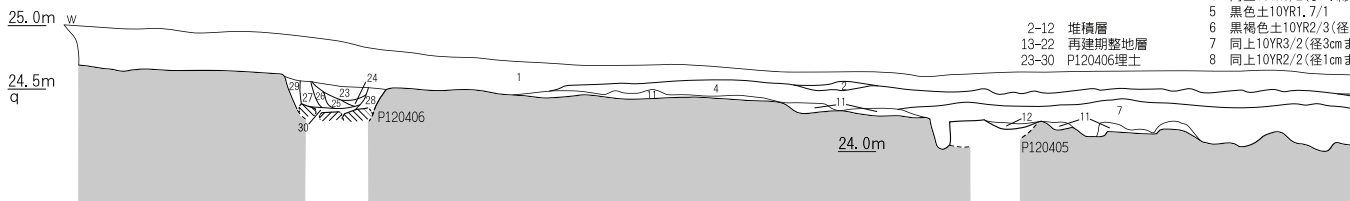
- |                         |                           |           |
|-------------------------|---------------------------|-----------|
| 1 暗褐色土10YR3/3           | 6 同上10YR3/2               | 2・3 攪乱層   |
| 2 灰黄褐色土10YR4/2          | 7 灰黄褐色土10YR4/2(径1~5cm礫含む) | 4-9 堆積層   |
| 3 同上10YR4/2(軟質)         | 8 黒褐色土10YR3/2(軟質)         | 10 再建期整地層 |
| 4 黒褐色土10YR3/2           | 9 同上10YR3/2               |           |
| 5 同上10YR3/2(径2cmまでの礫含む) | 10 黒褐色粘質土10YR2/3(微細遺物混じる) |           |



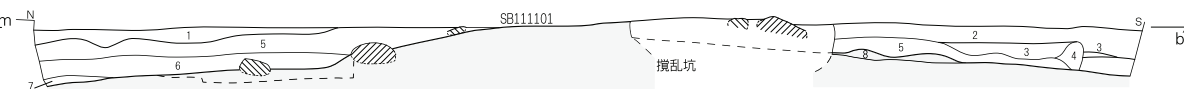
- |                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| 1 黒褐色土10YR2/3(表土) | 4 同上10YR2/2     |
| 2 同上10YR2/3(軟質)   | 5 同上10YR2/2(軟質) |
| 3 同上10YR2/3       |                 |



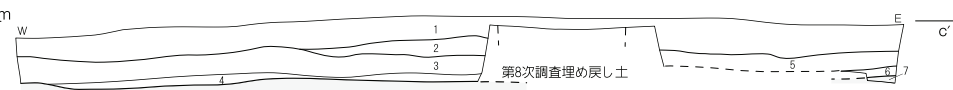
- |                   |                             |
|-------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色土10YR2/3(表土) | 4 同上10YR2/3(地山土混じる)         |
| 2 同上10YR2/2(軟質)   | 5 暗褐色土10YR3/3(地山土大ブロック混じる)  |
| 3 同上10YR2/3(軟質)   | 6 褐色砂礫土10YR4/6(径30cmまでの礫含む) |



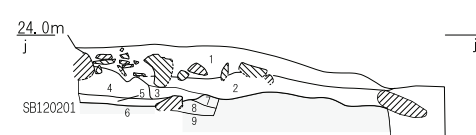
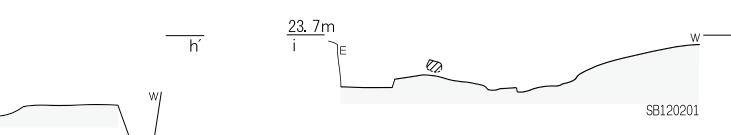
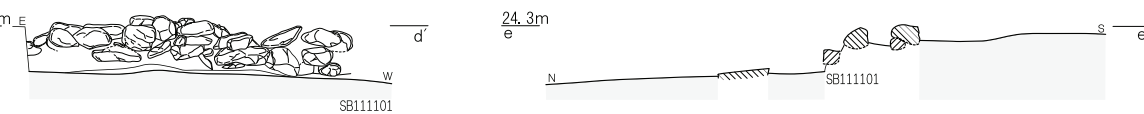




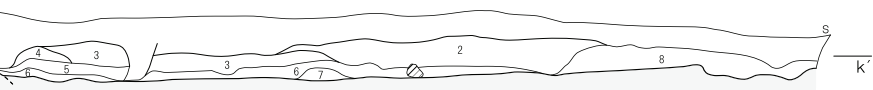
- |                           |                         |
|---------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色土10YR3/3             | 5 同上10YR2/3(径1cmまでの礫含む) |
| 2 極暗褐色土7.5YR2/3           | 6 同上10YR2/2             |
| 3 黒褐色土10YR2/2(径2cmまでの礫含む) | 7 黒色土10YR2/1            |
| 4 同上10YR2/2               | 8 同上10YR2/1             |



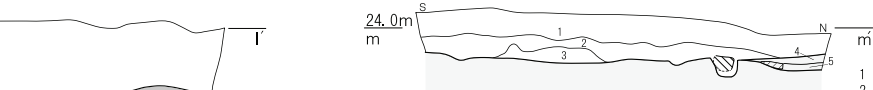
- |                           |                         |
|---------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色土10YR3/3             | 5 黒褐色土10YR2/2           |
| 2 黒褐色土10YR2/3(径1cmまでの礫含む) | 6 同上10YR3/2(径2cmまでの礫含む) |
| 3 同上10YR2/2               | 7 同上10YR3/2(径1cmまでの礫含む) |
| 4 黒色土10YR2/1              |                         |



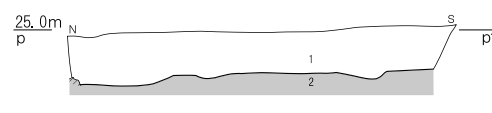
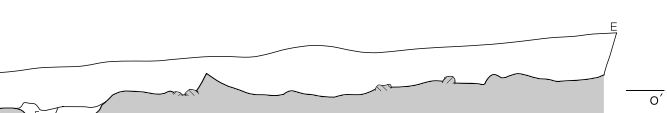
- |                           |                          |
|---------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色土10YR3/3(表土)         | 6 同上10YR3/2(径5cmまでの礫含む)  |
| 2 黒褐色土10YR3/2(径2~20cm礫含む) | 7 同上10YR2/3(径1cmまでの礫含む)  |
| 3 黒褐色粘土10YR2/3            | 8 同上10YR3/2              |
| 4 黒褐色土10YR3/2(よく締まる)      | 9 同上10YR3/2(地山土大ブロック混じる) |
| 5 同上10YR2/2               |                          |



- |                           |                         |
|---------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色土10YR3/3(表土)         | 5 同上10YR3/2(径5cmまでの礫含む) |
| 2 灰黄褐色土10YR4/2(径1~5cm礫含む) | 6 同上10YR2/2             |
| 3 黒褐色土10YR3/2             | 7 同上10YR2/3             |
| 4 同上10YR3/2(軟質)           | 8 同上10YR3/2             |

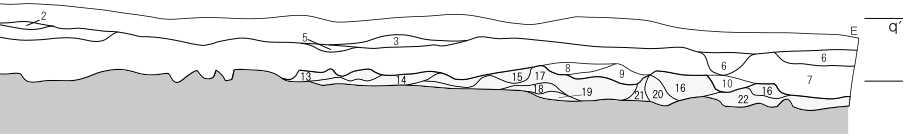


- |                          |
|--------------------------|
| 1 黒褐色土10YR3/2(表土)        |
| 2 同上10YR3/2(地山土細ブロック混じる) |
| 3 同上10YR2/2(軟質)          |
| 4 同上10YR2/2(地山土細ブロック混じる) |
| 5 同上10YR2/2              |



- |                             |
|-----------------------------|
| 1 黒褐色土10YR2/3(表土)           |
| 2 褐色砂礫土10YR4/6(径30cmまでの礫含む) |

- |                           |                             |                            |
|---------------------------|-----------------------------|----------------------------|
| 9 同上10YR2/2(径1cmまでの礫少し含む) | 17 同上10YR2/1(地山土大ブロック混じる)   | 25 同上10YR2/2(軟質)           |
| 10 同上10YR2/2              | 18 黒褐色土10YR2/2(地山土大ブロック混じる) | 26 同上10YR2/2(径3cmまでの礫含む)   |
| 11 同上10YR2/3(地山土多く混じる)    | 19 同上10YR2/2                | 27 同上10YR2/2(地山土混じる)       |
| 12 同上10YR2/2              | 20 同上10YR2/2                | 28 同上10YR2/3(地山土混じる)       |
| 13 同上10YR2/2              | 21 同上10YR2/2(地山土ブロック混じる)    | 29 同上10YR2/2(径0.5cmまでの礫含む) |
| 14 同上10YR2/2(微細遺物混じる)     | 22 同上10YR2/2(地山土小ブロック混じる)   | 30 黒褐色粘質土10YR2/2           |
| 15 同上10YR2/2(微細遺物混じる)     | 23 同上10YR2/2                |                            |
| 16 黒色土10YR1.7/1           | 24 同上10YR2/3                |                            |



■ 再建期基壇・整地層  
■ 地山層



土層断面図1 (縮尺1/60)



基壇の南側は大きく削平されており、全ての石積みが失われるとともに、南西隅部付近では拳大から人頭大の自然礫が密に混入する攪乱坑を検出した。耕作時に邪魔となった基壇南辺石積みを取り除き、埋めたものか。基壇北辺の石積みが失われた箇所と同様の攪乱坑を検出した。第12次調査2・4トレンチで確認した耕作攪乱の面的な広がりを見ると、基壇に対して一定の改変が加えられていることも理解できる。

SB111101 北側の黒褐色土層からなる堆積層から須恵器杯（杯H）2点、杯（杯B蓋）3点、杯（杯H）底部もしくは杯蓋（杯H蓋）天井部12点、甕4点、壺2点、須恵器小片2点、灰釉陶器皿1点、土師器甕22点、皿12点、製塩土器5点、種別不明の椀1点、無段式丸瓦6点、平瓦14点、瓦小片12点が破片で出土し（第90・91図4～12・24）、南側の黒褐色土層からなる堆積層から須恵器杯蓋（杯H蓋）2点、杯（杯H）2点、杯（杯H）底部もしくは杯蓋（杯H蓋）天井部7点、甕13点、高杯1点、須恵器小片6点、土師器甕24点、皿12点、無段式丸瓦16点、平瓦36点、瓦小片20点が破片で出土した（第90・91図13～16・25～28）。南北の堆積層から土師器小片3点、鉄釘2点、不明鉄製品1点、寛永通宝1点が出土している（第90図17・18）。

SB111101に伴う整地面は基壇の周囲に全体的に広がる。整地面の標高23.9～24.0m前後で、黒色土、黒褐色土、暗褐色土などからなる。

#### ④ 溝

SD111101、SD111102ともにトレンチ東端、基壇および整地面の断割部分の地山面で検出したもので、第11次調査1トレンチ東端の断割部分で検出した溝SD110103・SD110104と連なって東西に延びる溝と考えられる。2基の溝の距離はSD111101北辺とSD111102南辺で約1.6mであり、この部分には黒褐色土、暗褐色土、黄褐色土からなる盛土を小ブロック単位に細かく盛土する。盛土の上面の標高24.2m。溝の埋土がそのまま再建期の整地層となる。ともに寺院創建期に伴う南門基壇構築前の寺城南限溝の一部と考えられる。

SD111101は南北幅2.39m、深さ0.20m。断面形状は浅い箱形で、暗褐色土を埋土にもつ。

SD111102は北辺が耕作攪乱で失われるが、南北検出幅1.23m、深さ0.35m。断面形状は船底状で、黒色土、黒褐色土を埋土にもつ。

#### ⑤ 出土遺物

第90・91図1～3・19～23は礫層、4～12・24は再建期南門基壇北側の堆積層、13～16・25～28は再建期南門基壇北側の堆積層、17・18は再建期南門基壇の堆積層から出土した。

1は近世に伴うとみられる陶器の壺。体部はあまり張らず、内外面に鉄釉を施す。2は土師器の壺状容器。体部の径は小さく、内外面に弱いナデを施す。3は越前焼甕。外面に鉄釉を施す。

19は無段式丸瓦。19の凸面は側縁に斜交する平行叩きを施し、強い横ナデを加え、叩き目が薄く残る。

20～23は平瓦。20の凸面は側縁に斜交する斜格子叩きを施し、強い横ナデを加え、部分的に叩き目が残る。21・22の凸面は強い横ナデを施す。21の凹面の一部に糸切り痕が、22の凹面に模骨痕を留める。23の凸面は横ナデを施す。

4・5は須恵器杯（杯H）。口縁部は内傾して短く真つすぐ立ちあがる。5の底部は丸みを帯びて深く、受け部を鋭く作り出す。6は須恵器杯蓋（杯B蓋）。天井部は平らで、口縁端部は鋭く下方に折り返す。7は種別不明の椀。丸みを帯び、内外面に施釉する。8は須恵器壺。体部中位の外面にカキメ、下半に平行叩きを施し、体部内面に当て具痕を留める。9は須恵器甕。口縁部外面に2条の沈線を廻らせ、上下に波状文を施文する。

10は灰釉陶器皿。断面が三日月状となる高台を底部に付し、底部内面の一部に自然釉が付着する。

11・12は土師器皿。11の底部外面は平高台となり、薄く糸切り痕を留める。12の復元口径12.3cm。口縁部は強い横ナデによって外面に段をもつ。

24は丸瓦。24の凸面は強い横ナデを施す。

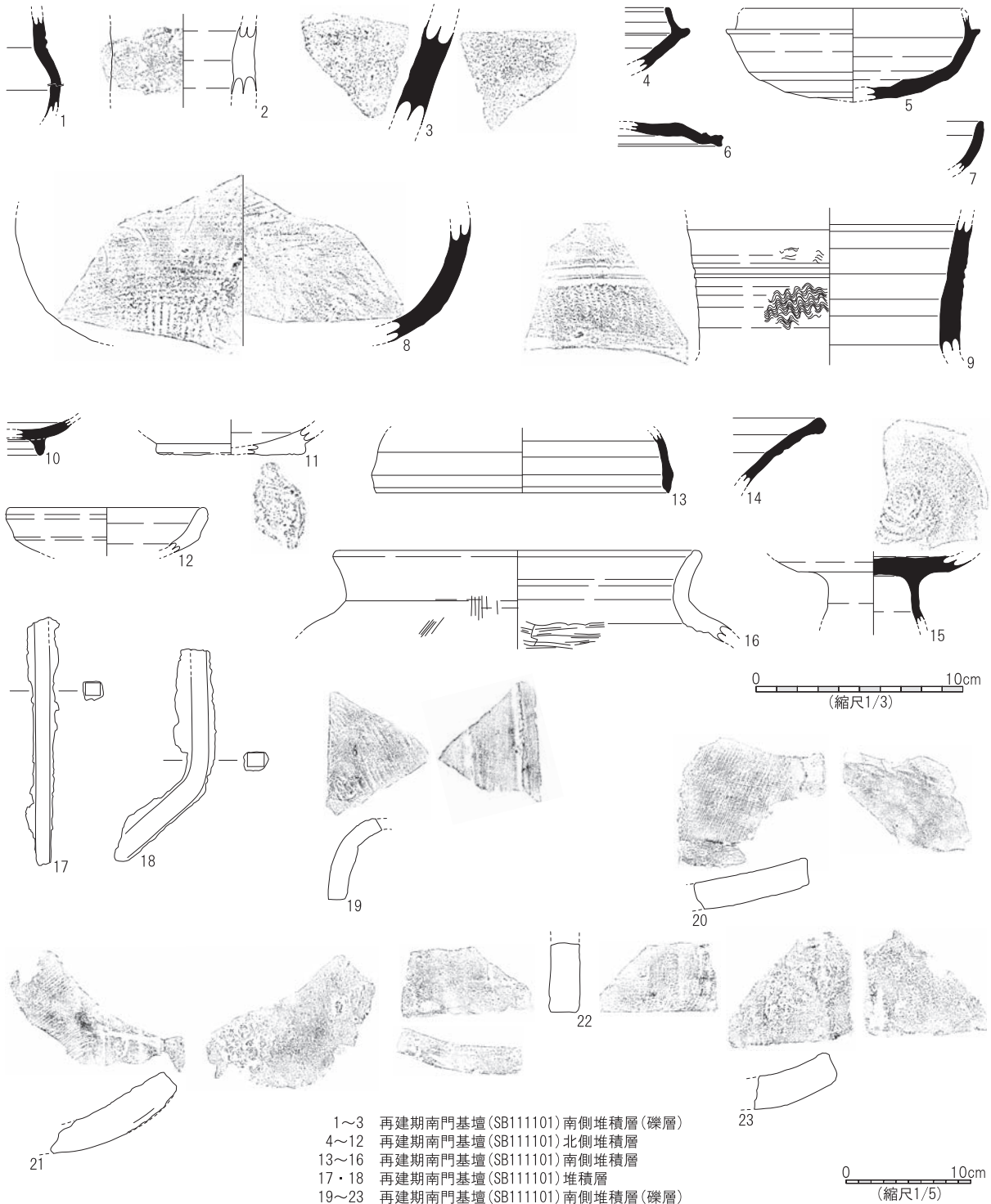
13は須恵器杯蓋（杯H蓋）。復元口径14.2cm。口縁端部は段をもち、下方に鋭く収める。14は須恵器甕。口

縁部は外方に大きく開き、口縁端部を肥厚させる。口縁部外面に1条の沈線をもつ。15は須恵器高杯。脚部はやや太く、杯部の底部内面に当て具痕を留める。

16は土師器甕。復元口径17.5cm。口縁部は短く外反し、口縁端部を丸く収める。胴部内面は横方向に強い削りを施す。

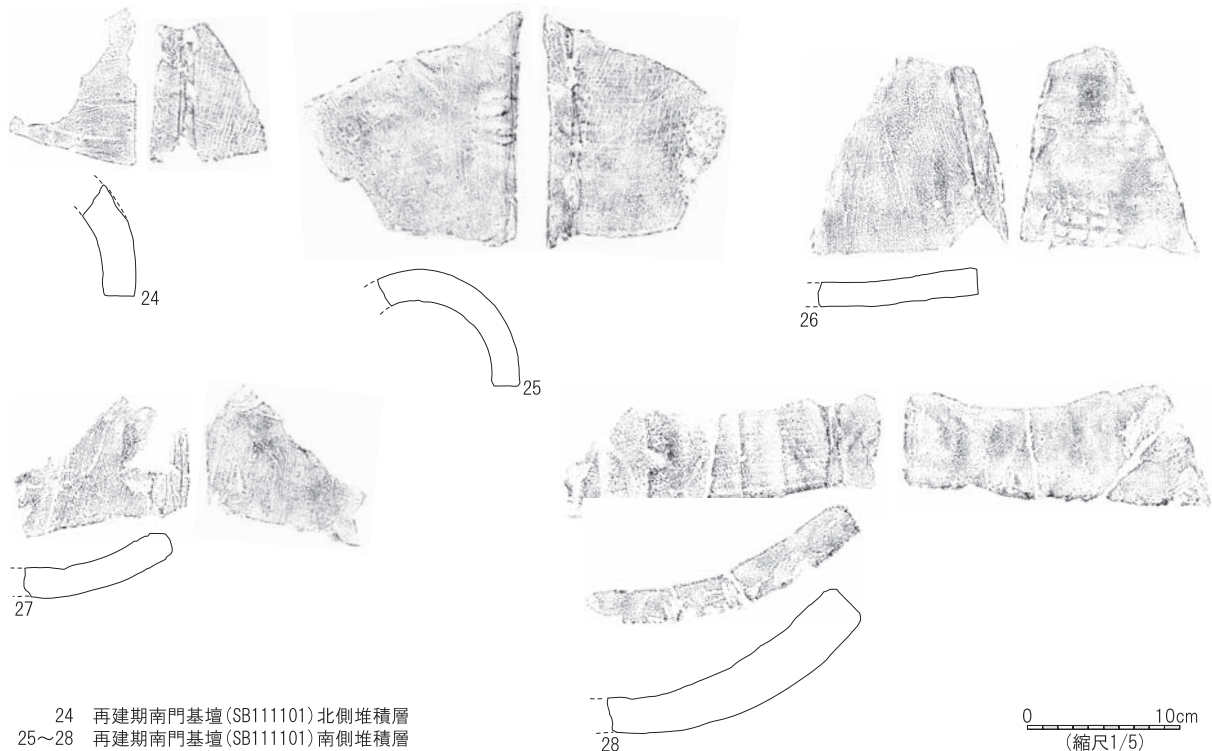
25は丸瓦。25の凸面は横ナデに加えて強い縦ナデを施す。

26~28は平瓦。26の凸面は側縁に沿って正格子叩きを施し、強い横ナデを加え、部分的に叩き目が残る。27・28の凸面は横ナデに加えて強い縦ナデを施し、凹面は模骨痕を留める。



- 1~3 再建期南門基壇 (SB111101) 南側堆積層 (礫層)
- 4~12 再建期南門基壇 (SB111101) 北側堆積層
- 13~16 再建期南門基壇 (SB111101) 南側堆積層
- 17・18 再建期南門基壇 (SB111101) 堆積層
- 19~23 再建期南門基壇 (SB111101) 南側堆積層 (礫層)

第90図 興道寺廃寺第11次調査 11 トレンチ出土遺物実測図1



24 再建期南門基壇(SB111101)北側堆積層  
25~28 再建期南門基壇(SB111101)南側堆積層

第91図 興道寺廃寺第11次調査11トレンチ出土遺物実測図2

17・18は鉄釘。17は現存長11.9cm。基部の断面は0.6cm×0.8cmで、長方形を呈する。18は現存長10.2cm。基部の断面は0.6cm×0.8cmで、長方形を呈する。基部がくの字状に折れる。

### C. 第11次調査1トレンチの調査

#### ① 基本層序

前述したが、本項に関することのみ既述する。標高23.8~23.9mで整地面に至る。整地土は黒色土、黒褐色土、黄褐色土からなる。

再建期南門基壇の西側にあたる地点で南北方向に整地面を断ち割った。標高23.6~23.7m付近で地山面に至り、地山面を掘り込む溝2基が南北に並列し、その間の約1.0mの範囲には創建期の盛土地業が見られ、その上面の標高23.6mである。

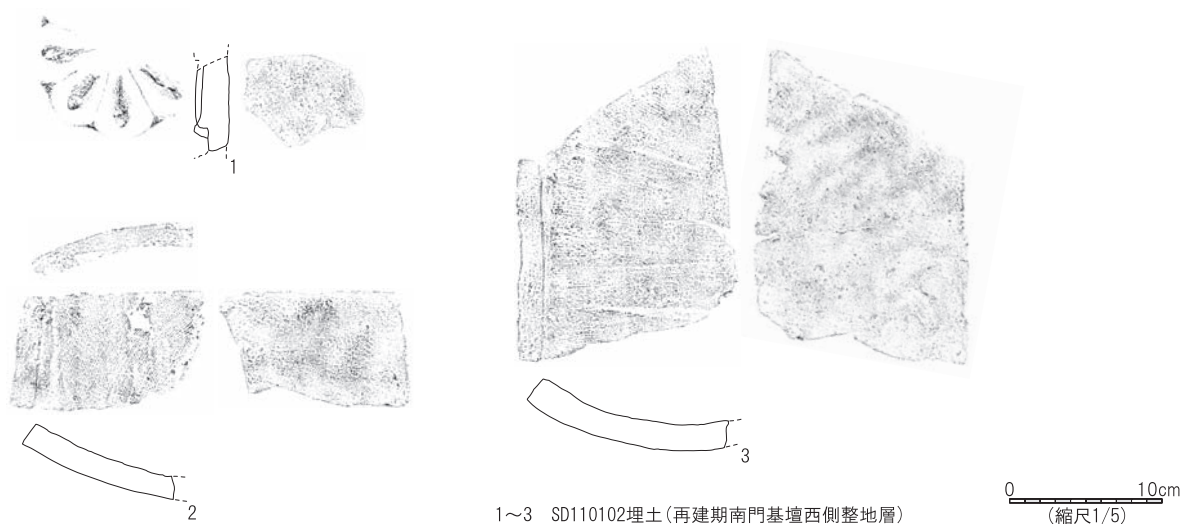
#### ② 検出遺構の概要

再建期南門基壇の西側では、整地面で溝1基(SD110102)、整地面下の地山面で溝2基(SD110103・SD110104)を検出した。トレンチ南側の遺構に関して、本項で報告する。

#### ③ 溝

SD110102は東西に延びる溝で、東西検出長7.04m、南北幅2.23m、深さ0.14m。断面形状は弧状で、黒褐色土を埋土にもつ。拳大ほどの礫が底面から浮いた状態で分布し、埋土から須恵器杯蓋(杯H蓋)1点、杯蓋(杯G蓋)1点、甕1点、壺1点、須恵器小片3点、土師器甕2点、皿2点、製塩土器6点、単弁八葉蓮華文軒丸瓦1点、無段式丸瓦1点、平瓦4点、瓦小片3点が破片で出土した(第92図1~3)。再建期の整地層を掘り込む浅い溝であるが、南門の西側に位置し、再建に伴う区画溝として掘削され、短期間で埋め戻されたものと考えられる。





1～3 SD110102埋土(再建期南門基壇西側整地層)

第92図 興道寺廃寺第11次調査1トレンチ出土遺物実測図6

SD110104・SD110105はSD110102の下層に位置し、地山面を掘り込み、南北に並列する溝である。

SD110104の深さ0.17m、溝の北側の立ち上がりは創建期の盛土によって造る。SD110105は南北検出幅0.77m、深さ0.22m。断面形状は半円状である。ともに再建期の整地土である黒褐色土を埋土にもつ。溝と溝の間は地山面の上に黒褐色土、暗褐色土を小ブロック単位で盛土し、その上面の標高23.6mである。この2基の溝に対応する溝を第11次調査11トレンチ、再建期南門基壇下の地山面で検出している。

#### ④ 出土遺物

第92図1～3はSD110102埋土から出土。

1は単弁八葉蓮華文軒丸瓦。瓦当は薄く作り、蓮弁、間弁ともに肉厚である。

2・3は平瓦。ともに凸面は横ナゲを施し、凹面は模骨痕を留める。

### D. 第12次調査2トレンチの調査

#### ① 基本層序

調査地の畑地は、地表面の標高はトレンチ北端で24.4m、南端で24.15mである。

表土の耕作土となる暗褐色土(層厚0.15～0.3m)下、トレンチ北端では標高24.1m付近で再建期南門基壇の上面に至るが、トレンチ中央から西にかけては、表土下、灰黄褐色土、黒褐色土(層厚0.2～0.25m)からなる近世以後の堆積層が分布し、標高23.8～23.9mで整地面となる黒褐色粘質土層の上面に至る。基壇の南西付近では表土と堆積層との間に拳大ほどの多量の自然礫を含む礫層が第11次調査11トレンチからまたがって分布する。

表土から須恵器杯蓋(杯H蓋)4点、杯(杯H)1点、甕4点、壺1点、臚1点、須恵器小片3点、土師器甕8点、製塩土器7点、越前焼甕1点、近世陶器1点、無段式丸瓦2点、平瓦12点、瓦小片4点が破片で出土し、礫層から須恵器杯(杯H)1点、杯(杯H)底部もしくは杯蓋(杯H蓋)天井部4点、杯(杯B)1点、壺2点、甕2点、臚1点、須恵器小片4点、土師器甕1点、土師器小片1点、越前焼甕2点、近世陶器5点、単弁八葉蓮華文軒平瓦1点、無段式丸瓦1点、平瓦14点、瓦小片2点が破片で出土した(第93図1・3～5)。

トレンチ南側の整地層下、標高23.65m付近で地山面に至る。

#### ② 検出遺構の概要

再建期中門基壇SB120201西辺および基壇に伴う整地面を検出した。トレンチの全体に多くの耕作攪乱が及び、



攪乱坑の埋土から須恵器杯蓋（杯H蓋）2点、甕1点、壺1点、皿1点、土師器甕1点、製塩土器1点、近世陶器4点、近世瓦1点が破片で出土し、トレンチ南端の大きな攪乱坑埋土から須恵器杯蓋（杯H蓋）1点、杯（杯H）6点、杯（杯H）底部もしくは杯蓋（杯H蓋）天井部2点、甕2点、壺1点、土師器甕12点、製塩土器3点、土錘1点、越前焼播鉢1点、近世陶器3点、鉄釘2点が破片で出土した。

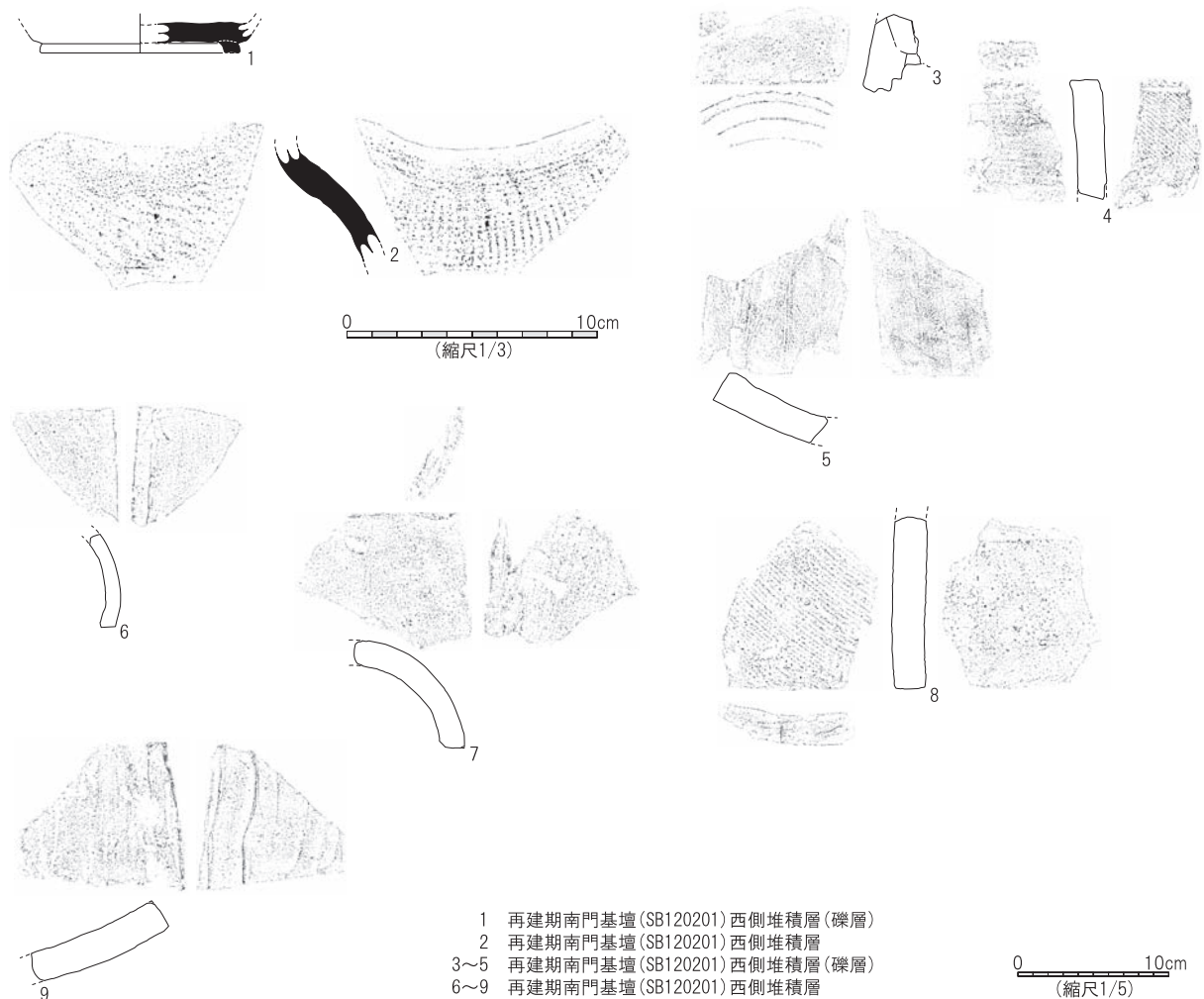
③ 建物基壇および整地面

〈再建期南門基壇 SB120201〉

SB120201は南北4.87m、東西検出長0.79m、基壇積み土と西辺の石積みを平面、土層断面で検出した。第11次調査11トレンチ検出の再建期南門基壇（SB111101）の西辺にあたる。基壇面の標高24.1m、基壇積み土は黒褐色土からなる。

基壇西辺の内、北側には石積みが遺存する。石積み自体は改変を受けており、基壇から浮いた状態で標高24.0～24.2mに1列に並ぶ石積みの下に元位置を保つ石積みの基底石が位置している。上位の元位置を保たない石積みは人頭大の自然礫を横位に積んだものが2次的に移動したように見えるが、石材法量は長辺0.2～0.3mほど、短辺0.2m前後と規格的で、西辺石積みの2段目もしくは3段目が前面に移動しているものと考えられる。石積みの基底石上面の標高は23.55m、基底石の直上まで改変の手が入っており、第11次調査11トレンチで確認された基壇北辺石積みの改変と連動している。基壇西辺の南側では石積みそのものが消失し、基壇積み土を残すのみである。

基壇西側の黒褐色土からなる堆積層から須恵器杯蓋（杯H蓋）5点、杯（杯H）1点、杯（杯H）底部もしくは



- 1 再建期南門基壇(SB120201)西側堆積層(礫層)
- 2 再建期南門基壇(SB120201)西側堆積層
- 3～5 再建期南門基壇(SB120201)西側堆積層(礫層)
- 6～9 再建期南門基壇(SB120201)西側堆積層

第93図 興道寺廃寺第12次調査2トレンチ出土遺物実測図

は杯蓋（杯H蓋）天井部1点、甕8点、壺1点、須恵器小片1点、土師器甕10点、製塩土器20点、無段式丸瓦5点、平瓦16点、瓦小片3点が破片で出土した（第93図2・6～9）。

基壇に伴う整地面の標高は23.8～23.9m前後で、黒褐色粘質土からなる。整地層の断割部分から須恵器甕2点、土師器甕4点、製塩土器19点が破片で出土した。

#### ④ 出土遺物

第93図1・3～5は礫層、2・6～9は再建期南門基壇西側の堆積層から出土。

1は須恵器杯（杯B）。外方にやや張る高台を付す。

3は単弁八葉蓮華文軒平瓦。二重圈線は鋭く作り、丸瓦部の凸面は強い横ナデを施す。4・5は平瓦。4の凸面は側縁に直交する平行叩きを施し、強い横ナデを加え、叩き目が薄く残る。凹面に糸切り痕を留める。5の凸面は強い縦ナデを施す。

2は須恵器甕。胴部外面に平行叩きを施し、カキ目を加える。内面に当て具痕を薄く留める。

6・7は無段式丸瓦。6・7の凸面は横ナデを施す。

8・9は平瓦。8の凸面は横ナデを施し、凹面は糸切り痕を留める。9の凸面は横ナデを施し、削り状の強い縦ナデを加える。

### E. 第11次調査12トレンチの調査

#### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は23.9～24.2mである。

表土の耕作土となる黒褐色土（層厚0.2m）下、黒褐色土（層厚0.2m）からなる堆積層が分布し、標高23.75～23.8m付近で整地面となる黒褐色土層の上面に至る。

#### ② 検出遺構の概要

表土および堆積層下、再建期の整地面を検出するとともに、整地面を掘り込む溝1基（SD111201）を検出した。全体的に整地面を掘り込む耕作攪乱が及んでいる。

#### ③ 整地面

再建期の整地面の標高23.75～23.8m前後、整地土は黒褐色土からなる。

#### ④ 溝

SD121102は東西に延びる溝で、深さ0.12m。断面形状は弧状で、黒褐色土を埋土にもつ。第11次調査1トレンチの南端で検出したSD110102の南辺にあたる。

### F. 第12次調査4トレンチの調査

#### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高はトレンチ東端で25.0m、西端で24.35mである。

表土の耕作土となる黒褐色土（層厚0.1～0.3m）下、トレンチ東端では標高24.7m付近で地山面となる褐色砂礫土層の上面に至るが、トレンチ中央から西にかけての表土下は、黒褐色土（層厚0.1～0.3m）からなる近世以後の堆積層が分布し、トレンチ中央付近では標高24.1～24.3mで地山面に至り、トレンチの西側では標高24.0～24.1mで整地面となる黒褐色土層の上面に至る。

近世以後の堆積層から須恵器杯（杯H）底部もしくは杯蓋（杯H蓋）天井部2点、杯蓋（杯B蓋）1点、甕1点、須恵器小片3点、土師器甕4点、皿3点、製塩土器5点、越前焼甕1点、播鉢1点、近世陶器40点、寛永通宝1点、近世瓦1点、鉄釘11点、金具状鉄製品1点、無段式丸瓦2点、平瓦5点、瓦小片4点が破片で出土。

トレンチ西側の整地層下、標高23.8～24.0m付近で地山面に至る。

## ② 検出遺構の概要

堆積層下で再建期の整地面を検出し、地山面で柱穴・小穴6基（P120401～P120406）を検出した。トレンチの全体に多くの耕作攪乱が及んでいる。攪乱坑の埋土から土師器甕1点、製塩土器75点、近世陶器3点が破片で出土した。

## ③ 整地面

再建期の整地面の標高は24.0～24.1m前後、整地土は黒褐色土からなる。整地層の断割部分から須恵器甕1点、土師器甕1点、素弁十葉蓮華文軒丸瓦1点が破片で出土した（第94図1）。

## ④ 柱穴・小穴

P120401の平面形態は楕円形で、南北0.67m、東西0.50m、深さ0.13m。P120402の平面形態は楕円形で、南北検出長0.34m、東西0.73m、深さ0.12m。P120403の平面形態は円形で、南北0.48m、東西0.49m、深さ0.39m。P120404の平面形態は楕円形で、南北0.66m、東西0.88m、深さ0.41m。埋土から須恵器杯（杯H）底部もしくは杯蓋（杯H蓋）天井部1点、土師器甕2点が破片で出土。P120405の平面形態は円形である。P120406の平面形態は円形で、南北検出長0.31m、東西0.79m、深さ0.38m。底面には根固め石状に0.2m内外の自然礫の平坦面を上に向けて配される。埋土から土師器甕1点が破片で出土。

P120404、P120406は掘り方もやや大きく、底面まで深く、古墳時代後期に伴う柱穴と考えられる。

## ⑤ 出土遺物

第94図1は再建期整地土の断割部分から出土。

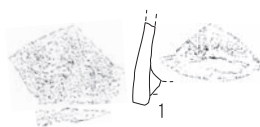
1は素弁十葉蓮華文軒丸瓦。丸瓦部の広端面を瓦当外縁とし、丸瓦部の凸面は横ナデを施す。

## G. 第12次調査3トレンチの調査

### ① 基本層序

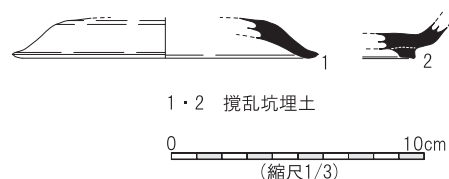
調査地は畑地で、地表面の標高は24.15～24.3mである。

表土の耕作土となる黒褐色土（層厚0.25～0.4m）下、標高23.85～23.9m付近で整地面となる黒褐色土層の上面に至る。表土から須恵器杯蓋（杯H蓋）2点、須恵器杯（杯H）1点、杯（杯H）底部もしくは杯蓋（杯H蓋）天井部2点、杯（杯B）1点、甕2点、須恵器小片4点、土師器甕15点、製塩土器1点、鉄釘7点、環状鉄製品1点、近世陶器8点、瓦小片2点が破片で出土。

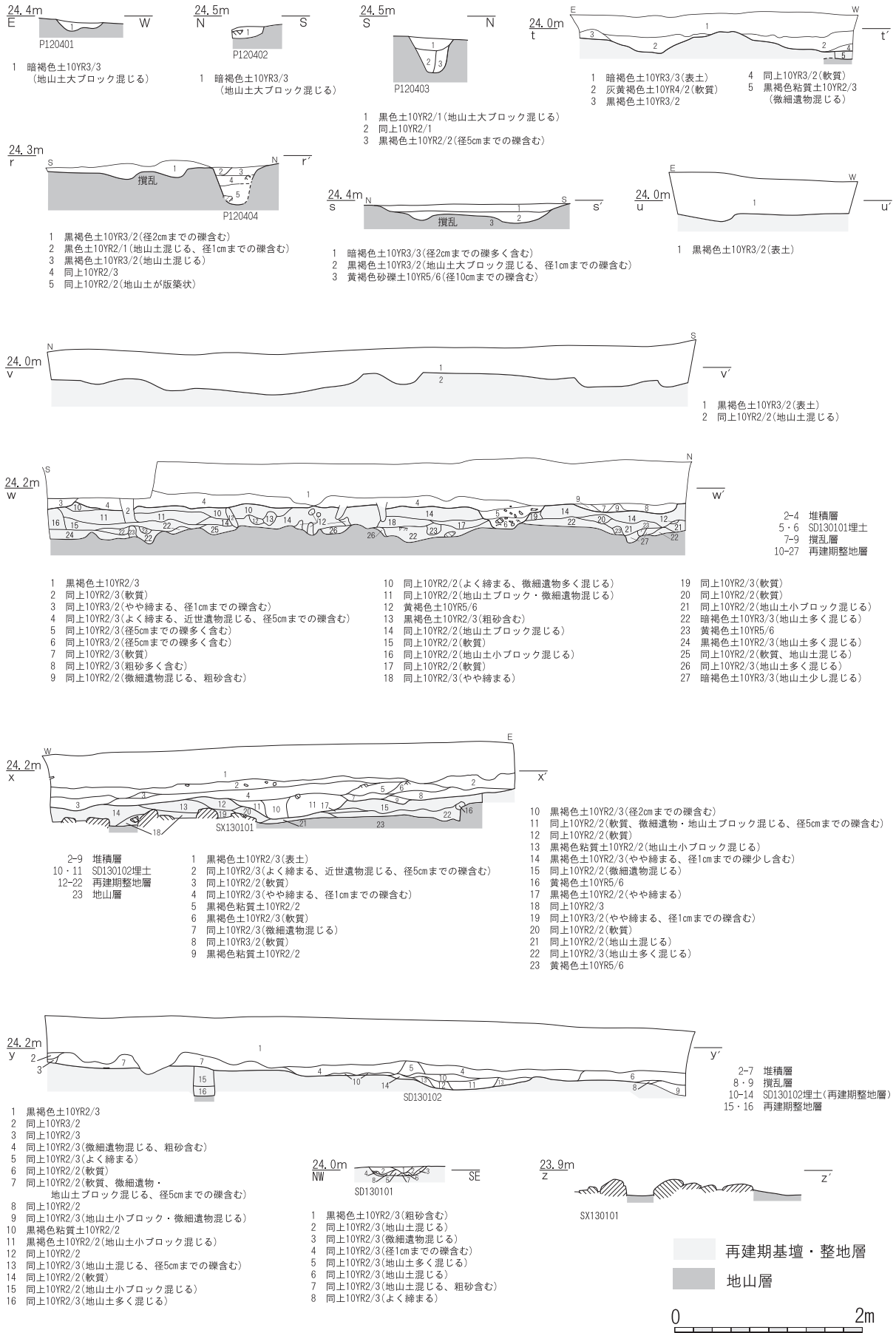


1 再建期南門基壇  
南側整地層（断割部分）  
0 10cm  
（縮尺1/5）

第94図 興道寺廃寺第12次調査  
4トレンチ出土遺物実測図



1・2 攪乱坑埋土  
0 10cm  
（縮尺1/3）  
第95図 興道寺廃寺第12次調査3トレンチ  
出土遺物実測図



第96図 興道寺廃寺南門基壇土層断面図2 (縮尺 1/60)

## ② 検出遺構の概要

表土下、再建期の整地面を検出した。全体的に整地面を掘り込む耕作攪乱が及んでいる。

## ③ 整地面

再建期の整地面の標高 23.9m前後、整地土は黒褐色土からなる。整地面に分布する攪乱坑の埋土から須恵器杯蓋（杯H蓋）1点、杯（杯H）底部もしくは杯蓋（杯H蓋）天井部2点、杯蓋（杯B蓋）1点、杯（杯B）1点、甕1点、土師器甕7点、鉄釘1点、近世陶器1点、無段式丸瓦1点、平瓦1点が破片で出土した（第95図1・2）。

## ④ 出土遺物

第95図1・2は攪乱坑埋土から出土。

1は須恵器杯蓋（杯B蓋）。平らな天井部から口縁部が緩やかに外下方に延び、口縁端部は折り返さずにそのまま鋭く収める。2は須恵器杯（杯B）。高台の幅は狭い。

## H. 第13次調査1トレンチの調査

### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は24.45～24.5mである。表土の耕作土となる黒褐色土（層厚0.3～0.4m）下、黒褐色土（層厚0.1～0.2m）からなる近世の堆積層が分布し、標高24.0～24.2m付近で整地面となる黒褐色土層の上面に至る。

表土から須恵器甕5点、壺1点、須恵器小片2点、土師器甕9点、無段式丸瓦2点、近世瓦1点が破片で出土し、黒褐色土からなる堆積層から須恵器杯蓋（杯H蓋）3点、杯（杯H）底部もしくは杯蓋（杯H蓋）天井部3点、椀1点、2、3個体となる甕22点、壺1点、須恵器小片2点、土師器甕33点、皿9点、土師器小片2点、越前焼甕1点、近世陶器2点、無段式丸瓦1点、平瓦1点、瓦小片1点が破片で出土（第97図1～5）。

整地面下、標高23.6～23.8m付近で地山面となる黄褐色土の上面に至る。

## ② 検出遺構の概要

堆積層下、再建期の整地面を掘り込む溝2基（SD130101・SD130102）を検出し、整地面の断割部分の地山面で集石遺構1基（SX130101）を検出した。整地面のところどころに耕作攪乱が及んでいる。

## ③ 整地面

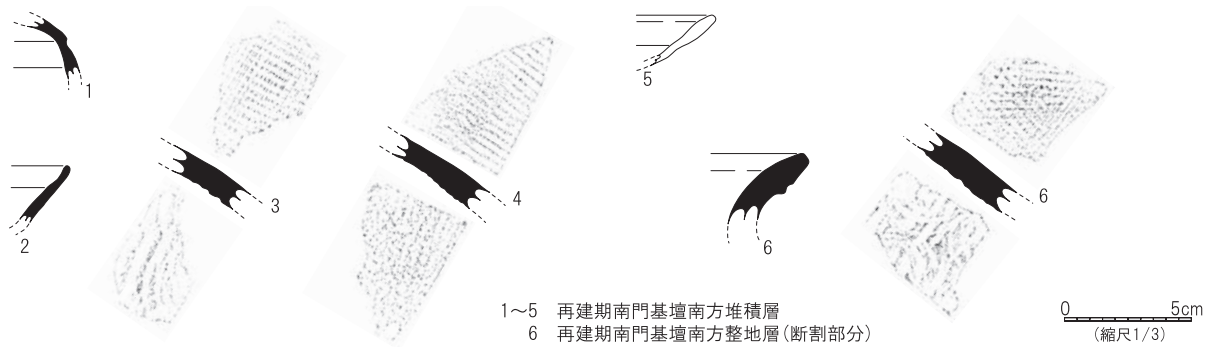
再建期の整地面の標高24.0m前後、西に向かって傾斜し、トレンチ西端の標高23.8mとなる。整地土は黒褐色土からなる。整地層の断割部分から須恵器杯（杯H）1点、甕8点、須恵器小片1点、土師器甕8点、土師器小片3点、瓦小片2点が破片で出土した（第97図6）。

## ④ 溝

SD130101は蛇行しながら東西方向に延びる溝で、東西検出長1.81m、南北最大幅0.77m、深さ0.25m。断面形状は箱形で、西に向かって深くなる。地山土・微細遺物が混じる黒褐色土を埋土にもち、小ブロック状に堆積する。埋土から土師器甕6点が破片で出土。

SD130102は南北方向に延びる溝で、東西最大幅1.41m、深さ0.22m。断面形状は船底状で、微細遺物、小礫、地山土が混じる黒褐色土を埋土にもち、大ブロック状に堆積する。埋土から須恵器杯蓋（杯H蓋）1点、土師器甕1点が破片で出土。





第97図 興道寺廃寺第13次調査1トレンチ出土遺物実測図

### ⑤ 集石遺構

SX130101はトレンチ西端の整地層の断割部分で検出した。東西2.1mの範囲に人頭大の自然礫が敷石状に並ぶが、礫の上端を平らに合わせたものではなく、若干のレベル差もある。ただし、礫の下面は地山面に食い込んでおり、礫を据えるための掘り方も未検出である。

整地面の南北方向の断割部分の地山面は凹凸が激しく、かつトレンチの位置自体は南門基壇の南にあることから、再建期の盛土地業に伴う整地とも関わり、SX130101は地山面に対して一定の掘削が行われ、また土砂の移動がなされた結果として、地山土ごと礫が集積されたものと考えられる。

### ⑥ 出土遺物

第97図1～5は堆積層、6は再建期整地層の断割部分から出土した。

1は須恵器杯蓋(杯H蓋)。外面にやや鈍い稜と沈線が廻る。2は須恵器杯(杯A)。口縁部は若干丸みを帯びて外方に立ち上がる。3・4は須恵器甕。3の胴部外面は平行叩きを施し、部分的に横方向のカキ目を施す。内面は同心円の当て具痕を留める。4の胴部外面は平行叩きを施し、内面は小さな正格子の叩き状の痕跡が見られるが、全体的に潰れている。4は17点の破片で1個体の一部をなすものである。

5は土師器皿。口縁部外面の中位に段をもつ。口縁端部の内外面に横ナデを施し、口縁部外面に指頭圧痕を留める。

6は須恵器甕。口縁部は緩やかに短く外反し、口縁端部は面をなす。口縁部外面の中位に2条の沈線を伴う凸帯が廻る。6の胴部外面は格子叩きを施し、部分的に横方向にカキ目を施す。内面は同心円の当て具痕を留める。6は7点で同一個体の一部をなすものである。

## 第2項 寺域北方の調査

### A. 寺域北方の概要

伽藍域の北限付近から寺域の北限までの南北約50mの範囲においては、第4次調査8～10トレンチで断片的な調査を行い、柱穴、土坑などを検出したが、調査面積も狭小でこれらの遺構が寺院全体の中にどのように位置づけられるのかといった検討はなされていない。近年の各地における古代寺院の発掘調査では、伽藍北方を中心とした周辺地域で雑舎群と考えられる諸施設が検出されており、興道寺廃寺においても同様な施設が検出される可能性が考えられた。

このため、伽藍北方の様相確認を目的として、北から順に第10次調査11トレンチ、同10トレンチ、第9次調査5トレンチ、第10次調査9トレンチ、第9次調査6トレンチ、同11トレンチ、第10次8トレンチ、同7トレンチを設定して調査を行ったところ、複数時期の掘立柱建物跡、柱穴列などを検出し、寺院建立以前の集落構造、雑舎群の一端が明らかとなった。



## B. 第10次調査10トレンチの調査

### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は23.8～23.9mである。

表土の耕作土となる黒色土(層厚0.3～0.55m)下、黒色土、黒褐色土(層厚0.1～0.3m)からなる堆積層が分布し、トレンチの東側では標高23.5mで地山面となる褐色砂礫土層の上面に、トレンチの西側では標高23.15mで地山面に至る。地山面は西に向けて傾斜し、比高差0.35mである。

地山面の標高が低いところで地山面の上に層厚0.1mほどと薄く分布する黒褐色土は、旧表土層にあたり、溝などがこの上面から掘り込まれている。

表土から須恵器杯蓋(杯H蓋)1点、杯(杯B蓋)2点、杯(杯Aもしくは杯B)1点、壺1点、甕3点、土師器甕4点、無段式丸瓦1点、瓦小片1点が破片で出土し、堆積層の黒褐色土から土師器皿1点、無段式丸瓦3点、平瓦2点、銭貨1点が破片で出土した(第98図1・2)。

### ② 検出遺構の概要

地山面および旧表土面で掘立柱建物跡3棟(SH101001～SH101003)、溝1基(SD101001)、土坑3基(SK101001～SK101030)、柱穴・小穴35基(P101001～P101035)を検出した。

### ③ 掘立柱建物跡

P101001～P101003、P101035の柱穴4基および第10次調査11トレンチ検出の柱穴5基(P101101～P101103、P101120、P101121)、第9次5トレンチ検出の柱穴1基(P090505)で掘立柱建物跡SH101001の一部を構成する。P101101～P101103、P101120、P101121、P090505と併せて考えると、東西4間、南北4間を検出した。東西の柱筋の柱間は東端の柱間で2.1m、その他の3間の柱間で3.0m。南北の柱筋の柱間は北端と南端の柱間で1.8m、中央の2間の柱間で3.0m。柱穴の掘り方はいずれも径が大きく、底面まで深く、断面形状は箱形となる。P101035埋土からTK10型式並行期の須恵器杯(杯H蓋)が出土し、6世紀前半に伴う建物跡と思われる。なお、無段式丸瓦と平瓦がP101001直上の堆積層から出土しているが(第98図3・4)、P101001に伴うものではない。

P101020、P101023、P101024、P101030の柱穴4基で掘立柱建物跡SH101002の一部を構成する。東西2間、南北1間を検出した。東西の柱筋の柱間は3.3m前後、南北の柱筋の柱間は3.0mである。柱穴の掘り方の径はさほど大きくなく、底面まで浅く、断面形状は箱形となる。建物軸の南北方位から7世紀後葉から8世紀前半に伴う建物跡と思われる。

P101005～P101007、P101009～P101011の柱穴6基で掘立柱建物跡SH101003を構成する。南北2間、東西1間を検出した。南北の柱筋の柱間は1.5～1.8m、東西の柱筋の柱間は2.1m前後である。柱穴の掘り方の径は小さいが、底面までやや深く、断面形状は箱形となる。建物軸の南北方位から中世に伴う建物跡と思われる。

### ④ 溝

SD101001は北に延びる溝で、第4次調査10トレンチ検出のSD041002と同じ溝である可能性がある。南北検出長2.39m、東西幅0.95m、深さ0.17m。断面形状は箱形で、黒色土、黒褐色土を埋土にもつ。

### ⑤ 土坑

SK101001の平面形態は崩れた楕円形で、南北0.91m、東西検出長1.23m、深さ0.13m。断面形状は中央が深くなる箱形で、黒褐色土を埋土にもつ。拳大ほどの礫が若干混じる。

SK101002の平面形態は隅丸方形で、南北1.33m、東西1.12m、深さ0.57m。断面形状は箱形で、黒褐色土を埋土にもつ。埋土から須恵器甕1点、土師器甕3点、素弁十葉蓮華文軒丸瓦1点が破片で出土(第98図5・6)。

SK101003の平面形態は不定形で、南北1.96m、東西2.35m、深さ0.23m。断面形状は浅い箱形で、黒褐色土

を埋土にもつ。埋土から製塩土器1点が細片で出土した。

#### ⑥ 柱穴・小穴

P101001～P101003、P101035は掘立柱建物跡SH101001の一部を構成する。

P101001の平面形態は隅丸方形で、南北検出長0.64m、東西検出長0.69m、深さ0.20m。P101002の平面形態は崩れた円形で、南北検出長0.79m、東西0.90m、深さ0.18m。P101003の平面形態は隅丸方形で、南北検出長0.75m、東西検出長0.96m、深さ0.18m。P101035の平面形態は隅丸方形で、南北検出長0.74m、東西検出長1.27m、深さ0.22m。埋土から須恵器杯蓋(杯H蓋)3点、土師器甕7点、製塩土器3点が破片で出土(第98図8・9)。

P101020、P101023、P101024、P101030は掘立柱建物跡SH101002の一部を構成する。

P101020の平面形態は円形で、南北0.51m、東西0.47m、深さ0.15m。P101023の平面形態は崩れた円形で、南北検出長0.57m、東西0.63m、深さ0.17m。P101024の平面形態は円形で、南北検出長0.45m、東西検出長0.54m、深さ0.13m。埋土から無段式丸瓦1点が出土(第98図7)。P101030の平面形態は円形で、南北0.59m、東西0.55m、深さ0.17m。

P101005～P101007、P101009～P101011は掘立柱建物跡SH101003を構成する。

P101005の平面形態は円形で、南北0.29m、東西0.32m、深さ0.22m。埋土から土師器不明1点が細片で出土。P101006の平面形態は円形で、南北0.30m、東西0.32m、深さ0.20m。P101007の平面形態は楕円形で、南北0.49m、東西0.34m、深さ0.16m。P101009の平面形態は楕円形で、南北0.47m、東西0.29m、深さ0.05m。P101010の平面形態は円形で、南北0.29m、東西0.29m、深さ0.21m。P101011の平面形態は円形で、南北0.33m、東西0.32m、深さ0.18m。

それ以外の柱穴、小穴を以下に列記する。

P101004の平面形態は楕円形で、北西—南東検出長1.36m、北東—南西1.01m、深さ0.13m。埋土から土師器甕2点、製塩土器3点が破片で出土。P101008の平面形態は円形で、南北0.29m、東西0.32m、深さ0.16m。P101012の平面形態は円形で、南北0.36m、東西0.30m、深さ0.13m。P101013の平面形態は崩れた円形で、南北0.34m、東西0.34m、深さ0.27m。P101014の平面形態は円形で、南北0.19m、東西0.20m、深さ0.06m。P101015の平面形態は円形で、南北0.45m、東西0.42m、深さ0.20m。P101016の平面形態は円形で、南北0.31m、東西0.30m、深さ0.11m。P101017の平面形態は楕円形で、南北検出長0.33m、東西検出長0.36m、深さ0.22m。P101018の平面形態は双円形で、南北1.10m、東西0.54m、深さ0.03m。P101019の平面形態は崩れた円形で、南北0.54m、東西0.56m、深さ0.12m。P101021の平面形態は楕円形で、南北0.68m、東西0.89m、深さ0.35m。埋土から土師器皿1点が細片で出土。P101022の平面形態は円形で、南北検出長0.38m、東西検出長0.47m、深さ0.23m。埋土から須恵器杯(杯H)もしくは杯蓋(杯H蓋)1点が破片で出土。P101025の平面形態は隅丸方形で、南北0.58m、東西0.76m、深さ0.12m。P101026の平面形態は楕円形で、北西—南東0.64m、北東—南西0.34m、深さ0.06m。P101027の平面形態は崩れた円形で、南北0.44m、東西0.40m、深さ0.10m。P101028の平面形態は円形で、南北検出長0.29m、東西検出長0.47m、深さ0.12m。P101029の平面形態は楕円形で、南北0.30m、東西0.38m、深さ0.16m。P101031の平面形態は円形で、南北0.54m、東西0.50m、深さ0.09m。埋土から須恵器甕1点が破片で出土。P101032の平面形態は楕円形で、南北0.27m、東西0.35m、深さ0.11m。P101033の平面形態は円形で、南北0.23m、東西0.27m、深さ0.14m。P101034の平面形態は崩れた円形で、南北検出長0.58m、東西検出長0.30m、深さ0.28m。

#### ⑦ 出土遺物

第98図1・2は堆積層、3・4はP101001検出面、5・6はSK101002埋土、7はP101023埋土、8・9はP101035埋土から出土した。

1は土師器皿。復元口径11.2cm。底部は薄く作り、口縁部を肥厚させながら緩やかに外方に立ち上がる。底部外面から口縁部下半に指頭圧痕が残り、底部内面は指押さえによる凹凸が見られる。口縁部上半から口縁部内面は強い横ナデを施し、口縁部外面の中位に段が生じている。

2は寛永通宝。背文に文の鑄文が見られる。

3は無段式丸瓦。3の凸面は側縁に直交する平行叩きを施し、横ナデを加える、叩き目が薄く残る。凹面の一部は縦ナデを施す。

4は平瓦。凸面は横ナデを施し、凹面は模骨痕、布綴じ合わせ痕を留める。

5は須恵器甕。底部外面は平行叩きを交差させ、内面は不定方向にナデを施す。当て具痕をわずかに留める。

6は素弁十葉蓮華文軒丸瓦。瓦当は全体的に薄く作り、一部が潰れて蓮弁、間弁との間が狭くなっている。蓮弁の一部に範傷がある。

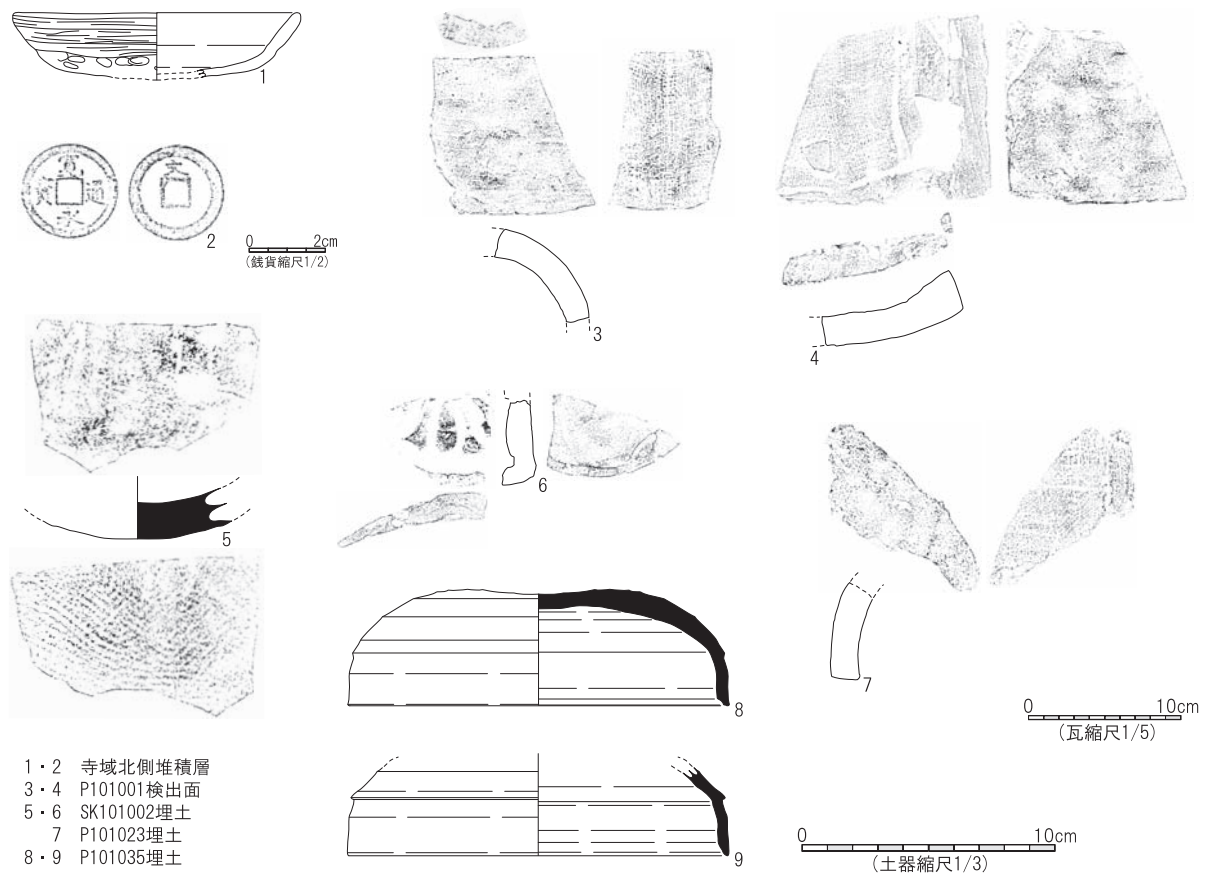
7は無段式丸瓦。凸面に横ナデを施す。側面に削りを施す。

8・9は須恵器(杯H蓋)。8は復元口径15.0cm、器高4.6cm。天井部が張り、外面に回転ヘラ削りを施す。天井部と口縁部の境に明瞭な稜をもち、口縁端部は段をなす。9の復元口径15.0cmと8とほぼ同口径となるが、器厚が薄く、口縁部もやや高い。天井部との境に強く張り出す稜をもつが、その下に幅の広い沈線を巡らせ、口縁端部の段も鈍い。

### C. 第10次調査11トレンチの調査

#### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は23.7~24.0mである。



第98図 興道寺廃寺第10次調査10トレンチ出土遺物実測図

表土の耕作土となる黒色土（層厚0.25～0.45m）下、黒色土、黒褐色粘質土（層厚0.15～0.3m）からなる堆積層が分布し、トレンチの東側では標高23.6mで、トレンチの西側では標高23.2mで地山面となる褐色砂礫土層の上面に至る。地山面は西に向けて傾斜し、比高差0.4mである。表土から須恵器杯蓋（杯B蓋）1点、土師器甕3点、平瓦2点が破片で出土した。

## ② 検出遺構の概要

地山面で掘立柱建物跡2棟（SH101101・SH101102）、溝1基（SD101101）、土坑2基（SK101101・SK101102）、柱穴・小穴34基（P101101～P101134）を検出した。トレンチの南側は第4次調査10トレンチと重複し、柱穴・小穴9基（P041001～P041009）などを再検出した。

## ③ 掘立柱建物跡

P101101～P101103、P101120、P101121の柱穴5基および第10次調査10トレンチ検出の柱穴4基（P101001～P101003、P101035）、第9次5トレンチ検出の柱穴1基（P090505）で掘立柱建物跡SH101101の一部を構成する。

P101104、P101106、P101115の柱穴3基および第12次9トレンチ検出の柱穴1基（P110701）で掘立柱建物跡SH101102の一部を構成する。東西の柱筋の柱間は2.7m前後、南北の柱筋の柱間は不明であるが2.1mほどと考えられる。柱穴の掘り方はやや小さく、底面まで深くなく、断面形状は箱形となる。柱穴埋土の出土遺物の年代から8世紀後半から9世紀に伴う建物跡と考えられる。

## ④ 溝

SD101101は南北に細長い溝で、東西最大幅0.39m、深さ0.05m。断面形状は弧状で、黒褐色土を埋土にもつ。SK101102と接続するか、SK101102に切られるものか、はっきりしない。

## ⑤ 土坑

SK101101の平面形態は不定形で、北東—南西1.42m、北西—南東1.09m。表土下、堆積層の上面から掘り込み、地山面に達する土坑である。深さ0.29m、断面形状は箱形である。黒褐色土を埋土にもち、拳大ほどの礫が若干混じる。

SK101102は第4次調査10トレンチ検出のSD041001が東側に広がる形で検出した。平面形態は不定形で、南北検出長2.12m。埋土から須恵器杯（杯H）1点、須恵器小片3点、土師器甕1点、平瓦1点が破片で出土した。

## ⑥ 柱穴・小穴

P101101～P101103、P101120、P101121は掘立柱建物跡SH101101の一部を構成する。

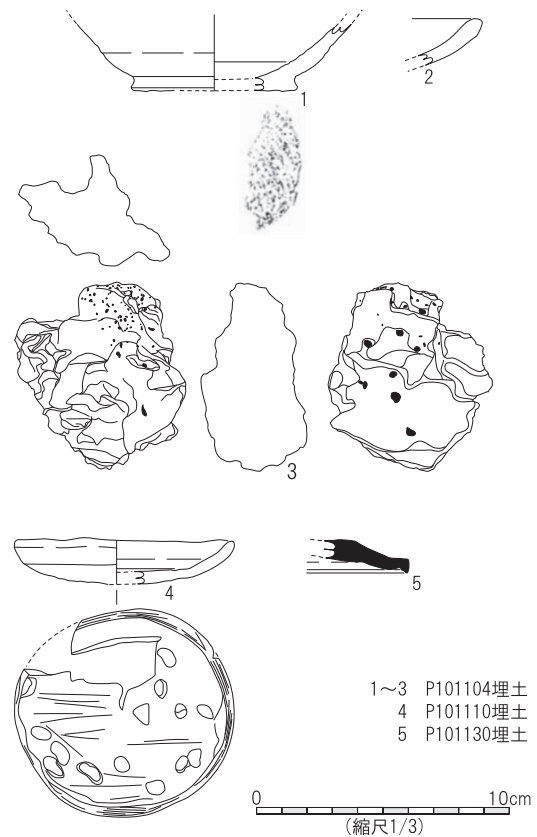
P101101の平面形態は隅丸方形で、南北0.98m、東西1.11m、深さ0.32m。P101101の土層断面に掘り方の痕跡を留める。埋土から須恵器杯（杯H）もしくは杯蓋（杯H蓋）1点、土師器甕2点、製塩土器1点が破片で出土。P101120の平面形態は隅丸方形で、南北0.80m、東西0.84m、深さ0.34m。埋土から土師器甕1点が破片で出土。P101121の平面形態は崩れた円形で、南北検出長0.59m、東西検出長1.03m、深さ0.24m。埋土から須恵器甕1点が破片で出土。

P101104、P101106、P101115は掘立柱建物跡SH101102の一部を構成する。

P101104の平面形態は崩れた円形で、南北0.75m、東西0.73m、深さ0.28m。埋土から土師器甕1点、椀1点、皿1点、銅滓1点が破片で出土（第99図1～3）。P101106の平面形態は円形で、南北0.58m、東西0.50m、深さ0.21m。

それ以外の柱穴、小穴を以下に列記する。

P101105の平面形態は崩れた円形で、南北0.50m、東西0.51m、深さ0.21m。埋土から土師器小片1点が破片で出土。P101107の平面形態は崩れた円形で、南北0.49m、東西0.50m、深さ0.12m。埋土から須恵器甕1点、土師器甕4点、近世陶器1点が破片で出土。P101108の平面形態は崩れた円形で、南北0.35m、東西0.38m、深さ0.22m。P101109の平面形態は円形で、南北0.30m、東西0.29m、深さ0.09m。P101110の平面形態は崩れた楕円形で、南北0.55m、東西0.36m、深さ0.26m。埋土から土師器皿3点、平瓦1点が破片で出土(第99図4)。P101111の平面形態は円形で、南北検出長0.34m、東西0.37m、深さ0.15m。P101112の平面形態は崩れた円形で、南北検出長0.34m、東西0.30m、深さ0.10m。P101113の平面形態は円形で、南北0.35m、東西0.30m、深さ0.12m。P101114の平面形態は円形で、南北検出長0.19m、東西検出長0.52m、深さ0.11m。P101122は崩れた楕円形で、南北検出長0.81m、東西検出長1.30m、深さ0.17m。P101123の平面形態は崩れた円形で、南北0.40m、東西0.34m、深さ0.06m。P101124の平面形態は崩れた円形で、南北検出長0.41m、東西検出長0.42m、深さ0.20m。P101125の平面形態は円形で、南北0.45m、東西0.44m、深さ0.18m。P101126の平面形態は崩れた円形で、南北0.30m、東西0.37m、深さ0.13m。P101127の平面形態は円形で、南北検出長0.46m、東西検出長0.48m、深さ0.14m。P101128の平面形態は円形で、南北0.29m、東西0.32m、深さ0.10m。P101129の平面形態は円形で、南北0.37m、東西0.32m、深さ0.08m。P101130の平面形態は楕円形で、南北検出長0.52m、東西検出長0.38m、深さ0.35m。埋土から須恵器杯蓋(杯H蓋)1点、杯蓋(杯B蓋)1点、土師器甕3点が破片で出土(第99図5)。P101131の平面形態は円形で、南北0.25m、東西0.28m、深さ0.15m。P101132の平面形態は円形で、南北0.24m、東西0.22m、深さ0.14m。P101133の平面形態は円形で、南北0.19m、東西0.21m、深さ0.10m。P101134の平面形態は円形で、南北0.17m、東西0.21m、深さ0.04m。



第99図 興道寺廃寺第10次調査  
11トレンチ出土遺物実測図

### ⑦ 出土遺物

第99図1～3はP101104埋土、4はP101110埋土、5はP101130埋土から出土した。

1は土師器碗。底部は平高台をもち、底部外面に回転糸切り痕を留める。2は土師器皿。口縁部は肥厚し、口縁端部を丸く収める。

3は銅とみられる金属滓。現存長7.4×6.4cm、現存最大厚3.8cm。不純物が多く付着する。

4は土師器皿。口径8.5cm、器高1.9cm。器壁は厚く、口縁部をやや肥厚させながら短く外方に立ち上がる。底部外面から口縁部下半にかけて指頭圧痕を留め、口縁部上半から口縁部内面は強い横ナデを施し、口縁部外面の中位に段が生じる。

5は須恵器杯蓋(杯B蓋)。口縁端部を下方に強く折り返し、口縁端部を丸く収める。口縁端部内面に強い沈線が廻る。



## D. 第9次調査5トレンチの調査

### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は23.35mである。

表土の耕作土となる黒褐色土（層厚0.3m）下、ところどころで黒褐色粘質土（層厚0.1～0.2m）からなる堆積層が分布し、標高23.9～24.0mで地山面となる暗褐色土層の上面に至る。表土から弥生土器1点、須恵器杯4点、土師器甕9点、皿3点、製塩土器1点が破片で出土した。

地山面の傾斜はないが、トレンチ南東付近で地山面の落ち込みが見られ、地山土の再堆積土が分布する。ここから土師器甕1点が破片で出土。

### ② 検出遺構の概要

地山面で掘立柱建物跡2棟（SH090501・SH090502）、小穴12基（P090501～P090512）を検出した。トレンチの南端に耕作攪乱が及んでいる。

### ③ 掘立柱建物跡（柱穴）

P090501～P090504の4基の柱穴で掘立柱建物跡（SH090501）の一部を構成する。東西2間、南北1間を検出した。東西の柱筋の柱間は1.8m、東西の柱筋の柱間は2.1mである。柱穴の掘り方は全体的に小さいが、底面までやや深く、断面形状は箱形、船底状となる。建物軸の南北方位から7世紀後半から8世紀前半に伴うものと考えられる。

P090505の1基の柱穴で掘立柱建物跡（SH090502）の一部を構成する。P090505は第10次調査10・11トレンチ検出の掘立柱建物跡（SH101001・SH101101）の南東隅部の柱穴にあたる。

### ④ 小穴

P090501～P090504は掘立柱建物跡SH090501の一部を構成する。

P090501の平面形態は楕円形で、南北長0.44m、東西0.60m、深さ0.30m。P090502の平面形態は楕円形で、南北長0.36m、東西0.50m、深さ0.21m。P090503の平面形態は円形で、南北0.44m、東西0.48m、深さ0.20m。P090504の平面形態は円形で、南北0.66m、東西検出長0.54m、深さ0.20m。P090504の土層断面に掘り方の痕跡を留め、柱痕幅から0.2mほどの木柱が復元される。

P090505は掘立柱建物跡SH090502の一部を構成する。

P090505の平面形態は円形で、径0.90m、深さ0.36m。P090505の土層断面に柱痕と掘り方が確認でき、0.3mほどの木柱が復元できる。埋土から須恵器杯（杯H蓋）1点、製塩土器3点が破片で出土。

それ以外の柱穴、小穴を以下に列記する。

P090506の平面形態は円形で、南北0.34m、東西0.40m、深さ0.21m。P090507の平面形態は円形で、南北0.33m、東西0.38m、深さ0.16m。P090508の平面形態は楕円形で、南北0.34m、東西0.40m、深さ0.10m。P090509の平面形態は円形で、南北0.47m、東西0.52m、深さ0.22m。埋土から土師器皿8点が細片で出土。P090510の平面形態は丸みの強い隅丸方形で、南北0.70m、東西0.74m、深さ0.06m。P090511の平面形態は円形で、南北0.26m、東西0.22m、深さ0.06m。P090512の平面形態は円形で、南北0.48m、東西検出長0.41m、深さ0.14m。

## E. 第10次調査9トレンチの調査

### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は23.85～24.95mである。









Y-5080

X-44480

Y-5080

遺構平面図1 (縮尺1/60)



表土の耕作土となる黒褐色土（層厚 0.3～0.35m）下、ところどころで暗褐色土、黒色土、黒褐色粘質土（層厚 0.1～0.2m）からなる堆積層が分布し、標高 23.4～23.6m で地山面となる褐色砂礫土層の上面に至る。表土から須恵器杯（杯H）もしくは杯蓋（杯H蓋）4点、甕1点、壺1点、土師器甕4点、製塩土器19点、無段式丸瓦1点が破片で出土し、堆積層の黒褐色土から須恵器甕6点、土師器甕3点、皿1点、製塩土器3点、平瓦2点、銭貨1点が破片で出土した（第101図1～4）。

地山面は西に向けて傾斜し、0.3mの比高差がある。地山面の標高が低いトレンチ西側の方が堆積層も厚みを増す。

## ② 検出遺構の概要

地山面で溝2基（SD100901・SD100902）、掘立柱建物跡2棟（SH100901・SH100902）、柱穴列1基（SA100901）、土坑2基（SK100901・SK100902）、柱穴・小穴33基（P100101～P100133）を検出した。

## ③ 掘立柱建物跡

P100901、P100906、P100921、P100926の4基の柱穴および第9次調査11トレンチ検出の柱穴1基（P091103）で掘立柱建物跡SH10901の一部を構成する。東西3間を検出した。東西の柱筋の柱間は2.4m、南北の柱筋の柱間は3.0m前後である。柱穴の掘り方の径はやや大きく、底面まで深く、断面形状は半円状、凹凸がある半円状である。建物軸の南北方位から8世紀後半に伴う建物跡と考えられる。

P100910～P100914の4基の柱穴で掘立柱建物跡SH10902の一部を構成する。東西2間、南北1間を検出した。東西の柱筋の柱間は2.0m、南北の柱筋の柱間は2.4m前後である。柱穴の掘り方は小さいが、底面まで深い。断面形状は半円状、弧状である。建物軸の南北方位から中世に伴う建物跡と考えられる。

## ④ 柱穴列（柱穴）

P100903、P100904、P100914、P100917の4基の柱穴が東西に並ぶ柱穴列SA100902の一部を構成する。東西3間を検出した。東西の柱筋の柱間は2.6～5.0mと幅があり、柱穴の掘り方の径、深さも不揃いである。7世紀後半から8世紀前半に伴う時期と考えられる。

## ⑤ 溝

SD100901、SD100902ともにL字状に屈曲する細い溝で、SD100901の外側にSD100902が囲むように並んで位置する。2基の溝で区画施設を構成するものと考えられる。SD100901は南北最大幅0.34m、東西最大幅0.47m、最深0.09m、最浅0.03mで、断面形状は箱形、弧状である。全体的に浅く、黒褐色土を埋土にもつ。埋土から土師器甕1点が破片で出土した。SD100902は南北最大幅0.36m、東西最大幅0.57m、最深0.12m、最浅0.08mで、断面形状は箱形である。幅、深さともにSD100901よりも若干規模が大きくなる。SD100901と同じ黒褐色土を埋土にもつ。

## ⑥ 土坑

SK100901の平面形態は不定形で蛇行する溝状で、東西最大幅1.59m、南北最大幅1.68m、最深0.13mと浅く、断面形状は箱形である。黒褐色土を埋土にもち、拳大ほどの礫が若干混じる。埋土から製塩土器21点が細片で出土した。

SK100902の平面形態は崩れた楕円形で、南北検出長0.88m、東西1.61m。黒褐色系の土を埋土にもつ。

## ⑦ 柱穴・小穴

P100901、P100906、P100921、P100926は掘立柱建物跡SH10901の一部を構成する。

P100901の平面形態は崩れた円形で、南北0.64m、東西0.61m、深さ0.40m。埋土から土師器甕2点、製塩土器4点が破片で出土。P100906の平面形態は円形で、南北0.64m、東西0.57m、深さ0.29m。P100921の平面形態が円形で、南北0.44m、東西0.43m、深さ0.31m。P100926の平面形態は崩れた隅丸方形で、南北検出長0.45m、東西検出長0.38m、深さ0.22m。

P100910～P100914は掘立柱建物跡SH10902の一部を構成する。

P100910の平面形態は楕円形で、南北0.55m、東西0.56m、深さ0.25m。P100911の平面形態は崩れた円形で、南北0.42m、東西0.41m、深さ0.14m。P100912の平面形態は円形で、南北0.48m、東西0.49m、深さ0.39m。埋土から製塩土器5点が細片で出土。P100913の平面形態は円形で、南北0.47m、東西0.45m、深さ0.27m。埋土から土師器甕2点、製塩土器1点が破片で出土。

P100903、P100904、P100914、P100917は柱穴列SA100902の一部を構成する。

P100903の平面形態は崩れた円形で、南北0.81m、東西0.64m、深さ0.25m。P100904の平面形態は崩れた円形で、南北0.84m、東西0.80m、深さ0.29m。P100914の平面形態は崩れた円形で、南北0.56m、東西0.53m、深さ0.17m。P100917の平面形態は崩れた円形で、南北0.52m、東西0.53m、深さ0.24m。埋土から土師器甕3点、製塩土器1点が破片で出土した。

それ以外の柱穴、小穴を以下に列記する。

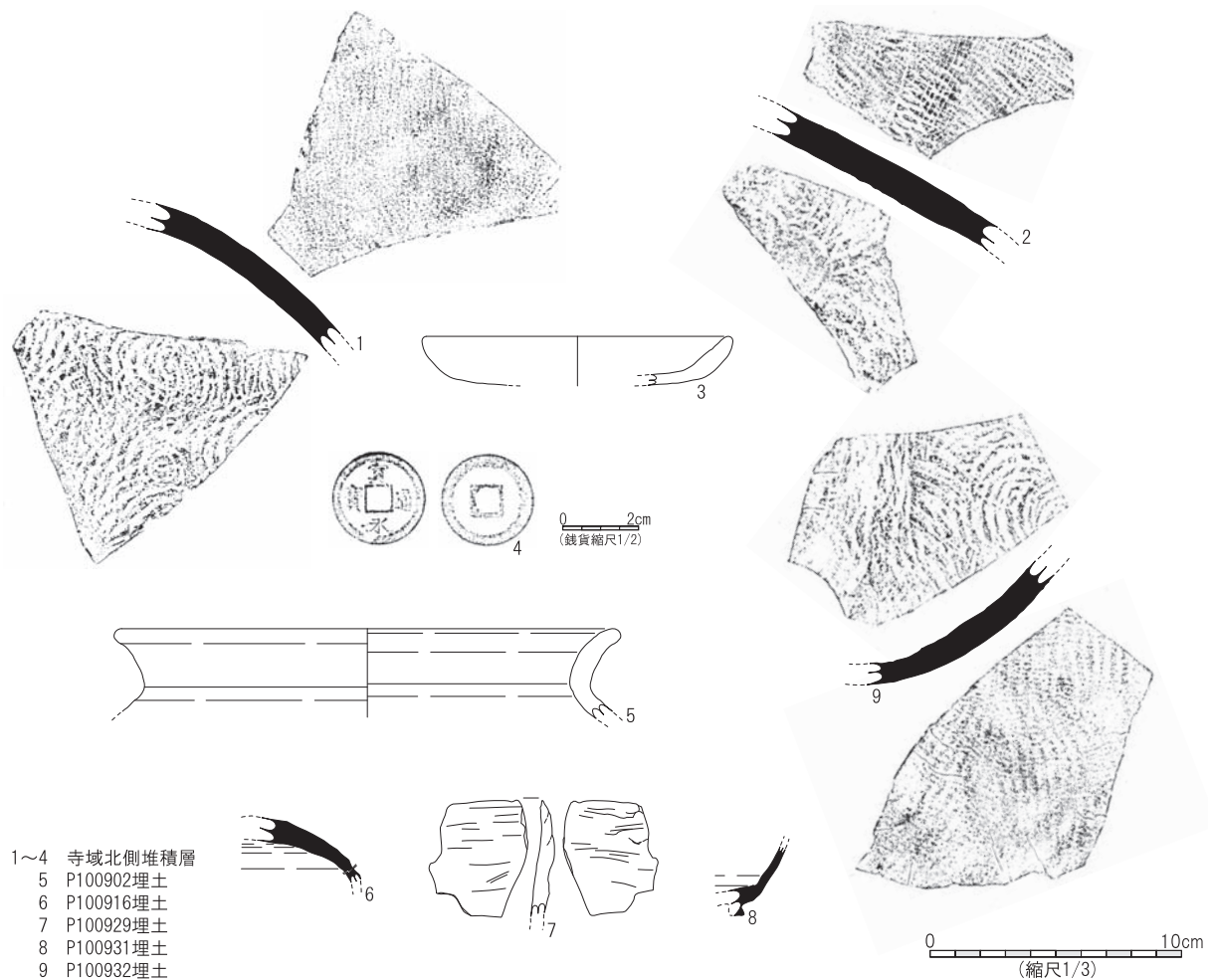
P100902の平面形態は崩れた円形で、南北0.87m、東西0.89m、深さ0.30m。埋土から土師器甕2点、製塩土器2点が破片で出土（第101図5）。P100905の平面形態は崩れた楕円形で、南北0.73m、東西0.56m、深さ0.28m。埋土から土師器甕2点、製塩土器1点が破片で出土。P100907の平面形態は崩れた楕円形で、南北0.81m、東西0.59m、深さ0.28m。P100908の平面形態は楕円形で、南北検出長0.60m、東西検出長0.62m、深さ0.34m。P100909の平面形態は崩れた円形で、南北検出長0.64m、東西検出長0.76m、深さ0.40m。P100915の平面形態は円形で、南北0.33m、東西0.33m、深さ0.16m。P100916の平面形態は円形で、南北0.56m、東西0.55m、深さ0.22m。埋土から須恵器杯蓋（杯H蓋）1点、土師器甕3点、製塩土器6点が破片で出土（第101図6）。P100918の平面形態は崩れた円形で、南北0.41m、東西0.41m、深さ0.11m。P100919の平面形態は円形で、南北0.36m、東西0.32m、深さ0.19m。P100920の平面形態は円形で、南北0.31m、東西0.28m、深さ0.14m。P100921の平面形態は円形で、南北0.41m、東西0.43m、深さ0.30m。P100922の平面形態は円形で、径0.28m、深さ0.11m。P100923の平面形態は円形で、南北0.50m、東西検出長0.43m、深さ0.18m。埋土から須恵器甕1点が破片で出土。P100924の平面形態は円形で、南北0.44m、東西0.40m、深さ0.17m。P100925の平面形態は崩れた円形で、南北検出長0.72m、東西検出長0.63m、深さ0.28m。P100927の平面形態は崩れた円形で、南北検出長0.83m、東西検出長0.62m、深さ0.21m。P100928の平面形態は円形で、南北検出長0.59m、東西検出長0.36m、深さ0.36m。P100929の平面形態は崩れた円形で、南北検出長0.44m、東西検出長0.39m、深さ0.38m。埋土から製塩土器1点が破片で出土（第101図7）。P100930の平面形態は崩れた円形で、南北検出長0.38m、東西検出長0.40m、深さ0.05m。P100931の平面形態は円形で、南北0.27m、東西0.26m、深さ0.17m。埋土から須恵器杯（杯B）、製塩土器3点が破片で出土（第101図8）。P100932の平面形態は円形で、南北0.47m、東西0.48m、深さ0.27m。埋土から須恵器甕1点が破片で出土（第101図9）。P100933の平面形態は楕円形で、南北0.38m、東西0.27m、深さ0.06m。

## ⑧ 出土遺物

第101図1～4は堆積層、5はP100902埋土、6はP100916埋土、7はP100929埋土、8はP100931埋土、9はP100932埋土から出土した。

1・2は須恵器甕。1の胴部外面は平行叩きを施し、横方向に全体的にナデを施す。胴部内面は同心円の当て具痕を留め、部分的に不定方向にナデを施す。2の胴部外面は縦方向に平行叩きを施すが、頸部付近で強い横ナデ、櫛状工具によるカキ目を加える。胴部内面は横方向に強いナデを施し、同心円の当具痕をわずかに留める。





第101図 興道寺廃寺第10次調査9トレンチ出土遺物実測図

3は土師器皿。口縁部が肥厚し、外上方に短く立ち上がる。口縁部から底部にかけての外面に指頭圧痕を留め、口縁部内面に強い横ナデを施す。

4は寛永通宝。文字面に比べて背面の外縁幅がやや広い。

5は土師器甕。復元口径19.6cm。口縁部は強く外反して立ち上がり、口縁端部を丸く収める。口縁部内外面に強い横ナデを施す。

6は須恵器杯蓋（杯H蓋）。天井部外面に回転ヘラ削りを施す。

7は製塩土器。口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁端部を鋭く収める。口縁部外面に1条の粘土紐積み上げ痕とわずかに指頭圧痕を留め、口縁部内面は横ナデを施す。

8は須恵器杯（杯B）。底部外縁に沿って幅が狭い高台を貼り付ける。9は須恵器甕。9の胴部外面は平行叩きを施し、横方向にナデを加える。胴部内面は同心円の当て具痕を、底部付近には平行文状の当て具痕を留める。

## F. 第9次調査6トレンチの調査

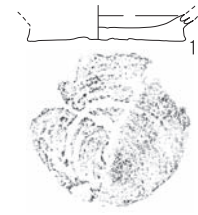
### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は23.4mである。

表土の耕作土となる黒褐色土（層厚0.2~0.25m）下、標高23.2~23.3m付近で地山面となる褐色砂礫土の上面に至る。

## ② 検出遺構の概要

地山面で土坑1基 (SK090601)、柱穴・小穴2基 (P090601・P090602) を検出した。トレンチの東端に耕作攪乱が及んでいる。



## ③ 土坑

SK090601 の平面形態は不明で、東西検出長 1.62m。南北に延びる溝状をなし、第9次調査11 トレンチ検出のSK091102、第10次調査8 トレンチ検出のSK100803 と同一遺構として、溝、もしくは大型土坑を構成する可能性もある。

深さは0.14mと浅く、西に向かって徐々に深くなる。埋土に黒褐色土をもつが、拳大ほどの礫が意図的に投棄されたかのように多量に埋没し、部分的に炭が混じる。埋土から須恵器杯蓋 (杯H蓋) 4点、杯2点、甕2点、土師器甕5点、皿23点 (同一個体含む)、製塩土器3点、平瓦1点が破片で出土した (第102図1)。

1 SK090601埋土  
0 5cm  
(縮尺1/3)

第102図 興道寺廃寺第9次調査  
6トレンチ出土遺物実測図

## ④ 柱穴・小穴

P090601 の平面形態は楕円形で、南北0.71m、東西0.49m、深さ0.15m。P090602 の平面形態は円形で、南北0.42m、東西0.41m、深さ0.20m。

## ⑤ 出土遺物

第102図1はSK090601埋土から出土。

1は土師器皿。底部外面は回転ヘラ切りによってややくぼみ、内面は不定方向のナデを施す。

## G. 第9次調査11 トレンチの調査

### ① 基本層序

調査地は畑地境界の畦部分で、地表面の標高はトレンチ東端で23.45m、トレンチ西端で23.25mである。

表土の旧耕作土となる黒褐色土 (層厚0.2~0.3m) 下、トレンチ東半では標高23.1~23.3mで地山面となる暗褐色土の上面に至るが、トレンチ西半では黒褐色土 (層厚0.2m) からなる堆積層が分布し、標高22.85~23.1m付近で地山面に至る。トレンチ中央付近には長辺1.16m、短辺0.5m以上、厚み0.42mの巨石が二次的に移動され、畑地境界石として置かれている。

### ② 検出遺構の概要

地山面で掘立柱建物跡1棟 (SH091101)、土坑2基 (SK091101・SK091102)、柱穴・小穴6基 (P091101~P091106) を検出した。

### ③ 掘立柱建物跡

P091103 の1基の柱穴および第10次調査9 トレンチ検出の柱穴4基 (P100901、P100906、P100921、P100926) で掘立柱建物跡SH091101 (SH100901) の一部を構成する。

### ④ 土坑

SK091101 は南北に延び、東西1.04m、深さ0.12m。底面の一部が小穴状に深くなり、別時期の小穴が重複している可能性もある。断面形状は東側に向かってわずかに深くなる平底状で、黒色土、黒褐色土を埋土にもつ。

埋土から須恵器杯1点、土師器甕4点、製塩土器1点が破片で出土した。

SK091102は南北に延び、東西1.39m、深さ0.16m。SK090901、SK100803と同一遺構を構成する可能性がある。断面形状は平底状で、黒色土を埋土にもち、長辺0.3m前後の礫が密に混入する。埋土から土師器甕4点、製塩土器3点が細片で出土した。

#### ⑤ 柱穴・小穴

P091103は掘立柱建物跡(SH100901)の一部を構成する。

P091103の平面形態は円形で、南北検出長0.43m、東西0.43m、深さ0.18m。

それ以外の柱穴、小穴を以下に列記する。

P091101の平面形態は円形で、南北検出長0.42m、東西0.47m、深さ0.47m。埋土から土師器甕1点が破片で出土。P091102の平面形態は楕円形で、南北検出長0.32m、東西検出長0.34m、深さ0.18m。P091104の平面形態は円形で、南北検出長0.40m、東西0.45m、深さ0.30m。P091105の平面形態は円形で、南北検出長0.38m、東西0.50m、深さ0.24m。P091106の平面形態は隅丸方形で、南北検出長0.28m、東西0.48m、深さ0.25m。埋土から土師器甕1点が破片で出土。

### H. 第10次調査8トレンチの調査

#### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は24.0～24.05mである。

表土の耕作土となる黒褐色土(層厚0.15～0.3m)下、標高23.85mで地山面となる褐色砂礫土の上面に至る。表土から杯(杯H)もしくは杯蓋(杯H蓋)1点、甕1点、土師器甕1点、製塩土器3点が破片で出土した。

#### ② 検出遺構の概要

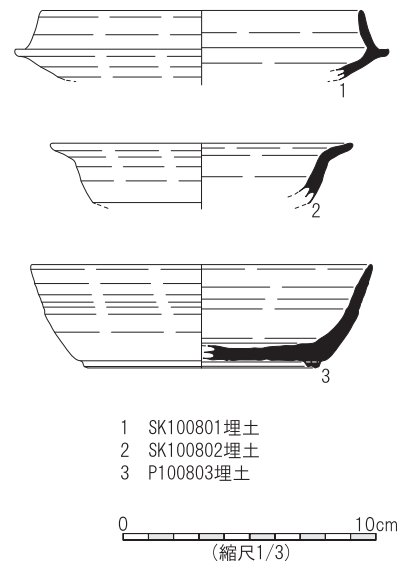
地山面で土坑3基(SK100801～SK100803)、小穴3基(P100801～P100803)を検出した。

#### ③ 土坑

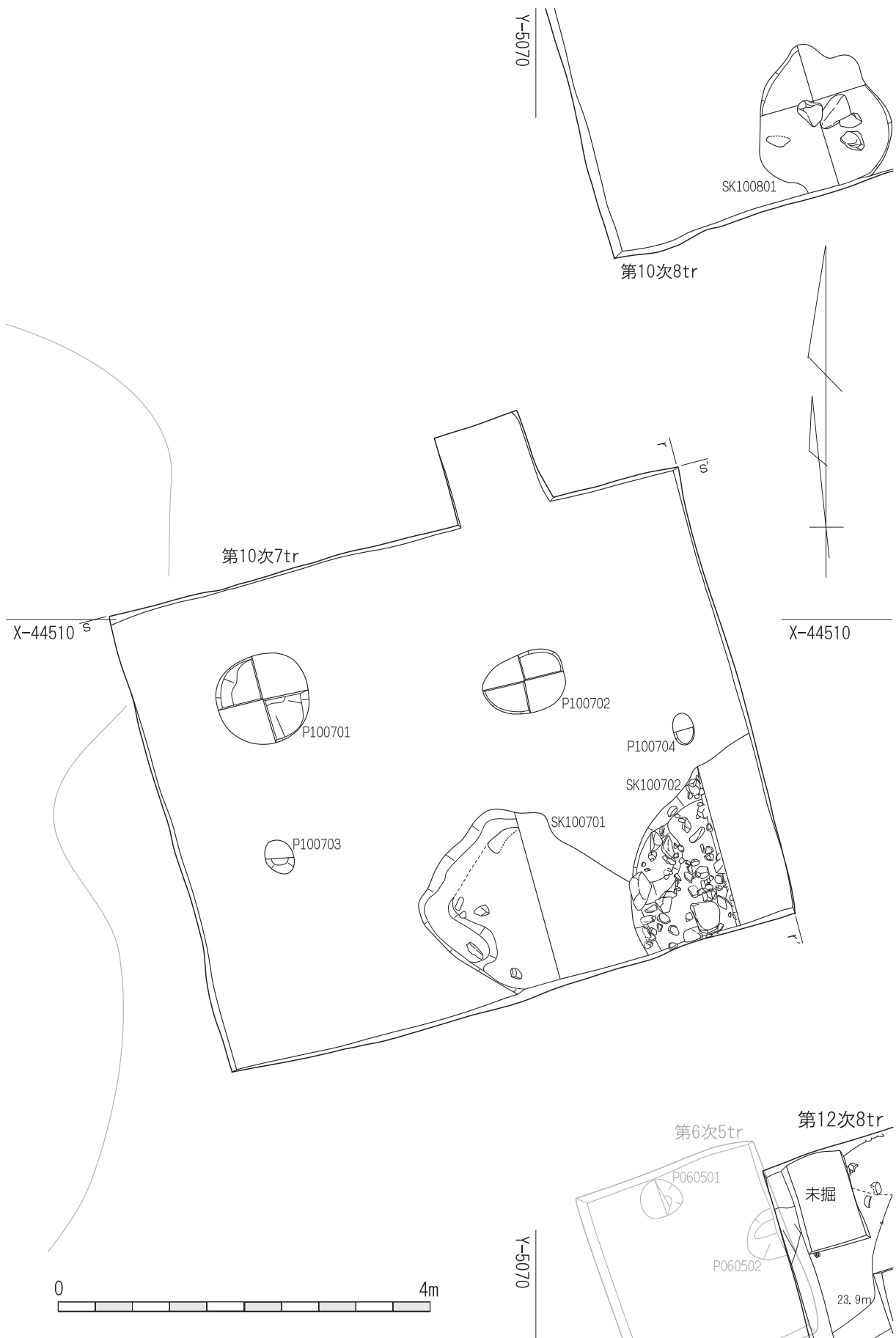
SK100801の平面形態は崩れた円形で、南北検出長1.62m、東西1.43m、最深0.16m。断面形状は浅い船底状で、黒褐色土、暗褐色土を埋土にもつ。人頭大ほどの礫が混入し、埋土から須恵器杯蓋(杯H蓋)1点、杯(杯H)1点、須恵器小片1点、土師器甕5点、製塩土器8点が破片で出土した(第103図1)。

SK100802の平面形態は円形で、南北1.80m、東西1.80m、最深0.24m。断面形状は底面の凹凸が激しい箱形で、黒褐色土、暗褐色土を埋土にもつ。拳大ほどの自然礫が底面から浮いた状態で多く混入する。埋土から須恵器杯(杯H)もしくは杯蓋(杯H蓋)1点、皿1点、土師器甕5点、製塩土器5点が破片で出土した(第103図2)。

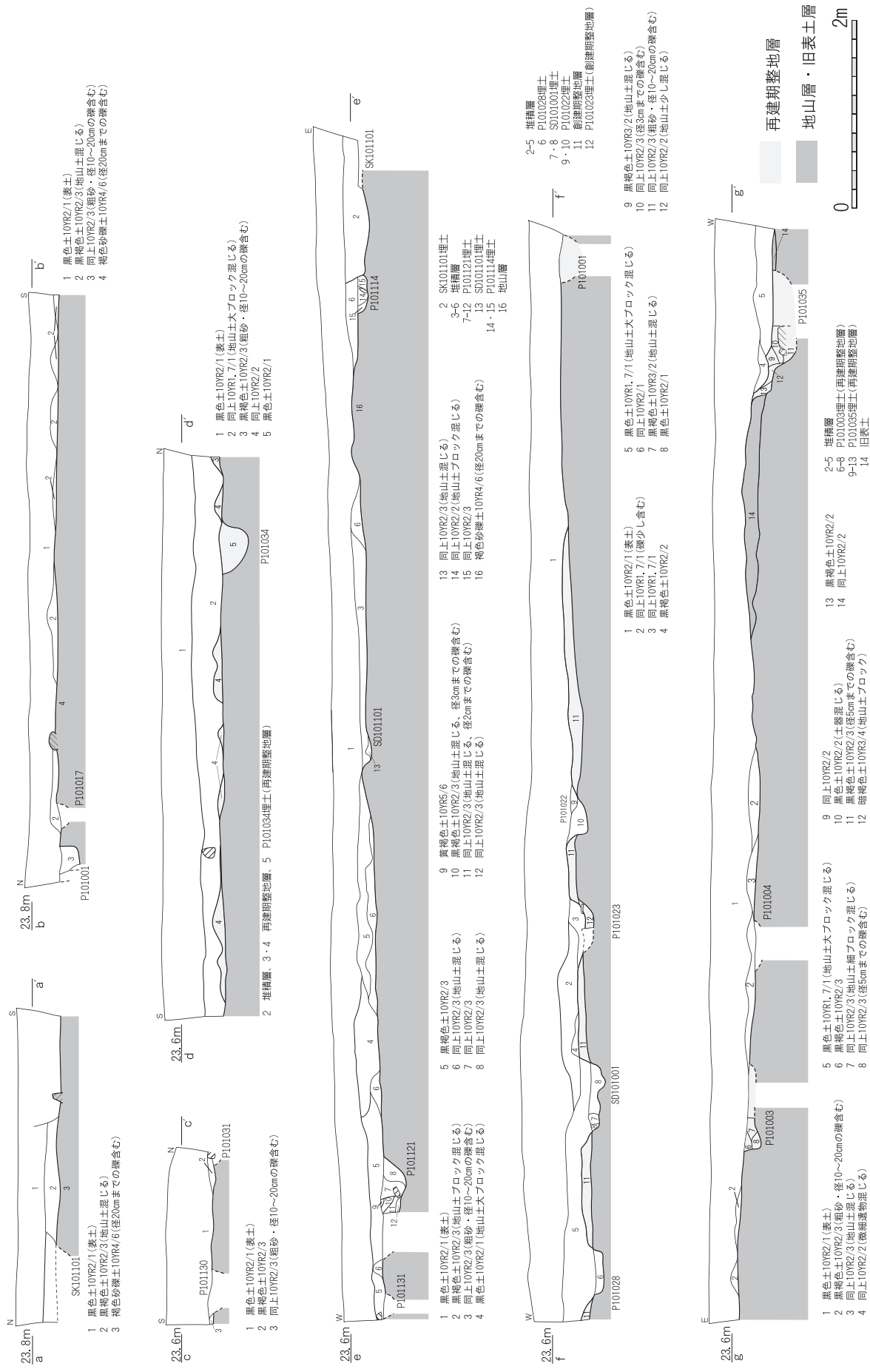
SK100803の平面形態は楕円形で、南北検出長1.60m、東西1.62m、最深0.16m。断面形状は弧状で、部分的に極端に深くなる。黒褐色土を埋土にもち、拳大から人頭大ほどの自然礫が底面から浮いた状態で多く混入する。SK091102、SK090601と同一遺構を構成する可能性がある。



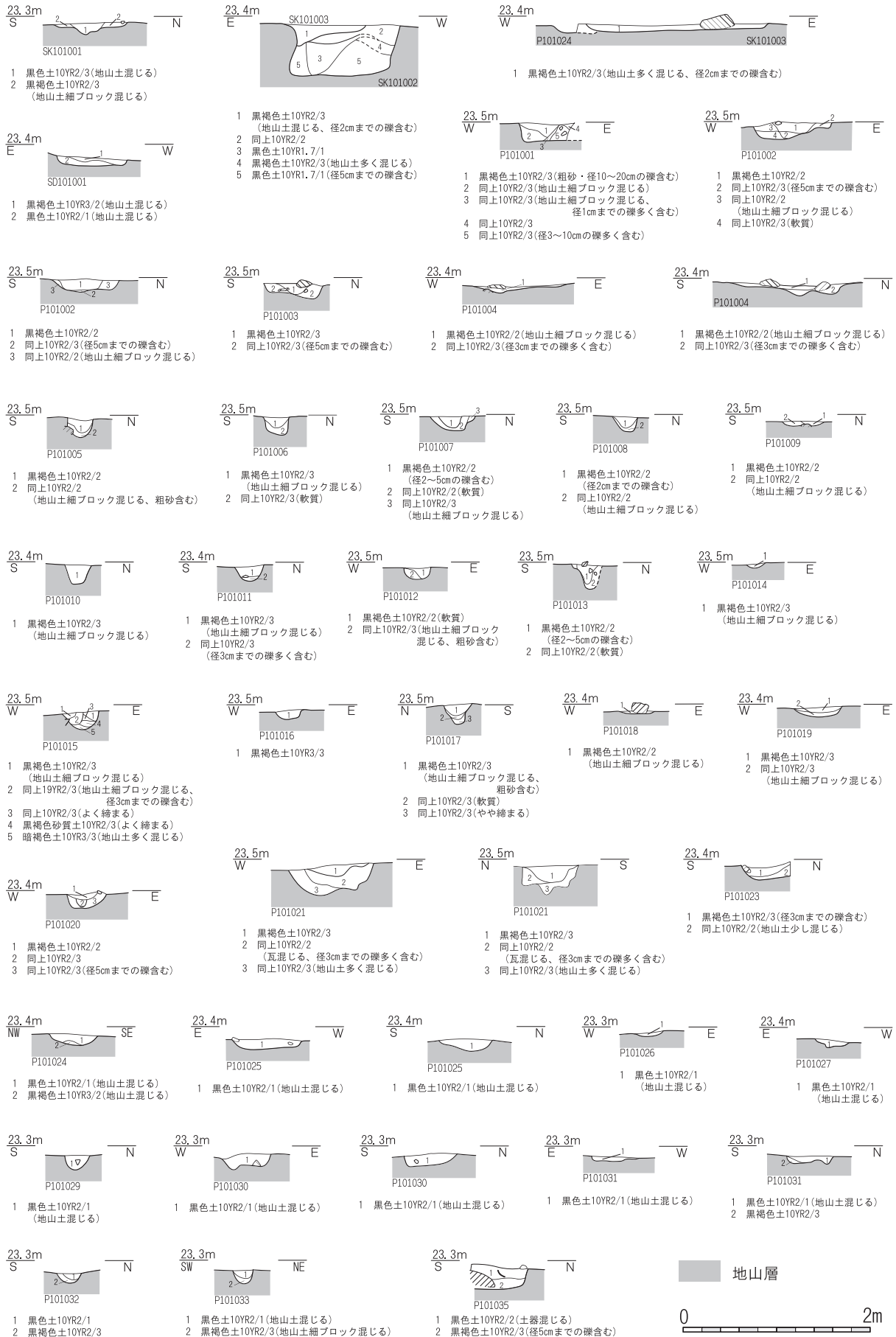
第103図 興道寺廃寺第10次調査  
8トレンチ出土遺物実測図



第104図 興道寺廃寺域北方遺構平面図3 (縮尺 1/60)

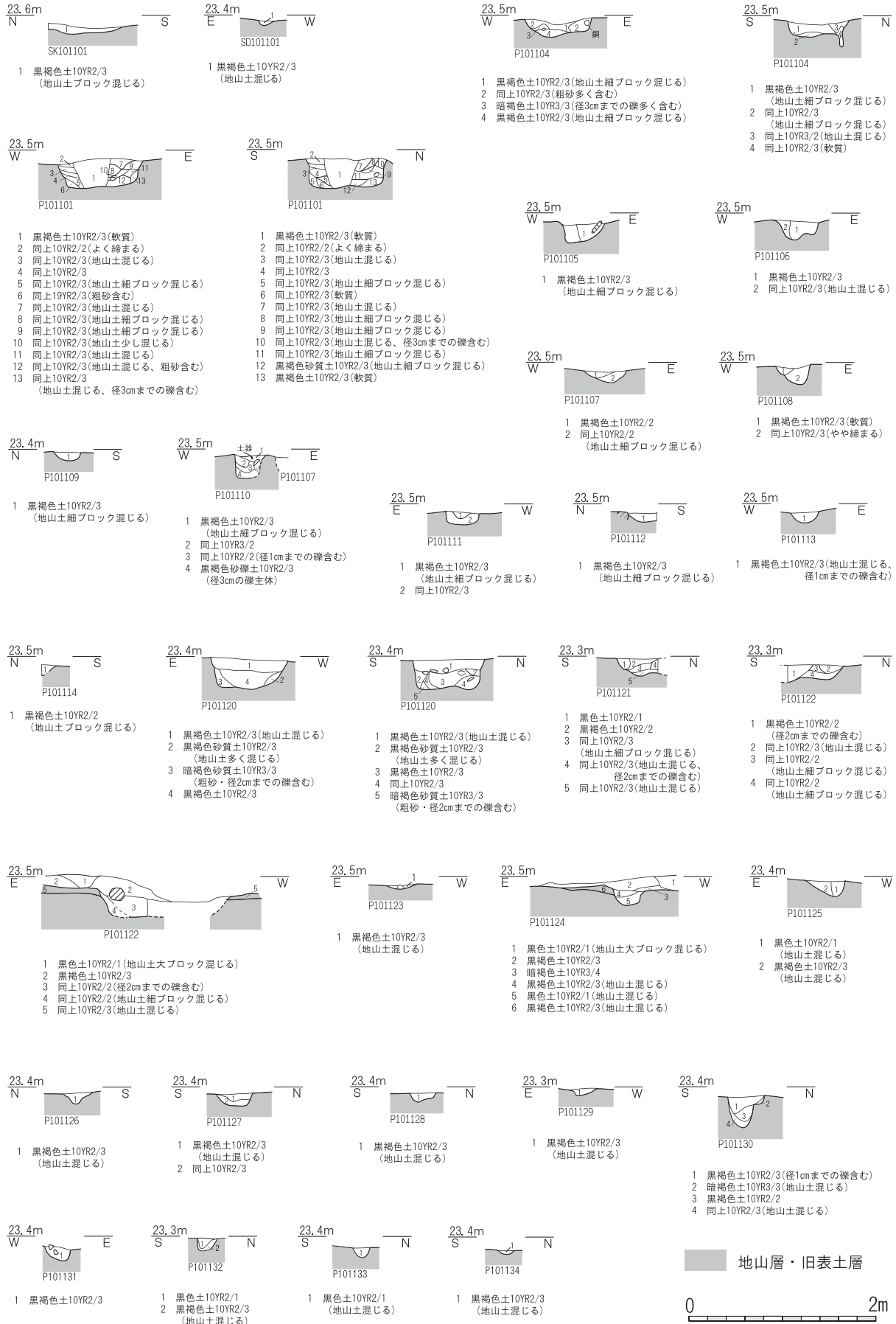


第105図 興道寺廃寺寺域北方土層断面図1 (縮尺1/60)



第106図 興道寺廃寺域北方土層断面図2 (縮尺1/60)





第107図 興道寺廃寺寺域北方土層断面図3 (縮尺1/60)

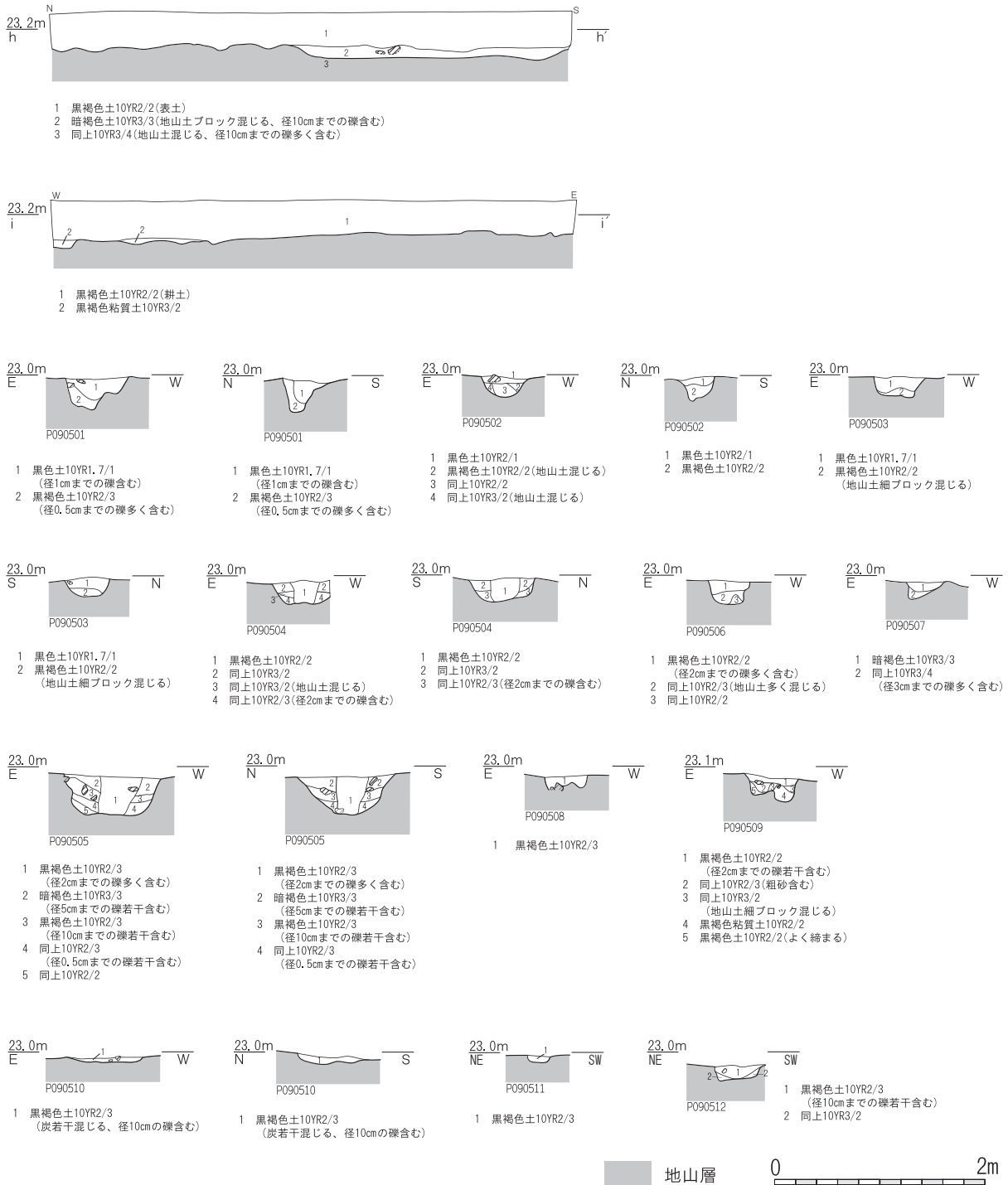
④ 柱穴・小穴

P100801 の平面形態は円形で、南北 0.29m、東西 0.28m、深さ 0.14m。P100802 の平面形態は楕円形で、南北 0.60m、東西 0.41m、深さ 0.24m。P100803 の平面形態は楕円形で、南北 0.50m、東西 0.53m、深さ 0.08 m。埋土から須恵器杯（杯B）1点、土師器甕6点、製塩土器1点が破片で出土（第103図3）。

⑤ 出土遺物

第103図1はSK100801埋土、2はSK100802埋土、3はP100803埋土から出土した。

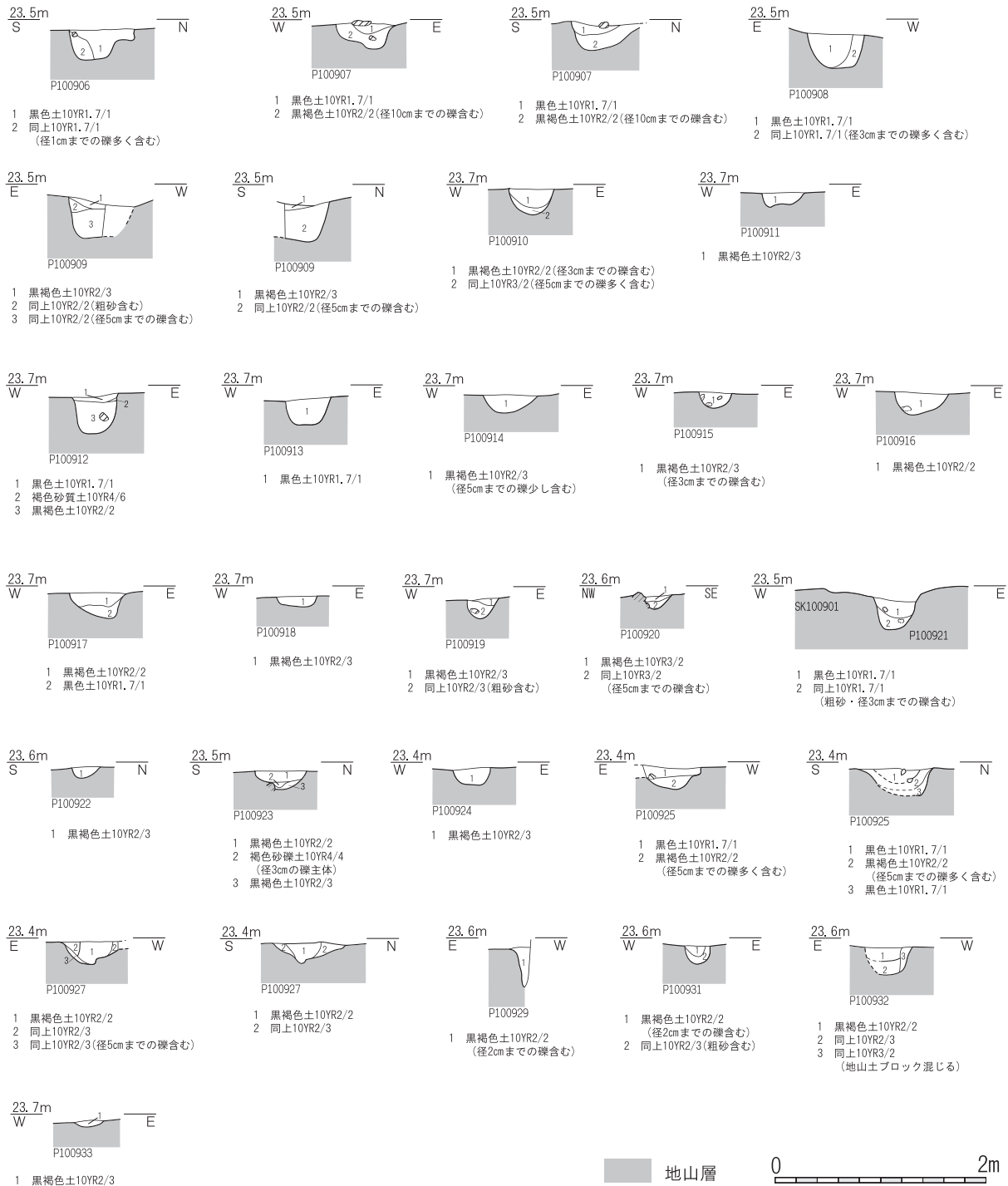
1は須恵器杯（杯H）。復元口径 12.6 cm。杯の底部は浅く、受け部を外方に引き出す。口縁部はわずかに外



第108図 興道寺廃寺域北方土層断面図4 (縮尺 1/60)

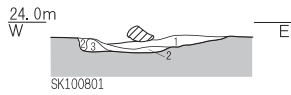


反しながら立ち上がり、口縁端部を鋭く収める。2は須恵器皿。復元口径 11.9 cm。強く内湾しながら口縁部が立ち上がり、外方に強く引き出した後、口縁端部を丸く収める。口縁部内面に煤が付着する。3は須恵器杯（杯 B）。復元口径 13.5 cm、器高 4.1 cm。底部は不定方向の強いナデを施し、外面の外縁に幅が狭く低い高台を付す。口縁部は丸みを帯びて立ち上がり、口縁端部はやや外方に開いた後、鋭く収める。

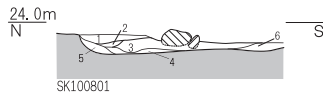


第 110 図 興道寺廃寺域北方土層断面図 6 (縮尺 1/60)

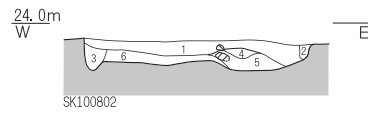




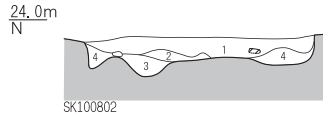
- 1 黒褐色土10YR3/2  
(軟質、地山土細ブロック混じる)
- 2 暗褐色粘質土10YR3/3  
(地山土細ブロック混じる)
- 3 同上10YR3/4(地山土多く混じる)



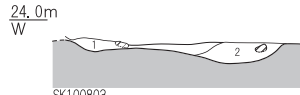
- 1 黒褐色土10YR2/3  
(地山土細ブロック・焼土混じる)
- 2 同上10YR3/2(粗砂含む)
- 3 同上10YR3/2(軟質、地山土細ブロック混じる)
- 4 暗褐色粘質土10YR3/3(地山土細ブロック混じる)
- 5 黒褐色土10YR2/2
- 6 暗褐色粘質土10YR3/4(地山土多く混じる)



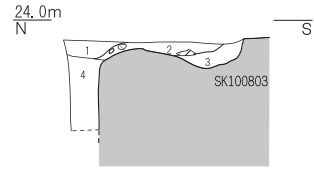
- 1 黒褐色土10YR2/3(地山土細ブロック混じる)
- 2 黄褐色土10YR4/4
- 3 黒褐色粗砂10YR2/2(径2cmまでの礫多く含む)
- 4 暗褐色土10YR3/3(地山土細ブロック混じる)
- 5 黒褐色土10YR2/2
- 6 同上10YR2/3(地山土細ブロック混じる、粗砂含む)



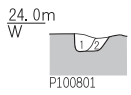
- 1 黒褐色土10YR2/3(地山土細ブロック混じる)
- 2 同上10YR2/3(地山土細ブロック混じる、粗砂含む)
- 3 同上10YR2/3(粗砂多く含む)
- 4 黒褐色粗砂10YR2/2(径2cmまでの礫多く含む)



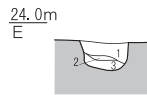
- 1 黒褐色土10YR3/2(地山土細ブロック混じる)
- 2 同上10YR2/3(径2cmまでの礫含む)



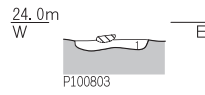
- 1 黒褐色土10YR2/2
- 2 同上10YR3/2(地山土細ブロック混じる)
- 3 同上10YR2/3(径2cmまでの礫含む)
- 4 同上10YR2/3(径3cmまでの礫含む)



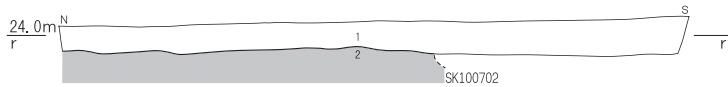
- 1 黒色土10YR1.7/1
- 2 黒褐色土10YR2/2



- 1 黒褐色土10YR2/2
- 2 同上10YR2/2(粗砂含む)
- 3 暗褐色砂礫土10YR3/3  
(径1cmまでの礫主体)



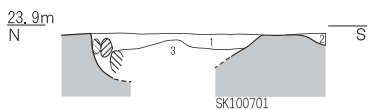
- 1 黒褐色土10YR2/3



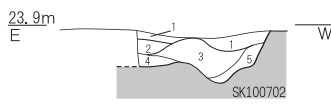
- 1 黒褐色土10YR3/2
- 2 黄褐色砂礫土10YR5/6



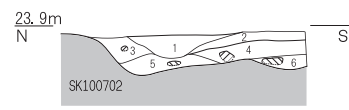
- 1 黒褐色土10YR3/2
- 2 同上10YR2/3
- 3 黄褐色砂礫土10YR5/6



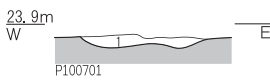
- 1 黒褐色土10YR2/3
- 2 暗褐色土10YR3/3(径3cmまでの礫含む)
- 3 同上10YR3/3(地山土混じる)



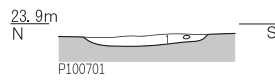
- 1 黒褐色土10YR2/3(径3cmまでの礫多く含む)
- 2 同上10YR2/3(径3cmまでの礫含む)
- 3 同上10YR2/2(軟質)
- 4 同上10YR2/2(径5cmまでの礫含む)
- 5 同上10YR3/2(地山土細ブロック混じる)



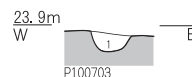
- 1 黒褐色土10YR2/3
- 2 同上10YR2/3(径3cmまでの礫多く含む)
- 3 同上10YR2/3(地山土細ブロック混じる)
- 4 同上10YR2/3(径3cmまでの礫含む)
- 5 同上10YR2/2(軟質)
- 6 同上10YR2/2(径5cmまでの礫含む)



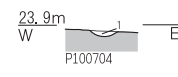
- 1 黒褐色土10YR2/3



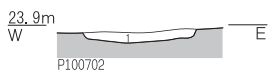
- 1 黒褐色土10YR2/3



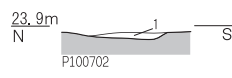
- 1 黒褐色土10YR3/2



- 1 黒褐色土10YR3/2



- 1 黒褐色土10YR3/2



- 1 黒褐色土10YR3/2

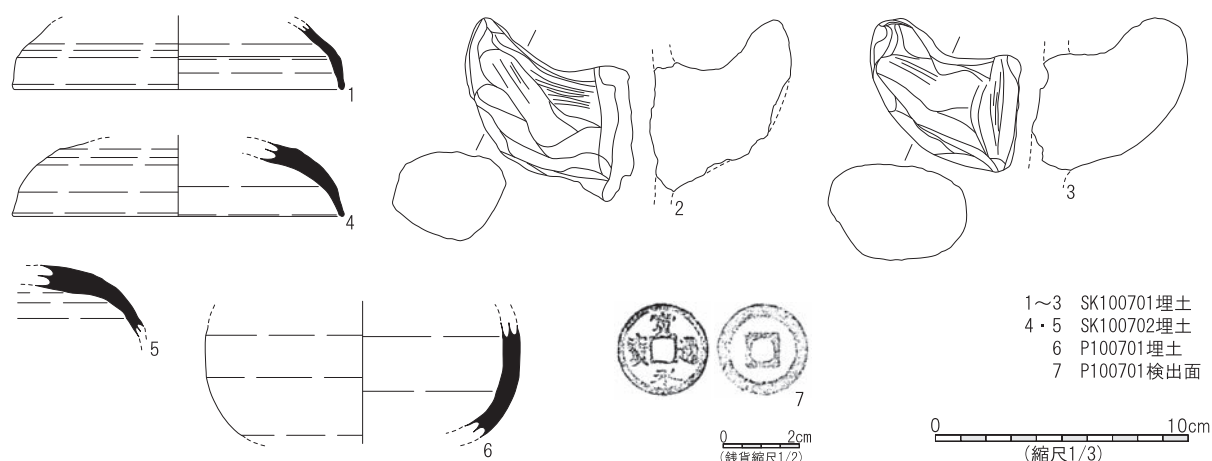


地山層



第112図 興道寺廃寺域北方土層断面図8 (縮尺 1/60)





第113図 興道寺廃寺第10次調査7トレンチ出土遺物実測図

## I. 第10次調査7トレンチの調査

### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は24.1~24.2mである。

表土の耕作土となる黒褐色土(層厚0.25m)下、標高23.9~23.95mで地山面となる黄褐色砂礫土の上面に至るが、トレンチ北西隅に黒褐色土(層厚0.1~0.2m)からなる堆積層が分布する。

### ② 検出遺構の概要

地山面で土坑2基(SK100701・SK100702)、小穴4基(P100701~P100704)を検出した。

### ③ 土坑

SK100701の平面形態は隅丸方形で、北東-南西1.68m、北西-南東検出長2.09m、最深0.37m。断面形状は北側が深くなる弧状で、黒褐色土、暗褐色土を埋土にもつ。埋土から須恵器杯蓋(杯H蓋)2点、杯(杯H)1点、杯(杯H)もしくは杯蓋(杯H蓋)4点、甕1点、土師器甕14点、製塩土器1点が破片で出土した(第113図1~3)。

SK100702の平面形態は円形で、南北2.03m、東西1.13m、最深0.41m。断面形状は底面の凹凸が激しい箱形で、黒褐色土を埋土にもつ。拳大から人頭大ほどの自然礫の混入が顕著で、埋土から須恵器杯蓋(杯H蓋)4点、杯(杯H)もしくは杯蓋(杯H蓋)1点、須恵器小片2点、土師器甕20点、製塩土器6点が破片で出土した(第113図4・5)。

### ④ 柱穴・小穴

P100701の平面形態は円形で、径1.00m、深さ0.08m。埋土から須恵器壺1点が破片で出土し、検出面から錢貨1点が出土(第113図6・7)。P100702の平面形態は楕円形で、南北0.70m、東西0.89m、深さ0.07m。

P100703の平面形態は円形で、南北0.35m、東西0.31m、深さ0.16m。P100704の平面形態は楕円形で、南北0.34m、東西0.23m、深さ0.05m。

### ⑤ 出土遺物

第113図1~3はSK100701埋土、4・5はSK100702埋土、6はP100701埋土、7はP100701検出面から出土した。

1は須恵器杯蓋(杯H蓋)。口縁部の高さは低く、口縁端部を丸く収める。

2・3は土師器甕。2の把手は鋭く作り、外面の一部に刷毛目を施した後、ナデを加える。3の把手は太く、外面は粗いナデを施す。

4・5は須恵器杯蓋（杯H蓋）。ともに復元口径13.0cm。4の口縁部は高さが低く、口縁端部を丸く収める。天井部外面に回転ヘラ削りを施す。5の天井部外面はヘラ切り未調整痕が残る。6は須恵器壺。体部中位に最大径をもち、外面は回転ヘラ削り調整を施す。

7は寛永通宝。文字面に比べて背面の外縁幅が広い。

### 第3項 寺城北限の調査

#### A. 寺城北限の概要

『2007年報告』でも全く触れられていないように第1期調査で全く注意が払われていなかった寺城北限については、現在の地表面の微地形の観察によって伽藍域の北方に一段、標高が低くなる東西のラインが存在することが第11次調査の着手前に把握された。

このことから、この地形変換点付近で第11次調査7トレンチを設定して調査を行ったところ、この地形変換の東西ラインの南側に東西に延びる溝を検出した。このため、第12・13次調査においてはこの溝の東への伸張を確認し、寺城北限の様相を確認するために、第12次調査9トレンチ、第13次調査4～6トレンチを順次設定して調査を行い、この東西溝が一定の長さをもつことが判明した。

#### B. 第11次調査7トレンチの調査

##### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は24.0～24.05mである。

表土の耕作土となる黒褐色土（層厚0.2～0.35m）下、トレンチの中央付近では標高23.7m付近で地山面となる褐色粘土層、褐色砂礫土層の上面に至るが、トレンチの北端と南端ではともに黒褐色土（層厚0.1m）からなる堆積層が分布し、標高23.75m前後で地山面に至る。この堆積層から須恵器杯（杯H）2点、須恵器小片2点、須恵器甕1点、土師器甕2点、皿1点、越前焼甕1点、無段式丸瓦2点、平瓦5点が破片で出土した（第114図1～4）。

##### ② 検出遺構の概要

地山面で掘立柱建物跡1棟（SH110701）、溝1基（SD110701）、柱穴・小穴7基（P091101～P091106）を検出した。トレンチの北端と南端では地山面の標高が低下し、地形的に落ち込む。

##### ③ 掘立柱建物跡

P110701の1基の柱穴および第10次調査11トレンチ検出の柱穴3基（P101104、P101106、P101115）で掘立柱建物跡SH110701（SH101102）の一部を構成する。

##### ④ 溝

SD110701は東西に延び、南北最大幅1.98m、最小幅1.30m、最深0.27m。底面の一部が小穴状に深くなり、別時期の小穴が重複している可能性もある。断面形状は南側に向かって深くなる船底状で、黒褐色土を埋土にもつ。拳大から人頭大ほどの大きさの自然礫が底面から浮いた状態で分布する。南側から順に埋没した土層堆積を示している。埋土から須恵器杯（杯H）1点、杯（杯H）底部もしくは杯蓋（杯H蓋）天井部2点、杯蓋（杯B蓋）1点、杯（杯B）1点、壺1点、赤彩の土師器杯1点、皿3点、甕1点、製塩土器5点、平瓦1点が破片で

出土した（第114図5～8）。8世紀前半の土器が多い傾向がある。

なお、溝北側の地山面においては地山層の包含礫の露頭が目立つ傾向があるが、反対側の溝の南側の地山面では粘土質であり、地山面に対する一定の地業があった可能性が考えられる。その傾向はこのトレンチの東側、第12次調査9トレンチ、第13次調査4トレンチにおいても同様であり、この溝の南側に築地のような施設が存在した可能性も考えられる。

#### ⑤ 柱穴・小穴

P110701 は掘立柱建物跡 SH110701 の一部を構成する。

P110701 の平面形態は楕円形で、南北検出長 0.56m、東西 0.64m、深さ 0.27m。

それ以外の柱穴、小穴を以下に列記する。

P110702 の平面形態は円形で、南北 1.03m、東西検出長 0.41m、深さ 0.14m。P110703 の平面形態は円形で、南北 0.67m、東西 0.59m、深さ 0.18m。P110704 の平面形態は円形で、南北 0.53m、東西 0.45m、深さ 0.29m。埋土から須恵器杯（杯H）1点が破片で出土。P110705 の平面形態は円形で、南北 0.26m、東西検出長 0.17m、深さ 0.15m。P110706 の平面形態は円形で、南北検出長 0.23m、東西検出長 0.52m、深さ 0.12m。P110707 の平面形態は円形で、南北 0.32m、東西 0.31m、深さ 0.18m。

なお、P110701、P110702、P110707 の3基の柱穴・小穴はトレンチ南端の地山面の落ち込み部分に掘り込まれ、また P110705 は北端の地山面の落ち込み部分に掘り込まれている。

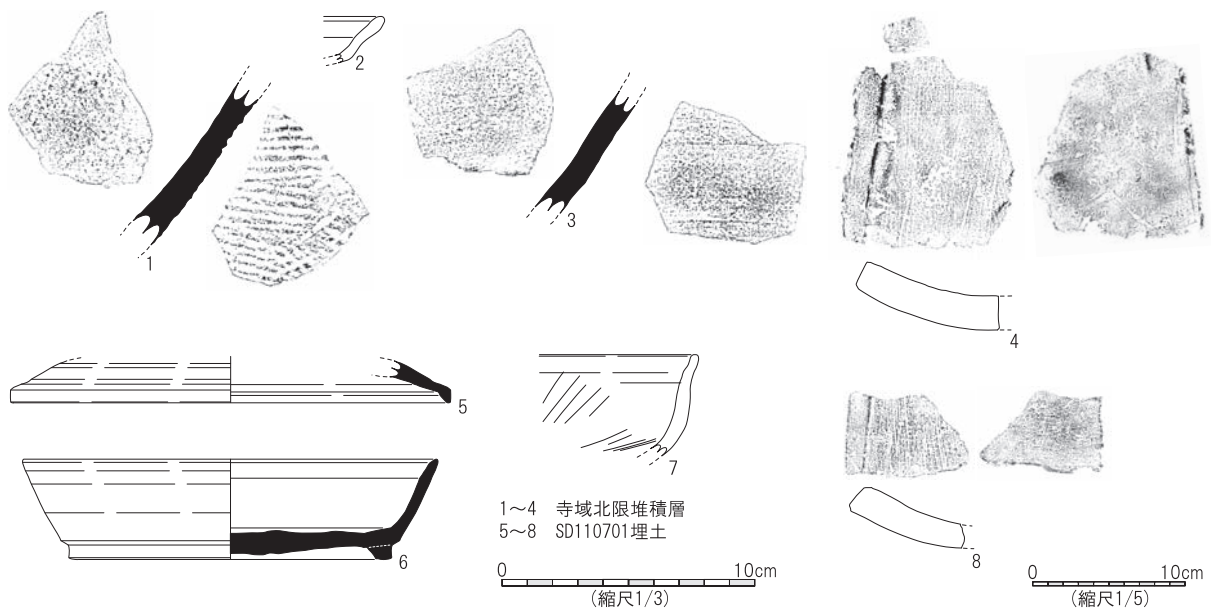
#### ⑥ 地山面の落ち込み

トレンチ南端の地山面の落ち込みは、東側の第12次調査9トレンチの南西隅まで延びるが、さらに東には伸張しない。一方、北端の地山面の落ち込みは第11次調査8・9トレンチ検出の地山面の落ち込みラインと直線的につなぐと現在の地表面の微地形で確認できる地形変換の東西線と位置的には概ね重複する。この北側の落ち込みを東西につなぐ線は寺院創建期の南北方位とほぼ直交する方位である。

#### ⑦ 出土遺物

第114図1～4は堆積層、5～8はSD110701埋土から出土。

1は須恵器甕。胴部外面に細長い正格子叩きを施し、内面はナデを施す。



第114図 興道寺廃寺第11次調査7トレンチ出土遺物実測図

2は土師器皿。内外面ともに口縁部は強いナデを施す。

3は越前焼甕。胴部外面に強い横ナデを施す。

4は平瓦。4の凸面は横ナデを施し、凹面は部分的に縦ナデを施す。

5は須恵器杯蓋（杯B蓋）。復元口径17.3cm。口縁端部は外方に鋭く折り返す。6は須恵器杯（杯B）。復元口径16.3cm。器高3.9cm。高台はやや外側に張り、口縁部は外上方に短く真っすぐ立ち上がる。

7は赤彩の土師器杯。口縁部は内湾しながら緩やかに立ち上がる。口縁部外面は丁寧な磨きを施し、内面には1段の放射状暗文を施す。

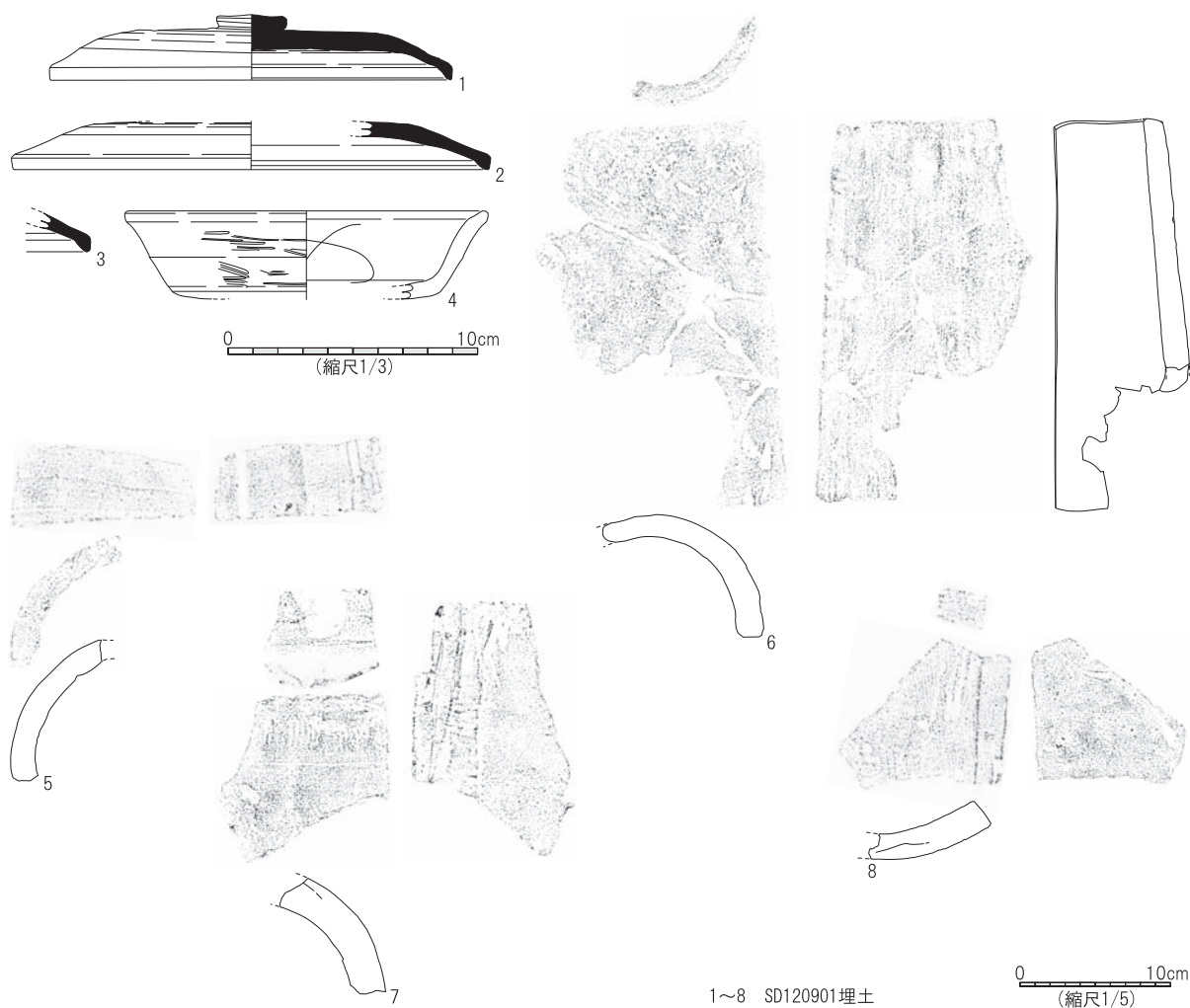
8は平瓦。凹面に糸切り痕を留める。

### C. 第12次調査9トレンチの調査

#### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は23.95～24.1mである。

表土の耕作土となる黒褐色土（層厚0.25～0.35m）下、標高23.65～23.85m付近で地山面となる褐色粘土層、褐色砂礫土層の上面に至るが、トレンチの南西隅では暗褐色土、黒褐色土（層厚0.3m）からなる堆積層が分布し、標高23.4～23.5m付近で地山面に至る。表土から須恵器杯（杯B）1点、製塩土器1点、瓦小片1点が破片で出土した。



1～8 SD120901埋土

第115図 興道寺廃寺第12次調査9トレンチ出土遺物実測図

## ② 検出遺構の概要

地山面で溝1基 (SD120901)、小穴4基 (P120901～P120904) を検出した。

## ③ 溝

SD120901 は西側のSD110701 から東西に延びる溝で、南北最大幅1.97m、最小幅1.55m、最深0.18m。断面形状は浅い船底状で、底面は地山層の包含礫の露頭が部分的に見られる。黒褐色土を埋土にもち、拳大ほどの大きさの自然礫が底面から浮いた状態で多く分布する。埋土から須恵器杯(杯A)1点、杯蓋(杯B蓋)3点、甕1点、壺3点、須恵器小片3点、土師器甕7点、皿3点、赤彩の杯1点、皿1点、盤5点、製塩土器3点、土師器小片2点、鉄釘1点、無段式丸瓦4点、有段式丸瓦1点、平瓦4点が破片で出土した(第115図1～8)。

## ④ 柱穴・小穴

P120901の平面形態は円形で、南北検出長0.34m、東西0.69m、深さ0.26m。P120902の平面形態は円形で、径0.32m、深さ0.11m。P120903の平面形態は崩れた円形で、南北0.43m、東西0.43m、深さ0.07m。P120904の平面形態は崩れた楕円形で、南北検出長0.56m、東西0.39m、深さ0.09m。埋土から製塩土器1点が破片で出土。

## ⑤ 出土遺物

第115図1～8はSD120901埋土から出土。

1～3は須恵器杯蓋(杯B蓋)。1は天井部がやや張り、扁平な擬宝珠つまみを付す。口縁端部は鋭く下方に折り返し、天井部外面にヘラ削りを施す。2・3の口縁端部は下方に鈍く折り返す。

4は赤彩の土師器杯。底部は平らで、口縁部は緩やかに外反する。口縁部外面に横方向に精緻な磨きを施し、口縁部内面に螺旋暗文を施す。

5・6は無段式丸瓦。5の凸面は強い横ナデを施し、凹面に模骨痕を留める。6の凸面は弱い横ナデを施す。

7は有段式丸瓦。凸面は側縁に沿って縄叩きを施し、強い横ナデを加える。側面は凹面側のみ削りを施す。

8は平瓦。8の凹面は糸切り痕が残る。

## D. 第11次調査8トレンチの調査

### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は23.8mである。

表土の耕作土となる黒褐色土(層厚0.2m)下、トレンチの南側では標高23.6m付近で地山面となるにぶい黄褐色土層の上面に至るが、トレンチの北側では暗褐色土、黒褐色砂質土(層厚0.2m)からなる堆積層が分布し、標高23.4mで地山面に至る。

### ② 検出遺構の概要

北に向けて、標高23.4mまで地山面の標高が低下する落ち込みが確認されている。

## E. 第11次調査9トレンチの調査

### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は23.85～23.9mである。

表土の耕作土となる黒褐色土(層厚0.2～0.3m)下、トレンチの南側では標高23.7m付近で地山面となるに

ぶい黄褐色土層の上面に至るが、トレンチの北側では灰黄褐色土（層厚0.2m）からなる堆積層が分布し、標高23.4mで地山面に至る。トレンチの北側に耕作攪乱が及び、攪乱土から弥生土器とみられる土器の細片2点が出土した。

## ② 検出遺構の概要

北に向けて、標高23.4mまで地山面の標高が低下する落ち込みが確認されている。

## F. 第11次調査10トレンチの調査

### ① 基本層序

調査地は畑地、地表面の標高24.0～24.1mである。表土となる耕作土の黒褐色土（層厚0.25m）下、トレンチの南側では標高23.8m付近で地山面となる暗褐色砂礫土層の上面に至るが、トレンチの北側には耕作攪乱が及び、地山面が標高23.65mまで削平される。

### ② 検出遺構の概要

耕作攪乱で削平された地山面で小穴1基（P111001）を検出した。

### ③ 小穴

P111001の平面形態は円形で、南北0.32m、東西0.30m、深さ0.18m。

## G. 第13次調査4トレンチの調査

### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は24.0～24.1mである。

表土の耕作土となる黒褐色土（層厚0.2～0.3m）下、標高23.7～23.8m付近で地山面となるにぶい黄褐色土層の上面に至る。トレンチの南側で地山面を薄く覆う暗褐色土からなる堆積層から須恵器小片1点が出土。

### ② 検出遺構の概要

地山面で溝1基（SD130401）、土坑2基（SK130401・SK130402）を検出した。地山面に耕作攪乱が及んでいる。

### ③ 溝

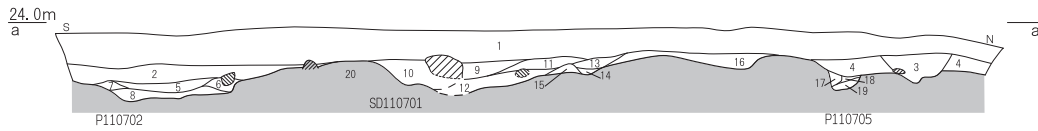
SD130401は西側のSD110701、SD120901から東に延びる溝で、南北最大幅2.60m、最小幅1.12m、最深0.23m。断面形状は船底状で、底面は地山層の包含礫の露頭が部分的に見られる。黒褐色土、暗褐色土を埋土にもち、拳大ほどの大きさの自然礫が底面から浮いた状態で多く分布する。

### ④ 土坑

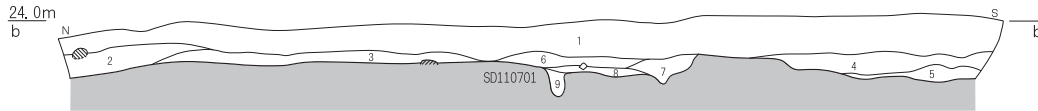
SK130401は南北0.93m、深さ0.12m。断面形状は尖底状で、黒褐色土を埋土にもつ。

SK130402は深さ0.16m。断面形状は箱形で、黒褐色土を埋土にもつ。第13次調査5・6トレンチ南端検出のSK130501、SK130601の北縁をつなぐと東西に直線的につながる可能性もある。

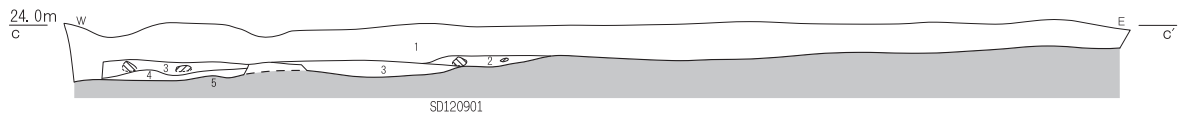




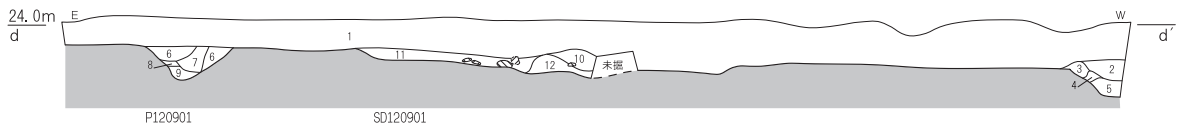
- |                              |                                   |                 |
|------------------------------|-----------------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色土10YR2/3(表土、径1cmまでの礫含む) | 11 同上10YR3/2(径1cmまでの礫含む)          | 2-4 堆積層         |
| 2 同上10YR2/2(径1cmまでの礫含む)      | 12 同上10YR2/3(よく締まる、地山土混じる)        | 5-8 P110702埋土   |
| 3 同上10YR2/2(径1cmまでの礫含む)      | 13 同上10YR2/3(径1cmまでの礫含む)          | 9-16 SD110701埋土 |
| 4 同上10YR3/2(径10cmまでの礫含む)     | 14 同上10YR2/3                      | 17-19 P110705埋土 |
| 5 同上10YR2/3(径10cmまでの礫含む)     | 15 同上10YR2/2(粗砂含む)                |                 |
| 6 同上10YR2/3                  | 16 同上10YR2/3(径1cmまでの礫含む)          |                 |
| 7 同上10YR2/2(地山土混じる)          | 17 暗褐色土10YR3/3                    |                 |
| 8 同上10YR2/2(径1cmまでの礫含む)      | 18 黒褐色土10YR3/2(地山土細ブロック混じる)       |                 |
| 9 同上10YR2/3(径3cmまでの礫含む)      | 19 同上10YR3/2                      |                 |
| 10 同上10YR3/2(軟質、径1cmまでの礫含む)  | 20 褐色粘土～褐色砂礫土10YR4/4(径10cmまでの礫含む) |                 |



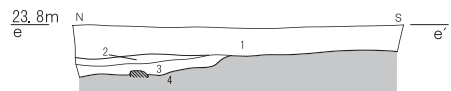
- |                                |                           |                |
|--------------------------------|---------------------------|----------------|
| 1 黒褐色土10YR2/3(表土、径1cmまでの礫含む)   | 6 同上10YR2/3(径3cmまでの礫含む)   | 2-5 堆積層        |
| 2 同上10YR3/2(径10cmまでの礫含む)       | 7 同上10YR2/3(径1cmまでの礫含む)   | 6-9 SD110701埋土 |
| 3 同上10YR2/3(径1cmまでの礫含む)        | 8 同上10YR2/3(よく締まる、地山土混じる) |                |
| 4 同上10YR2/2(径1cmまでの礫含む)        | 9 同上10YR2/3               |                |
| 5 同上10YR2/2(地山土混じる、径1cmまでの礫含む) |                           |                |



- |                                  |
|----------------------------------|
| 1 黒褐色土10YR2/3(表土)                |
| 2 同上10YR3/2(径1cmの礫多く含む)          |
| 3 同上10YR2/2(径10cmまでの礫含む)         |
| 4 同上10YR3/2(地山土少し混じる)            |
| 5 褐色粘土～褐色砂礫土10YR4/4(径10cmまでの礫含む) |



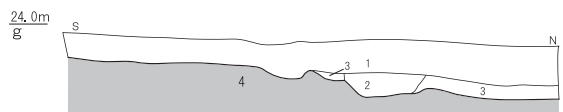
- |                                     |                                    |                  |
|-------------------------------------|------------------------------------|------------------|
| 1 黒褐色土10YR2/3(表土)                   | 7 暗褐色土10YR3/3(地山土混じる)              | 2-5 堆積層          |
| 2 同上10YR2/2(地山土小ブロック混じる、径5cmまでの礫含む) | 8 黒褐色土10YR2/2                      | 6-9 P110701埋土    |
| 3 同上10YR3/2                         | 9 同上10YR3/2                        | 10-12 SD110701埋土 |
| 4 同上10YR3/2(地山土小ブロック多く混じる)          | 10 同上10YR3/2(径1cm礫含む)              |                  |
| 5 暗褐色土10YR3/3(地山土多く混じる、径1cmまでの礫含む)  | 11 同上10YR2/2(径10cmまでの礫多く含む)        |                  |
| 6 黒褐色土10YR2/2                       | 12 同上10YR2/2(地山土混じる、径10cmまでの礫多く含む) |                  |



- |                              |
|------------------------------|
| 1 黒褐色土10YR2/3(表土)            |
| 2 暗褐色土10YR3/2(径2cmまでの礫含む)    |
| 3 黒褐色砂質土10YR3/2(粗砂含む)        |
| 4 にぶい黄褐色土10YR4/3(径1cmまでの礫含む) |



- |                   |
|-------------------|
| 1 黒褐色土10YR3/2(表土) |
| 2 同上10YR2/2       |
| 3 暗褐色砂礫土10YR3/3   |



- |                              |
|------------------------------|
| 1 黒褐色土10YR3/2(表土)            |
| 2 暗褐色土10YR3/3(炭・地山土多く混じる)    |
| 3 灰黄褐色土10YR4/2(地山土多く混じる)     |
| 4 にぶい黄褐色土10YR4/3(径1cmまでの礫含む) |

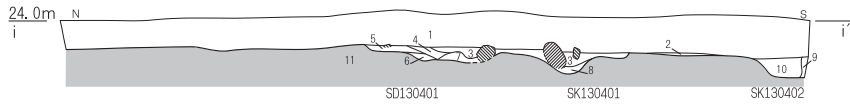


- |                   |
|-------------------|
| 1 黒褐色土10YR3/2(表土) |
|-------------------|

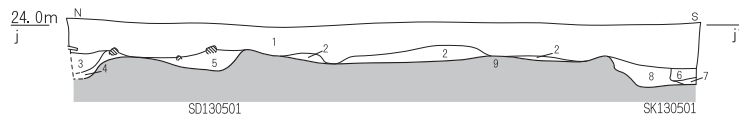
■ 地山層



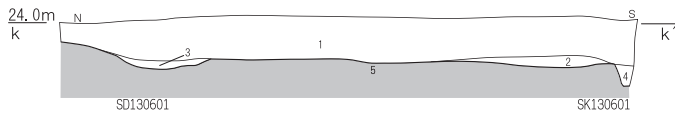
第116図 興道寺廃寺域北限土層断面図1 (縮尺1/60)



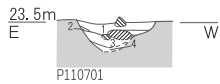
- |                            |                                  |                          |
|----------------------------|----------------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色土10YR3/2(表土)          | 7 同上10YR3/3                      | 2 堆積層                    |
| 2 暗褐色土10YR3/3              | 8 黒褐色土10YR2/3(地山土多く混じる)          | 3-8 SD130401(SD110701)埋土 |
| 3 黒褐色土10YR2/2(径10cmまでの礫含む) | 9 同上10YR2/3(地山土多く混じる)            | 9・10 SK130402埋土          |
| 4 同上10YR2/3                | 10 同上10YR2/3                     | 11 地山層                   |
| 5 暗褐色土10YR3/3(径10cmまでの礫含む) | 11 にぶい黄褐色土10YR4/3(径10cmまでの礫多く含む) |                          |
| 6 同上10YR3/3(地山土混じる)        |                                  |                          |



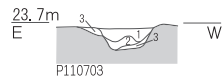
- |                              |                         |                          |
|------------------------------|-------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色土10YR3/2(表土)            | 6 同上10YR2/2(地山土ブロック混じる) | 2 堆積層                    |
| 2 同上10YR3/2(地山土多く混じる)        | 7 同上10YR2/2(地山土多く混じる)   | 3-5 SD130501(SD110701)埋土 |
| 3 同上10YR2/3(径1cmまでの礫含む)      | 8 同上10YR2/3(地山土ブロック混じる) | 6-8 SK130501埋土           |
| 4 暗褐色土10YR3/3(径5cmまでの礫多く含む)  | 9 にぶい黄褐色土10YR4/3        | 9 地山層                    |
| 5 黒褐色土10YR2/2(径10cmまでの礫多く含む) |                         |                          |



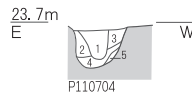
- |                               |                        |
|-------------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色土10YR3/3(耕土)             | 2 堆積層                  |
| 2 黒褐色土10YR2/3(地山土混じる)         | 3 SD110601(SD110701)埋土 |
| 3 同上10YR2/3(径10cmまでの礫含む)      | 4 SK130601埋土           |
| 4 同上10YR2/3(地山土大ブロック混じる、粗砂含む) | 5 地山層                  |
| 5 にぶい黄褐色土10YR4/3              |                        |



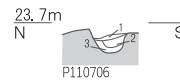
- 1 黒色土10YR1.7/1
- 2 同上10YR2/1  
(地山土細ブロック混じる)
- 3 黒褐色土10YR2/2  
(地山土細ブロック混じる)
- 4 同上10YR2/2



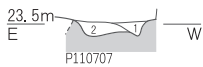
- 1 黒褐色土10YR3/2
- 2 暗褐色土10YR3/3  
(地山土細ブロック混じる)
- 3 同上10YR3/3  
(地山土細ブロック多く混じる)



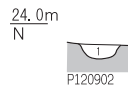
- 1 黒褐色土10YR2/2
- 2 同上10YR3/2  
(地山土細ブロック多く混じる)
- 3 同上10YR2/2(径1cmまでの礫含む)
- 4 同上2/2(粗砂・径1cmまでの礫含む)
- 5 同上10YR2/2(径1cmまでの礫含む)



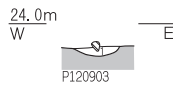
- 1 黒色土10YR1.7/1
- 2 黒褐色土10YR3/2(地山土混じる)
- 3 同上10YR2/2(地山土多く混じる)



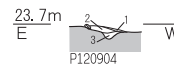
- 1 黒色土10YR2/1
- 2 黒褐色土10YR2/3  
(地山土混じる)



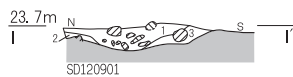
- 1 暗褐色土10YR3/3  
(径10cmまでの礫含む)



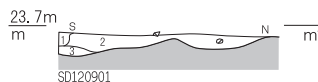
- 1 暗褐色土10YR3/3  
(径10cmまでの礫含む)



- 1 黒褐色土10YR2/3  
(地山土細ブロック混じる)
- 2 同上10YR2/3
- 3 同上10YR3/2(粗砂含む)



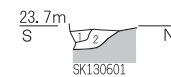
- 1 黒褐色土10YR2/2(径10cmまでの礫含む)
- 2 同上10YR3/2(地山土少し混じる)
- 3 同上10YR2/2



- 1 黒褐色土10YR3/2(径1cm礫含む)
- 2 同上10YR2/2(径10cmまでの礫多く含む)
- 3 同上10YR2/2  
(地山土混じる、径10cmまでの礫多く含む)



- 1 黒褐色土10YR2/2



- 1 黒褐色土10YR2/3
- 2 同上10YR2/3  
(地山土大ブロック混じる、粗砂含む)

■ 地山層



第117図 興道寺廃寺域北限土層断面図2 (縮尺1/60)

## H. 第13次調査5トレンチの調査

### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は24.0～24.1mである。

表土の耕作土となる黒褐色土（層厚0.15～0.3m）下、標高23.75m付近で地山面となるにぶい黄褐色土層の上面に至る。トレンチの南側では黒褐色土（層厚0.1m）からなる堆積層が地山面を薄く覆う。表土から須恵器小片1点、越前焼甕1点が破片で出土。

### ② 検出遺構の概要

地山面で溝1基（SD130501）、土坑1基（SK130501）を検出した。

### ③ 溝

SD130501は西側のSD110701、SD120901、SD130401から東に延びる溝。南北幅1.24m、最深0.23m。断面形状は不定形で、北側が深くなる。黒褐色土、暗褐色土を埋土にもち、拳大ほどの大きさの自然礫が底面から浮いた状態で分布する。埋土から畿内系の土師器盤もしくは鉢1点が破片で出土した。

### ④ 土坑

SK130501は深さ0.25m。断面形状は箱形で、黒褐色土を埋土にもつ。埋土から須恵器甕1点が破片で出土。

## I. 第13次調査6トレンチの調査

### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は24.0mである。

表土の耕作土となる暗褐色土（層厚0.15～0.35m）下、標高23.7～23.85m付近に地山面となるにぶい黄褐色土層の上面に至る。トレンチの南側で黒褐色土（層厚0.1m）からなる堆積層が地山面を薄く覆う。表土から須恵器甕2点、須恵器小片2点が破片で出土し、堆積層から須恵器小片3点、赤彩の土師器小片1点が出土した。

### ② 検出遺構の概要

地山面で溝1基（SD130601）、土坑1基（SK130601）を検出した。小穴状の攪乱が及んでいる。

### ③ 溝

SD130601は西側のSD110701、SD120901、SD130401、SD130501から延びる溝で、最終的には東西約14.9mの検出長を測る。最深0.11m、断面形状は浅い弧状で、黒褐色土を埋土にもつ。

### ④ 土坑

SK130501は深さ0.16m。断面形状は箱形で、黒褐色土を埋土にもつ。

## 第4項 寺域外北方の調査

### A. 寺域外北方の概要

古代寺院としての興道寺廃寺周辺の様相については、開発行為に伴う記録保存の調査として興道寺廃寺の北方で6世紀から9世紀までの遺構、遺物が漸続的に検出されており、興道寺廃寺に伴う諸施設、集落などが展開する可能性が予見された。

このため、興道寺廃寺の北方の様相を確認するために第9次調査で7～10 トレンチを設定して調査を行ったところ、古墳時代後期から古代にかけての竪穴建物跡、掘立柱建物跡などを検出し、興道寺廃寺の周辺では寺域外にも関連遺構が分布することが再確認された。

## B. 第9次調査7トレンチの調査

### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高はトレンチ西端で22.6m、東端で22.8mである。

表土の耕作土となる黒褐色土（層厚0.1～0.25m）下、ところどころで耕作攪乱に伴う攪乱土の黒褐色土（層厚0.1m）が分布し、標高22.5～22.7m付近で地山面となる黄褐色土層、黄褐色砂礫土層の上面に至る。

地山面には耕作に伴う耕運機のキャタピラ痕が残り、地山面自体の土壌攪拌もある。攪乱土から須恵器杯蓋（杯H蓋）1点、甕1点、土師器甕2点、瓦小片1点がいずれも破片で出土。また、トレンチ西端では深く攪乱を受け、炭・焼土が混じる耕作土の黒褐色土が二次堆積する。この攪乱部分からは摩滅した破片の須恵器甕3点が出土。

### ② 検出遺構の概要

地山面で小穴3基（P090701～P090703）が検出されている。トレンチの中央付近で第3次調査3トレンチと重複し、P030304を再検出した。

### ③ 小穴

P090701の平面形態は円形で、南北0.36m、東西0.40m、深さ0.10m。P090702の平面形態は円形で、南北検出長0.18m、東西0.30m、深さ0.23m。P090703の平面形態は円形で、南北検出長0.20m、東西0.40m、深さ0.22m。

## C. 第9次調査8トレンチの調査

### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高はトレンチ東端で22.75m、トレンチ西端で22.85mである。

表土の耕作土となる黒褐色土（層厚0.2～0.35m）下、標高22.5m付近で地山面となる褐色土層、褐色砂礫土層の上面に至る。トレンチの中央付近では耕作攪乱による地山面の土壌攪拌がある。表土から須恵器杯1点、甕1点、土師器甕5点、製塩土器2点が破片で出土した。

### ② 検出遺構の概要

地山面で竪穴建物跡2棟（SB090801・SB090802）、土坑5基（SK090801～SK090801）、溝1基（SD090801）を検出した。

### ③ 竪穴建物跡

SB090801の平面形態は隅丸方形で、南北検出長2.60m、東西検出長4.04m。建物の南側が未検出で、西側は耕作攪乱で削平を受けているため、平面規模は不明であるが、一辺4mほどの方形プランをもつものと考えられる。北東隅部はSK090802を切り、その埋土をそのまま建物床面や壁面としている。建物床面の検出は表土直下で、北東隅部付近にわずかに壁面の立ち上がりを留める。床面はほぼ全体に厚さ数cmの褐色粘土を叩き締めた貼床面が認められる。

建物北辺は溝1基(SB090801-SD1)を部分的に廻らせ、その東側に土坑1基(SB090801-SK1)をもつ。

SB090801-SD1は建物北辺に沿って東西に延び、検出長1.70m、最大幅0.40m、最小幅0.22m、深さ0.08m。溝の北側の立ち上がりは建物の壁面を構成する。暗褐色土を埋土にもつ。

SB090801-SK1の平面形態は崩れた方形で、SB090801-SD1と接するか、切り合いをもつものと思われるが、遺構の西側は未掘であり、不明である。南北0.78m、東西検出長0.42m、深さ0.09m。褐色土を埋土にもち、土師器甕3点、製塩土器1点が破片で出土。

建物の床面で2基の小穴を検出しているが、その規模は不定で総じて浅いなど、建物に伴う柱穴かはっきりしない。SB090801-P1の平面形態は崩れた円形で、南北0.46m、東西0.48m、深さ0.11m。P090802の平面形態は円形で、径0.24m、深さ0.06m。

建物床面の直上からいずれも破片でTK43~TK209型式並行期の須恵器杯(杯H蓋)4点、土師器甕1点、製塩土器5点が出土し、また建物北東隅部付近の床面埋土から須恵器小片1点、土師器甕7点、製塩土器1点が破片で出土したが、床面と表土が上下で接し、また建物の埋土も極めて薄いことから、これらの遺物が確実に竪穴建物の年代を決定するものではない。建物軸の南北方位から寺院創建期に近い時期に伴うものと考えられるが、建物が切られるSK090805の埋土に8世紀前半の土器が含まれることから、建物の時期として8世紀前後が考えられる。

SB090802はSB090801の西側に、建物軸の南北方向をほぼ合わせて並列する。平面形態は隅丸方形で、南北検出長2.89m、東西検出長3.11m。建物の北辺がさほど遠くない調査区外に位置するものと思われることから、一辺3m強ほどの正方形、もしくは南北に若干長い長方形の規模をもつものと思われる。床面の大部分は表土直下で検出され、床面に明瞭な貼り床は見られず、地山面をそのまま床面としており、床面全体が強く硬化する。建物西辺付近に厚さ0.1mほどの暗褐色砂質土からなる埋土がわずかに残る。

建物北西隅部に土坑2基(SB090802-SK1・SB090802-SK2)をもつ。SB090802-SK1の平面形態は崩れた楕円形で、南北0.70m、東西0.90m、深さ0.12m。断面形状は東側が緩やかに深くなる。暗褐色土を埋土にもち、炭・焼土がほぼ全面に密に混入する。SB090802-SK2は崩れた楕円形で、南北検出長0.80m、東西0.69m、深さ0.12m。上層の一部に炭・焼土を多く含む黒褐色土を埋土にもち、土師器甕1点、製塩土器1点(第118図1)が破片で出土した。SB090802-SK2は建物北西隅部から外側に延びており、元々は上部構造を伴うカマド施設であったものと考えられ、土坑埋土の下層に見られる地山土が混じる土壌がカマド構築に伴う底面形成の痕跡と見ることできる。一方でSB090802-SK1はカマドの機能を引き継いだ地床炉として機能したものと考えられる。

#### ④ 土坑

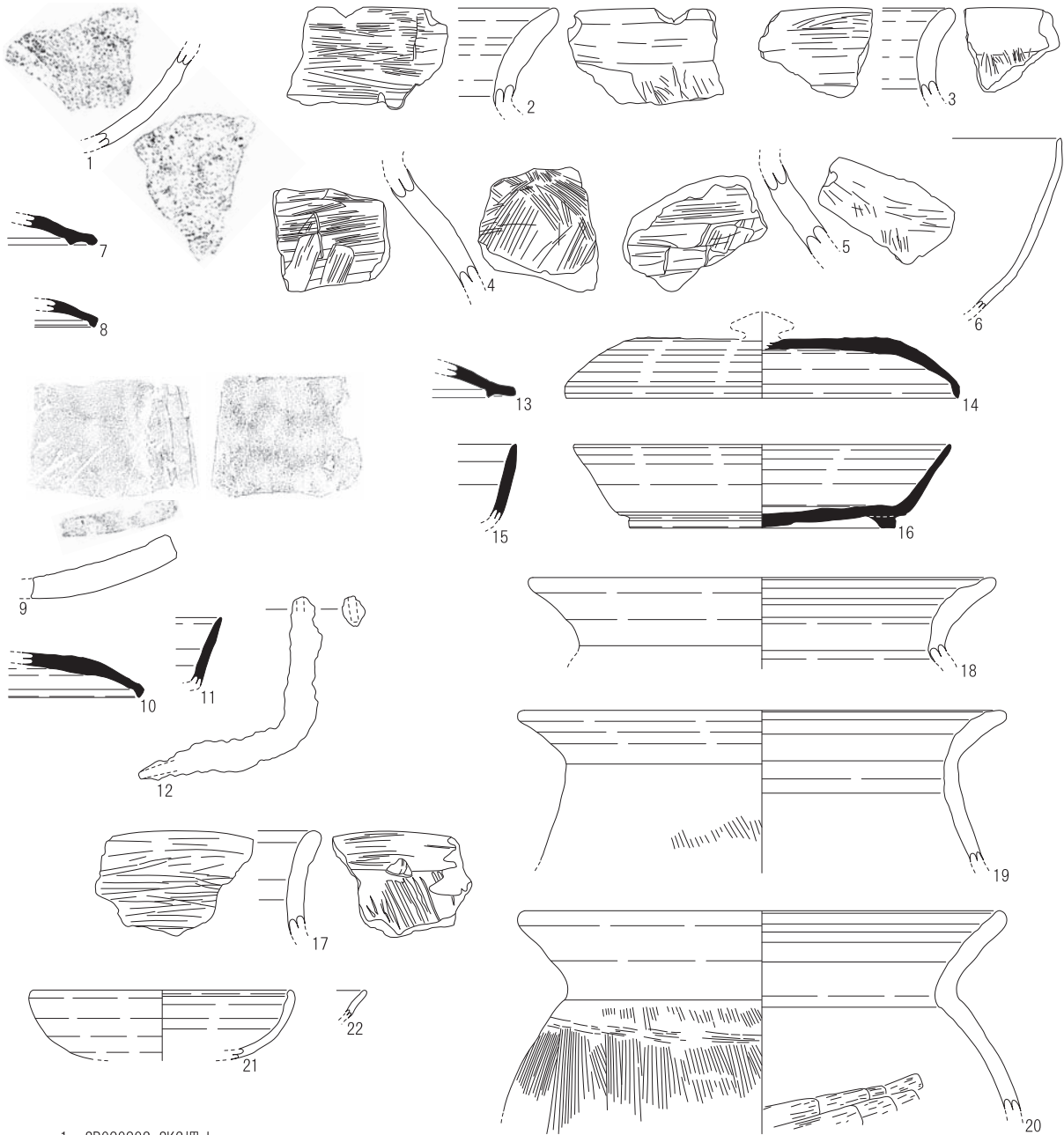
SK090801は南北検出長1.02m、東西検出長1.09m。平面形態は不明。深さ0.17m、断面形状は箱型で、底面には地山層の含有礫が露頭する。黒褐色土、黒褐色砂質土を埋土にもち、土師器甕2点が破片で出土。

SK090802は南北検出長1.50m、東西検出長1.46m。平面形態は不明。深さ0.10m、断面形状は平底で、底面には地山層の含有礫が部分的に露頭する。黒褐色土を埋土にもち、同一個体を含む土師器甕10点、製塩土器13点が破片で出土(第118図2~6)。

SK090803は崩れた円形で、南北検出長2.03m、東西検出長1.44m。深さ0.13m、断面形状は中央に向かって深くなる緩やかな弧状となる。底面の中心付近で拳大の自然礫を密に敷き並べた敷石の痕跡が検出された。底面の中央付近を一段深く掘りくぼめ、地山土が混じる暗褐色土を充填しながら礫を敷き並べたもので、その上位にブロック状の褐色土、黒褐色土を埋土にもつが、遺構自体は敷石がある状態で機能したものと思われる。敷石の構成石種は花崗岩、砂岩、チャートなど耳川流域で採集可能な在来種で、石材選択に目立った偏向性はない。敷石自体に被熱痕跡がないことから、石敷炉というより何らかの祭祀的な用途が考えられる。褐色土、黒褐色土の埋土から須恵器杯(杯H蓋)4点、杯蓋(杯G蓋)1点、杯蓋(杯B蓋)1点、土師器甕4点、製塩土器4点、平瓦2点が破片で出土した(第118図7・8)。

SK090804の平面形態は方形で、南北検出長1.39m、東西3.20m。深さ0.37m、断面形状は箱型で、中央に向かって徐々に深くなる。拳大の自然礫を含む黒褐色土を埋土にもち、須恵器杯2点、杯蓋(杯B蓋)1点、須恵器小片2点、土師器甕18点、製塩土器3点、鉄釘1点が破片で出土した(第118図9~12)。

SK090805の平面形態は円形で、南北検出長1.66m、東西3.92m。深さ0.40m、断面形状は中央に向かって緩やかに深くなる。炭・地山土が混じる黒褐色土を埋土にもち、須恵器杯蓋(杯H蓋)4点、杯蓋(杯G蓋)1点、杯(杯B)2点、杯蓋(杯B蓋)1点、杯(杯A)1点、甕2点、壺2点、須恵器小片7点、土師器甕32点、皿3点、無段式丸瓦1点が破片で出土した(第118図13~22)。8世紀の土器が多いが、13世紀代に伴う土師器皿も見られる。



- 1 SB090802-SK2埋土
- 2~6 SK090802埋土
- 7・8 SK090803埋土
- 9~12 SK090804埋土
- 13~23 SK090805埋土

0 10cm  
(縮尺1/3)

第118図 興道寺廃寺第9次調査8トレンチ出土遺物実測図



## ⑤ 溝

SD090801 は南北に延び、東西最大幅 0.68m、深さ最深 0.28m。断面形状は崩れた弧状で、耕作土と同種の黒褐色土を埋土にもち、須恵器甕 3 点、須恵器小片 1 点、土師器杯 1 点、甕 1 点、平瓦 2 点が破片で出土した。総じて古代の土器が出土しているが、遺構自体は近世以後の耕作に伴うもので、出土遺物は周辺遺構の削平に伴う混入とみられる。

## ⑥ 出土遺物

第 118 図 1 は SB090802-SK1 埋土、2～6 は SK090802 埋土、7・8 は SK090803 埋土、9～12 は SK090804 埋土、13～22 は SK090805 埋土から出土した。

1 は製塩土器。丸底をなす底部から体部が丸みを帯びて立ち上がる。外面は指押さえによる指頭圧痕と粘土紐積み上げ痕をわずかに留め、内面は丁寧な横ナデを施す。

2～5 は土師器甕。2 の口縁部は緩やかに外反し、3 の口縁部は外方に強く屈曲する。2・3 ともに頸部外面に細かい縦刷毛、口縁部内面に刷毛状工具による強い横ナデを施すが、3 はさらに丁寧な横ナデにより線条をナデ消す。4・5 は頸部から緩やかに胴部へと至り、4 の胴部外面は縦方向に細かい刷毛目を交差させ、内面は横方向に削りを施し、加えて一部を左下方に削る。5 の胴部外面は縦方向に細かい刷毛目を施し、胴部内面に横方向の削りを施した後、頸部付近に横方向に刷毛目を加える。

6 は製塩土器。体部から丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は上方に延びた後、口縁端部を鋭く収める。外面に不定方向に弱いナデを施し、指頭圧痕をわずかに留める。半須恵質を呈する。

7 は須恵器杯蓋（杯 G 蓋）。器高は低く、口縁端部を肥厚させて丸く収め、返りは鈍い。8 は須恵器杯蓋（杯 B 蓋）。器高はさほど高くなく、口縁端部を鈍く折り返して、丸く収める。

9 は平瓦。凸面は横ナデを施した後に縦ナデを加え、凹面は模骨痕を留める。

10 は須恵器杯蓋（杯 B 蓋）。天井部はやや平坦で、口縁端部を鋭く収める。11 は須恵器杯（杯 B）。口縁部は上方に立ち上がり、口縁端部を鋭く収める。

12 は鉄釘。基部が折れ曲がる。著しい腐食のため、はっきりしないが、断面は長方形を呈する。

13 は須恵器杯蓋（杯 B 蓋）。口縁端部は厚く丸く収め、返りは短く鋭い。14 は須恵器杯蓋（杯 B 蓋）。器高は高く、天井部外面に回転ヘラ削りを施す。口縁端部はやや肥厚するが、鋭く収める。15 は須恵器杯（杯 A）。口縁部は上方に立ち上がり、口縁端部は鈍く収める。16 は須恵器杯（杯 B）。口径に比して器高はやや低く、口縁部を外方に引き伸ばした後、口縁端部を鋭く収める。底部外面はヘラ切り後、未調整であり、高台は高く、外方に張る。

17～20 は土師器甕。17 の口縁部は上方に短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。頸部付近の外面に縦方向の粗い刷毛目を、口縁部から頸部にかけての内面には横方向に粗い刷毛目を施す。18 の口縁部は外方に強く外反し、口縁端部を鋭く収める。口縁部内面は 3 条の凹面をなす。19 は口縁部が短く外方に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。口縁部内面に 3 条の凹面が残るが、幅は狭い。胴部外面にわずかに縦方向の刷毛目残り、胴部内面は横方向の削りの痕跡をかるうじて確認できる。20 は口縁部がくの字状に外方に真っすぐ立ち上がり、口縁端部を丸く収める。口縁部内面は浅い 3 条の凹面をなすが、横方向の丁寧なナデによって痕跡を留めるのみである。頸部内外面は横方向に強くナデを施す。胴部外面は縦方向に密な刷毛目を施し、胴部内面は横方向に強い削りを施すが、頸部から下方約 5 cm までの範囲は丁寧なナデによって削りをナデ消す。

21・22 は土師器碗。21 は口縁部が内彎して短く立ち上がり、口縁端部を玉状に肥厚させて丸く収める。口縁部は内外面ともに横方向に丁寧なナデを施し、底部外面は不定方向に弱いナデを施すが、底部内面は中心に向かって強いナデを施す。22 は口縁端部を玉状に丸く収めるが、器壁は薄い。

## D. 第9次調査9トレンチの調査

### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は22.7mである。

表土の耕作土となる黒褐色土(層厚0.2~0.3m)下、標高22.4m付近で地山面となる褐色土層の上面に至る。

### ② 検出遺構の概要

地山面で土坑4基(SK090901~SK090904)、柱穴列2基(SA090901・SA090902)、柱穴・小穴7基(P090901~P090907)を検出した。トレンチの南側に耕作攪乱が及んでいる。

### ③ 土坑

SK090901の平面形態は崩れた楕円形で、南北検出長1.29m、東西検出長1.20m、深さ0.16m。断面形状は緩やかな弧状で、中心に向かって深くなる。黒褐色土、暗褐色土を埋土にもち、床面から少し浮いた状態で上層の黒褐色土層から須恵器横瓶1個体が潰れた状況で出土した(第119図1)。ただし、下層から無段式丸瓦1点が出土しており、須恵器横瓶は二次的移動を受けて、この土坑上で埋没したものと考えられる。他に須恵器小片2点、土師器甕1点、赤彩の土師器小片1点、製塩土器6点、越前焼甕1点が出土。

SK090902は崩れた楕円形で、南北検出長1.36m、東西0.95m、深さ0.09m。断面形状は緩やかな弧状で、黒褐色土を埋土にもつ。

SK090903の平面形態は崩れた長楕円形で、南東—北西1.30m、南西—北東0.64m、深さ0.22m。断面形状は船底状で、南東側が一段深い。黒褐色土を埋土にもち、破片で製塩土器1点が出土。

SK090904は崩れた楕円形で、南北検出長1.04m、東西0.86m、深さ0.18m。断面形状は緩やかな弧状で、東側が深くなる。黒褐色土、明褐色土を埋土にもち、土師器甕1点、製塩土器3点が破片で出土。

攪乱坑から近現代のゴミに混じって須恵器杯(杯H蓋)1点、甕1点、土師器碗1点、甕10点、製塩土器3点が破片で出土。

### ④ 柱穴列

P090904、P090907、第9次調査10トレンチ検出のP091003、P091005の4基の柱穴で柱穴列SA091001を構成する。SA090901の南北の柱筋の柱間は2.1m前後、柱穴の掘り方の径はやや大きい、底面まで総じて浅い。黒褐色土、暗褐色土を埋土にもつ。

P090901、P090902、第9次調査10トレンチ検出のP091001、P091002の4基の柱穴で柱穴列SA091002を構成する。SA090902の南北の柱筋の柱間は1.8m前後、柱穴の掘り方の径はやや大きく、底面まで一定の深さがある。

柱穴埋土出土遺物の年代から、ともに6世紀後半から7世紀前半に伴う時期と考えられる。

### ⑤ 柱穴・小穴

P090904、P090907は柱穴列SA091001の一部を構成する。

P090904の平面形態は円形で、南北検出長0.50m、東西検出長0.44m、深さ0.15m。P090907の平面形態は崩れた円形で、南北0.64m、東西0.62m、深さ0.13m。埋土から土師器甕3点、製塩土器1点が破片で出土。

P090901、P090902は柱穴列SA091002の一部を構成する。

P090901の平面形態は崩れた円形で、南北0.61m、東西0.70m、深さ0.20m。埋土から土師器甕1点、製塩土器1点が破片で出土。P090902の平面形態は楕円形で、南北0.60m、東西0.72m、深さ0.24m。

それ以外の柱穴、小穴を以下に列記する。

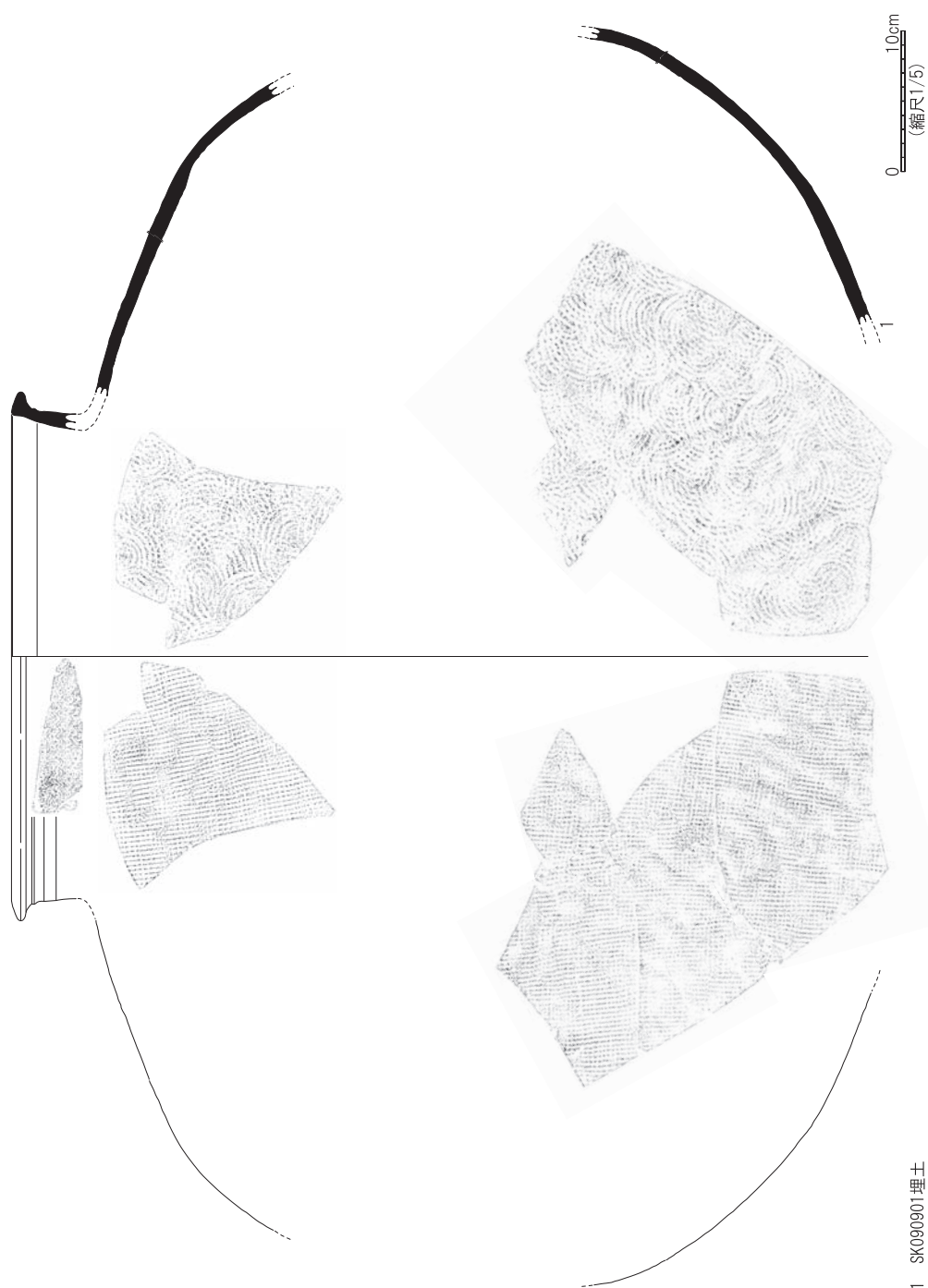
P090903の平面形態は崩れた円形で、南北0.40m、東西0.52m、深さ0.14m。P090905の平面形態は円形で、南北0.42m、東西0.38m、深さ0.15m。P090906の平面形態は崩れた楕円形で、南北0.50m、東

西検出長 0.64m、深さ 0.30m。

⑥ 出土遺物

第 119 図 1 は SK090901 埋土から出土。

1 は須恵器横瓶。破片数 57 点で同一個体を構成する。口縁部は上方にまっすぐ立ち上がり、口縁端部を外方に肥厚させる。口縁端部直下の外面に一条の突帯をもち、口縁部外面に細かい波状文を施す。胴部中位付近に最大径をもつ。胴底部外面は格子叩きを施し、内面は当て具痕を留める。

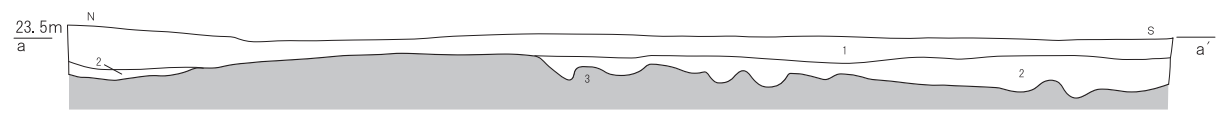
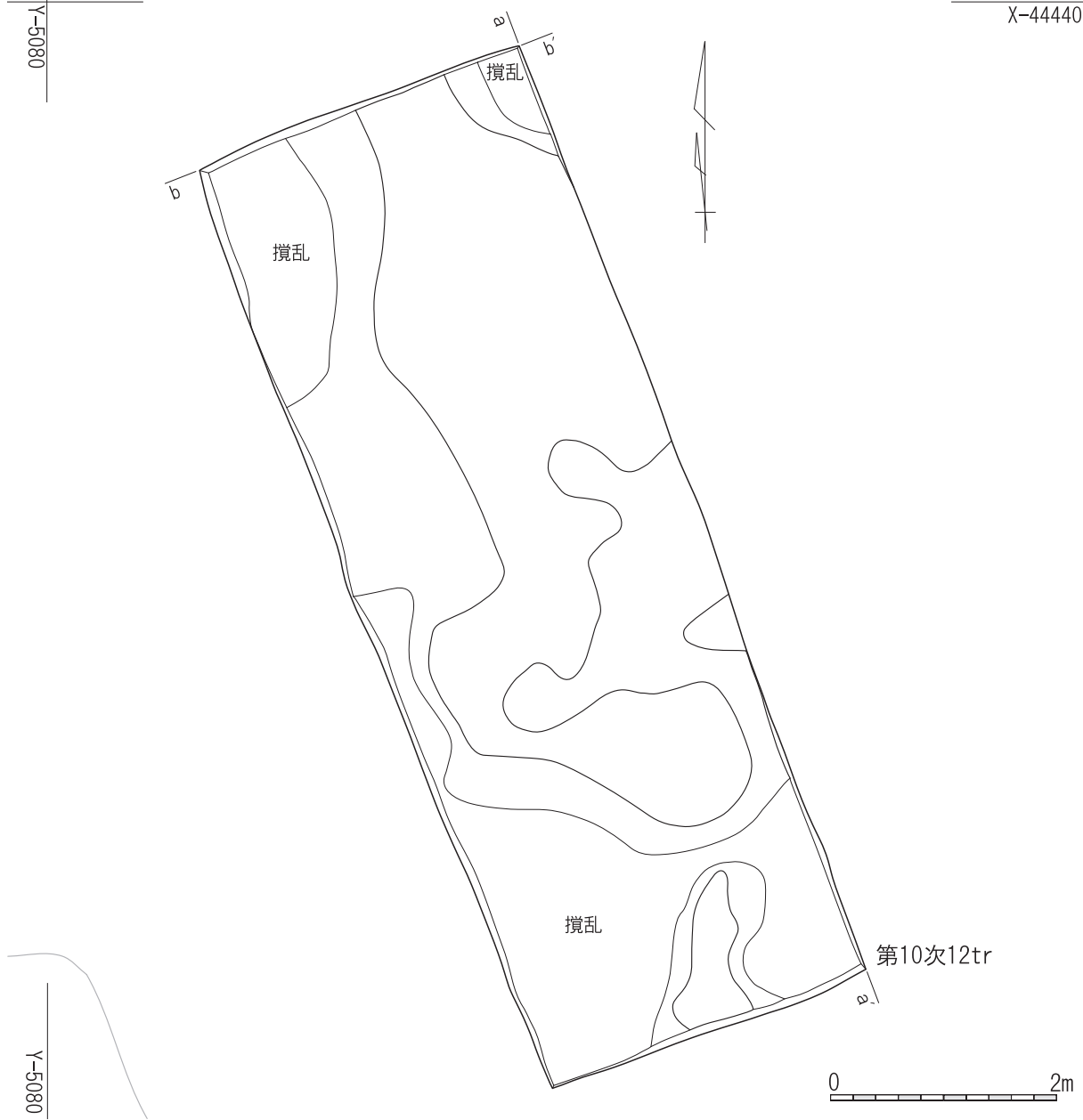


第 119 図 興道寺廃寺第 9 次調査 9 トレンチ出土遺物実測図

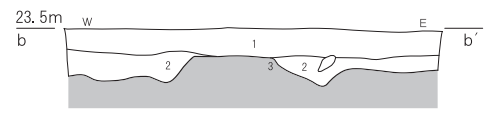
1 SK090901 埋土

X-44440  
Y-5080

X-44440



- 1 黒褐色土10YR3/2(耕土)
- 2 同上10YR3/2(攪乱土、地山土多く混じる)
- 3 黄褐色土10YR5/6(地山土)



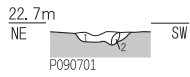
- 1 黒褐色土10YR3/2(耕土)
- 2 同上10YR3/2(攪乱土、地山土多く混じる)
- 3 黄褐色土10YR5/6(地山土)

■ 地山層

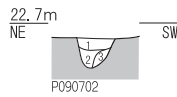


第120図 興道寺廃寺寺域外北方遺構平面図2 (縮尺1/60)

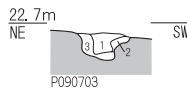




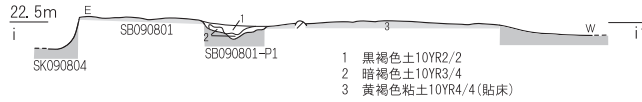
- 1 黒褐色土10YR2/3
- 2 褐色砂質土10YR4/4  
(地山土細ブロック・粗砂主体)



- 1 黒褐色土10YR2/3  
(地山土細ブロック若干混じる)
- 2 同上10YR3/2(地山土多く混じる)
- 3 同上10YR2/2



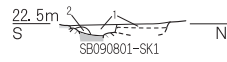
- 1 黒褐色土10YR2/2(地山土多く混じる)
- 2 黒色土10YR2/1  
(地山土細ブロック若干混じる)
- 3 同上10YR2/1



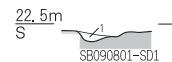
- 1 黒褐色土10YR2/2
- 2 暗褐色土10YR3/4
- 3 黄褐色粘土10YR4/4(粘床)



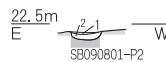
- 1 暗褐色土10YR3/3



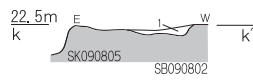
- 1 暗褐色土10YR3/3  
(地山土細ブロック多く混じる)
- 2 同上10YR3/3



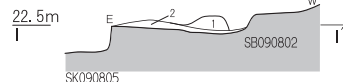
- 1 暗褐色土10YR3/3



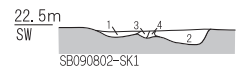
- 1 黒褐色土10YR2/2
- 2 暗褐色砂礫土10YR3/4(径2cmまでの礫若干含む)



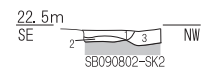
- 1 暗褐色砂質土  
(地山土細ブロック混じる)



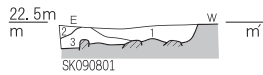
- 1 暗褐色砂質土10YR3/3
- 2 同上10YR3/3(地山土細ブロック混じる)



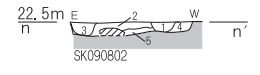
- 1 暗褐色土10YR3/3(炭・焼土混じる)
- 2 同上7.5YR3/3(炭・焼土混じる)
- 3 同上7.5YR3/4(焼土ブロック)
- 4 黒褐色土10YR2/3



- 1 黒褐色土10YR2/3  
(炭・焼土混じる)
- 2 暗褐色砂質土10YR3/3
- 3 暗褐色土10YR3/3  
(地山土細ブロック混じる)



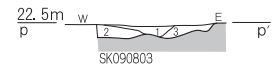
- 1 黒褐色土10YR2/2(よく締まる)
- 2 同上10YR2/2  
(よく締まる、地山土混じる)
- 3 同上10YR2/3  
(よく締まる、地山土若干混じる)



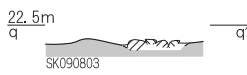
- 1 黒色土10YR1.7/1
- 2 同上10YR2/1
- 3 黒褐色土10YR2/3  
(地山土細ブロック多く混じる)
- 4 黒色土10YR1.7/1
- 5 黒褐色土10YR2/2(地山土若干混じる)



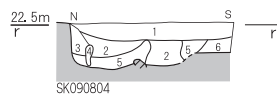
- 1 黒褐色土10YR2/2
- 2 同上10YR3/2(地山土細ブロック少し混じる)
- 3 同上10YR2/3(地山土細ブロック若干混じる)
- 4 暗褐色土10YR3/3(地山土ブロック混じる)



- 1 黒褐色土10YR2/3  
(地山土細ブロック若干混じる)
- 2 同上10YR3/2  
(地山土細ブロック少し混じる)
- 3 褐色土10YR4/4



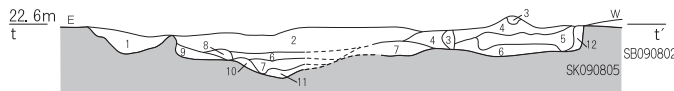
- 1 黒褐色土10YR2/2(炭混じる)
- 2 同上10YR2/2
- 3 同上10YR2/3
- 4 同上10YR3/2(地山土混じる)
- 5 黒褐色砂質土10YR3/2(細砂主体)
- 6 黒褐色土10YR3/2  
(よく締まる、地山土細ブロック若干混じる)



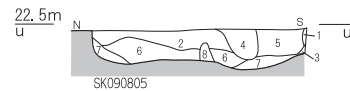
- 1 黒褐色土10YR2/2(炭混じる)
- 2 同上10YR2/2(よく締まる、地山土細ブロック若干混じる)
- 3 同上10YR3/2(よく締まる)
- 4 同上10YR3/2(よく締まる、地山土細ブロック若干混じる)
- 5 同上10YR2/2(地山土多く混じる)
- 6 同上10YR2/2(よく締まる、地山土混じる)
- 7 黒色土10YR2/1(よく締まる、地山土細ブロック若干混じる)



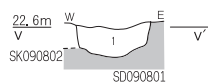
- 1 黒褐色土10YR2/2(炭混じる)
- 2 同上10YR2/2(よく締まる、地山土細ブロック若干混じる)
- 3 同上10YR3/2(よく締まる)
- 4 同上10YR3/2(よく締まる、地山土細ブロック若干混じる)
- 5 同上10YR2/2(地山土多く混じる)
- 6 同上10YR2/2(よく締まる、地山土混じる)
- 7 黒色土10YR2/1(よく締まる、地山土細ブロック若干混じる)



- 1 黒褐色土10YR3/2(耕土)
- 2 同上10YR3/2(地山土細ブロック若干混じる)
- 3 同上10YR3/2(地山土多く混じる)
- 4 同上10YR3/2(炭混じる、粗砂含む)
- 5 同上10YR3/2(よく締まる、地山土多く混じる)
- 6 同上10YR2/3
- 7 同上10YR3/2(地山土多く混じる)
- 8 黒褐色砂質土10YR3/2(細砂主体、地山土混じる)
- 9 黒褐色土10YR3/2
- 10 同上10YR3/2(地山土若干混じる)
- 11 黒褐色砂質土(細砂主体)
- 12 暗褐色砂質土10YR3/4(細砂主体)



- 1 黒褐色土10YR3/2(地山土細ブロック若干混じる)
- 2 同上10YR3/2(炭混じる、粗砂含む)
- 3 同上10YR3/2(地山土多く混じる)
- 4 同上10YR2/2
- 5 同上10YR2/3(地山土多く混じる)
- 6 同上10YR3/2(地山土細ブロック若干混じる)
- 7 暗褐色砂質土10YR3/4(細砂主体)
- 8 褐色細砂10YR4/4



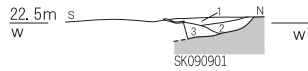
- 1 黒褐色土10YR3/2  
(地山土細ブロック混じる)

■ 竪穴建物粘床  
■ 地山層



第122図 興道寺廃寺域外北方土層断面図2 (縮尺1/60)

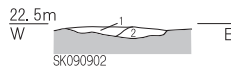




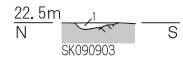
- 1 黒褐色土10YR2/3  
(よく締まる、地山土細ブロック・炭混じる)
- 2 同上10YR2/3(須恵器出土層)
- 3 暗褐色土10YR3/3(よく締まる)



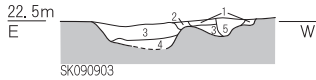
- 1 黒褐色土10YR2/3(須恵器出土層)
- 2 暗褐色土10YR3/4(よく締まる)



- 1 黒褐色土10YR3/2
- 2 同上10YR3/2(地山土細ブロック混じる)



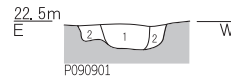
- 1 黒褐色土10YR2/3  
(地山土細ブロック混じる)



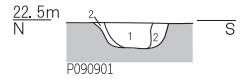
- 1 暗褐色土10YR3/3  
(地山土細ブロック混じる)
- 2 黒褐色土10YR2/3(地山土細ブロック混じる)
- 3 同上10YR3/2(地山土細ブロック混じる)
- 4 黒褐色砂礫土10YR3/2
- 5 黒褐色土10YR2/3



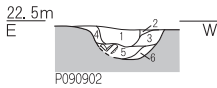
- 1 黒褐色土10YR3/2(地山土微細ブロック混じる)
- 2 暗褐色土10YR3/3(よく締まる、地山土混じる)
- 3 同上10YR3/3(地山土細ブロック多く混じる)
- 4 黒褐色土10YR2/3(遺物混じる)



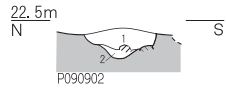
- 1 黒褐色土10YR2/3  
(地山土細ブロック若干混じる)
- 2 同上10YR2/2(地山土若干混じる)



- 1 黒褐色土10YR2/3  
(地山土細ブロック若干混じる)
- 2 同上10YR2/2(地山土若干混じる)



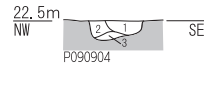
- 1 黒褐色土10YR2/3  
(地山土細ブロック若干混じる)
- 2 同上10YR2/2(地山土若干混じる)
- 3 同上10YR2/2
- 4 褐色土10YR4/4(地山土混じる)
- 5 黒褐色土10YR2/3
- 6 同上10YR2/2



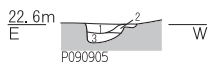
- 1 黒褐色土10YR2/3  
(地山土細ブロック若干混じる)
- 2 同上10YR2/3



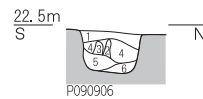
- 1 黒褐色土10YR3/2
- 2 暗褐色土10YR3/3
- 3 同上10YR3/4  
(よく締まる、地山土細ブロック混じる)



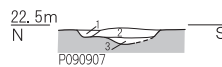
- 1 暗褐色土10YR3/3(地山土細ブロック・炭混じる)
- 2 黒褐色土10YR2/3
- 3 同上10YR3/2(地山土細ブロック混じる)



- 1 暗褐色土10YR3/3  
(地山土ブロック少し混じる)
- 2 同上10YR3/4  
(よく締まる、地山土多く混じる)
- 3 同上10YR3/4  
(地山土ブロック少し混じる)



- 1 暗褐色土10YR3/3(地山土混じる)
- 2 黒褐色土10YR2/3
- 3 黄褐色土10YR5/6(地山土ブロック)
- 4 黒褐色砂質土10YR3/2(地山土細ブロック混じる)
- 5 暗褐色砂質土10YR3/3(地山土多く混じる)
- 6 暗褐色土10YR3/4(地山土混じる)



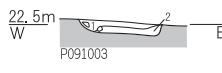
- 1 黒褐色土10YR2/3(地山土混じる)
- 2 同上10YR2/2(遺物混じる)
- 3 同上10YR3/2(地山土混じる)



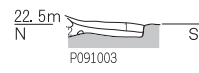
- 1 黒褐色土10YR2/3(炭混じる)
- 2 暗褐色土10YR3/3



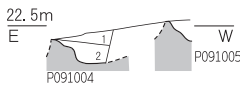
- 1 黒褐色土10YR2/3(炭混じる)
- 2 同上10YR3/2(地山土若干混じる)



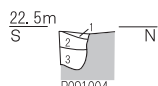
- 1 黒褐色土10YR2/3(よく締まる、炭混じる)
- 2 同上10YR3/2(地山土若干混じる)



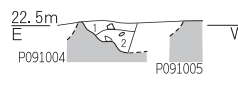
- 1 黒褐色土10YR2/3(よく締まる、炭混じる)
- 2 同上10YR3/2(地山土若干混じる)



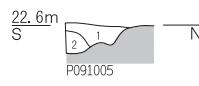
- 1 黒褐色土10YR2/3(炭混じる)
- 2 同上10YR3/2(粗砂若干含む)



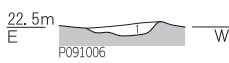
- 1 黒褐色土10YR2/3  
(地山土細ブロック多く混じる)
- 2 同上10YR2/3(炭混じる)
- 3 同上10YR3/2(粗砂若干含む)



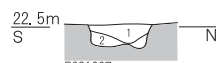
- 1 黒褐色土10YR3/2  
(地山土細ブロック多く混じる)
- 2 同上10YR3/2(径5cmまでの礫若干含む)



- 1 黒褐色土10YR3/2(地山土細ブロック多く混じる)
- 2 同上10YR3/2(径5cmまでの礫若干含む)



- 1 黒褐色土10YR3/2  
(地山土細ブロック・炭若干混じる)



- 1 黒褐色土10YR2/3(炭混じる)
- 2 同上10YR2/3(地山土若干混じる)

■ 地山層



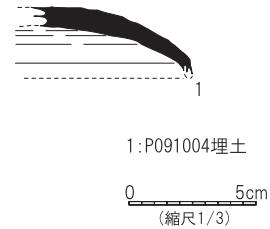
第123図 興道寺廃寺域外北方土層断面図3 (縮尺1/60)

## E. 第9次調査 10 トレンチの調査

### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は22.7～22.8mである。

表土の耕作土となる黒褐色土（層厚0.2～0.3m）下、標高22.5～22.6m付近で地山面となる暗褐色土層の上面に至る。



第124図 興道寺廃寺第9次調査  
10 トレンチ出土遺物実測図

### ② 検出遺構の概要

地山面で柱穴列2基（SA091001・SA091002）、柱穴・小穴7基（P091001～P091007）を検出した。

### ③ 柱穴列

P091003、P091005 と第9次調査9 トレンチ検出のP090904、P090907 の4基の柱穴で柱穴列SA091001を構成し、P091001、P091002 と第9次調査9 トレンチ検出のP090901、P090902 の4基の柱穴で柱穴列SA091002を構成する。

### ④ 柱穴・小穴

P091003、P091005 は柱穴列SA091001を構成する。

P091003 の平面形態は隅丸方形で、南北検出長0.61m、東西0.69m、深さ0.10m。P091005 の平面形態は円形で、南北検出長0.50m、東西0.81m、深さ0.24m。埋土から土師器甕1点が破片で出土。

P091001、P091002 は柱穴列SA091002を構成する。

P091001 の平面形態は円形で、南北検出長0.22m、東西0.50m、深さ0.22m。埋土から須恵器甕1点が破片で出土。P091002 の平面形態は楕円形で、南北検出長0.40m、東西0.46m、深さ0.12m。

それ以外の柱穴、小穴を以下に列記する。

P091004 の平面形態は崩れた円形で、南北検出長0.26m、東西検出長0.84m、深さ0.26m。埋土から須恵器杯（杯B蓋）1点、土師器甕1点が破片で出土（第124図1）。P091006 の平面形態は崩れた円形で、南北0.40m、東西0.56m、深さ0.10m。P091007 の平面形態は楕円形で、南北0.51m、東西0.64m、深さ0.17m。

### ⑤ 出土遺物

第124図1はP091004埋土から出土。

1は須恵器杯蓋（杯B蓋）。器高が低く、天井部外面に回転ヘラ削りを施す。

## F. 第10次調査 12 トレンチの調査

### ① 基本層序

調査地は畑地で、地表面の標高は23.5～23.6mである。表土の耕作土となる黒褐色土（層厚0.1～0.3m）下、標高23.3～23.4m付近で地山面となる黄褐色土層の上面に至る。

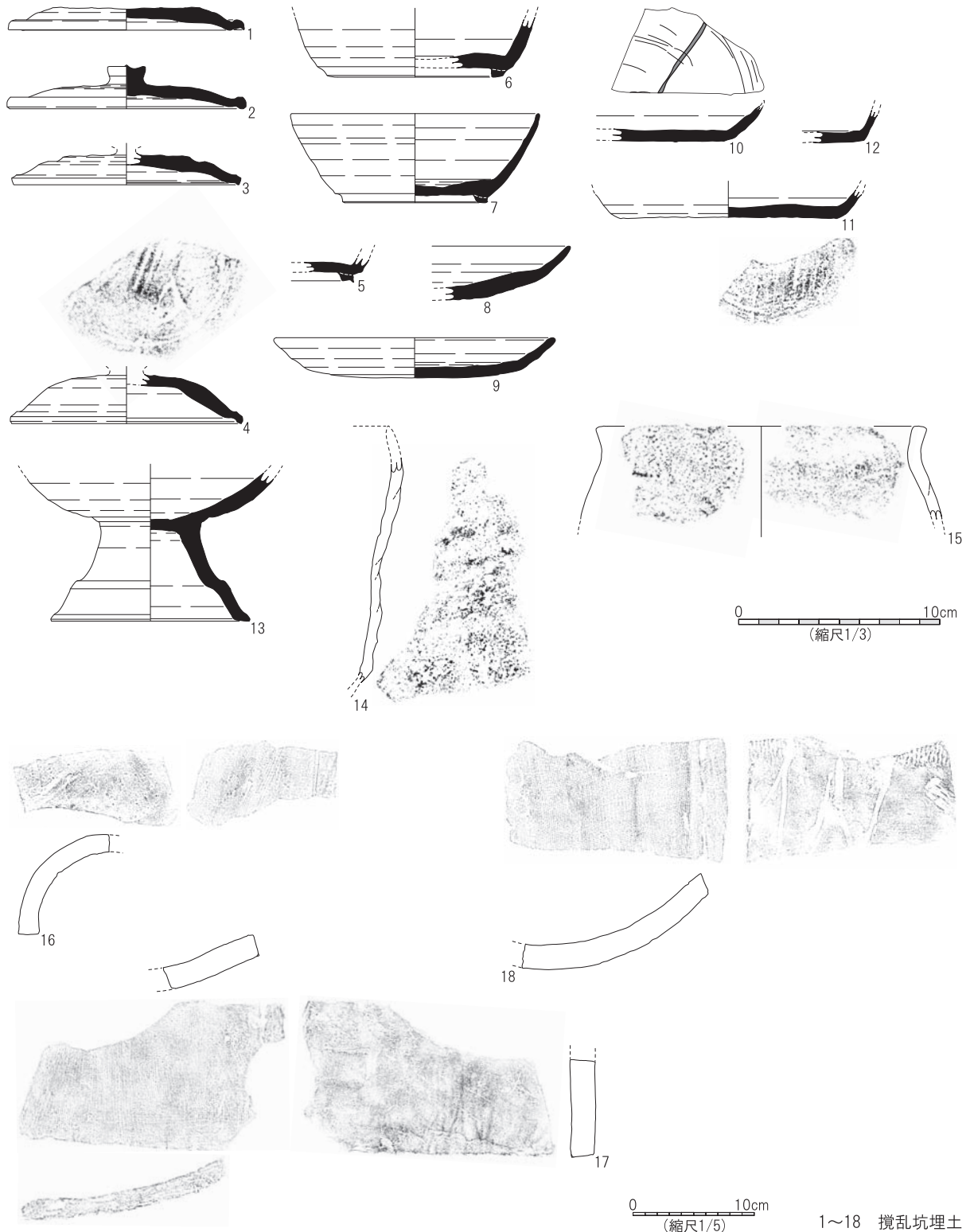
### ② 検出遺構の概要

地山面の大部分に耕作攪乱が及んでいる。攪乱坑の埋土から須恵器杯蓋（杯B蓋）11点、杯（杯B）16点、皿14点、椀1点、高杯1点、壺2点、須恵器小片13点、製塩土器34点、土師器甕10点、無段式丸瓦4点、平瓦10点が破片で出土し（第125図1～18）、付近に9世紀前後の遺構が分布している可能性が高い。

③ 出土遺物

第125図1～18は攪乱坑埋土から出土。

1～4は須恵器杯蓋（杯B蓋）。1の復元口径は11.7cm。器高は1.4cmと低く、無鈕である。口縁部は横に短く引き出した後、口縁端部を鋭く下方に折り返す。天井部外面に回転ヘラ削りを施す。口縁部内外面に強い横ナデを施し、口縁端部付近に沈線が巡る。2の復元口径11.6cm、器高2.1cm。小ぶりの鈕をもち、口縁部を外方に引き出した後、口縁端部を鈍く下方に折り返す。3の復元口径11.2cm。口縁部を外方に弱く折り返した後、



第125図 興道寺廃寺第10次調査12トレンチ出土遺物実測図

口縁端部を薄く、鋭く下方に折り返す。天井部と口縁部の境の外面に幅の広い沈線を廻らす。4の復元口径11.4 cm。器高は高く、口縁部を外方に引き出した後、口縁端部を下方に鈍く折り返す。天井部外面は回転ヘラ削りの後、平行叩きを施す。

5～7は須恵器杯(杯B)。5の底部外縁のやや内側に鋭い高台を張り付ける。6の口縁部は上方に内彎しながら立ち上がる。底部外縁に沿って、低い高台を張り付ける。7の復元口径12.3 cm。全体的に器壁が薄く、口縁部は上外方に向けて緩やかに立ち上がり、口縁端部を鋭く収める。底部外縁に沿ってやや外に張り出す低い高台を張り付ける。

8～11は須恵器皿。9の復元口径13.8 cm。8・9の口縁部は丸みを帯びて外方に立ち上がり、8の口縁端部は鋭く、9の口縁部は丸く収める。ともに底部外面はヘラ削り未調整である。10・11は平底の底部から口縁部が外方に短く延びる。10の底部外面には薄く線状の墨書を留め、11の底部外面には平行叩きを施す。

12は椀状をなす容器で、平底の底部から口縁部が上方に強く折れて立ち上がる。底部外面に静止糸切り痕を留める。13は須恵器高杯。復元脚端径9.8 cm、復元基部径7.8 cm。脚部の裾部でいったん外に開き、さらに脚端部を下外方に鋭く引き出す。杯部は内彎しながら立ち上がる。

14・15は製塩土器。14は丸底深椀状の器形を呈する。体部外面は指頭圧痕を留め、体部内面は弱い横ナデを施す。15は甕形を呈し、復元口径15.5 cm。口縁部はやや外反し、口縁端部に面をもつ。体部外面は粘土紐積み上げ痕を留め、体部内面に強い横ナデを施す。

16は無段式丸瓦。凸面は横ナデを施す。

17・18は平瓦。17の凸面は横ナデを施し、凹面にわずかに模骨痕を留める。18の凸面は縄叩きを施した後、部分的に横ナデを加える。凹面には模骨痕が残る。

## 第6節 総括

### 第1項 興道寺廃寺の伽藍域と寺域

#### A. 第8次調査までの興道寺廃寺の伽藍域、寺域

興道寺廃寺の伽藍配置とその規模に関して、『2007年報告』では塔と金堂が東西に並び、その南方に中門が位置することから「法起寺式」あるいは「観世音寺式」といった伽藍配置を想定したが、金堂基壇の南辺と北辺の位置が不明であったことから、そのいずれかへの結論付けは留保した。また、中門基壇の南北軸の方位が金堂、塔基壇と大きく異なり、基壇積み土に瓦、銭貨が含まれることから伽藍の整備に複数時期が存在した可能性を示唆した。中心伽藍の規模については南北約70mの規模を想定したが、講堂基壇が未検出であった状況を考えれば、その具体的な根拠は乏しい。また、寺域の四至および規模について具体的に報告されることもなかった。

第9次調査以後の成果を踏まえて、第5表、第126・129・130図に示すとおり、寺院創建期、再建期の2時期の段階の伽藍域、寺域の様相を確認する。

#### B. 寺院創建期の伽藍域、寺域

伽藍域に関しては、金堂、塔、講堂の各基壇、伽藍北限に伴う東西溝を検出した。金堂・塔基壇の南北軸の方位は座標北から6度西偏するが、建立時期が金堂、塔などから遅れるものと考えられる講堂基壇の南北軸の方位は座標北から10度西偏するものと考えられる。便宜上、前者に伴う時期を創建1期、後者に伴う時期を創建2期と呼称する。創建2期段階の伽藍域は中門基壇推定位置と講堂基壇との中心間の距離で約51mとなる。

創建期の建物基壇は標高24.0m前後の高さに基壇基底部分分布する傾向があり、言うなれば設計GLのような基準がこの高さにありそうである。また、特に金堂・塔基壇では、おそらく全体的な掘込地業による地山層の掘削が見られ、基壇部分を掘り残して基壇状とし、その縁辺部分は溝の底面としてそのまま残し、基壇の外側は盛土による整地を施すといった構築上の特徴がある。

金堂基壇の規模は東西約16.8m、南北約13.8m。再建期の基壇積み土に埋め殺された縁辺に外装の痕跡は認められないが、石積みを再建期に再利用した可能性は考えられる。基壇の縁辺には地山層を削り出して基壇の縁辺を造り出すように基壇の周囲に掘込地業を施し、縁辺部分をそのまま溝として残し、その外側に整地を施している。基壇積み土は地山層の上はかなり精緻な版築を施している。塔基壇の規模は一辺12.0m、基壇の西側では金堂基壇と同様に地山層を削り出して基壇縁辺を造り、溝として残しながら外側に整地を施す。基壇の東側は溝を掘削することで基壇内外を区画するようである。外装は不明。

講堂基壇は東西約18.0m、南北約12.0mに復元できる。北側と東側は基壇縁辺付近に掘込地業を施した後、その底面から基壇積み土を盛土しながら、基壇縁辺をそのまま溝とし、北側ではその外側に整地を施している。一方、基壇の南側ではおそらく地山層あるいは創建期金堂基壇北側の整地面の上に黄褐色系の良質な粘土、粘質土を用いて整地し、その上部に基壇の積み土を載せている。基壇西側でこの整地面に据えた西辺石積みの基底石と考えられるものが検出されているが、これ以外に外装に関する情報は無い。

金堂、講堂ともに礎石、据え付け掘り方ともに失われ、建物の構造は不明であるが、塔初層の柱間については中央間3.0m、脇間1.8mが想定され、『2007年報告』と若干数値が異なる。伽藍域の四至については推定中門基壇、講堂基壇の位置から南北辺を考えるしかないが、推定中門基壇の東側、あるいは塔基壇の東側で回廊状施設が未検出である。講堂北辺から東に向かって延び、東の段丘崖に排水を行つたと考えられる溝3が排水溝に留まらず、伽藍内外を区画する施設として機能したのと考えれば、創建期の伽藍区画施設は未発達であったものと考えられる。

寺城南限に関して、南門基壇が未検出であるが、再建期南門基壇の下層で南北に並列する東西溝2条を検出し、溝間の地山面に盛土地業が施されることから築地を伴う寺城南限施設を想定する。溝の方位は金堂基壇の南北軸と直交する方位であり、創建1期に伴う溝と考えられる。一方、寺城北限は現地地形の微地形観察でも確認で

時期	建物(遺構)	基壇規模 / 基壇外装 / 方位	標高 (m)	備考
創建1期 7世紀第IV四半期～ 8世紀前半 (第I四半期)	金堂	規模 東西約16.8m、南北約13.8m 外装 不明 方位 N-6° -W	基壇検出面24.35～24.4 東辺整地面23.9、南西隅部整地面23.45～23.55 基壇版築部分の地山面24.15 東辺付近の地山面23.55～23.75、南西隅部付近の地山面23.4 SD110401底面の地山面23.1	第10次調査4・5トレンチ 第11次調査5トレンチ
	塔	一辺12.0m	基壇検出面24.35～24.55 西辺整地面24.0 西辺溝底面23.9～24.1、東辺溝底面24.4 西辺付近の地山面24.25、東辺付近の地山面24.5	第11次調査4トレンチ
創建2期 8世紀中葉(第II・III四半期)	中門	不明	掘込地業検出面23.7、掘込地業底面23.55 南面溝検出面23.6	第8次調査3トレンチ 第9次調査2トレンチ 第11次調査11トレンチ
	寺域南限溝	—	溝検出面24.2、付近の地山面24.0	
	講堂	規模 東西約18.0m、南北約12.0m 外装 不明(石積みか?) 方位 N-10° -W	基壇検出面23.9～24.2 東辺掘込地業検出面24.1、北辺掘込地業底面23.8 南辺整地面23.9～24.0、西辺整地面23.8～23.95、北辺整地面23.95 東辺付近の地山面24.1、北辺付近の地山面23.8～23.85	第11次調査5・13トレンチ 第12次調査7・8トレンチ 第13次調査2トレンチ
再建1期 8世紀中葉(第II・III四半期)～ 8世紀後半(第III四半期)	伽藍北限溝	—	溝検出面24.0～24.1、溝底面23.75	第13次調査3トレンチ
再建2・3期 8世紀後半(第III・IV四半期)～ 9世紀後葉・10世紀前葉	塔	規模 一辺15.3m前後 外装 不明 方位 N-10° -W 柱間 中央間3.3m、脇間3.0m	基壇検出面24.4～24.6 整地面24.25～24.5、東辺整地面24.55、西辺整地面24.25～24.4 南西隅部付近の整地面24.45 東辺付近の地山面24.45～24.5、西辺付近の地山面23.95 南西隅部付近の地山面24.35～24.45	第11次調査3・4トレンチ 心礎抜き取り坑・四天柱の礎石据え付け掘り方3基・側柱の礎石据え付け掘り方4基検出
	南門	規模 東西約7.2m、南北約4.5m 外装 不明 方位 N-4° -E	基壇検出面24.1～24.4 整地面23.9～24.0、西側整地面23.75～23.9、南側整地面24.0～24.1 南方整地面23.85～24.0 西側付近の地山面23.65、南側付近の地山面24.1～24.3 南方付近の地山面23.6～23.8、東側地山面24.6～24.7	第11次調査1・11・12トレンチ 第12次調査2～5トレンチ 第13次調査1トレンチ
	金堂	規模 東西約16.8m、南北約14.1m 外装 不明 方位 N-2° -E 北面階段 幅2.4m、階段の出1.6m前後 建物柱間2.4m、東西5間12.0m、南北4間9.6mの建物平面規模	基壇検出面24.0、24.2～24.35、24.45～24.5 北辺整地面24.1～24.2、北側整地面23.95～24.5 階段前面の整地面24.0～24.1 東辺整地面24.0～24.1、西辺整地面23.75～23.9 北西隅部整地面23.5～23.8、南西隅部整地面23.6～23.65 東辺付近の地山面23.55～23.75	第10次調査4～6トレンチ 第11次調査5・6トレンチ 第12次調査6・7トレンチ
再建2・3期 8世紀後半(第III・IV四半期)～ 9世紀後葉・10世紀前葉	中門	規模 東西約7.4m、南北約6.1m 外装 石積み 方位 N-2° -E	基壇検出面23.9～24.0 西辺整地面23.5～23.65 西側整地面23.75～23.8、北側整地面24.25～24.45、北西整地面23.75～23.9 SD110101底面23.6 西辺付近の地山面23.0～23.2、西側付近の地山面23.4～23.5 北西付近の地山面23.65、北東隅部付近の地山面23.9～24.0 北側付近の地山面24.0～24.35	第9次調査1・2トレンチ 第11次調査1・2トレンチ 第12次調査1トレンチ
	寺域北限溝	—	検出面(地山面)23.65～23.85 溝南側の落ち込み面23.4～23.5	第11次調査7トレンチ 第12次調査9トレンチ 第13次調査4～6トレンチ
講堂	不明(創建期基壇の南西付近の改修か)	基壇検出面24.4 南辺整地面24.0～24.15 南西隅部整地面23.95～24.05		第11次調査5トレンチ 第12次調査7トレンチ 第13次調査2トレンチ

第5表 興道寺院寺基壇建物一覧



きる地山面が落ち込む東西ライン付近に所在を想定する。この方位は講堂基壇の南北軸と大体直交することから創建2期に伴うものと考えられ、創建2期の段階の寺域として南北約120mの範囲と考えられる。

講堂基壇から寺域北限までの範囲においては、講堂基壇の南北軸に大体沿う掘立柱建物跡3棟、柱穴列1基、区画痕跡1基などを検出しており、創建2期にかけて寺院北方施設の整備が進められたようである。塔基壇の東側、南東側で検出した掘立柱建物跡1棟、竪穴建物跡2棟の建物方位は創建1期、創建2期の範囲内には収まるものの、そのいずれかに伴う傾向はない。竪穴建物跡4出土遺物から創建期のいずれかの時期に伴うものと考えられる。3基の検出柱穴列についても、掘立柱建物跡の一部であるものとするれば、寺院造営に伴う工房、あるいは管理施設が伽藍域に近在したあり方がうかがえる。

### C. 寺院再建期の伽藍域、寺域

伽藍域に関しては、金堂、塔、中門、講堂の各基壇、寺域南限に伴う南門基壇、寺域北限に伴う東西溝を検出した。金堂基壇は創建期の基壇をそのまま利用しながら北側と東側を若干拡張し、南側と西側を削平して造る。塔基壇は創建期の基壇の下部を埋め殺し、全体的に拡張して造る。講堂基壇は金堂基壇北辺階段に近接する部分の南辺の西側に造り直しの痕跡が見られる以外は創建期の基壇をそのまま基壇としている。中門基壇は創建期の推定基壇に伴うと考えられる掘込地業面の上に造る。南門基壇は創建期の2条の東西溝を埋めて造成しその上に造る。塔基壇の南北軸の方位は座標北から10度西偏し、南門基壇の南北軸の方位は4度西偏し、金堂・中門基壇の南北軸の方位は座標北から2度東偏するなど、複数の基壇造営時期があったことがうかがえる。前者を再建期1期、中者を再建2期、後者を再建3期と呼称する。再建2期段階の伽藍域は中門基壇と講堂基壇との中心間の距離で約51mと、創建期の南北規模と大差はない。

再建期の建物基壇は金堂・塔・講堂付近は標高24.1～24.2m前後の高さに、中門・南門付近では標高24.0m付近に整地面が分布し、この上に基壇を盛土で構築する。創建期の基壇と重複する部分にはあまり改変を加えず、そのまま埋め殺して一部を追加し、一部を削平して造る傾向がある。金堂・中門・南門では外装に石積みを伴い、以前の様相は不明であるが、再建2期には確実に石積みを施している。

金堂基壇の規模は東西約18.0m、南北約14.1m、外装に石積みを伴う。南北中央に柱間1間分の幅の階段が付設されていたものと考えられ、北面階段の幅2.4m、階段の出1.6m前後に復元されることから、基壇の高さは1m弱（現存高は約0.2～0.3m）、金堂の建物の柱間は2.4mとして、東西5間、南北4間、つまり東西12.0m、南北9.6mの平面規模が復元できる。

塔基壇の規模は一辺約15.3mの規模に復元されるが、この範囲が基壇の縁辺となるものか、実際の基壇縁辺は中寄りに位置し、基壇を載せるための整地面の範囲を示すものかははっきりしない。創建期の地山層の削り出しによって造られた塔基壇の下部をそのまま残して、上にかさ上げするように基壇を造ったと考えられるが、基壇の検出面で礎石据え付け掘り方の底部を辛うじて検出した状況を考えれば、基壇自体は相応の削平を受けている。基壇検出面から心礎抜き取り坑、四天柱の礎石据え付け掘り方3基、側柱の礎石据え付け掘り方4基を検出し、その位置関係から柱間の長さは中央間3.3m、脇間3.0mに復元した。

講堂基壇は創建期基壇の同等規模と考えられる。創建期基壇の西辺を覆うように再建期基壇の西辺を造っており、再建期金堂基壇階段付近においては改変を受けて補修的な造営が行われ、創建期基壇の南西隅部付近には再建期基壇および整地面を覆う再建期整地層が分布しているものと考えられる。

南門基壇の規模は東西約7.2m、南北約4.5m、金堂・中門基壇と同様に外装に石積みを伴うが、基壇の南北軸の方位は若干異なる。整地面の上に直接盛土によって石積みを伴う基壇を構築する。基壇の改変は著しく、基壇北東隅部に3段の石積みを残す程度で、元位置から離れた礎石状の平石が表土下で検出されている。柱間は不明であるが、金堂に準じて2.4mとしても東西2間、南北1間の建物が収まるほどの基壇規模である。

伽藍域の四至については、南門基壇南西側で西に向かって延びる東西溝が1条検出されており、これが南面回廊の外側の雨落ち溝である可能性が考えられるが、塔基壇東側と講堂基壇東側での調査で回廊状施設が未検出で

ある以上、回廊が存在したとしても再建3期以後、寺院正面にあたる南面に限られる可能性が高い。

寺城南限に関しては、南門基壇を検出したことでその位置が明らかとなった。寺城北限については地山面を掘り込む東西溝付近に位置する。溝から北側の地山面に拳大ほどの自然礫が露頭する一方で、南側では粘土質の地山面となるように地山面に対して一定の改変が考えられることから、この部分に築地などの施設の所在を想定すれば、溝自体はその北側の雨落ち溝であったものと考えられる。溝の方位は金堂・中門基壇の南北軸と直交することから再建3期に伴うものと考えられ、再建3期の段階の寺域として南北115m前後の範囲と考えられる。

創建期の掘立柱建物跡などを検出した講堂基壇から寺城北限までの範囲においては、金堂・中門基壇の南北軸の方位を志向した掘立柱建物跡1棟などを検出しており、寺院北方施設の整備がさらに進んだものと考えられる。

なお、第12次調査次の見解として、検出した講堂基壇および再建期塔基壇が再建期金堂・中門基壇よりも後出するものと報告した。これは平成23年9月に実施した歴史フォーラム「ここまで分かった！興道寺廃寺」の中で調査担当者として報告したものであったが、これに対して基壇の南北軸の方位が正方位を志向していく8世紀以後の動向と相反する減少で、洪水山などのランドマークを志向した方位でもないことから、繰り返し調査を行い、検討していく必要があるという指摘を栄原永遠男氏、菱田哲郎氏、門井直哉氏などから受けたため[美浜町教育委員会2011]、第13次調査で再検証を行い、検出の講堂基壇は創建期に伴い、南辺の西側においては再建期の金堂基壇造営後に改修の手を施していること、再建期塔基壇は講堂基壇の南北軸と同方位を示し、再建期の中でも早い時期に位置づけられることを確認した。これは、講堂基壇南辺で確認されている創建期に伴う黄褐色土からなる整地層を再建期金堂基壇北側の整地層と同一のものと誤認したことによるもので、第12次調査7トレンチ西壁土層断面の再検討で創建期講堂基壇南側の整地面の上に再建期金堂基壇北側の整地面が分布することを再確認した。

## 第2項 興道寺廃寺の出土遺物

### A. 軒瓦と鴟尾（鬼板瓦）

興道寺廃寺の軒瓦については、水野和雄氏が採集資料を基に組成の骨格を示し[水野1987]、その後の『2007年報告』の中で出土資料を含んで再整理され、軒瓦Ⅰ型式：単弁八葉蓮華文軒丸瓦と三重弧文軒平瓦、軒瓦Ⅱ型式：素弁十葉蓮華文軒丸瓦と三重弧文軒平瓦、軒瓦Ⅲ型式：素弁九葉蓮華文軒丸瓦と偏行唐草文軒平瓦という3型式からなり、Ⅰ型式からⅢ型式へと変遷し、Ⅰ型式が7世紀後葉、Ⅱ型式が8世紀前葉、Ⅲ型式が8世紀中葉という年代が与えられた。第9～13次調査出土資料を追加しても、その内容に変更はないことから、以下に『2007年報告』を加筆修正の上、再録する。

#### 軒瓦Ⅰ型式（第127図1～5）

単弁八葉蓮華文軒丸瓦は瓦当外縁径20cm前後で、瓦当自体は薄いですが、丸瓦部の広端部に厚く接合し、丸瓦部の広端面が瓦当裏面近くまで達している。中房は小ぶりですべて1+5の蓮子を配し、蓮弁は八葉からなり、肉厚がやや乏しいが、弁の輪郭を細線で画する。外区外縁は二重圈文を廻らせ、内縁に段をもって直立縁を作る。焼成が甘く、灰白色、赤褐色の生焼け状を呈するものが多い傾向がある。出土点数は第1期調査のものを含めて10数点。

三重弧文軒平瓦は瓦当厚4cm内外、直線顎である。平瓦部の広端凸面に粘土を貼り付けて充填して厚みを増し、端面を型押しによって瓦当の弧線を厚く平坦に作り、弧線の凹線は浅く鋭い箱型やU字状を呈する。凸面の瓦当付近（凸面顎部）には方形区画の中に1単位4枚の花弁を配した型押し文を重複させながら連続的に配する。剥離によって平瓦部の広端凸面が露出する部分には平行叩きの叩き目が残る。平瓦部凹面は強い縦ナデによって布目をナデ消すものとそのまま布目を残すものが混在するが、前者の方が多い。焼成は総じて甘く、乳白色、赤褐色を呈する。出土点数は第1期調査のものを含めて10数点。





第126图 興道寺廢寺伽藍域・寺城遺



凡例	6世紀前半
— (Yellow)	6世紀後半～7世紀前半
— (Orange)	7世紀後半～8世紀中葉
— (Red)	8世紀後半～9世紀前半
— (Black)	中世
— (Solid)	實線 確認線
— (Dashed)	破線 推定線

遺構平面模式図 (縮尺1/600)







- 1 再建期中門基壇西側再建期整地層(第7次調査2トレンチ)
- 2 SB110502北側堆積層(第11次調査5トレンチ)
- 3 SB020202西側堆積層(第2次調査2トレンチ)
- 4-6 SB060202東側再建期整地層(第4次調査2トレンチ)
- 7 SB040702西側再建期整地層(第4次調査7トレンチ)
- 8 創建期講堂基壇北側堆積層(第6次調査4トレンチ)
- 9 SB060202東側再建期整地層(第6次調査2トレンチ)
- 10 SB020202西側再建期整地層(第2次調査2トレンチ)
- 11 昭和33年出土
- 12 SB020202西側堆積層(第2次調査2トレンチ)
- 13-14 SB060202東側再建期整地層(第6次調査2トレンチ)
- 15 再建期中門基壇西側再建期整地層(第9次調査1トレンチ)
- 16 SB100502東側堆積層(第10次調査5トレンチ)

第127図 興道寺廢寺出土軒瓦(縮尺1/10)

### 軒瓦Ⅱ型式（第127図6～10）

素弁十葉蓮華文軒丸瓦は瓦当径17cm前後で、瓦当文様の精粗差からⅡ1とⅡ2に細分可能ではある。Ⅱ型式は基本的に瓦当を比較的厚く作り、径4.5cm前後と中房は大きく、1+8に配する鋭い蓮子をもち、蓮弁子葉が消失し、肉厚がⅠ型式からさらに扁平となり、幅も狭くなる十葉の蓮弁からなる。間弁はT字楔形を呈する。瓦当外縁は無文の直立縁で、瓦当上半は丸瓦部の広端凹面の端部に嵌め込むことで丸瓦部広端面をそのまま瓦当外縁としたものである。Ⅱ2型式に中房の崩れと間弁の萎縮化が見られる。Ⅱ1、Ⅱ2ともに特徴的な範傷があり、Ⅱ1には木製笮の消耗で蓮弁、間弁厚が極端に薄くなったもの、蓮弁と間弁との間に1箇所明瞭な傷をもつものが見られ、Ⅱ2には中房蓮子の1つが失われるもの、蓮弁に明瞭な傷をもつものがある。『2007年報告』で本型式として掲げた外区内縁に内斜面を持つ資料については、有段式丸瓦の玉縁部である可能性がある。Ⅱ型式の資料は堅緻に焼き締まり、灰色を呈するものが多い。出土点数は第1期調査のものを含めて40点以上。

三重弧文軒平瓦は瓦当厚3cm前後で、直線顎である。瓦当弧文の断面形状から、軒丸瓦Ⅱ型式と対比可能な、Ⅱ1、やや丸みを帯びた鋭い山形状の弧線と浅いU字状を呈する凹線をもつもの、Ⅱ2、鋭く短く収める弧線と極めて浅い箱型となる凹線をもつものにと細分できる。Ⅱ1型式は弧文断面が丸みを帯び、溝がやや深い、Ⅱ2型式の弧文断面は先端が鋭く、溝も浅くなる。焼成は焼き締まるものと生焼け状を呈するものが混在し、平瓦部の凸面に平行、斜格子の叩き目をわずかに残すものが見られる。出土点数は第1期調査のものを含めて30点以上。

### 軒瓦Ⅲ型式（第127図11～16）

素弁九葉蓮華文軒丸瓦の瓦当は厚く、蓮子を1+5に配する中房と、肉厚がやや厚く、さほど幅が広くない九葉の蓮弁からなる。間弁はT字楔形であるが、鋭さが失われる。外区内縁に13個の珠文が配され、外縁内斜面に凸線による鋸歯文が巡る。丸瓦部の広端を未加工のまま瓦当外区の裏面に当てて接合する。焼成が甘く、脆弱なものが多い。出土点数は第1期調査のものを含めて10数点。

偏行唐草文軒平瓦は瓦当厚5cm前後で、平瓦部凸面は瓦当面から7～8cmのところ段顎となる。瓦当の上外区に珠文を配し、内区は唐草文主葉が内区の左右界線に接続し、支葉は上下界線から派生する文様を配する。瓦当が薄く、段顎をもたない資料も存在し、細分できる可能性もある。平瓦部の凸面に縄目叩きをナゲ消したものが散見できる。出土点数は第1期調査のものを含めて20数点。

軒瓦Ⅱ型式が量的に多いが、『2007年報告』で述べたほど特に主体を占めているものではなく、また出土地点についても強い偏向性は見られない。

軒瓦Ⅰ型式は従前から指摘があるように山田寺式の範疇にある資料である[水野1987、中原2005、美浜町教育委員会2006]。興道寺廃寺出土の山田寺式軒瓦の特徴は、軒丸瓦の瓦当径・中房径が小さく、重圏文縁の内側に段をもつこと、軒平瓦が曲線顎で、広端凸面に花卉型押し文をもつことである。瓦当文様の退化傾向、製作技法の差異から畿内中枢部に直接的な系譜は求められず、『2007年報告』で触れたように越前・深草廃寺の補修瓦である軒丸瓦Ⅳ型式や近江・大東遺跡出土のⅠNa類軒丸瓦などと類似するなど、越前地方、近江地方に分布する山田寺式軒瓦との関係性が認められ、近江・三大寺廃寺出土の軒丸瓦A類が深草廃寺軒丸瓦のⅣ型式の改範であるという指摘を考慮して[久保1993]、興道寺廃寺軒瓦Ⅰ型式の導入にあたっては、越前、近江湖東・湖北の両地域からの影響を想定した[美浜町教育委員会2006]。

その後、湖東・湖北地域における山田寺式軒瓦の導入と展開が明らかにした北村圭弘氏は、湖東地域の山田寺式軒丸瓦は百済大寺を祖型とし、7世紀第Ⅲ四半期に曲線顎の重弧文軒平瓦を伴って摂津・四天王寺から近江・竹ヶ鼻廢寺に創建瓦としてもたらされ、7世紀後半に竹ヶ鼻廢寺から三大寺廢寺などに、さらに7世紀末葉には大東遺跡や新庄馬場遺跡、8世紀初頭には八島廢寺などへと、湖東周辺の古代寺院・瓦窯に拡散したことを示した。三大寺廢寺の創建瓦をモデルとして7世紀末頃に湖東地域に拡散した軒丸瓦と、興道寺廢寺出土の山田寺式軒丸瓦とが酷似することは、竹ヶ鼻廢寺を起点に拡散した湖東地域の山田寺式軒丸瓦がさらに北上し、一方では興道寺廢寺の創建瓦として、一方で深草廢寺の補修用瓦としてほぼ同時期に導入されたことを示している[北村2007]。興道寺廢寺出土の軒平瓦Ⅰ型式に関しても湖東地域に拡散した曲線顎の軒平瓦からの系譜が追え、7世紀後葉～末葉に三大寺廢寺周辺からもたらされた可能性が高い。

この背景として6世紀前半の継体大王擁立に関わった越前、近江、尾張、美濃、そして若狭それぞれの地域における個別的、伝統的な地域間交流が寺院建立期の7世紀後半まで残存していた実態が考えられる。竹ヶ鼻廃寺系列の山田寺式軒丸瓦が湖東から尾張、越前、そして若狭へともたらされたことと重複する現象である。なお、軒平瓦Ⅰ型式の凸面に見られる花卉型押し文は湖東地域には見られない技法で、興道寺廃寺において創出されたものか、まったく異なる他地域から工人が招来しているものか、その系譜は不明である。美濃の厚見寺跡、各務廃寺、柄山窯跡、天狗谷窯跡と同様に花卉型押し瓦が出土しているが、その文様構成とは大きく隔たっており、興道寺廃寺との直接的な関係は不明である。

軒瓦Ⅱ型式に関して、『2007年報告』で軒瓦Ⅰ型式からの技術的な連続性はなく、異なる工人集団によって導入されたものとして報告したが、軒丸瓦Ⅰ・Ⅱ型式の丸瓦部凸面の平行叩き調整に共通の叩き具の使用が確認できることから、ある一時期において同一の窯場で生産された可能性も考えられる。Ⅱ型式の瓦自体は在地化した、ローカルな文様をもつ独特なものであるが、Ⅰ型式の瓦を生産した工人の一定の関与が想定される。

Ⅱ型式の瓦は大量生産されたものと考えられ、出土軒瓦の中でも数が多く、瓦当の範傷の状況から見てもある程度長期的な生産が行われたものと考えられることから、創建期の寺院の主要建物に葺かれた瓦と考えられる。軒丸瓦Ⅱ型式は丸瓦部の広端凹面に瓦当を直接はめ込んで、丸瓦の広端面をそのまま瓦当上半の外縁とした瓦当側面接合技法で作られていることが特徴で、『2007年報告』の中で周辺の湖西地域、近江・大宝寺跡出土の軒丸瓦Ⅳ類型と類似し、また大宝寺跡の直線顎軒平瓦Ⅰ型式A種が興道寺廃寺軒平瓦Ⅱ型式とやはり類似するなど同じ影響下での導入の可能性を指摘した。

『2007年報告』の中で報告したように、軒瓦Ⅲ型式は宮都系の文様であるものの畿内中枢部との直接的な関係を見いだせない一方で、遠敷郡の中核的寺院となる若狭・太興寺廃寺や神願寺で平城宮式6225型式軒丸瓦を伴い、中央政府との直接的な関係が示唆され、三方郡と遠敷郡の実態を示していることを菱田哲郎氏が論じた[美浜町教育委員会2006a]。太興寺廃寺に関しては、平城宮式軒瓦が出土することなどから氏寺として創建されたこの寺院が8世紀中葉以後に若狭国分寺として転用されたという水野和雄氏らの見解が重視されているが[美浜町教育委員会2006a]、地域の中核的な古代寺院には国分寺・国分尼寺に先行して補修用瓦として平城宮式軒瓦がもたらされていることが各地で認められることを梶原義実氏が指摘している[梶原2001・2010]。

興道寺廃寺Ⅲ型式の軒瓦の出土量は一定量を占め、創建2期の講堂の建立から再建1期の塔の再建に伴う時期に屋根瓦として使用されたものと想定される。

#### 鷗尾（鬼板瓦）

今回、初めて鷗尾もしくは鬼板瓦の一部と考えられる資料が再建期金堂基壇北側の堆積層から2点出土した。外側には径3cmほどの八葉の蓮華文をモチーフとしたものと考えられる型押し文（スタンプ文）の押圧があり、内側の布目をナデ消したものである。鷗尾であれば蓮華文帯の一部、鬼板瓦であれば外縁の文様帯の一部であったものと考えられる。

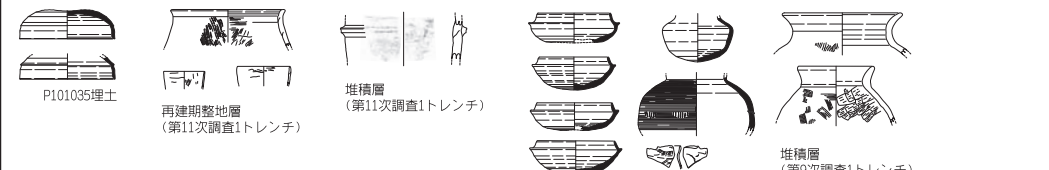
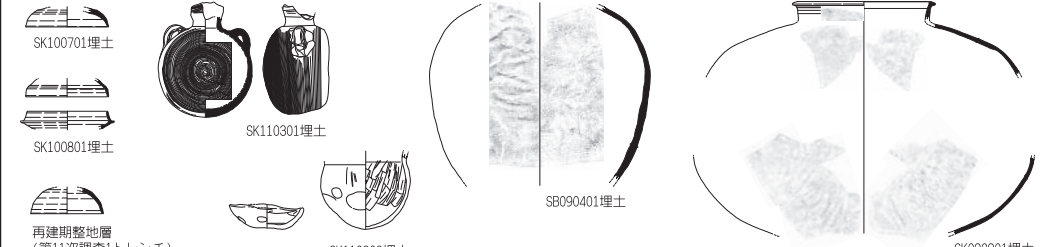
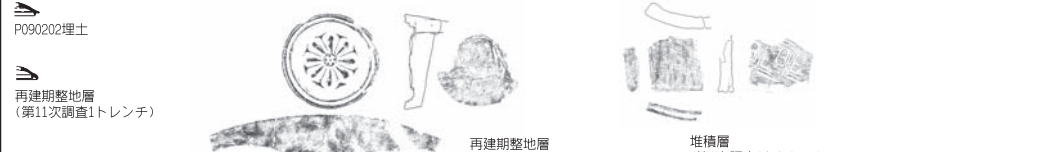
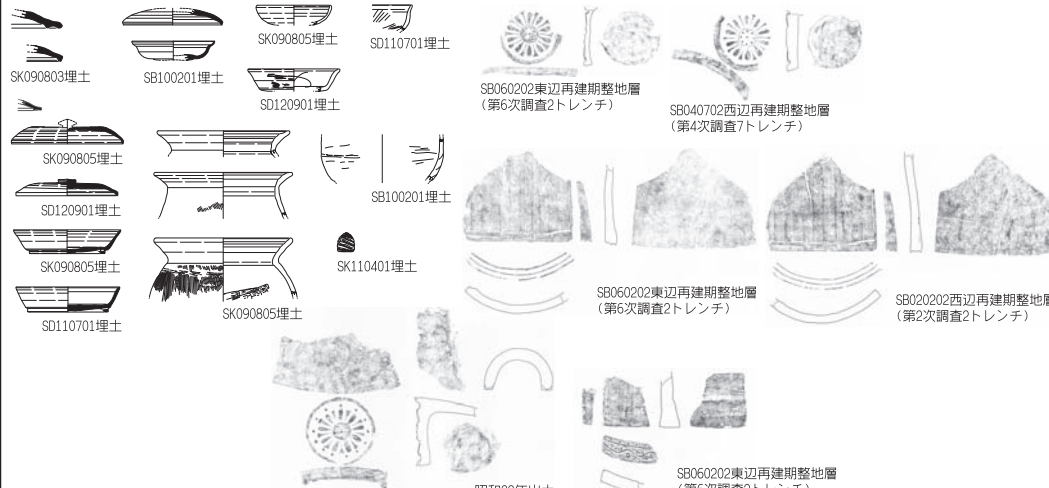
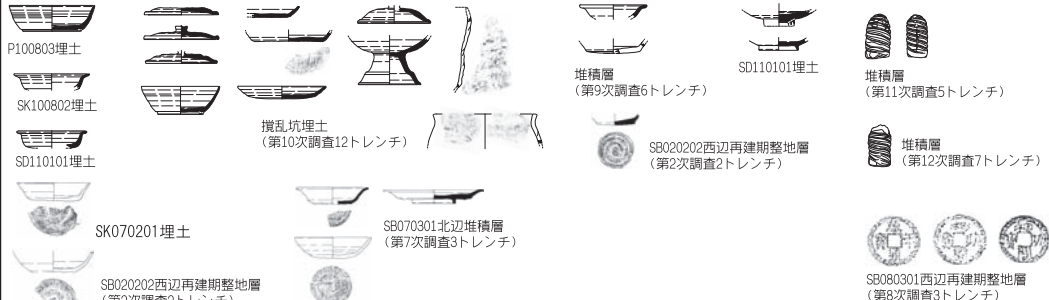

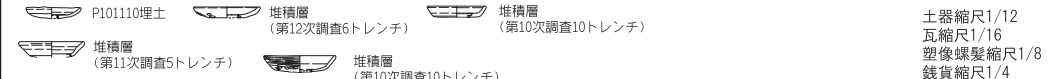
#### B. 丸瓦・平瓦

『2007年報告』において、無段式丸瓦、平瓦をそれぞれ3型式に分類し、それぞれの製作技法、年代、出土量は軒瓦Ⅰ～Ⅲ型式と対応することを報告した。現段階で大きく見解を改めることもないことから、『2009年報告』の分類を踏襲し、今回、新たに有段式丸瓦を追加して報告する。

無段式丸瓦の成形は粘土板巻き付け、平瓦の成形は粘土板桶巻き作りで、一枚作りの平瓦は確認されていない。軒瓦を含めた無段式丸瓦、有段式丸瓦、平瓦の凸面に見られる叩き目から、平行叩き1原体・正格子3原体・斜格子3原体・縄目2原体の計9原体を確認した。

Ⅰ型式の無段式丸瓦・平瓦は、基本的に叩き目をそのまま残し、あまりナデ消さないことが特徴である。無段式丸瓦は凸面全体に弧状、千鳥足状、あるいは側面に直交して施された平行叩きを薄くナデ消し、凹面は布目痕



<p>6世紀前半～ 6世紀中葉 (TK10～MT85 型式期)</p>	 <p>P101035埋土 再建期整地層 (第11次調査1トレンチ) 堆積層 (第11次調査1トレンチ) 堆積層 (第9次調査1トレンチ)</p>
<p>6世紀後葉～ 7世紀前葉 (TK43～TK209 型式期)</p>	 <p>SK100701埋土 SK100801埋土 再建期整地層 (第11次調査1トレンチ) SK110301埋土 SK110202埋土 SB090401埋土 SK090901埋土</p>
<p>7世紀中葉～ 7世紀後葉 (飛鳥Ⅱ～Ⅳ 型式期)</p>	 <p>PO90202埋土 再建期整地層 (第11次調査1トレンチ) 再建期整地層 (第7次調査2トレンチ) 堆積層 (第2次調査2トレンチ)</p>
<p>7世紀末葉～ 8世紀前半</p>	 <p>SK090803埋土 SB100201埋土 SK090805埋土 SD110701埋土 SD120901埋土 SK090805埋土 SD110701埋土 SK090805埋土 SK090805埋土 SD110701埋土 SK090805埋土 SK110401埋土 SK090805埋土 SB060202東辺再建期整地層 (第6次調査2トレンチ) SB040702西辺再建期整地層 (第4次調査7トレンチ) SB060202東辺再建期整地層 (第6次調査2トレンチ) SB020202西辺再建期整地層 (第2次調査2トレンチ) 昭和33年出土 SB060202東辺再建期整地層 (第6次調査2トレンチ)</p>
<p>8世紀後半～ 9世紀前半</p>	 <p>P100803埋土 SK100802埋土 SD110101埋土 SK070201埋土 SB020202西辺再建期整地層 (第2次調査2トレンチ) P100803埋土 SK100802埋土 SD110101埋土 SK070201埋土 SB020202西辺再建期整地層 (第2次調査2トレンチ) 攪乱坑埋土 (第10次調査12トレンチ) SB070301北辺堆積層 (第7次調査3トレンチ) 堆積層 (第9次調査6トレンチ) SD110101埋土 堆積層 (第11次調査5トレンチ) 堆積層 (第12次調査7トレンチ) SB020202西辺再建期整地層 (第2次調査2トレンチ) 堆積層 (第12次調査7トレンチ) SB080301西辺再建期整地層 (第8次調査3トレンチ)</p>
<p>9世紀後半～ 10世紀前半</p>	 <p>堆積層 (第11次調査4トレンチ) SB080301周辺堆積層 (第8次調査3トレンチ) P130304埋土 P101104埋土 堆積層 (第12次調査8トレンチ) 礫層 (第9次調査6トレンチ) SK090601埋土 堆積層 (第11次調査11トレンチ) 堆積層 (第12次調査6トレンチ) 堆積層 (第12次調査8トレンチ) SB110301整地面 攪乱坑埋土 (第12次調査3トレンチ) 堆積層 (第12次調査8トレンチ)</p>
<p>13世紀</p>	 <p>P101110埋土 堆積層 (第11次調査5トレンチ) 堆積層 (第12次調査6トレンチ) 堆積層 (第10次調査10トレンチ) 堆積層 (第10次調査10トレンチ) 土器縮尺1/12 瓦縮尺1/16 塑像螺髮縮尺1/8 銭貨縮尺1/4</p>

第128図 興道寺廃寺出土遺物時期別変遷図

を残す。側縁部は凹面を面取りするものと未調整とするものが混在する。平瓦は、凸面の過半に平行叩きを側面に斜交して連続的に施し、叩き目をそのまま残す。凹面は強い縦ナデで布目をナデ消すものと、布目をそのまま残すものがあり、後者は薄く模骨痕を留める。側縁部は総じて未調整であるが、凸面と凹面ともに側縁に幅の広い削りを施すものも見られる。凸面の広端部・狭端部あたりに正格子（正格子Ⅰ・Ⅱ）、斜格子（斜格子Ⅰ・Ⅱ）の叩きを施すものもあり、凹面の布目をそのまま残すものが大半を占めるが、縦方向に布目痕を強くナデ消し、側縁凹面に面取り状の削りを施すものが見られる。

Ⅱ型式の無段式丸瓦・平瓦は、凸面の叩き目を強いナデを施してナデ消す。無段式丸瓦は強いナデで凸面の叩き目をナデ消し、凹面に布目痕を残す。側縁凹面に面取り状の削りを施すものが多いが、未調整とするもの、側縁凸面にも削りを施すものが見られる。今回、初めて正格子の叩き目を残す無段式丸瓦が出土した。平瓦は凸面の叩き目をナデ消すが、広端部あるいは狭端部に正格子、斜格子の叩き目を薄く留めるもの、凸面の縄目叩きをナデ消し、あるいは薄く留めるもの、凸面全体に強いナデを施して叩き目をナデ消すものがあり、凹面は布目痕、模骨痕を顕著に残している。

Ⅲ型式の無段式丸瓦・平瓦は凸面に縄叩きを施す。無段式丸瓦は凸面に施された不定方向の縄目叩きを薄くナデ消し、凹面には布目痕を残す。平瓦は凸面の縄叩き目を薄くナデ消し、凹面に布目痕、模骨痕を残す。

有段式丸瓦は玉縁と筒部を一体に成形するもので、筒部の凸面に側面に平行した縄叩きを施すものと叩き目を精緻にナデ消すものが見られる。側面の凹面側のみ削りを入れて、凸面側はそのまま割り離して未調整としている。Ⅲ型式の無段式丸瓦と並行する時期の瓦と考えられる。なお、『2007年報告』では有段式丸瓦を軒丸瓦（Ⅱ型式）の外縁部分と誤認して報告しており（第22図96～98、第49図196など）、本書にて訂正したい。

出土量の相対的な比率は丸瓦、平瓦ともにⅡ型式が多く、軒瓦Ⅰ～Ⅲ型式の量的多寡とほぼ同様の傾向があるが、出土地点に関して顕著な偏りは見られない。基本的に創建期の金堂・塔基壇の整地層に瓦は含まず、創建期の講堂基壇に伴う整地層から瓦を含み始め、再建期の金堂・塔・中門基壇の整地層に多くの瓦が含まれるようになるが、軒瓦を含めた瓦の型式から各基壇（整地層）の前後関係を追及するには至っていない。軒瓦の傾向としては再建期の塔基壇の整地層に含まれる瓦が再建期の金堂基壇の整地層に含まれる瓦より後出する傾向がありそうであるが、客観的なデータとして示すことができるほど有意な検討に基づくものではない。

### C. 土器

寺院建立以前の古墳時代後期の須恵器、土師器、製塩土器が金堂、中門の周囲から比較的多く出土し、寺院が興道寺遺跡の範囲に含まれているように古墳時代後期集落が寺院建立に際して整理されたことを『2007年報告』で報告した。これは出土遺物の分布から古墳時代後期集落が存在する可能性を指摘したものであったが、今回の第9～13次調査では伽藍域内外で複数の竪穴建物跡、掘立柱建物跡を検出し、6世紀前半から7世紀前葉、TK10～TK209型式並行期に伴う須恵器、土師器、製塩土器の分布と重複する状況を確認した。特に出土量が多いのは再建期中門基壇西側の堆積層、あるいは再建期整地層に含まれるもので、TK10～TK209型式並行期の土器が一定量出土している。円筒埴輪片の出土は集落構成集団と獅子塚古墳、興道寺古墳群被葬者層との直接的な関係を示唆するものと考えられる。

第1期調査では再建期塔基壇西辺の堆積層と再建期中門基壇南辺の堆積層から内面に放射状暗文、外面にミガキを施すいわゆる畿内産（系）土師器と称される土師器杯が出土したことを『2007年報告』で述べたが、今回の調査では寺域北限に伴う東西溝の埋土から畿内産（系）土師器が出土している。

『2007年報告』の中では伽藍域から出土する土器の年代から寺院廃絶期について若干の検討を行っており、再建期金堂基壇東辺の整地層から8世紀後半から9世紀前葉の須恵器杯・杯蓋（杯B蓋・杯B）が出土し、同様に再建期塔基壇西側・北側の堆積層から8世紀後半から10世紀後半の土師器碗が、再建期金堂基壇西辺堆積層、再建期中門基壇周囲の堆積層からは10世紀後半から11世紀代の時期の土師器皿が出土することから、少なくとも9世紀前半までは寺院として機能し、遅くとも10世紀後半には廃絶していたものと推測した。ただし、これ

らの土器の年代観については、一部、修正が必要なものも含まれており、出土状況を加味して実質的にはもう少し廃絶期を絞り込めるのではないかと考えられる。

第1期調査および今回の調査で出土した特徴的な遺物を第128図に時系列に並べた。7世紀末葉から8世紀前半にかけての土器は寺院北方から出土する傾向が強く、特に寺域北限からさらに北方に限られる。寺院造営に関わる雑舎施設に伴うものと考えられる。8世紀後半から9世紀前半にかけての土器は須恵器、土師器、製塩土器、灰釉陶器などがあり、須恵器蓋は山笠状に扁平化してわずかな返りを伴う、須恵器皿に底径が大きく、器高が低くなる皿が出現する、須恵器・土師器の椀・皿の底部に回転ヘラ切り痕が残るといった特徴が見られる。寺院再建期に伴うものと考えられる。9世紀後半から10世紀前半については、須恵器、土師器があり、須恵器蓋のつまみ、返りが消失し、縮小化、扁平化が進む、須恵器・土師器の皿・椀の底部が平高台化し、底部に糸切り痕が残るなどの特徴が見られる。寺院の廃絶に伴う須恵器蓋は再建期塔基壇南西隅部の整地面の直上から出土したもので、正位の状態で出土した。天井部に大きく「耳」と墨書されたもので、この耳が寺名、人名、地域名、いずれを示すものかははっきりしないが、寺院廃絶に伴う祭祀行為に伴う遺物であるものと評価し、廃絶年代は9世紀末葉から10世紀前葉にかけての時期と考えられる。

#### D. 塑像

第10次調査から第13次調査にかけて塑像螺髪が計11点出土した。螺髪は円錐形と砲弾形からなり、前者は再建期塔基壇の心礎抜き取り坑と考えられるSK110401埋土から1点が出土し、後者は再建期金堂基壇北側の堆積層（表土を含む）を中心に10点が出土。いずれも型作りで、螺髪の側面の片側、もしくは両側に型の合わせ目が残るものがある。法量は円錐形のものが器高2.0cm、底面径1.8cm、砲弾形のものは器高の最大4.7cm、底面径は2.1～2.7cmと幅がある。1点を除いて底面には穿孔があるが、その位置、深さは不定である。底面を斜めに一段、ないしは二段にカットしたものもあり、また側面2か所に押さえナデを施したものもあるなど、塑像頭部への取り付けはその部位に応じて工夫がされていたようである。砲弾形の塑像2点には頂部から側面にかけて被熱痕跡があり、釉の付着も見られる。

亀田修一氏により、SK110401埋土出土の円錐形の螺髪は8世紀前半のもので、丈六、もしくは半丈六の塑像に伴い、創建期の金堂基壇の本尊如来仏が再建期に塔本塑像として移された可能性があること、再建期金堂基壇北側堆積層出土の砲弾形の螺髪は8世紀後半以後のもので、丈六の塑像に伴い、再建期の金堂基壇の本尊如来仏に伴う螺髪として評価されている〔美浜町教育委員会2012〕。

#### E. 鉄製品・鍛冶関連遺物

再建期金堂基壇北側の堆積層から鉄釘12点が出土した。現存長10～20cmのものが多く、大型品が目立つ。興道寺廃寺北方の興道寺遺跡律令集落において鞆羽口、鉄滓などが出土しており、寺院に付随する工房施設で小鍛冶が行われ、鉄製品を生産していたものと考えられる。福井県内の7～12世紀に伴う集落、寺院、窯跡等の遺跡で建築具としての鉄釘の出土は限られており、若狭の神願寺、越前の向山大塩遺跡、野々宮廃寺、大谷寺遺跡、明寺山廃寺から8～11世紀の鉄釘が出土するに留まるなど、古代寺院もしくは寺院関連遺跡に集中する傾向がある。大谷寺遺跡、明寺山廃寺に加えて、三峯寺跡、浅見金道口遺跡では小鍛冶関連遺物も出土しており、寺院に工房を備えた雑舎施設が存在したことがうかがえる〔松葉2011〕。

### 第3項 興道寺廃寺の変遷

#### A. 寺院建立前夜の様相

『2007年報告』で興道寺廃寺建立前夜の6世紀後半から7世紀前半の遺跡動向を概観し、端的には古墳時代後期段階には段丘の東縁微高地に集落が、西縁微高地に群集墳が展開し、その後、前段階の集落を整理し、7世



紀後葉には小字観音、淵ノ上付近に興道寺廃寺が建立されたという変遷を素描した。

第9次調査以後、6世紀から7世紀前半にかけての掘立柱建物跡、竪穴建物跡が検出されたことは、上記の古墳時代後期集落の構成の一端をうかがうことができ、副次的な成果となった。6世紀前半、TK10 型式並行期の掘立柱建物跡1は大型の掘立柱建物跡であり、これまでの興道寺廃寺、興道寺遺跡の調査ではほとんど例を見ない大きな柱穴（柱掘り方）をもつもので、時期的にも獅子塚古墳、興道寺古墳群、興道寺窯などと並行する時期であり、耳川流域の在地首長層に伴う居館跡である可能性が一早く指摘された〔美浜町教育委員会 2011〕。6世紀後半から7世紀前半、TK43～TK209 型式並行期においては後の寺院伽藍域の南東側、寺域外北方のあたりで掘立柱建物跡1棟、竪穴建物跡2棟、柱穴列6基が検出されており、上面に寺院遺構が分布するために未検出であるだけで、実際にはこの時期の遺構がさらに広がりをもつものと考えられるが、現段階では集落構成の全体像を把握するには至っていない。

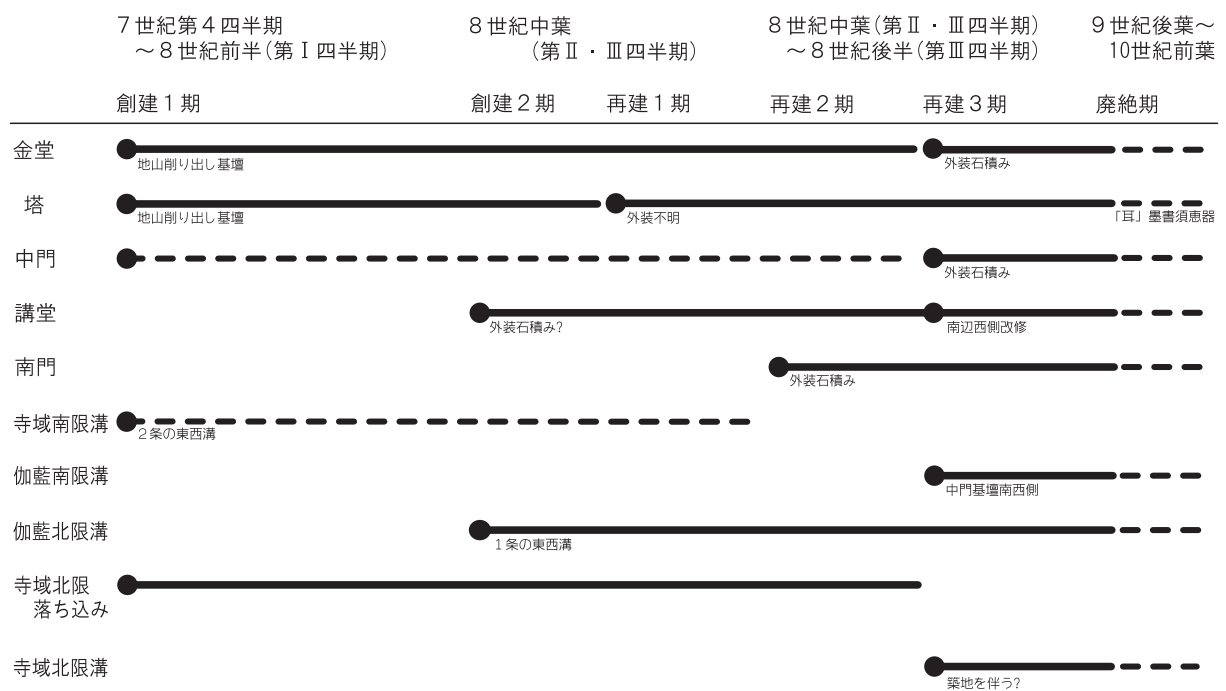
## B. 寺院創建期の様相

『2007 年報告』では出土軒瓦に基づき、軒瓦Ⅰ型式が興道寺廃寺の創建期に直接的に結び付く山田寺式の軒瓦で、天武・持統朝の仏教政策と連動して7世紀第Ⅳ四半期の寺院造営に着手し、量的に多く伽藍全体の整備期に伴うと考えられる軒瓦Ⅱ型式が軒瓦Ⅰ型式より後出するものの、さほど大きな時期差は考えにくいことから、8世紀初頭に初期伽藍の完成を想定した。

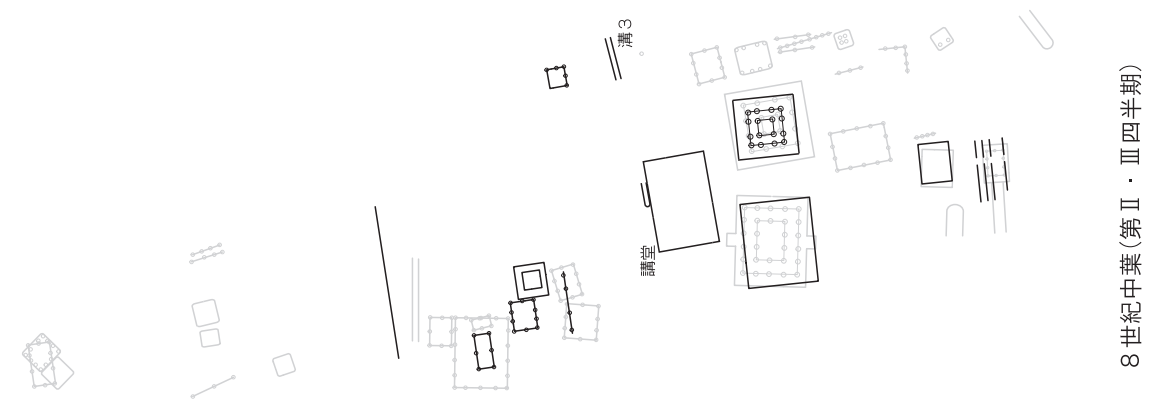
現段階では1堂伽藍からなる捨宅寺院の時期が存在したのかについては不明であり、造営の着手は軒瓦Ⅰ型式の年代である7世紀第Ⅳ四半期を想定し、金堂、塔、(中門)の完成からなる初期整備の時期を、再建1期の8世紀前葉と考える。

『2007 年報告』では軒瓦Ⅲ型式を実年代で770年、780年頃の年代となる金堂、中門の改修期に伴うものとして捉えたが、この段階の調査では寺院の創建、再建に関して明らかにされていない。8世紀中葉、創建2期に講堂の建立に伴って軒瓦Ⅲ型式が導入されたものと想定し、この段階に同方位を志向した初期伽藍が一通り整い、寺域北方にも掘立柱建物を設けていったものと考えられる。

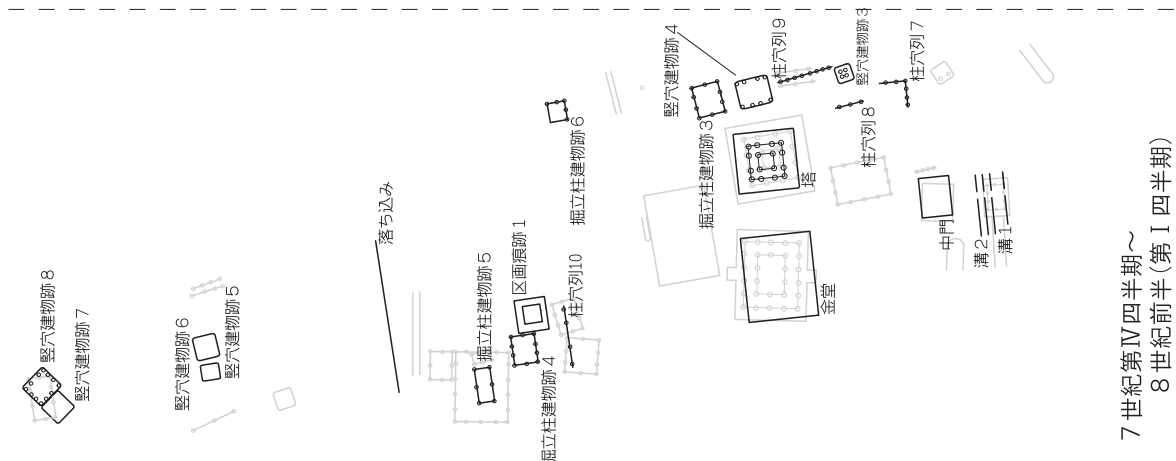
この時期の寺院としての性格は、6世紀から続く在地小首長層を建立氏族とした氏寺的な性格を帯びるものと考えられるが、具体的な寺院建立氏族に関しては後述するように慎重な検討が必要である。



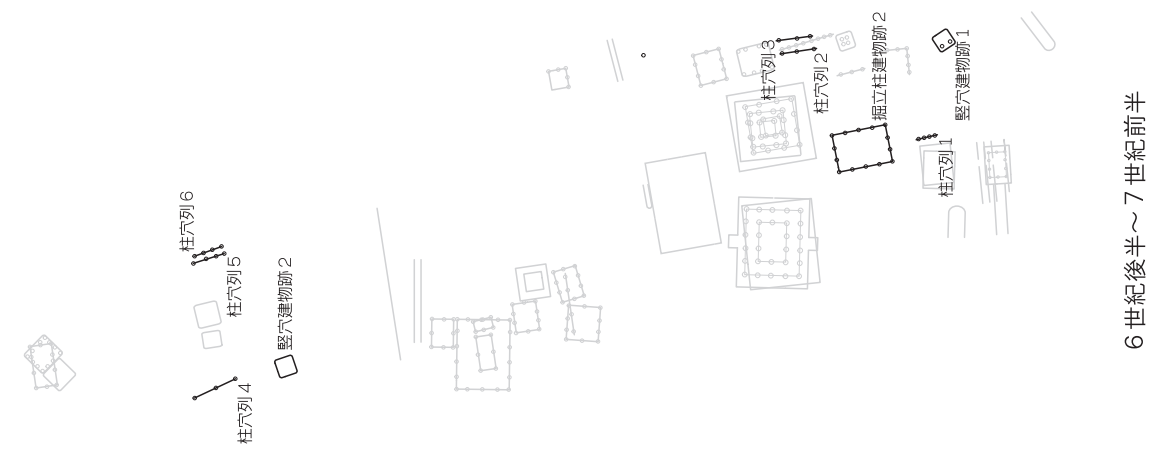
第129図 興道寺廃寺遺構消長模式図



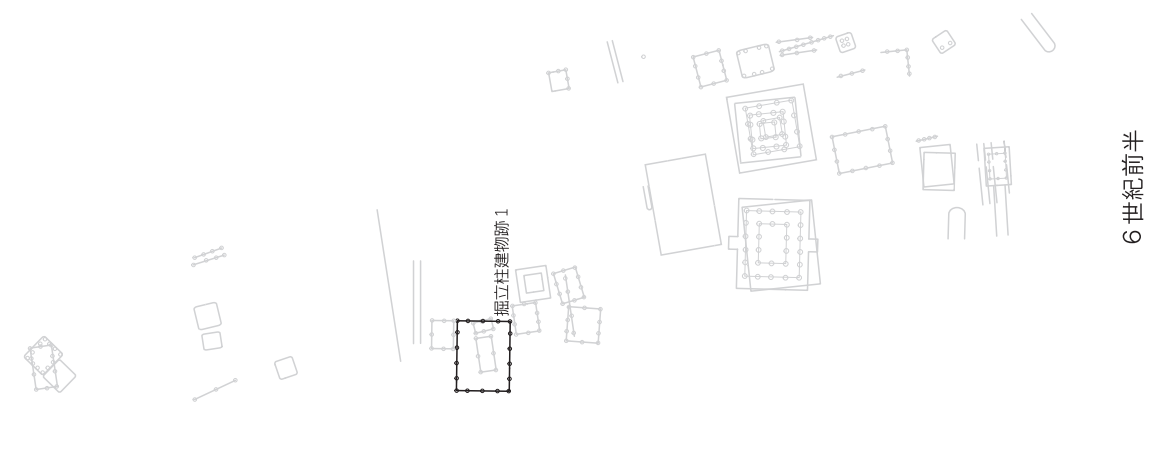
8世紀中葉(第Ⅱ・Ⅲ四半期)



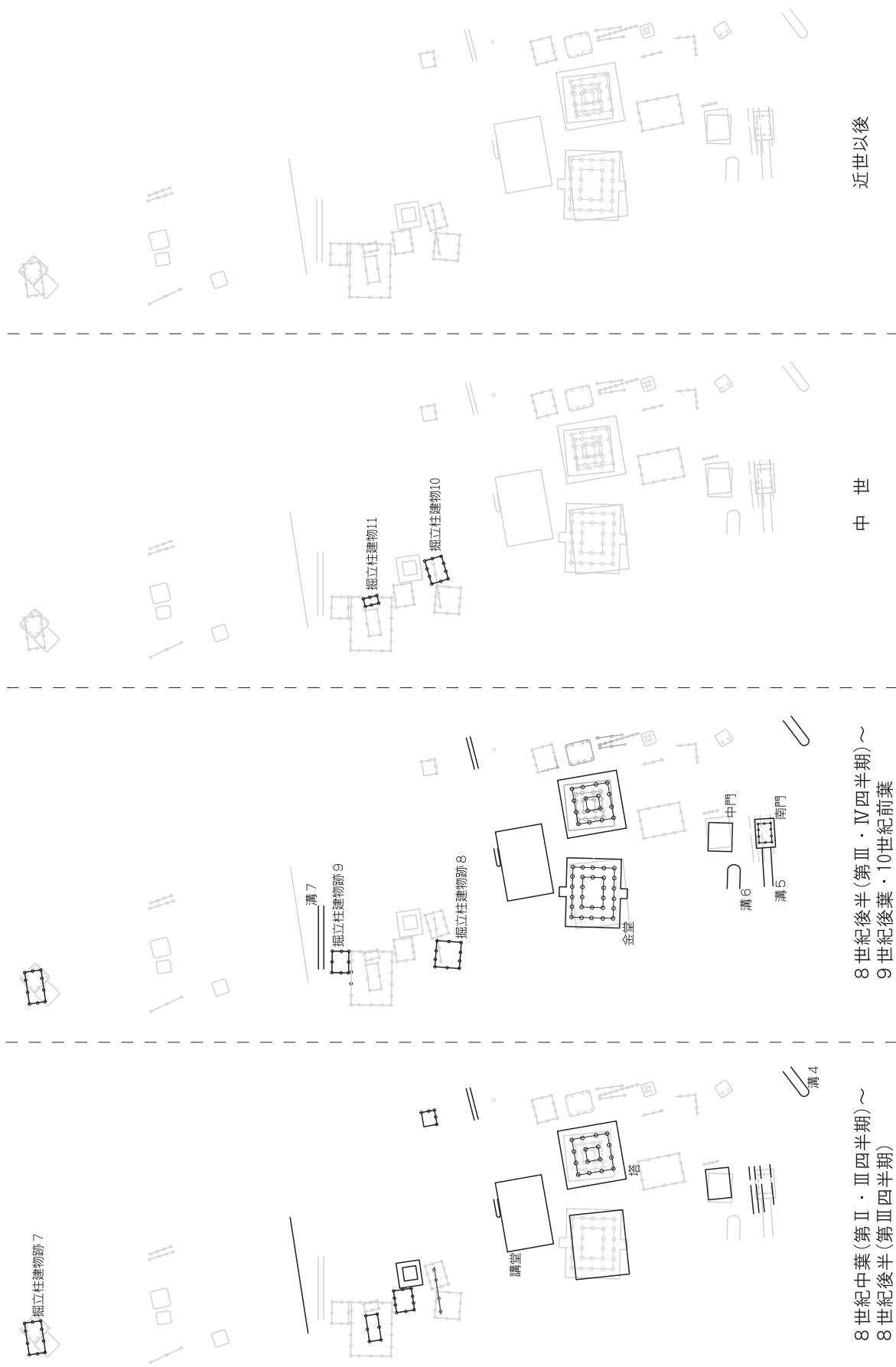
7世紀第Ⅳ四半期～  
8世紀前半(第Ⅰ四半期)



6世紀後半～7世紀前半



6世紀前半



8世紀中葉(第Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ後半期)～  
8世紀後半(第Ⅲ四半期)

8世紀後半(第Ⅲ・Ⅳ四半期)～  
9世紀後葉・10世紀前葉

中世

近世以後

第130圖 興道寺廢寺遺構變遷模式圖 (縮尺1/1,500)

### C. 寺院再建期の様相

前述したとおり再建期は3期からなり、再建1期はほぼ同場所で塔を造り替えるもので、講堂基壇の南北軸の方位とはほぼ合致し、講堂の建立から間もない時期、8世紀中葉の再建が考えられる。再建2期は創建期の寺城南限に相当する溝を埋め、その上に南門を建立するものである。再建3期は正方位を意識して金堂、中門を造り替えるものである。南門基壇と金堂・中門基壇はいずれも基壇外装に石積みを伴い、中門から南門にかけての西側には同質の整地層が広がっているなど、再建2期と再建3期には大きな時期差は考えにくい。中門基壇西側の整地層に萬年通寶、神功開寶が含まれることを考慮すれば、8世紀後半、第Ⅲ～Ⅳ四半期の再建時期が考えられる。

興道寺廃寺の再建以後の寺院の性格については、天平勝宝元年(749)以後に史料に現れるいわゆる寺格としての定額寺との関連がうかがえる。興道寺廃寺と定額寺との関連については菱田哲郎氏の考察に詳しいため、以下に概述する[美浜町教育委員会 2011]。

・遠敷郡の太興寺廃寺は平城宮式 6225 型式の軒丸瓦が出土するなど定額寺として相応しい。ただし、平城宮式の瓦が出土しないことから定額寺ではなかったとは言えず、定額寺の中で瓦葺きでなかった例として広隆寺がある。寺伝に拠れば奈良末期から平安初期の時期に焼失するが、承和年間に道昌が再興した際の現存する資財帳の写しから、再建後の広隆寺が柿葺きであることが知られる。

・興道寺廃寺の場合、修理の段階に瓦を使用していないが、基壇の位置や形を変えている。他の寺院の場合、修理があったことを瓦で類推することが多いが、興道寺廃寺ではむしろ瓦葺きにしない修理を施していた可能性も高く、このような寺院も定額寺になっている可能性が高いのではないかと。

・平安期の文献には多くの定額寺が現れるが、大概の場合、地名もしくは氏族名によるものと仏教の思想から名づけられるありがたい名である法号ならなる寺名をもつ。定額寺となる寺院はこの2種類の寺名をもつことが一般的で、特に法号をもつことが重視される。興道寺廃寺が定額寺であれば、1つの寺名は大きく耳と書かれた墨書土器に見るようにほぼ確実で、耳が氏族名であり、地名でもあるように耳寺であった可能性は極めて高い。地名としては郡名から三方寺、あるいは遺跡の小字名から観音寺という寺名であった可能性もあるが、この墨書土器の出土で耳寺の可能性が高まった。

もう一つの寺名である法号については、最も相応しいと考えられるものとして文字通り、興道寺である。興道寺という名は、むしろ中世以降の別の寺院を指していることが芝田寿朗氏によって指摘されており、鎌倉期の『若狭国惣田数帳』に天台宗四王院領の興道寺十二町、つまり比叡山四王院所有の興道寺の田圃が 12 町あるという記述があることが興道寺という名の初出で、これ以後、中世にかけての寺院として興道寺が定着していくようである。ただし、中世寺院のみが興道寺という寺名であったと考える必要はなく、播磨・量興寺のように鎌倉期に古代の寺院を再興する、あるいは寺院の由緒を引き継ぐという寺院が現れる現象がある。『若狭国惣田数帳』に見られる寺院として、天台宗無動寺領として、遠敷郡の中心的寺院で確実に定額寺になっていったと考えられる太興寺もあるが、おそらく太興寺は郡名をもつ遠敷寺という寺名であるとともに、法号は太興寺であった可能性も高いのではないかと。例えば「興」という文字は古代寺院によく使われており、興道寺や太興寺という名前が古代寺院まで遡る可能性は捨てがたく、中世寺院である興道寺が、同地域にあった元々の寺名を引き継ぐこともあったのではないかとと思われる。

・奈良時代中頃以降も存続していく寺院として定額寺がその典型となるが、興道寺廃寺は決して霊亀2年のいわゆる寺院併合令で廃止される寺ではない。霊亀年間には金堂、塔が完成していたものと考えられるが、その後に創建伽藍を変更して再度、金堂や塔などを建て直しており、再建の時期は再建の中門基壇下に神功開寶が埋め込まれているので、760年代より少し後であり、そのような時期に大規模な改修を行っていることは興道寺廃寺が寺院として存続していた証と考えられる。定額寺となり、後に存続していく寺院は経営のための施設をもつことが一般的であるが、興道寺廃寺の中心の施設は分かっていた一方で、寺院の北側、講堂以北にかなり広い空間がある中で、いくつかの掘立柱建物跡が確認されている。講堂北側の雑舎群は講堂と同じ向きであり、再建時前後の建物群である可能性も十分あるのではないかと。寺院の中心施設が整備された後に、寺院の経営が本格化する段

階に、寺域の北側にさまざまな建物が建てられるようになるが、興道寺廃寺の寺域北側で確認されているいくつかの建物群については、古墳時代の前身遺構は別にして、興道寺廃寺が再建され、本格的な経営がされている時期の施設として相応しいものになるのではないかと予測される。

#### D. 寺院廃絶期の様相

前項で触れたように、建物基壇の周辺から出土する9世紀後半から10世紀前半にかけての須恵器、土師器があり、9世紀末葉から10世紀前葉の所産と考えられる須恵器蓋は再建期塔基壇南西隅部の整地面の廃絶期の祭祀に伴って出土したものであることから、実質的な廃絶の時期を示しているものと考えられる。

前項、Cで触れたように『2007年報告』において小林裕季氏が基壇周囲の堆積層出土土器の年代から9世紀後半以後の衰退、10世紀以後の廃絶を示唆したが、このことを裏付けることとなった。

### 第4項 興道寺廃寺をとりまく景観

#### A. 興道寺廃寺周辺の開発

興道寺廃寺の創建、再建に伴う土地改変について、創建期に関しては地山層の削り出しで基壇を造り、地山面から溝、土坑などの遺構を掘り込むなど、地山面に対する働きかけを行っていることに対して、再建期においては特に伽藍域を中心に創建期の建物基壇あるいは整地面を覆うように再建期の整地を施し、整地面が広がることが特徴である。再建期の建物基壇はこの整地面の上に構築されており、伽藍域においては創建期と比べて全体的に標高が一段高くなる。

この再建期の整地層は南門基壇からさらに南に広がっていることが特徴的で、少なくとも南に約25mは広がることが確認された。南門の前面には寺院に至るまでの道路や幢幡などを立て掛けた広場状の空間が広がっていたことが想定されるが、寺域外にあるにも関わらず、さらに南方に整地を施す様相は、寺院へのアクセス道、広場の整備に留まらない寺院再建期の地域開発の一端がうかがうことができる。

#### B. 興道寺廃寺をとりまく古代景観

これまでの興道寺廃寺の調査を踏まえて寺院の建立以前、創建期、再建期、廃絶期の各時代の様相が明らかになりつつある中で、興道寺廃寺そのものの規模については、西琳寺、多度神宮寺、近長谷寺などの資財帳に見られる堂塔の構成との対比による栄原永遠男氏の指摘があり、伽藍域については創建期、再建期ともに西琳寺、多度神宮寺と比べてさほど遜色がなく、同等の規模の寺院であり、地方豪族が関与した寺院として他の寺院と比べて遜色がない規模をもっている寺院であったものと評価されている[美浜町教育委員会2011]。

一方で、興道寺廃寺の周辺における古代景観に関しては不明な点が多い。興道寺廃寺の北方から北西方に小鍛冶を伴う律令期の集落が広がっている一端がうかがえるに留まる。寺院は地域の核ともなるランドマークであり、この周辺には官衙を含めたさまざまな施設、交通路、瓦窯、集落拠点などがあったものと考えられるが、瓦窯、官衙施設、交通路の様相は未だ不明である。

### 第5項 興道寺廃寺の建立氏族

#### A. 興道寺廃寺の建立と耳別氏

『2007年報告』では、興道寺廃寺建立氏族として6世紀における耳川流域の在地首長層（獅子塚古墳、興道寺古墳群被葬者層）の後裔集団が想定されるが、従前から指摘されるような耳別氏という個別具体的な寺院建立氏族に関しては不明であるものと報告した。

若狭国三方郡弥美（耳、美々）郷に所在する興道寺廃寺の建立氏族として、『古事記』開化天皇段に記述が見



える若狭之耳別を充てる意見が従来から根強い。日子坐王の系譜上では日子坐王の子にあたる室毘古王が若狭之耳別の祖であることが記されており、巨大な日子坐王系譜の一端に室毘古王が位置付けられている。これ以外の耳別氏に関する史料として、『古事記』継体天皇段に耳王の名が見える。近年、栄原永遠男氏によって注目された新史料であり、耳王は継体大王と三尾君加多夫の娘、あるいは妹の倭比売との子として系譜づけられ、耳王の母方である三尾氏は湖西、旧高島郡を中心とする地域の氏族であり、耳別氏が継体の子の耳王を養育した氏族であった可能性も推測されている。日子坐王は大和王権の大王と婚姻関係を結び、大和、山背、近江、若狭、越前と勢力を伸張したとされる丸迹臣につながるものとされているが、6世紀以後の耳別氏の動向としては、新王統の継体天皇とつながることで勢力を保っていったものと考えられている[美浜町教育委員会 2011]。

また、栄原永遠男氏は『西琳寺縁起』、『多度神宮寺資財帳』などの検討から寺院の造営、管理経営に複数の氏族が関わっていることを明らかにし、興道寺廃寺の寺院規模から考えて、ほとんど史料に見られない耳別氏という在地氏族のみだけで寺院を維持したのではなく、複数氏族が関与しながら、寺院が維持運営されていた状況を想定し、都城出土木簡の検討を通じて、8世紀前葉に別氏が弥美郷以外にも存在し、三方郡ではある程度の地域的広がりをもった氏族である一方で、耳別氏と同様に和珥氏氏族として、弥美郷の丸部、粟田、竹田部里の粟田、和尔部、能登里（郷）の粟田が所在することから、和珥系の氏族集団、あるいは別氏系の豪族集団を核にした、知識的な関係の広がりの中で寺院が維持されていたものと位置づけている [美浜町教育委員会 2011]。

## B. 興道寺廃寺の建立背景

興道寺廃寺の建立背景として、創建期に関しては耳別氏の単独と見るか、在地の氏族集団と見るか、検討の余地はあるが、いわゆる氏寺として建立された可能性は高い。その創建年代は7世紀後半まで遡るが、初期の段階に捨宅寺院として一堂からなる寺院であった時期が存在したかははっきりしない。軒瓦Ⅰ型式とⅡ型式との間にさほど大きな時期差は考えにくいことから、8世紀前半にかけて金堂、塔と段階的に整備されていったものと考えられる。いわゆる郡寺、郡衙周辺寺院としての性格を帯びた寺院であった可能性は、三方郡家の所在とも関わるため不明である。耳川下流域で郡衙施設が検出されるようなことがあれば、その可能性も十分議論されるべきである。

8世紀中葉から後半にかけての時期を中心とした大規模な再建について、その背景を明らかにすることは難しいが、初期（創建期）の講堂が創建期の金堂・塔と建物軸の南北を概ね合わせて再建期の直前に建立され、追って塔がほぼ同じ南北軸で再建され、追って金堂と中門が正方位を意識した南北軸で石積み基壇を伴って再建されていることを前提とすれば、かなり連続的な堂塔の建て替え、変遷がうかがえる。このように8世紀後半以後も存続していく古代寺院として、いわゆる定額寺としての位置づけが可能かという問題もあり、さらなる議論が必要である。

ちなみに、興道寺廃寺の再建の背景を郡領ポストの減少に伴う氏族間の争いに求める門井直哉氏の見解がある。『和名類聚抄』記載の三方郡の能登郷、三方郷、弥美郷、駅家郷、余部郷、都城出土木簡記載の竹田郷の中で、特殊な郷である駅家郷、余部郷を除いた能登郷、三方郷、弥美郷、竹田郷の4郷について、奈良期の実在したであろう竹田郷が後に消滅もしくは郷の再編によって3郷に減少したことにより、三方郡が4郷から7郷からなる下郡であったものが2郷から3郷と最小規模の小郡となったことに伴い、郡司の定員が下郡の大領1名、少領1名、主帳1名から小郡の定員が大領、少領が郡領に一括されて1つポストが減少したため、ポストを巡る在地の氏族間の争いが生じ、興道寺廃寺が8世紀以後も造営され続けていく背景になったという見解である。古代寺院に在地氏族の権勢、勢力を誇示する側面があったとすれば、この耳川流域の氏族が自らの勢い、あるいは郡司としての正当性をアピールするために寺院の造営を続けていったという評価である[美浜町教育委員会 2011]。



## 第6項 調査のまとめ

### A. 遺構・遺物の遺存状況

興道寺廃寺で検出された遺構の内、創建期の伽藍に関するものについては再建期の遺構下にあるため、例えば建物基壇などは下部が良好に現存する可能性も高いが、再建期に一定の改変を受けている。再建期の伽藍に関するものは、例えば建物基壇などは表土直下で検出され、基壇自体は金堂で2/3以上が削平を受け、下部1/3ほどが現存するに留まっているように、また基壇周囲の堆積層に含まれる瓦自体もかなりの改変を受けて細片化し、2次的移動があったことを考慮されることを考えれば、総じて遺構の遺存状況が低いような印象がある。

しかし、『2007年報告』で「遺構が存在する深度が極めて浅いにも関わらず寺院構成遺構が良好に現存する」と述べたように、平面、土層断面で建物基壇の平面形を認識でき、一定の遺物が出土していることを考えれば、遺構に対する一定の削平も将来的な遺跡保存、環境整備に対する障害になるものではないと考えられる。これ以上の遺構、遺物の損壊を招かない保護措置が必要であるが、遺跡の現況が水田、畑地であり、地中に深い掘削を伴わない耕作であれば、当面の遺跡保存に関して差し迫った課題は感じられない。

伽藍域から外れて、南側では表土下に近世以後の堆積層が分布し、また北側においては地山面までが深く、表土下、数10cmほどの厚い堆積層に覆われていることから、総じて遺構の遺存状況は良好である。

### B. 調査の成果

興道寺廃寺第13次調査を終えた現段階での調査の成果を列記する。

- ・『2007年報告』で推測したように寺院自体に大きく創建、再建の2時期が存在することが判明し、それぞれの時期の寺院としての様相を把握しつつあるとともに、伽藍域、寺域の整備にあたっては連続的な堂塔などの整備、変遷があったことを確認した。
- ・創建期、再建期ともに基壇の構築方法の一端を確認した。
- ・再建期（再建3期）においては、金堂、塔、中門、講堂、南門などの基壇を伴う建物が一通り検出され、創建期とともに伽藍配置が判明し、大体の伽藍域、寺域の規模を確認した。
- ・再建期の金堂基壇北面階段を検出したことで、金堂の平面規模、柱間などを推測できるようになった。同様に、再建期の塔基壇の礎石据え付け掘り方の底面を検出したことで、塔初層の平面規模、柱間などを確認した。
- ・寺域北方には掘立柱建物からなる複数時期の建物が展開し、さらに寺域北限からさらに北方では掘立柱建物、竪穴建物などからなる建物が分布することを確認した。
- ・寺院建立以前、6世紀から7世紀前半の掘立柱建物、竪穴建物からなる建物が後の寺域の範囲に分布することを確認し、大規模掘立柱建物は在地小首長層の居館である可能性を想定した。
- ・6世紀～7世紀前半の寺院建立前の在地首長層の集落形成、7世紀第IV四半期～8世紀前葉の金堂、塔、（中門）の建立からなる寺院の創建（創建1期）、再建期直前、8世紀中葉の講堂の建立（創建2期）、8世紀中葉の塔の建て替え（再建1期）、8世紀後半の南門の建立（再建2期）、金堂・中門の建て替え（再建3期）、9世紀末葉～10世紀前葉の廃絶期といった変遷を確認した。
- ・塑像螺髪が出土し、再建期の金堂には丈六級の塑像如来仏が本尊として安置されていたことを確認した。
- ・軒瓦3型式に並行するものと考えられる有段式丸瓦、鷗尾もしくは鬼板瓦の一部とみられるもの、興道寺廃寺の建立氏族を考える上で示唆的な墨書をもつ須恵器が今回、新たに出土した。

### C. 調査の課題

同様に興道寺廃寺第13次調査を終えた現段階での調査の課題を列記する。

- ・講堂基壇、再建期塔基壇と再建期金堂基壇との時期的な前後関係を再確認する必要がある。これについては、金堂—講堂、金堂—塔のそれぞれの基壇を縦断、あるいは横断するように地山面までの断ち割りを行い、土層断面においてその確認を行うことが合理的である。

- ・寺域北側において面積調査を実施し、雑舎施設の様相を確認する必要がある。
- ・寺域南限、北限のさらなる様相を確認する必要がある。

#### D. 終わりに

平成14年度に興道寺廃寺第1次調査に着手し、昨夏の第13次調査までに10年の期間を費やした。遺構、遺物の様相が全く不明の中で始められた調査は当初、手探りの連続で、調査担当者の未熟さもあって初期の調査では遺構の損壊を招いたことは真摯に反省すべきである。兎に角、調査が進むにつれ、古代寺院としての遺跡の具体的な姿が明らかとなりつつある中で、調査担当者として継続的に興道寺廃寺の調査に従事することができたことは望外の喜びであった。本書が興道寺廃寺のこれまでの調査を漏れなく報告し、また遺跡に対して適切な評価を行っているか心許ないが、地域住民はもとより歴史愛好者、研究者など内外の関係各位に広く活用されることを切に願うものである。

美浜町では平成24年度以後、興道寺廃寺と併せて周辺の関係遺跡の調査を進めながら、遺跡の価値を適切に見極め、国史跡としての指定の可能性を模索しながら、積極的な保護措置を図るべく計画している。大方のご意見、ご指導を賜るとともに、変わらぬご支援、ご協力をお願いしたい。

## 〔引用・参考文献〕

- 網谷克彦「松原遺跡の調査」『敦賀論叢 敦賀女子短期大学紀要』第10号 1995 敦賀女子短期大学
- 網谷克彦「第一部 考古編 第二章 美浜の縄文時代」『わかさ美浜町誌』第六巻 掘る・使う 2009a 美浜町
- 網谷克彦「福井県美浜町松原遺跡の土製模造品 ―古墳時代後期の地域首長祭祀の様相―」『敦賀論叢』第23号 2009b 敦賀短期大学
- 石井左近「芳春寺山経塚」『文化財調査報告』第2集 1952 石井左近
- 市大樹「荷札木簡からみた「国一評一五十戸」制」『古代地方行政単位の成立と在地社会』 2009 独立行政法人奈良文化財研究所
- 今津町史編集委員会編『今津町史』第1巻 古代・中世 1997
- 今津町史編集委員会編『今津町史』第4巻 資料 2003
- 入江文敏・森川昌和「獅子塚古墳」『探跡 日本古墳(東日本編)』 1981 有斐閣
- 入江文敏「福井県―若狭地方―」『古代学研究』105号 1984 古代学研究会
- 入江文敏「口背湖遺跡・興道寺窯跡・獅子塚古墳」『福井県史』資料編13 考古 1986a 福井県
- 入江文敏「若狭における古墳時代土器製塩についての覚え書き」『わかさのうみ―紀要I―』 1986b 福井県立若狭歴史民俗資料館
- 入江文敏「若狭地方における首長墓の動態」『福井県史』考古編 1986c 福井県
- 入江文敏「興道寺窯址」『福井県史』考古編 1986d 福井県
- 入江文敏「古墳時代土器製塩の画期と首長墓の動向 ―主部・副製品の分析を通じて―」『横田健一先生古稀記念 文化史論叢(上)』 1987a 創元社
- 入江文敏「古墳時代土器製塩の画期と首長墓の動向」『横田健一先生古稀記念文化史論叢(上)』 1987b 創元社
- 入江文敏「角形土器小考」『網干善教先生華甲記念考古論集』 1988 網干善教先生華甲記念会
- 入江文敏「獅子塚古墳」『前方後円墳集成 中部編』 1992 山川出版社
- 入江文敏「北陸地方における最後の前方後円墳」『石川考古学研究会々誌』第49号 2006 石川考古学研究会
- 入江文敏「越前・若狭における製鉄遺跡の現況 森浩一先生傘寿記念論文集」『古代学研究』第180号 2008a 古代学研究会
- 入江文敏「若狭・越前における古墳時代の実相」『古墳時代の実像』 2008b 吉川弘文館
- 入江文敏「第一部 考古編 第四章 美浜の古墳時代」『わかさ美浜町誌』第六巻 掘る・使う 2009 美浜町
- 上田三平『越前及若狭地方の史蹟』 1974 歴史図書社
- 上田三平『福井県史蹟誌調査報告』第一冊 1922 福井県内務部
- 宇野隆夫「北陸古代手工業生産の成立と変容 ―日本手工業史における意義をめぐって―」『日本史研究』330号 1990 日本史研究会
- 宇野隆夫『律令社会の考古学的研究 北陸を舞台として』 1991 桂書房
- 宇野隆夫「越前における律令的生産構造の展開」『越と古代の北陸 古代王権と交流3』 1996 名著出版
- 近江の古代寺院刊行会『近江の古代寺院』 1989
- 大橋高弥「本文編一、仏法の初め、茲より作れり―仏教の伝来と展開―」『仏法の初め、茲より作れり―古墳から古代寺院へ―』 2007 滋賀県立安土城考古博物館
- 大野康弘「第一部 考古編 第六章 わかさ美浜の城跡」『わかさ美浜町誌』第六巻 掘る・使う 2009 美浜町
- 大森宏「第七章 若越の文学と仏教 第二節 古代の寺院 三 若狭の初期寺院」『福井県史』通史編1 原始・古代 1992 福井県
- 大森宏・森川昌和「福井県(若狭)『日本土器製塩研究』 1994 青木書店
- 大脇梨「一瓦一会」瓦当側面接合技法 ―SR技法―の軒丸瓦について」『三宅雄一氏・東島取小学校・東島取公民館寄贈瓦報告書』 2007 阪南市教育委員会
- 梶原義美「国分寺造営期の瓦供給体制 ―西海道諸国の例から―」『考古学雑誌』第86巻第1号 梶原義美 2001 日本考古学会
- 梶原義美「瓦当文様の受容に関する一考察」『考古学研究』第53巻第3号 2006 考古学研究会
- 梶原義美「手工業生産からみた奈良・平安期の地方社会」『名古屋大学文学部研究論集』158 2007 名古屋大学文学部
- 梶原義美『国分寺瓦の研究 ―考古学からみた律令期生産組織の地方的展開―』 2010 名古屋大学出版会
- 門井直哉「群神域の成立基盤と編成過程」『人文地理』第50巻第1号 1998 人文地理学会
- 門井直哉「律令時代の郡家立地に関する一考察」『史林』第83巻第1号 2000 史学研究会
- 亀田菜穂子「塑像と古代寺院」『網干善教先生華甲記念考古論集』 1988 網干善教先生華甲記念会
- 亀田修一・亀田菜穂子「塑像と埴土」『季刊考古学』34 1991 雄山閣出版
- 亀田修一・亀田菜穂子「塑像螺環に関する覚書」『網干善教先生古稀記念考古論集』下巻 1998 網干善教先生古稀記念会
- 亀田修一「地方寺院の伽藍配置と造営過程」『飛鳥文化財論叢』 2005 納谷守幸氏追悼論文集刊行会
- 岸本雅敏「古代国家と塩の流通」『古代の論点3 都市と工業と流通』 1998 小学館
- 岸本雅敏「特論 塩」『列島の古代史 ひと・もの・こと2 暮らしと生業』 2006 岩波書店
- 北村圭弘「6 近江の山田寺式軒瓦」『古代瓦研究II ―山田寺式軒瓦の成立と展開―』 2005 古代瓦研究会
- 北村圭弘「本文編二、律令国家の形成と地方寺院―近江を舞台として―」『仏法の初め、茲より作れり―古墳から古代寺院へ―』 2007 滋賀県立安土城考古博物館
- 榎木謙周「第四章 律令制下の若越 第三節 都につながる北陸道 ―官道の役割」『福井県史』通史編1 原始・古代 1992 福井県
- 久保智康「北陸西部における軒瓦の需要と伝播 ―越前地方を中心として―」『古代』第97号 1993 早稲田大学考古学会
- 小山清憲「第六章 若越中世社会の形成 第三節 若越の荘園公領と地域社会 ―若越の中世の階級制」『福井県史』通史編1 原始・古代 1992 福井県
- 柴原永達男『日本古代銭貨流通史の研究』 1993 塙書房
- 滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会『大伴寮寺遺跡 今津警察官待機宿舎新築工事に伴う発掘調査報告書』 2004
- 芝田寿朗「野里と古代丹後道 ―野里の所在とその周辺の古代寺院について―」『紀要』第7号 1998 福井県立若狭歴史民俗資料館
- 芝田寿朗「序章 わかさ美浜の寺社の変遷 第二節 美浜の古代寺院と寺社の記録 ―美浜町の古代文化 二 美浜町の古代郷と式内社」『わかさ美浜町誌』第3巻 拝む・描く 2005 美浜町
- 杉山大晋「若狭国遠敷郡における官衙・集落遺跡」『条里制・古代都市研究』第24号 2009 条里制・古代都市研究会
- 鈴木景二「都畿圏交通と在地秩序 ―奈良・平安初期の仏教を素材として―」『日本史研究』379 1994 日本史研究会
- 須原祥二「八世紀の郡司制度と在地」『史学雑誌』第105編第7号 1996 財団法人史学会
- 高島市教育委員会「弘部野南海道遺跡 ―南陸地区の調査―」 2010
- 高橋美久二「都と地方間の交通路政策」『国立歴史民俗博物館研究報告第134号 律令国家転換期の王権と都市[論考編]』 2007 国立歴史民俗博物館
- 高橋美久二「弥美聖家と古代の道」『平成12年度生涯学習講座 ふるさとわかさよま話レジュメ』 2000 美浜町教育委員会
- 武田久二「美浜町興道寺観音畑出土布目瓦について」『三方郡ふるさと昔話』 1976 関西電力株式会社美浜発電所
- 館野和己・榎木謙周「第四章 律令制下の若越 第一節 地方のしくみと役人 二 若越の郷(里)」『福井県史』通史編1 原始・古代 1993 福井県
- 館野和己『日本古代の交通と社会』 1998 塙書房
- 館野和己「若狭・越前の塩と饗」『日本海城歴史大系第1巻 古代篇I』 2005 小林昌二・小嶋芳考編 清文堂
- たつの市立埋蔵文化財センター編『特別展「西播磨の古代寺院と蓮華文帯塼尾」』 2007
- 田中完一・大森宏「二 各説(六) 三方郡」『福井県史』資料編16下 条里復元図 1992 福井県

- 田中完一 「第四章 律令制下の若狭 第四節 開発と土地管理 四 嶺南地方の条里」『福井県史』通史編1 原始・古代 1992 福井県
- 寺島典人「塑像 一断片を中心に」『月刊文化財』No.512 2006 大津市歴史博物館
- 寺島典人「大津市内の塑像について」『大津市歴史博物館研究紀要14』2007 大津市歴史博物館
- 外岡真一郎「第一章 美浜の山、里、川、海、湖をめぐる歴史 9 中世の荘園Ⅰ 10 荘園の世界Ⅱ 35 荘園の世界Ⅰ 36 荘園の世界Ⅱ」『わかさ美浜町誌』第一巻 ふりかえる美浜 2010年 美浜町
- 独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター『地域地質調査報告(5万分の1地質図幅) 西津地域の地質』2002
- 独立行政法人奈良文化財研究所編『跡家と在地社会』2004
- 独立行政法人奈良文化財研究所編『地方官衙と寺院 一郡衙周辺寺院を中心として一 研究報告資料』2005
- 独立行政法人奈良文化財研究所編『在地社会と仏教』2006
- 独立行政法人奈良文化財研究所編『古代地方行政単位の成立と在地社会』2009
- 中司照世・美浜町教育委員会「帝釈寺古墳群調査概要」『若狭歴史だより』第2号 1993 福井県立若狭歴史民俗資料館
- 中原義史「11 北陸の山田寺式部瓦」『古代瓦研究Ⅱ 一山田寺式部瓦の成立と展開一』2005 古代瓦研究会編
- 中村浩「福井県美浜町所在獅子塚古墳出土須恵器について」『MUSEUM』No.500 1993 東京国立博物館
- 永江寿夫「若狭地方の出土埴輪について」『古代文化』第571号 2008 財団法人古代学協会
- 奈良国立博物館編『飛鳥白鳳の古瓦』1970
- 仁科章「福井県製塩土器、漁ろう具出土遺跡」『海の生産用具』第19回研究会追加資料 1986 埋蔵文化財研究会
- 仁科章「第一部 考古編 第三章 美浜の弥生時代」『わかさ美浜町誌』第六巻 掘る・使う 2009 美浜町
- 初村武寛・福山博章「資料二 獅子塚古墳出土の金属製品」『わかさ美浜町誌』第六巻 掘る・使う 2009 美浜町
- 畠中清隆「南伊夜山銅鑼出土地」『第17回福井県発掘調査報告会資料 平成13年度に発掘調査された遺跡』2002 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 林部均「東日本出土の畿内産土師器」『考古学雑誌』第72号1号 1986 日本考古学会
- 馬場基「木簡に見る若狭と奈良」『掘り出された古代の高浜一平城京跡出土木簡から一』2002 高浜町郷土資料館
- 馬場基「古代の道と若狭の駅家」2007 福井県立若狭歴史民俗資料館
- 菱田哲郎「Ⅲ 考古学からみた古代社会の変容」『日本の時代史5 平安京』2002 吉川真司編 吉川弘文館
- 菱田哲郎「古代日本における仏教の普及」『考古学研究』第52巻3号 2005 考古学研究会
- 菱田哲郎『学術選書25 諸文明の起源14 古代日本国家形成の考古学』2007 京都大学学術出版会
- 廣嶋一良「72 寄戸遺跡」『福井県史』資料編13 考古 1986 福井県
- 福井県教育委員会『重要遺跡緊急確認調査報告(Ⅰ)』1978
- 福井県教育委員会『重要遺跡緊急確認調査報告(Ⅱ)』1978
- 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター『興道寺遺跡 一県営ふるさと農道緊急整備事業に伴う調査一』2003
- 福井県埋蔵文化財調査センター『南伊夜山銅鑼出土地』2005
- 福井県埋蔵文化財調査センター『芳春寺山中世墓群』2006
- 福井県立若狭歴史民俗資料館『塩 一生産の歴史三千年一』1989
- 福井県窯業誌刊行会『福井県窯業誌』1983
- 古川登「福井県嶺南地方の埴輪」『六呂瀬山古墳群』1988 福井県教育委員会
- 本郷真紹『律令国家仏教の研究』2005 法藏館
- 北陸古瓦研究会『北陸の古代寺院 その源流と古瓦』1987
- 真柄甚松「第4章 北陸道 第2節 若狭国」『日本古代の交通路』Ⅱ 1978 藤岡謙二編 大明堂
- 松井政信・古川登「三方郡美浜町浄土寺遺跡出土の遺物について(その1)」『福井考古学会会誌』創刊号 1983 福井考古学会
- 松葉竜司「第一部 考古編 第五章 美浜の古代社会に生きた人々」『わかさ美浜町誌』第六巻 掘る・使う 2009 美浜町
- 松葉竜司「シンポジウムⅢ 古代社会の生業をめぐる諸問題 福井県の古代生業」『一般社団法人日本考古学協会2011年度栃木大会 研究発表資料集』2011 日本考古学協会2011年度栃木大会実行委員会
- 三方町教育委員会『田名遺跡』1988
- 三方町教育委員会『角谷遺跡 仏浦遺跡 江端遺跡 牛屋遺跡』1991
- 三方町教育委員会『市港遺跡・北寺遺跡』1992
- 水野和雄「3. 興道廃寺」『北陸の古代寺院 その源流と古瓦』1987 北陸古瓦研究会
- 美浜町教育委員会『興道寺遺跡発掘調査概要』1978
- 美浜町教育委員会『興道寺遺跡』1998
- 美浜町教育委員会『平成10年度興道廃寺縮小範囲確認式掘調査報告書』1999
- 美浜町教育委員会『興道寺古墳群 県営中山間地域総合整備事業美方地区に伴う発掘調査報告書』2002
- 美浜町教育委員会『美浜町内遺跡発掘調査報告書Ⅰ』2003
- 美浜町教育委員会『美浜町歴史シンポジウム記録集1 美浜出土銅鑼が語る ～銅鑼と生きた人々の暮らし～』2004
- 美浜町教育委員会『歴史シンポジウム記録集3 興道寺廃寺と興道寺遺跡 ～古代若狭のテラとムラそしてシオ～』2006 a
- 美浜町教育委員会『歴史シンポジウム 興道寺遺跡の謎に迫る ～古代若狭のテラとムラ～』当日資料集 2006 b
- 美浜町教育委員会『歴史シンポジウム 古代銭貨の謎に迫る ～古代若狭の銭とマツリ～』当日資料集 2007 a
- 美浜町教育委員会『美浜町内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』2007 b
- 美浜町教育委員会『歴史シンポジウム記録集4 興道寺廃寺と古代銭貨 ～古代若狭の銭とマツリ～』2009
- 美浜町教育委員会『美浜町歴史シンポジウム記録集5 こまで分かった! 興道寺廃寺 ～興道寺廃寺をとりまく地域、風景、人々～』2011
- 望月精司「第5章 日本海地域の古代土器生産」『日本海域歴史大系』第2巻 古代篇Ⅱ 2006 清文堂
- 森川昌和「若狭地方における製塩土器編年のまとめ」『福井県史』資料編13 考古編 1986 福井県
- 森下智恵「福井県」『古墳時代の海人集団を再検討する』資料集第1分冊 2007 埋蔵文化財研究会・第56回埋蔵文化財研究会実行委員会
- 森田梯「第二章 美浜の山、里、川、海、湖をめぐる歴史 5 人々の氏姓と郡領氏 6 律令時代の交通」『わかさ美浜町誌』第一巻 ふりかえる美浜 2010 美浜町
- 山口充「美浜町内出土の後期弥生式土器と土師器」『福井考古学会会誌』第2号 1984 福井考古学会
- 山中章「焼き塩の貢納と消費」『日本古代都城の研究』1997 柏書房
- 山中敏史「古代地方官衙遺跡の研究」1994 塙書房
- 若狭地方文化財保護委員会『若州管内社寺由緒記上下 同寺社什物記全』1958

相図番号	遺物番号	調査対象調査区	遺構層位	種別	器種	法量 (cm)		残存部位	製作技法・調整・施文・文様	焼成	色調	備考
						口径	器高 その他					
第16図	7	第11次5tr	S811050北側堆積層	須恵器	杯A			口縁部片		良	灰色	
第16図	8	第11次5tr	S811050北側堆積層	杯B蓋	杯B蓋	(3.0)		口縁部片		良	灰色	
第16図	9	第11次5tr	S811050北側堆積層	須恵器	杯B蓋	(0.8)		口縁部片		良	灰色	
第16図	10	第11次5tr	S811050北側堆積層	須恵器	皿	(1.8)		底部片	底部外面：回転糸切り痕	やや不良	暗灰色	
第16図	11	第11次5tr	S811050北側堆積層	土師器	皿	(1.2)		底部片	底部外面：ナデ、口縁部外面に横ナデ	やや不良	黄褐色	
第16図	12	第11次5tr	S811050北側堆積層	土師器	皿	(2.2)		口縁部片	口縁部内外面：横ナデ	良	褐色	
第16図	13	第11次5tr	S811050北側堆積層	土師器	皿	(1.8)		口縁部片	口縁部内外面：横ナデ	やや不良	黄褐色	
第16図	14	第11次5tr	S811050北側堆積層	土師器	皿	(1.5)		口縁部片	口縁部内外面：横ナデ、口縁部外面に指頭圧痕	やや不良	黄褐色	
第16図	15	第11次5tr	S811050北側堆積層	土師器	皿	(1.5)		口縁部片	口縁部内外面：横ナデ、口縁部外面に指頭圧痕	やや不良	暗黄褐色	
第16図	16	第11次5tr	S811050北側堆積層	土師器	皿	(1.5)		口縁部片	口縁部内外面：横ナデ	良	褐色	
第16図	17	第11次5tr	S811050北側堆積層	土師器	皿	(10.0)		口縁部片	口縁部内外面：横ナデ	やや不良	黄褐色	
第16図	18	第11次5tr	S811050北側堆積層	土師器	鉢		断面径(7.0)	口縁部片	口縁部内外面：横ナデ			
第16図	19	第11次5tr	S811050北側堆積層	土師器	鉢		断面径(7.0)	口縁部片	口縁部内外面：横ナデ			
第16図	20	第11次5tr	S811050北側堆積層	土師器	鉢		断面径(7.0)	口縁部片	口縁部内外面：横ナデ			
第16図	21	第11次5tr	S811050北側堆積層	土師器	鉢		断面径(7.0)	口縁部片	口縁部内外面：横ナデ			
第16図	22	第11次5tr	S811050北側堆積層	土師器	鉢		断面径(7.0)	口縁部片	口縁部内外面：横ナデ			
第16図	23	第11次5tr	S811050北側堆積層	土師器	鉢		断面径(7.0)	口縁部片	口縁部内外面：横ナデ			
第16図	24	第11次5tr	S811050北側堆積層	土師器	鉢		断面径(7.0)	口縁部片	口縁部内外面：横ナデ			
第16図	25	第11次5tr	S811050北側堆積層	土師器	鉢		断面径(7.0)	口縁部片	口縁部内外面：横ナデ			
第17図	26	第11次5tr	S811050北側堆積層	土師器	鉢		断面径(7.0)	口縁部片	口縁部内外面：横ナデ			
第17図	27	第11次5tr	S811050北側堆積層	土師器	鉢		断面径(7.0)	口縁部片	口縁部内外面：横ナデ			
第17図	28	第11次5tr	S811050北側堆積層	土師器	鉢		断面径(7.0)	口縁部片	口縁部内外面：横ナデ			
第17図	29	第11次5tr	S811050北側堆積層	土師器	鉢		断面径(7.0)	口縁部片	口縁部内外面：横ナデ			
第17図	30	第11次5tr	S811050北側堆積層	土師器	鉢		断面径(7.0)	口縁部片	口縁部内外面：横ナデ			
第17図	31	第11次5tr	S811050北側堆積層	土師器	鉢		断面径(7.0)	口縁部片	口縁部内外面：横ナデ			
第34図	187		表土	土師器	皿			底部片	底部外面：糸切り痕	良	黄褐色	
第36図	1	第12次6tr	S811050西側堆積層	土師器	皿	(1.5)		底部片	底部外面：糸切り痕	良	黄褐色	
第36図	2	第12次6tr	S811050西側堆積層	土師器	皿	(2.8)		底部片	底部外面：糸切り痕	やや不良	褐色	
第36図	3	第12次6tr	S811050西側堆積層	土師器	皿	(10.5)		1/5	口縁部～底部外面：指頭圧痕、口縁部内面：横ナデ	良	暗褐色	
第38図	1	第10次5tr	金堂基壇東側 堆積層	須恵器	皿	(2.3)		口縁部片	口縁部内外面に横ナデ	やや不良	暗灰色	
第38図	2	第10次5tr	金堂基壇東側 堆積層	土師器	皿	(1.7)		底部片	底部外面：へろ切り、底部内面に横ナデ	やや不良	黄白色	
第38図	3	第10次5tr	金堂基壇東側 堆積層	土師器	皿	(1.4)		底部片	底部外面：へろ切り、底部内面に横ナデ	やや不良	黄白色	
第38図	4	第10次5tr	金堂基壇東側 堆積層	土師器	皿	(1.4)		底部片	底部外面：へろ切り、底部内面に横ナデ	良	褐色	
第42図	1	第10次6tr	金堂基壇北西隅 礎層	須恵器	杯H蓋	(3.0)		口縁部片	口縁部内外面に横ナデ	良	青灰色	
第42図	2	第10次6tr	金堂基壇北西隅 礎層	須恵器	杯H蓋	(1.0)		口縁部片	口縁部内外面に横ナデ	良	灰色	
第42図	3	第10次6tr	金堂基壇北西隅 礎層	須恵器	杯H蓋	(1.6)		口縁部片	口縁部内外面に横ナデ	良	淡灰色	
第42図	4	第10次6tr	金堂基壇北西隅 礎層	須恵器	皿	(2.0)		底部片	底部外面：回転糸切り	良	淡灰色	
第42図	5	第10次6tr	金堂基壇北西隅 礎層	須恵器	皿	(7.0)		胴部片	胴部内外面：横ナデ	良	褐色	
第43図	1	第10次6tr	金堂基壇北西隅 堆積層	須恵器	皿	(2.6)		胴部片	胴部内外面：横ナデ	良	褐色	
第43図	2	第10次6tr	金堂基壇北西隅 堆積層	土師器	皿	(2.5)		口縁部片	口縁部内面：刷毛目	やや不良	黄褐色	
第43図	3	第10次6tr	金堂基壇北西隅 堆積層	土師器	皿	(1.4)		口縁部片	口縁部内面：刷毛目	良	黄褐色	
第45図	1	第10次4tr	堆積層(金堂基壇南側)	須恵器	杯H蓋	(1.7)		口縁部片	口縁部内外面：横ナデ	良	灰色	
第45図	2	第10次4tr	堆積層(金堂基壇南側)	須恵器	皿	(6.5)		口縁部片	口縁部内外面：横ナデ	良	暗灰色	
第45図	3	第10次4tr	堆積層(金堂基壇南側)	須恵器	皿	(5.0)		胴部片	胴部内外面：横ナデ	良	青灰色	
第45図	4	第10次4tr	堆積層(金堂基壇南側)	須恵器	皿	(3.2)		胴部片	胴部内外面：横ナデ	良	灰色	
第45図	5	第10次4tr	堆積層(金堂基壇南側)	須恵器	皿	(6.5)		胴部片	胴部内外面：横ナデ	良	青灰色	
第45図	6	第10次4tr	堆積層(金堂基壇南側)	土師器	皿	(7.4)		胴部片	胴部内外面：横ナデ	良	褐色	

第6表 興道寺塔第9～13次調査出土遺物観察表(1)



種図番号	遺物番号	調査区	遺構・層位	種別	器種	法量 (cm)		残存部位	製作技法・調整・施文・文様	焼成	色調	備考
						口径	器高					
第47図	1	第10次4tr	S0100401 埋土(整地層)	須臾器	杯蓋	(1.3)		天井部片	天井部外面：不定ナデ	良	淡灰色	
第47図	2	第10次4tr	S0100401 埋土(整地層)	須臾器	杯A	(1.5)		底部片	底部外面：襷ナデ、外面に自然軸付着	良	灰色	
第50図	1	第11次4tr	S010040 東側堆積層	須臾器	杯H蓋	(2.9)		口縁部片	丸く立ち上がる	良	暗灰色	
第50図	2	第11次4tr	S010040 西側堆積層	須臾器	杯H蓋	(3.3)		口縁部片	鈍い縁をもつ	良	灰色	
第50図	3	第11次4tr	S010040 東側堆積層	須臾器	杯B蓋	(13.3)		1/6	天井部外面：回転へず削り	良	灰色	
第50図	4	第11次4tr	S010040 東側堆積層	須臾器	杯B蓋	(14.2)		1/4	天井部外面：回転へず削り	良	灰色	
第50図	5	第11次4tr	S010040 東側堆積層	須臾器	杯A	(10.9)		口縁部片	底部内面に軸付着	良	淡灰色	
第50図	6	第11次4tr	S010040 西側堆積層	灰釉陶器	皿	(1.6)		底部片	底部内面に軸付着	やや不良	黄褐色	
第50図	7	第11次4tr	S010040 東側堆積層	土師器	皿	(1.5)		底部片	内側にやや強る高台	良	黄褐色	
第52図	34	第11次4tr	再建期整地層	須臾器	杯B	(2.2)		底部片	型作り、螺旋右巻き、底面に穿孔	良	淡灰色	
第52図	35	第11次4tr	S0100401 埋土	塑像残骸		2.0	底面径(1.8) 底面孔径0.3、底面孔径さ0.8	完形		良	灰色	
第53図	1	第11次3tr	S0100301 堆積層	須臾器	杯H蓋	(2.9)		口縁部片	口縁端部に段、沈線による縁をもつ	良	淡灰色	
第53図	2	第11次3tr	S0100301 堆積層	須臾器	杯B	(3.4)		底部片	細く、外に強る高台	良	淡灰色	
第53図	3	第11次3tr	S0100301 堆積層	須臾器	皿	(1.8)		底部片	底部へず削り痕	やや不良	淡灰色	
第53図	4	第11次3tr	S0100301 堆積層	須臾器	短頸蓋	(10.2)		口縁部片	器底は極めて薄い	良	灰色	
第53図	8	第11次3tr	S0100301 直土	須臾器	蓋	13.8		完形	天井部外面：回転へず削り、天井部外面「耳」懸着	やや不良	淡灰色	
第53図	9	第11次3tr	S0100301 埋土	須臾器	襷瓶	(8.0)	体部径14.9	ほぼ完形	口縁部・体部外面：カキ目、襷状把手	良	黒灰色	
第54図	1	第9次2tr	P09020 埋土	須臾器	杯G蓋	(2.6)		口縁部片		良	灰色	
第56図	1	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	杯H蓋		口縁部高1.9	口縁部片	口縁端部：段、沈線による縁をもつ	やや不良	淡灰色	
第56図	2	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	杯H蓋		口縁部高1.9	口縁部片	口縁部内面：段をもつ	良	淡灰色	
第56図	3	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	杯H蓋		口縁部高0.9	口縁部片	口縁部と天井部との境が強く屈曲	やや不良	淡灰色	
第56図	4	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	杯H	(11.3)	4.6 受部径(14.4)	1/8	底部外面：回転へず削り、底部外面：自然軸付着	良	灰色	
第56図	5	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	杯H	(11.8)	4.7 受部径(14.2)	1/8	底部外面：回転へず削り、底部外面：自然軸付着	やや不良	淡灰色	
第56図	6	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	杯H	12.2	5.2 口縁部高1.5、受部径(14.6)	ほぼ完形	底部外面：回転へず削り、底部内面：強いナデ	良	青灰色	
第56図	7	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	杯H	(11.0)	5.3 口縁部高1.2、受部径(13.2)	1/5	底部外面：回転へず削り	良	青灰色	
第56図	8	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	杯H	(11.8)	4.4 口縁部高1.2、受部径(14.0)	5/4	底部外面：回転へず削り	良	暗灰色	
第56図	9	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	杯H	(3.2)	口縁部高1.2	口縁部片	口縁部：極めて薄く作る	良	暗灰色	
第56図	10	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	杯H	(3.3)	口縁部高1.3	口縁部片		良	淡灰色	
第56図	11	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	杯H	(4.0)	口縁部高1.0、受部径(14.3)	口縁部片		やや不良	淡灰色	
第56図	12	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	杯H	(2.0)	口縁部高0.9	口縁部片		良	灰色	
第56図	13	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	杯H	(3.1)	口縁部高0.6	口縁部片		良	淡灰色	
第56図	14	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	杯H	(2.5)	口縁部高0.8	口縁部片		良	淡灰色	
第56図	15	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	杯H	(2.2)	口縁部高0.9	口縁部片		良	淡灰色	
第56図	16	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	高杯	(7.8)	胴部基部径(2.8)	胴部片	基部：2条の沈線	良	淡灰色	
第56図	17	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	蓋	(7.0)	体部径(10.8)	体部1/5	体部外面：カキ目、底部外面：回転へず削り	良	灰色	8片で同一個体を構成
第56図	18	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	蓋	(8.0)	体部径(14.0)	体部1/2	体部外面：1条の刷突文、底部外面：回転へず削り	良	淡灰色	2片で同一個体を構成
第56図	19	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	蓋	(8.5)	体部径(8.2)	体部1/4	須部・体部外面：刷突文、須部～体部外面：カキ目	良	灰色	2片で同一個体を構成
第56図	20	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	蓋	(7.3)	体部径(11.4)	体部1/3	体部外面：カキ目、底部外面：不定方向に櫛状工具によるナデ	良	暗灰色	2片で同一個体を構成
第56図	21	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	蓋	(3.0)		底部2/3	底部外面：格子叩き、体部外面：カキ目、体部～底部：内面ナデ	良	灰色	2片で同一個体を構成
第56図	22	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	襷	(3.7)		口縁部片	口縁部外面：波状文	良	黒褐色	
第56図	23	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	襷	(3.1)		胴部片	胴部外面：格子叩きの後にカキ目、胴部内面：当具痕	やや不良	暗灰色	
第56図	24	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	須臾器	襷	(3.1)		口縁部片	口縁部外面：刷突文、底部外面：回転へず削り	良	暗灰色	
第56図	25	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	土師器	甕	(11.8)	胴部径(11.0)	口縁・胴部片	胴部外面：斜め刷毛目、胴部内面：櫛削り	良	褐色	
第56図	26	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	土師器	甕	(19.0)	胴部径(17.1)	口縁部片	胴部内面：櫛状工具によるナデ、胴部内面：櫛状工具によるナデ	良	赤褐色	
第56図	27	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	土師器	甕	(4.8)		底部片	胴・底部外面：櫛状毛目、底部内面：櫛削りの後にナデ	良	赤褐色	
第56図	28	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	土師器	甕			把手	把手外面：刷毛目、指頭凹痕	良	赤褐色	
第56図	29	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	土師器	甕			把手	把手外面：刷毛目、指頭凹痕	良	赤褐色	
第57図	30	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	製瓦土器	製瓦土器	(3.5)		口縁部片	内外面ナデ、半須惠質	やや不良	赤褐色	
第57図	31	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	製瓦土器	製瓦土器	(2.7)		口縁部片	内外面ナデ、半須惠質	やや不良	灰白色	
第57図	32	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	製瓦土器	製瓦土器	(3.2)		口縁部片	内外面ナデ、半須惠質	やや不良	灰白色	
第57図	33	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	土鏝	土鏝		現在長3.4、穿孔径0.6	1/2	長軸方向に穿孔	良	褐色	

第7表 興寺寺跡第9～13次調査出土遺物観察表(2)



種目 番号	遺物 番号	調査次 調査区	遺構・構位	種別	器種	法量 (cm)		残存部位	製作技法・調整・施文・文様	焼成	色調	備考
						口径	高さ その他					
第59図	1	第9次1tr	惣地層(中門基壇西側断層)	須臾器	杯H	(2.5)	口縁部高1.2	口縁部片		良	灰色	
第59図	2	第9次1tr	惣地層(中門基壇西側断層)	須臾器	杯G蓋	(3.0)		口縁部片		良	灰色	
第59図	3	第9次1tr	惣地層(中門基壇西側断層)	須臾器	杯A	(2.3)		口縁部片		良	淡灰色	
第59図	4	第9次1tr	惣地層(中門基壇西側断層)	製塩土器		(3.2)		口縁部片		良	赤褐色	半須臾質
第59図	5	第9次1tr	惣地層(中門基壇西側断層)	製塩土器		(2.7)		口縁部片		良	褐色	
第60図	1	第12次1tr	中門基壇北西 惣地層	須臾器	杯H蓋	(3.7)	現存長4.3、断面3.8×3.6	基部	天井部外面：回転へず削り、口縁部内外面：横ナデ	良	灰色	
第60図	2	第12次1tr	中門基壇北西 惣地層	須臾器	杯B蓋	(1.2)	口縁部高2.1	口縁部片	口縁部内外面：横ナデ	良	灰色	
第60図	1	第11次1tr	中門・南門基壇西側堆積層	須臾器	杯H蓋	(4.0)		口縁部片	天井部外面：回転へず削り	良	灰色	
第60図	2	第11次1tr	中門・南門基壇西側堆積層	須臾器	杯B蓋	(1.1)		底部片	外に張り出す高台	良	淡灰色	
第60図	3	第11次1tr	中門・南門基壇西側堆積層	須臾器	皿	(2.0)		口縁部片		良	淡灰色	
第60図	4	第11次1tr	中門・南門基壇西側堆積層	須臾器	甕	(8.5)		胴部片	胴部外面：平行叩きカキ目、胴部内面：当具痕	良	黒灰色	
第60図	5	第11次1tr	中門・南門基壇西側堆積層	須臾器	壺	(3.4)		体部片	胴部外面：カキ目、胴部内面：当具痕ナデ消し	やや不良	淡灰色	
第60図	6	第11次1tr	中門・南門基壇西側堆積層	土師器	皿	(1.7)		底部片	口縁部外面：煤付着	やや不良	黄褐色	
第60図	7	第11次1tr	中門・南門基壇西側堆積層	円筒埴輪		(6.3)	タガ部最大径(20.0)	破片	外面：縦刷毛、内面：不定ナデ	良	灰色	
第60図	8	第11次1tr	中門・南門基壇西側堆積層	土壁		(10.8)	現存長5.2×4.2、現存厚3.8	破片	一部に腐ス少混じる	良	褐色	
第60図	11	第11次1tr	覆乱地埋土	須臾器	甕	(2.8)	胴部径(19.0)	口縁部片	口縁部外面：2条の沈線、胴部外面：平行叩き、胴部内面：当具痕	良	黒褐色	
第60図	12	第11次1tr	覆乱地埋土	土壁		(10.6)	現存長8.0×6.5、現存厚4.8	破片	腐ス少混じる、鉄分付着	良	赤褐色	
第60図	1	第11次1tr	SD110102埋土	須臾器	皿	(1.4)		口縁部片	口縁部片	良	黄白色	
第60図	2	第11次1tr	SD110102埋土	須臾器	皿	(4.9)		底部片	底部内面：強い横ナデ	良	黒紫色	
第60図	3	第11次1tr	SD110102埋土	須臾器	甕	(10.9)		胴部片	胴部外面：縦方向平行叩き、胴部内面：強い横ナデ	良	黒紫色	
第60図	4	第11次1tr	SD110102埋土	土師器	甕	(4.9)		把手	外面一部刷毛	良	褐色	
第60図	5	第11次1tr	SD110102埋土	灰釉陶器	皿	(1.8)	高台径(6.0)	底部片	底部内外面：強い横ナデ	良	淡灰色	
第60図	1	第11次1tr	中門・南門基壇西側断層(断層)	須臾器	甕	(2.4)		口縁部片		良	褐色	
第60図	2	第11次1tr	中門・南門基壇西側断層(断層)	土師器	甕	(17.9)	胴部径(17.4)	口縁部片	胴部外面：縦刷毛、胴部内面：斜め削り	良	黄褐色	
第60図	3	第11次1tr	中門・南門基壇西側断層(断層)	土師器	甕	(5.6)		把手	外面：刷毛目	良	黄褐色	
第60図	4	第11次1tr	中門・南門基壇西側断層(断層)	製塩土器		(6.3)		口縁部片	口縁部内面：斜め刷毛	良	黄褐色	
第60図	5	第11次1tr	中門・南門基壇西側断層(断層)	製塩土器		(8.2)		口縁部片	口縁部外面：粘土継ぎ目上げ痕	良	黄褐色	
第60図	6	第11次1tr	中門・南門基壇西側断層(断層)	製塩土器		(2.6)		口縁部片		良	褐色	
第60図	1	第12次7tr	SB110701北側堆積層	鉄釘			現存長13.8、断面0.6×0.7	頭部～脚部				
第60図	2	第12次7tr	SB110701北側堆積層	鉄釘			現存長10.8、断面0.7×0.9	頭部～脚部				
第60図	3	第12次7tr	SB110701北側堆積層	鉄製品	環状把手		現存長6.0	環状部分形状				
第60図	4	第12次7tr	SB110701北側堆積層	塑像蠟燭		(4.4)	底面径(2.3) 底面孔径0.6、底面孔深さ1.4	頂部欠損	型作り、蠟燭右巻き、底面に穿孔、2箇所型合わせ痕、	良	淡灰色	
第60図	14	第12次7tr	SB110701北側断層地層	須臾器	筒小絞鉢	(4.2)		口縁部片	口縁部内外面：横ナデ	良	灰色	
第60図	6	第13次2tr	SB130201南側堆積層	鉄棒			現存長6.0×4.1、現存厚3.2	破片				
第60図	7	第13次2tr	SB130201南側堆積層	鉄釘			現存長10.4、断面0.6×0.6	頭部～基部				
第60図	8	第13次2tr	SB130201南側堆積層	塑像蠟燭		(4.3)	底面孔径0.6	上部・側面・底面欠損	型作り、蠟燭右巻き、底面に穿孔、2箇所型合わせ痕、	良	黒褐色	
第71図	29	第13次2tr	表土	塑像蠟燭		(2.4)	底面径(2.1) 底面孔径0.7、底面孔深さ1.3	下部1/2	型作り、蠟燭右巻き、底面に穿孔、2箇所型合わせ痕、	良	褐色	
第71図	30	第13次2tr	表土	塑像蠟燭		(4.4)	底面径(2.3) 底面孔径0.6、底面孔深さ1.4	頂部欠損	型作り、蠟燭右巻き、底面に穿孔、2箇所型合わせ痕	良	淡灰色	
第71図	31	第13次2tr	表土	塑像蠟燭		(2.9)	底面孔径0.4	上部・底面欠損	型作り、蠟燭右巻き、底面に穿孔、2箇所型合わせ痕、	良	灰黄色	
第72図	1	第12次8tr	SB110801北側断層地層	須臾器	杯B蓋	(0.6)		口縁部片	口縁部外面煤付着	良	灰色	
第72図	2	第12次8tr	SB110801北側断層地層	須臾器	杯B蓋	(1.6)	天井部径(9.0)	口縁部片	天井部外面：不定ナデ、口縁部内外面：横ナデ	良	淡灰色	
第72図	3	第12次8tr	SB110801北側断層地層	須臾器	杯A	(1.5)		口縁部片		良	淡灰色	
第72図	4	第12次8tr	SB110801北側断層地層	須臾器	杯A	(1.2)	底面径(5.5)	底部2/3	底部外面：へず削り痕	良	灰色	
第72図	5	第12次8tr	SB110801北側断層地層	須臾器	杯B	(1.1)		底部片	高台	良	灰色	
第72図	6	第12次8tr	SB110801北側断層地層	須臾器	皿	(1.4)		底部片	底部平坦	やや不良	淡灰色	
第72図	7	第12次8tr	SB110801北側断層地層	土師器	皿	(1.6)		底部片	底部内面：糸切り痕	良	褐色	

第8表 興道寺廃寺第9～13次調査出土遺物観察表(3)

種別	遺物番号	調査区	遺構・層位	種別	器種	法量 (cm)			残存部位	製作技法・調整・施文・文様	焼成	色調	備考
						口径	器高	その他					
第72図	8	第12次3tr	SB11080北側整地層	土師器	皿	(8.8)	(2.6)	底径(4.5)	底部外面：へろ切り痕、全体的に煤付着	良	黒褐色		
第72図	9	第12次3tr	SB11080北側整地層	土師器	皿	(13.1)	(2.9)	底径(7.5)	底部外面：へろ切り	良	褐色		
第76図	1	第11次2tr	SK11020埋土	土師器	壺		(11.9)	頸径13.0	胴部外面：縦刺毛、胴部内面：煤付着	良	褐色		
第76図	2	第11次2tr	SK11022埋土	土師器	椀	11.7	3.7	底径5.4	内外面：横ナデ、口縁部外面：指頭瓦葺	良	褐色		
第76図	3	第11次2tr	P11021埋土	土師器	椀		(4.1)		口縁部外面：指頭瓦葺	良	褐色		
第76図	4	第11次2tr	P11022埋土	須恵器	杯H蓋		(2.9)		口縁部外面：指頭瓦葺、口縁部と天井部の間に花線	良	黒灰色		
第76図	5	第11次2tr	P11022埋土	須恵器	杯H蓋		(3.4)		口縁部外面：指頭瓦葺	良	淡灰色		
第77図	1	第11次2tr	中門基壇北側整地層	須恵器	杯H蓋		(2.2)		天井部1/3	良	青灰色		
第77図	2	第11次2tr	中門基壇北側整地層	須恵器	杯H蓋		(2.9)		口縁部外面：指頭瓦葺	良	淡灰色		
第77図	3	第11次2tr	中門基壇北側整地層	土師器	壺		(6.0)		口縁部外面：指頭瓦葺	良	褐色		
第77図	4	第11次2tr	中門基壇北側整地層	鉄釘	鉄釘				外面：刺毛目	良	褐色		
第78図	1	第9次4tr	SB09040床面	須恵器	須恵器		(27.5)	現在長14.8、断面0.8×0.6	胴部外面：平行叩き、胴部内面：当具痕、胴部上位カキ目調横ナデ	やや不良	淡灰色		
第84図	1	第10次1tr	SB10010埋土	須恵器	皿	(13.0)	(3.0)		底部外面：へろ切り	良	淡灰色		
第84図	2	第10次1tr	SB10010埋土	製塩土器	製塩土器		(7.1)		底部外面：粘土銀繕み上付痕、体部内面：ナデ	やや不良	褐色		
第84図	3	第10次1tr	SB10010埋土	製塩土器	製塩土器		(7.1)		体部外面：粘土銀繕み上付痕、体部内面：ナデ	やや不良	褐色		
第84図	4	第10次1tr	SB10010埋土	製塩土器	製塩土器		(7.1)		体部外面：粘土銀繕み上付痕、体部内面：ナデ	やや不良	褐色		
第84図	5	第10次1tr	SB10010埋土	製塩土器	製塩土器		(7.1)		体部外面：粘土銀繕み上付痕、体部内面：ナデ	やや不良	褐色		
第84図	6	第10次1tr	SB10010埋土	製塩土器	製塩土器		(7.1)		体部外面：粘土銀繕み上付痕、体部内面：ナデ	やや不良	褐色		
第84図	7	第10次1tr	SB10010埋土	製塩土器	製塩土器		(7.1)		体部外面：粘土銀繕み上付痕、体部内面：ナデ	やや不良	褐色		
第84図	8	第10次1tr	SB10010埋土	製塩土器	製塩土器		(7.1)		体部外面：粘土銀繕み上付痕、体部内面：ナデ	やや不良	褐色		
第84図	9	第10次1tr	SB10010埋土	製塩土器	製塩土器		(7.1)		体部外面：粘土銀繕み上付痕、体部内面：ナデ	やや不良	褐色		
第84図	10	第10次1tr	SB10010埋土	製塩土器	製塩土器		(7.1)		体部外面：粘土銀繕み上付痕、体部内面：ナデ	やや不良	褐色		
第84図	11	第10次1tr	SB10010埋土	製塩土器	製塩土器		(7.1)		体部外面：粘土銀繕み上付痕、体部内面：ナデ	やや不良	褐色		
第84図	12	第10次1tr	SB10010埋土	製塩土器	製塩土器		(7.1)		体部外面：粘土銀繕み上付痕、体部内面：ナデ	やや不良	褐色		
第84図	13	第10次1tr	SB10010埋土	製塩土器	製塩土器		(7.1)		体部外面：粘土銀繕み上付痕、体部内面：ナデ	やや不良	褐色		
第84図	14	第10次1tr	SB10010埋土	製塩土器	製塩土器		(7.1)		体部外面：粘土銀繕み上付痕、体部内面：ナデ	やや不良	褐色		
第84図	15	第10次1tr	SB10010埋土	製塩土器	製塩土器		(7.1)		体部外面：粘土銀繕み上付痕、体部内面：ナデ	やや不良	褐色		
第84図	16	第10次1tr	SB10010埋土	製塩土器	製塩土器		(7.1)		体部外面：粘土銀繕み上付痕、体部内面：ナデ	やや不良	褐色		
第84図	17	第10次1tr	SK10010埋土	製塩土器	製塩土器		(7.1)		体部外面：粘土銀繕み上付痕、体部内面：ナデ	やや不良	褐色		
第84図	18	第10次1tr	SK10010埋土	製塩土器	製塩土器		(7.1)		体部外面：粘土銀繕み上付痕、体部内面：ナデ	やや不良	褐色		
第84図	19	第10次1tr	SK10010埋土	製塩土器	製塩土器		(7.1)		体部外面：粘土銀繕み上付痕、体部内面：ナデ	やや不良	褐色		
第84図	20	第10次1tr	SK10010埋土	製塩土器	製塩土器		(7.1)		体部外面：粘土銀繕み上付痕、体部内面：ナデ	やや不良	褐色		
第84図	21	第10次1tr	SK10010埋土	製塩土器	製塩土器		(7.1)		体部外面：粘土銀繕み上付痕、体部内面：ナデ	やや不良	褐色		
第85図	1	第10次2tr	SB10020埋土	須恵器	壺	(8.8)	(3.7)	頸径(8.4)	口縁部外面：指頭瓦葺	良	淡灰色		
第85図	2	第10次2tr	SB10020埋土	須恵器	壺		(2.3)		口縁部外面：指頭瓦葺	良	淡灰色		
第85図	3	第10次2tr	SB10020埋土	須恵器	壺		(4.7)	体部径(14.8)	体部外面：指頭瓦葺、口縁部内面：二段放射線文	良	乳白色		
第85図	4	第10次2tr	SB10020埋土	須恵器	壺		(6.6)	体部径(28.8)	体部外面：指頭瓦葺、口縁部内面：二段放射線文	良	黄褐色		
第85図	5	第10次2tr	SB10020埋土	須恵器	壺		(2.5)		口縁部外面：指頭瓦葺	良	褐色		
第85図	6	第10次2tr	SB10020埋土	須恵器	壺		(15.6)		口縁部外面：指頭瓦葺	良	褐色		
第85図	7	第10次2tr	表土(地山上面)	須恵器	杯B蓋		(2.5)		口縁部外面：指頭瓦葺	不良	乳白色		
第85図	8	第10次2tr	表土	須恵器	壺		(2.4)		口縁部外面：指頭瓦葺	不良	乳白色		
第88図	1	第13次3tr	P13030埋土	土師器	皿		(1.6)		口縁部外面：指頭瓦葺	良	褐色		
第90図	1	第11次1tr	表土下 礎層	土師器	壺		(4.8)		口縁部外面：指頭瓦葺	良	黒褐色土		
第90図	2	第11次1tr	表土下 礎層	土師器	壺		(3.0)		口縁部外面：指頭瓦葺	良	褐色		
第90図	3	第11次1tr	表土下 礎層	土師器	壺		(4.8)		口縁部外面：指頭瓦葺	良	褐色		
第90図	4	第11次1tr	SB1110北側埋積層	須恵器	杯H		(3.9)	口縁部高1.0	口縁部外面：指頭瓦葺	良	灰色		
第90図	5	第11次1tr	SB1110北側埋積層	須恵器	杯H		(1.2)		口縁部外面：指頭瓦葺	良	青灰色		
第90図	6	第11次1tr	SB1110北側埋積層	須恵器	杯B蓋		(2.4)		口縁部外面：指頭瓦葺	良	淡灰色		
第90図	7	第11次1tr	SB1110北側埋積層	須恵器	不明		(6.0)		口縁部外面：指頭瓦葺	良	淡黄褐色		
第90図	8	第11次1tr	SB1110北側埋積層	須恵器	壺		(6.0)		口縁部外面：指頭瓦葺	良	黒褐色		

第9表 興道寺廃寺第9～13次調査出土遺物観察表(4)

制図 番号	遺物 番号	調査枚数 調査区	遺構・層位	種別	器種	法量 (cm)			残存部位	製作技法・調整・施文・文様	焼成	色調	備考
						口径	器高	その他					
第900図	9	第12次1tr	SR1110北側堆積層	須恵器	甕	(6.3)		口縁部片	口縁部外面：二段の波状文	良	黒褐色		
第900図	10	第12次1tr	SR1110北側堆積層	灰輪陶器	皿	(1.8)		底部片	底部に三日状高台	良	淡灰色		
第900図	11	第12次1tr	SR1110北側堆積層	土師器	皿	(9.3)		底部片	口縁部内外面：糸切り痕	良	褐色		
第900図	12	第12次1tr	SR1110北側堆積層	土師器	皿	(1.9)		口縁部片	口縁部内外面：強い横ナデ、口縁部外外面に段	良	黄褐色		
第900図	13	第12次1tr	SR1110南側堆積層	須恵器	杯H蓋	(3.0)		口縁部片	口縁部内外面：横ナデ	良	灰色		
第900図	14	第12次1tr	SR1110南側堆積層	須恵器	杯	(3.1)		口縁部片	口縁部内外面：沈線、口縁部外外面に自然斜行着	良	灰色		
第900図	15	第12次1tr	SR1110南側堆積層	須恵器	高杯	(3.0)		脚部片	杯部内外面：当て具痕	良	青灰色		
第900図	16	第12次1tr	SR1110南側堆積層	土師器	甕	(4.5)	頸部径(16.5)	口縁部片	脚部内外面：削り	良	褐色		
第900図	17	第12次1tr	SR1110北側堆積層	鍔釘			現在長11.9、断面0.6×0.8	基部					
第900図	18	第12次1tr	SR1110北側堆積層	鍔釘			現在長10.2、断面0.6×0.8	基部					
第904図	1	第12次2tr	表上下 礎層	須恵器	杯B	(1.2)	高台径(7.9)	底部片	底部内外面：ナデ	良	黄灰色		
第904図	2	第12次2tr	SR12020西側堆積層	須恵器	甕	(4.5)		脚部片	脚部内外面：平行叩き・カキ目、脚部内外面：当て具痕	良	黒褐色		
第905図	1	第12次3tr	覆瓦処理土	須恵器	杯蓋	(11.6)	天井部径(8.1)	口縁部片	高台	良	淡灰色		
第905図	2	第12次3tr	覆瓦処理土	須恵器	杯B蓋	(2.4)		天井部片		良	淡灰色		
第907図	1	第13次1tr	堆積層	須恵器	杯A	(2.3)		口縁部片		良	灰色		
第907図	2	第13次1tr	堆積層	須恵器	杯A	(2.6)		脚部片	脚部内外面：叩き、脚部内外面：当て具痕	良	灰色		
第907図	3	第13次1tr	堆積層	須恵器	甕	(3.0)		脚部片	脚部内外面：叩き、脚部内外面：当て具痕	良	青灰色		
第907図	4	第13次1tr	堆積層	須恵器	甕	(2.0)		脚部片	脚部内外面：叩き、脚部内外面：当て具痕	良	灰色	17点で同一個体	
第907図	5	第13次1tr	堆積層	土師器	口縁部片	(2.0)		口縁部片	口縁部内外面：叩き、脚部内外面：当て具痕	良	淡黄褐色		
第907図	6	第13次1tr	再建明窓地層	須恵器	皿	(11.2)	底部径(7.6)	口縁部・脚部片	口縁部内外面：叩き、脚部内外面：当て具痕	良	黒褐色		
第908図	1	第10次0tr	寺城北側 堆積層	土師器	皿	(2.5)		口縁部1/4	口縁部下半～底部外外面：指頭圧痕、口縁部内外面：強い横ナデ	良	褐色		
第908図	2	第10次0tr	寺城北側 堆積層	銭貨	寛永通宝			完形	外縁径2.5、外縁厚0.1、内郭内径0.6 文字面焼文「寛永通寶」、背面焼文「文」				
第908図	5	第10次0tr	SK10002埋土	須恵器	甕	(2.0)		底部	底部内外面：平行叩き、底部内外面：不定ナデ	良	灰色		
第908図	8	第10次0tr	P101035埋土	須恵器	杯H蓋	(15.0)	天井部径(14.7)、口縁部径2.1	1/3	外外面に段、天井部外外面：回転へろ削り、口縁部外外面に段	良	黒灰色		
第908図	9	第10次0tr	P101035埋土	須恵器	杯H蓋	(15.0)	天井部径(14.8)、口縁部径2.3	口縁部1/4	外外面に段、口縁部外外面に段	良	淡灰色		
第908図	1	第10次1tr	P101104埋土	土師器	樹	(2.4)	底部径(6.4)	底部片	底部内外面：回転へろ削り	良	褐色		
第908図	2	第10次1tr	P101104埋土	土師器	皿	(1.8)		口縁部片	口縁部外外面：指頭圧痕	良	褐色		
第908図	3	第10次1tr	P101104埋土	銅貨幣			現在長7.4×6.4、現存厚3.8	破片	口縁部外外面：指頭圧痕				
第908図	4	第10次1tr	P101110埋土	土師器	皿	8.5	底部径(6.1)	ほぼ完形	口縁部下半～底部外外面：指頭圧痕、口縁部内外面：強い横ナデ	良	黄褐色		
第908図	5	第10次1tr	P101132埋土	須恵器	杯B蓋	(1.4)		口縁部片	口縁部内外面：沈線	良	灰色		
第101図	1	第10次3tr	寺城北側 堆積層	須恵器	甕	(5.9)		脚部片	脚部内外面：平行叩きナデ消し、脚部内外面：当て具痕ナデ消し	良	淡灰色		
第101図	2	第10次3tr	寺城北側 堆積層	須恵器	甕	(5.6)		脚部片	脚部内外面：平行叩き・カキ目、脚部内外面：当て具痕ナデ消し	良	灰色		
第101図	3	第10次3tr	寺城北側 堆積層	土師器	皿	(12.0)	底部径(10.2)	口縁部片	口縁部～底部外外面：指頭圧痕、口縁部～底部内外面：強い横ナデ	良	黄褐色		
第101図	4	第10次3tr	寺城北側 堆積層	銭貨	寛永通宝			完形	外縁径2.4、外縁厚0.12、内郭内径0.61 文字面焼文「寛永通寶」				
第101図	5	第10次3tr	P100902埋土	土師器	甕	(19.6)	頸部径(17.8)	口縁部1/6	口縁部内外面：強い横ナデ	良	褐色		
第101図	6	第10次3tr	P100916埋土	須恵器	杯H蓋	(2.5)		天井部片	口縁部外外面：回転へろ削り	良	黒灰色		
第101図	7	第10次3tr	P100929埋土	製瓦土器		(4.6)		口縁部片	口縁部外外面：粘土粘着み上げ痕	良	淡灰色		
第101図	8	第10次3tr	P100953埋土	須恵器	杯B	(2.8)		底部片	口縁部外外面：粘土粘着み上げ痕	良	灰色		
第101図	9	第10次3tr	P100932埋土	須恵器	甕	(4.8)		底部片	脚部内外面：平行叩きナデ消し、脚部内外面：当て具痕	良	灰色		
第102図	1	第9次6tr	SK090601埋土	土師器	皿	(1.0)	底部径(6.3)	底部	底部内外面：回転へろ削り	良	黄褐色		
第102図	1	第10次3tr	SK100801埋土	須恵器	杯H	(2.7)	口縁部高1.5、受部径(14.7)	口縁部片	口縁部内外面：縦付着	良	黒色		
第102図	2	第10次3tr	SK100802埋土	須恵器	皿	(11.9)	(2.4)	口縁部片	口縁部内外面に縦付着	良	灰色		
第102図	3	第10次3tr	SK100803埋土	須恵器	杯B	(13.5)	(4.1)	底部径(9.8)	底部内外面：不定方向に強い横ナデ	良	暗灰色		
第113図	1	第10次7tr	SK100701埋土	須恵器	杯H蓋	(13.0)	(2.6)	口縁部片	口縁部片	良	褐色		
第113図	2	第10次7tr	SK100701埋土	土師器	甕	(5.3)		把手	把手外外面に剛毛目、ナデ	良	褐色		
第113図	3	第10次7tr	SK100701埋土	土師器	甕	(4.7)		把手	把手外外面に剛毛目、ナデ	良	褐色		
第113図	4	第10次7tr	SK100702埋土	須恵器	杯H蓋	(13.0)	(3.1)	口縁部片	口縁部片	良	灰色		
第113図	5	第10次7tr	SK100702埋土	須恵器	杯H蓋	(2.8)		天井部片	天井部外外面：へろ削り未調整	良	灰色		

第10表 興達寺塔寺第9～13次調査出土遺物観察表(5)

神図 番号	遺物 番号	調査次 調査区	遺構・層位	種別	器種	法量 (cm)			残存部位	製作技法・調整・施文・文様	焼成	色調	備考
						口径	器高	その他					
第113図	6	第10次7tr	P10070埋土	須恵器	壺	(4.6)		体部径(12.5)	体部片	体部外面：回転へず削り	良	暗灰色	
第113図	7	第10次7tr	P10070埋土	銭貨	寛永通宝				完形	外縁外縁2.4、外縁厚0.09、内郭内径0.52 文字面辨文「寛永通宝」			
第114図	1	第11次7tr	寺城北隈 埴屋層	須恵器	甕	(6.3)			胴部片	胴部外面：正格子叩き、胴部内面：ナデ	やや不良	黄褐色	須恵器か
第114図	2	第11次7tr	寺城北隈 埴屋層	須恵器	皿	(1.6)			口縁部片	口縁部外面：横ナデ	やや不良	褐色	
第114図	3	第11次7tr	寺城北隈 埴屋層	須恵器	甕	(4.8)			胴部片	胴部外面：横ナデ、胴部内面：ナデ	やや不良	褐色	
第114図	4	第11次7tr	SD11070埋土	須恵器	杯B蓋	(17.3)			口縁部片	口縁部外面：ナデ	やや不良	淡灰色	
第114図	5	第11次7tr	SD11070埋土	須恵器	杯B	(16.3)	3.9	底部径(13.5)	1/2	やや外方に張る高台	やや不良	淡灰色	
第114図	7	第11次7tr	SD11070埋土	土師器	杯	(3.9)			口縁部片	赤彩、口縁部外面：磨き、口縁部内面：放射状暗文	良	赤褐色	
第115図	1	第12次9tr	SD11090埋土	須恵器	杯B蓋	16.1	2.6	直径2.7、柱高0.6	ほぼ完形	天井部外面：へず削り	良	灰色	
第115図	2	第12次9tr	SD11090埋土	須恵器	杯B蓋	(19.0)			口縁部1/3		良	灰色	
第115図	3	第12次9tr	SD11090埋土	須恵器	杯B蓋	(1.5)			口縁部片		良	灰色	
第115図	4	第12次9tr	SD11090埋土	土師器	杯	(14.3)		底脚径(10.8)	口縁部片	口縁部外面：磨き、口縁部内面：磨き暗文	良	赤褐色	
第118図	1	第9次8tr	SB00982-SK2埋土	製瓦土器	甕	(4.4)			体部片	体部外面：指頭疔痕、体部内面：横ナデ	良	赤褐色	
第118図	2	第9次8tr	SK09882埋土	土師器	甕	(4.0)			口縁部片	頭部外面：縦刷毛目、口縁部内面：櫛状工具によるナデ	やや不良	淡黒褐色	
第118図	3	第9次8tr	SK09882埋土	土師器	甕	(5.3)			口縁部片	頭部外面：縦刷毛目、口縁部内面：櫛状工具によるナデ	良	赤褐色	
第118図	4	第9次8tr	SK09882埋土	土師器	甕	(4.1)			胴部片	胴部外面：縦刷毛目、胴部内面：磨り	良	赤褐色	
第118図	5	第9次8tr	SK09882埋土	土師器	甕	(7.7)			口縁部片	胴部外面：磨り、頭部内面：縦刷毛目	良	赤褐色	
第118図	6	第9次8tr	SK09882埋土	製瓦土器	杯G蓋	(1.3)			口縁部片	口縁部～体部外面：弱いナデ、指頭疔痕	良	淡灰色	半乳草質
第118図	7	第9次8tr	SK09882埋土	須恵器	杯G蓋	(1.3)			口縁部片		やや不良	淡灰色	
第118図	8	第9次8tr	SK09882埋土	須恵器	杯B蓋	(1.2)			口縁部片		やや不良	淡灰色	
第118図	10	第9次8tr	SK09882埋土	須恵器	杯B蓋	(2.0)			口縁部片		良	灰色	
第118図	11	第9次8tr	SK09882埋土	須恵器	杯B	(3.9)			口縁部片		良	灰色	
第118図	12	第9次8tr	SK09882埋土	鉄釘			断面1.2×0.3		基部	基部が折れ曲がる			
第118図	13	第9次8tr	SK09882埋土	須恵器	杯G蓋	(3.9)			口縁部片		良	灰色	
第118図	14	第9次8tr	SK09882埋土	須恵器	杯B蓋	(17.7)		1/6	口縁部片	天井部外面：回転へず削り	良	灰色	
第118図	15	第9次8tr	SK09882埋土	須恵器	杯A	(2.6)			口縁部片		良	淡灰色	
第118図	16	第9次8tr	SK09882埋土	須恵器	杯B	(16.9)		高台径(12.0)	1/3	底脚外面：高台外方に張る	良	淡灰色	
第118図	17	第9次8tr	SK09882埋土	土師器	甕	(4.5)			口縁部片	頭部外面：粗い縦刷毛目、口縁部内面：縦刷毛目	良	黒褐色土	
第118図	18	第9次8tr	SK09882埋土	土師器	甕	(21.0)		頸部径(16.4)	口縁部片	口縁部内面：3条の凹面	良	褐色	
第118図	19	第9次8tr	SK09882埋土	土師器	甕	(21.5)		頸部径(17.6)	口縁部1/4	口縁部内面：3条の凹面	良	赤褐色	
第118図	20	第9次8tr	SK09882埋土	土師器	甕	(21.4)		頸部径(17.5)	口縁部1/4	口縁部内面：3条の凹面、胴部外面：縦刷毛目、胴部内面：磨り	良	赤褐色	
第118図	21	第9次8tr	SK09882埋土	土師器	柄	(12.0)		(3.2)	口縁部1/4	口縁部内外面：横ナデ、底脚外面：横ナデ	良	赤褐色	
第118図	22	第9次8tr	SK09882埋土	土師器	柄	(1.2)			口縁部片		良	赤褐色	
第119図	1	第9次9tr	SK09901埋土	須恵器	横瓶	(35.0)		頸部径(32.5)	1/4	胴部外面：平行叩き、胴部内面：当具痕、頭部外面：波状文	良	灰色	
第124図	1	第9次10tr	P091004埋土	須恵器	杯B蓋	(2.6)			口縁部片	天井部外面：回転へず削り	良	灰色	
第125図	1	第10次12tr	覆瓦処理土	須恵器	杯B蓋	(11.7)	1.4	天井部径(7.2) 天井部径(6.0)	1/6	天井部外面：回転へず削り	良	灰色	
第125図	2	第10次12tr	覆瓦処理土	須恵器	杯B蓋	(11.6)	2.1	天井部径(6.0)	1/6	天井部外面：回転へず削り	良	淡灰色	
第125図	3	第10次12tr	覆瓦処理土	須恵器	杯B蓋	(11.2)		天井部径(6.0)	1/6	天井部外面：回転へず削り、天井部・口縁部外面の境に波線	良	灰色	
第125図	4	第10次12tr	覆瓦処理土	須恵器	杯B蓋	(11.4)		天井部径(7.9)	1/4	天井部外面：回転へず削りの後、平行叩き	不良	白色	
第125図	5	第10次12tr	覆瓦処理土	須恵器	杯B	(1.2)			底脚片	高台を鋭く作る	良	灰色	
第125図	6	第10次12tr	覆瓦処理土	須恵器	杯B	(3.0)		底脚径(9.7)	底脚片	幅が広く低い高台	良	灰色	
第125図	7	第10次12tr	覆瓦処理土	須恵器	杯B	(12.3)	4.4	底脚径(8.0)	ほぼ完形	幅が広く低い高台	良	淡灰色	
第125図	8	第10次12tr	覆瓦処理土	須恵器	皿	(13.8)		底脚径(6.4)	1/8	底脚外面：へず切り	良	青灰色	
第125図	9	第10次12tr	覆瓦処理土	須恵器	皿	(1.9)			1/4	底脚外面：へず切り	不良	白色	
第125図	10	第10次12tr	覆瓦処理土	須恵器	皿	(1.5)		底脚径(11.5)	底脚片	底脚外面「一」墨書	良	淡灰色	
第125図	11	第10次12tr	覆瓦処理土	須恵器	皿	(1.5)			底脚片	底脚外面：平行叩き	良	白色	
第125図	12	第10次12tr	覆瓦処理土	須恵器	柄	(1.5)			底脚片	底脚外面：磨り	良	淡灰色	
第125図	13	第10次12tr	覆瓦処理土	須恵器	高杯	(7.4)		胴部径(9.8)、基部径(7.2)	胴部片	胴部外面：指頭疔痕、体部内面：横ナデ	不良	白色	
第125図	14	第10次12tr	覆瓦処理土	製瓦土器		(11.2)			体部片	体部外面：指頭疔痕、体部内面：横ナデ	やや不良	褐色	
第125図	15	第10次12tr	覆瓦処理土	製瓦土器		(15.5)		4.6)	口縁部片	体部外面：粘土組織み上疔痕、体部内面：横ナデ	やや不良	褐色	

第11表 興隆寺廃寺第9～13次調査出土遺物観察表(6)

種図 番号	調査次 調査区	遺構・層位	種別	残存部位	法量 (mm)	凸面叩き種別 本数/2cm・大きさ	凸面調整 (ナズ消し)	凹面布目 本数/2cm	凹面調整	断面・側面調整	色調	重量	備考
第16図	第11次5tr	SB110501北側堆積層上層	素弁十葉蓮華文軒丸瓦	9 瓦当片	厚16	平行4	横ナズ	●18	側面削りの後、外縁粘土被覆	側面削りの後、外縁粘土被覆	灰色	206	
第16図	第11次3tr	SB110501北側堆積層上層	素弁十葉蓮華文軒丸瓦	3 瓦当片	厚14	無	横ナズ	●17	横骨痕	側面・凹面側縁削り	灰色	28	
第16図	第11次5tr	SB110501北側堆積層上層	無段式丸瓦	6 瓦当片	厚16	無	横ナズ	●20	横骨痕	側面削り	灰色	250	
第16図	第11次5tr	SB110501北側堆積層上層	無段式丸瓦	7.8 瓦当片	厚22	無	横ナズ	●21	糸切り痕	側面・凹面側縁削り、広端削り	黄灰色	248	
第16図	第11次5tr	SB110501北側堆積層上層	無段式丸瓦	9 瓦当片	厚22	斜格子6×9	横ナズ	●24	糸切り痕	側面・凹面側縁削り、広端削り	黄灰色 (1,110)	350	
第18図	第11次3tr	SB110501北側堆積層	素弁八葉蓮華文軒丸瓦	9 瓦当片	厚22	無	横ナズ		横ナズ	側面削り	青灰色	334	
第18図	第11次3tr	SB110501北側堆積層	素弁八葉蓮華文軒丸瓦	9 瓦当片	外縁厚27	無	横ナズ		横ナズ	側面削り	青灰色	162	
第18図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	素弁八葉蓮華文軒丸瓦	9 瓦当片	外縁厚24	無	横ナズ		横ナズ	側面削り	青灰色	562	
第18図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	素弁十葉蓮華文軒丸瓦	5.7.8 瓦当片	瓦当厚26	無	横ナズ	●16	瓦当裏面不定ナズ	側面削り	乳白色	562	
第18図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	素弁十葉蓮華文軒丸瓦	9 瓦当片	外縁厚13	無	横ナズ		横ナズ	側面削り	淡灰色	330	
第18図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	素弁十葉蓮華文軒丸瓦	9 瓦当片	厚25	無	横ナズ	●16	横ナズ	側面削り	灰色	(738) 8片で同一個体を構成	
第18図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	素弁九葉蓮華文軒丸瓦	9 瓦当片	厚25	無	横ナズ	●16	横ナズ	側面削り	灰色	338	
第18図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	素弁九葉蓮華文軒丸瓦	9 瓦当片	厚25	無	横ナズ	●16	横ナズ	側面削り	黄褐色	114	
第18図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	素弁九葉蓮華文軒丸瓦	9 瓦当片	瓦当厚16	無	横ナズ	●16	横ナズ	側面削り	灰色	714	
第18図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	素弁九葉蓮華文軒丸瓦	9 瓦当片	厚26	無	横ナズ		横ナズ	側面削り	灰色	298	
第18図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	三重弧文軒平瓦(Ⅰ)	7 瓦当片	厚31	花卉型押し	横ナズ		横ナズ	側面削り	乳白色	70	
第18図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	三重弧文軒平瓦(Ⅰ)	7 瓦当片	厚25	花卉型押し	横ナズ		横ナズ	側面削り	黄灰色	136	
第18図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	三重弧文軒平瓦(Ⅰ)	5 瓦当片	厚27	花卉型押し	横ナズ	●16	横ナズ	側面二段階削り	黄灰色	252	
第18図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	三重弧文軒平瓦(Ⅰ)	9 瓦当片	瓦当厚39	花卉型押し	横ナズ	●26	横ナズ	側面削り	黄褐色	146	
第19図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	三重弧文軒平瓦(Ⅱ)	9 瓦当片	瓦当厚22	平行4	横ナズ	●17	一部横ナズ	側面削り	褐色	688	
第19図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	三重弧文軒平瓦(Ⅱ)	9 瓦当片	瓦当厚22	平行4	横ナズ	●22	横ナズ	側面削り、広端削り	暗灰色	160	
第19図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	三重弧文軒平瓦(Ⅱ)	9 瓦当片	瓦当厚28	平行4	横ナズ	●20	横ナズ	側面・凹面側縁削り	暗灰色	130	
第19図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	三重弧文軒平瓦(Ⅱ)	9 瓦当片	瓦当厚27	平行4	横ナズ	●26	横骨痕	側面削り	乳白色	282	
第19図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	福行唐草文軒平瓦	9 瓦当片	瓦当厚46	平行4	横ナズ	●18	横骨痕	側面削り	乳白色	490	
第19図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	鬼威瓦七しくは師尾	5 瓦当片	厚29	葉文型押し	横ナズ		横ナズ	側面削り	褐色	178	
第19図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	6 瓦当片	厚12	平行(5)	横ナズ	●17	横骨痕	側面削り	淡灰色	132	
第19図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	9 瓦当片	厚17	平行4	横ナズ	●17	横骨痕	側面削り、広端削り	暗灰色	160	
第19図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	6 瓦当片	厚16	平行4	横ナズ	●14	横ナズ	側面・凹面側縁削り	灰色	(260)	
第19図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	3 瓦当片	厚14	平行5	横ナズ	●17	横骨痕	側面削り	灰色	240	
第19図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	6 瓦当片	厚15	平行6	横ナズ	●22	一部横ナズ	側面・凹面側縁削り	灰色	496	
第19図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	1 瓦当片	厚11	平行4	横ナズ	●19	布縫じ合わせ痕	側面削り、装端削り	黄灰色	304	
第19図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	3 瓦当片	厚16	平行4	横ナズ	●14	一部横ナズ	側面削り、装端削り	暗灰色	(556)	
第20図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	9 瓦当片	厚18	平行4	横ナズ	●20	一部横ナズ	側面・凸面側縁削り、広端削り	暗灰色	798	
第20図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	7 瓦当片	厚16	正格子3×7	横ナズ	●31	横骨痕	側面削り、装端削り	灰色	180	
第20図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	6 瓦当片	厚17	平行4	横ナズ	●19	横骨痕	側面・凹面側縁削り	灰色	214	
第20図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	7 瓦当片	厚21	平行4	横ナズ	●18	横骨痕	側面・凹面側縁削り	暗灰色	222	
第20図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	4 瓦当片	厚17	平行4	横ナズ	●20	布縫じ合わせ痕	側面・凹面側縁削り	灰色	256	
第20図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	6 瓦当片	厚16	平行4	横ナズ	●19	横骨痕	側面・凹面側縁削り	淡灰色	360	
第20図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	4 瓦当片	厚12	平行4	横ナズ	●27	横ナズ	側面・凹面側縁削り	黄灰色	(208)	
第20図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	9 瓦当片	厚15	平行4	横ナズ	●21	横ナズ	側面・凹面側縁削り、広端削り	灰色	130	
第20図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	6 瓦当片	厚23	平行4	横ナズ	●18	横ナズ	側面・凹面側縁削り	褐色	290	
第20図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	4 瓦当片	厚18	平行4	横ナズ	●16	布縫じ合わせ痕	側面削り	黄灰色	(356)	
第20図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	7 瓦当片	厚18	平行4	横ナズ	●20	横ナズ	側面・凹面側縁削り	淡灰色	262	
第21図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	9 瓦当片	厚20	平行4	横ナズ	●22	横骨痕	側面・凹面側縁削り、広端削り	淡灰色	648	
第21図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	1.4 瓦当片	厚14	平行4	横ナズ	●21	布縫じ合わせ痕	側面・凹面側縁削り、装端削り	乳白色	648	
第21図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	4.6 瓦当片	厚15	平行4	横ナズ	●19	布縫じ合わせ痕	側面・凹面側縁削り	黄灰色	964	
第21図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	4.7 瓦当片	厚17	平行4	横ナズ	●18	布縫じ合わせ痕	側面・凹面側縁削り、広端削り	黄褐色	(724)	
第22図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	1.6 瓦当片	厚19	平行4	横ナズ	●17	布縫じ合わせ痕	側面・凹面側縁削り、広端削り	黄灰色	(2,092)	
第22図	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	3 瓦当片	厚15	平行4	横ナズ	●16	横骨痕	側面・凹面側縁削り、装端削り	暗灰色	172	

第12表 興道寺塔寺第9～13次調査出土瓦観察表(1)

種別	遺物番号	調査区	遺構・層位	種別	残存部位	法量 (mm)	凸面吹き刷別 本数/2cm・大きさ	凸面調整 (ナズ消し)	凹面布目 本数/2cm	凹面調整	断面・側面調整	色調	重量	備考
第22区	75	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	1	厚12		横ナズ	●18		側面・凹面側縁削り、広端面削り	灰色	176	
第22区	76	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	1-3	厚14		横ナズ	●15		側面・凹面側縁削り、広端面削り	黄灰色	(770)	
第22区	77	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	6	厚15		横・縦ナズ	●19	布縫し含むせ襖	側面・凹面側縁削り	黄褐色	216	
第22区	78	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	6	厚18		横ナズ	●19	横骨直 一部縦ナズ消し	側面・凹面側縁削り	灰色	320	
第22区	79	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	3	厚15		横ナズ	●17	糸切り襖	側面・凹面側縁削り、広端面削り	暗灰色	136	
第22区	80	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	4	厚12		横ナズ	●20		側面・凹面側縁削り	灰色	148	
第22区	81	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	3	厚22		横ナズ	●(30)		側面・凸面側縁削り、広端面削り	灰色	(494)	
第22区	82	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	1	厚12		横ナズ	●15		側面・凹面側縁削り、広端面削り	灰色	274	
第22区	83	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	3	厚20		横ナズ	●(24)	糸切り襖	側面削り	黄灰色	490	
第22区	84	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	4	厚17		横ナズ	●(24)		側面・凹面側縁削り、広端面削り	黄灰色	240	
第22区	85	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	1	厚21		横ナズ	●17	一部縦ナズ	側面・凹面側縁削り	暗灰色	748	
第22区	86	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	4	厚19		横・縦ナズ	●15	不定ナズ	側面削り	黄灰色	136	
第22区	87	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	2	厚14		横ナズ	●15	狭端削り	側面削り	灰色	304	
第22区	88	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	3	厚21		横ナズ	●19	一部縦ナズ	側面・凹面側縁削り、広端面削り	灰色	374	
第22区	89	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	1	厚18		横ナズ	●16		側面削り、広端面削り	乳白色	234	
第22区	90	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	4	厚16		横ナズ消し 削り状縦ナズ	●18		側面削り	暗灰色	288	2片で同一個体を構成
第22区	91	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	1	厚17		横ナズ 削り状縦ナズ	●13		側面・凹面側縁削り、広端面削り	灰色	222	
第22区	92	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	6	厚16		横ナズ	●21	布縫し含むせ襖	側面削り	淡灰色	954	
第22区	93	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	1	厚21		横・縦ナズ	●17		側面・凹面側縁削り、広端面削り	黄灰色	232	
第22区	94	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	6	厚15		横ナズ	●15		側面・凹面側縁削り、広端面削り	乳白色	432	2片で同一個体を構成
第22区	95	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	4	厚16		横・縦ナズ	●(16)	一部縦ナズ	側面削り	黄灰色	134	
第22区	96	第11次5tr	SB110501北側堆積層	無段式丸瓦	7	厚15		横ナズ	●12		広端面削り	灰色	240	
第22区	97	第11次5tr	SB110501北側堆積層	有段式丸瓦	7.8	厚18		横・縦ナズ	●17	布縫し含むせ襖	側面・凹面側縁削り、広端面削り	暗灰色	782	
第22区	98	第11次5tr	SB110501北側堆積層	有段式丸瓦	3	厚19	細5	横ナズ	●16	布縫し含むせ襖	側面・凹面側縁削り、広端面削り	黄灰色	300	
第22区	99	第11次5tr	SB110501北側堆積層	有段式丸瓦	1.2	厚20		横ナズ	●19	布縫し含むせ襖	側面・凹面側縁削り、広端面削り	灰色	1,134	2片で同一個体を構成
第22区	100	第11次5tr	SB110501北側堆積層	有段式丸瓦	7	厚19		横ナズ	●18	横骨直	側面・凹面側縁削り、広端面削り	淡灰色	388	
第22区	101	第11次5tr	SB110501北側堆積層	有段式丸瓦	2	厚15		横ナズ	●28		狭端削り	灰色	90	
第22区	102	第11次5tr	SB110501北側堆積層	有段式丸瓦	5	厚32		横ナズ	●(12)		側面削り	黒褐色	202	
第22区	103	第11次5tr	SB110501北側堆積層	有段式丸瓦	1	厚20		横ナズ	●26		側面・凹面側縁削り、広端面削り	灰色	256	
第22区	104	第11次5tr	SB110501北側堆積層	有段式丸瓦	1	厚22		横ナズ	●17		側面削り、広端面削り	灰白色	568	2片で同一個体を構成
第22区	105	第11次5tr	SB110501北側堆積層	有段式丸瓦	1	厚30		横ナズ	●21	布縫し含むせ襖	側面・凹面側縁削り	灰色	498	
第22区	106	第11次5tr	SB110501北側堆積層	有段式丸瓦	1	厚28		横ナズ	●25		側面・凹面側縁削り、広端面削り	淡灰色	230	
第22区	107	第11次5tr	SB110501北側堆積層	有段式丸瓦	3.6	厚17		横ナズ	●(22)		側面・凹面側縁削り、広端面削り	灰色	966	12片で同一個体を構成
第22区	108	第11次5tr	SB110501北側堆積層	有段式丸瓦	3.5	厚18		横ナズ	●20		側面・凹面側縁削り、広端面削り	灰色	682	2片で同一個体を構成
第22区	109	第11次5tr	SB110501北側堆積層	有段式丸瓦	6	厚20		横ナズ	●23	布縫し含むせ襖	側面・凹面側縁削り、広端面削り	灰色	294	
第22区	110	第11次5tr	SB110501北側堆積層	有段式丸瓦	9	厚14		横ナズ	●17	横骨直	側面・凹面側縁削り、広端面削り	灰色	636	2片で同一個体を構成
第22区	111	第11次5tr	SB110501北側堆積層	有段式丸瓦	9	厚16		横ナズ	●		側面・凹面側縁削り、広端面削り	灰色	218	
第22区	112	第11次5tr	SB110501北側堆積層	有段式丸瓦	3	厚19		横ナズ	●(20)	一部縦ナズ	側面・凹面側縁削り、広端面削り	黄灰色	196	
第22区	113	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	7-9	厚20	平行5	横ナズ	●20		側面削り、広端面削り	灰色	(2,406)	
第22区	114	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	2	厚20	平行5	横ナズ	●21	一部縦ナズ	狭端削り	黄灰色	206	
第22区	115	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	9	厚20	正格子4×9	横ナズ	●20		側面削り、広端面削り	褐色	234	
第22区	116	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	4	厚20	正格子4×7	横ナズ	●21	布縫し含むせ襖	側面削り	黄灰色	292	
第22区	117	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	6	厚16	正格子5×7	横ナズ	●18		側面・凹面側縁削り	暗灰色	98	
第22区	118	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	5.6	厚19	正格子5×10	横ナズ	●19		側面削り	灰色	(1,794)	
第22区	119	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	6	厚19	正格子4×8	横ナズ	●19		側面削り	黒褐色	320	
第22区	120	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	4	厚15	正格子3×7	横ナズ	●22		側面削り	灰色	180	
第22区	121	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	2.3	厚20	正格子5×9	横ナズ	●17		側面削り、広端面削り	灰白色	1,008	
第22区	122	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	2	厚21	正格子7×12	横ナズ	●	縦ナズ消し	狭端削り	黄褐色	148	
第22区	123	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	3	厚23	斜格子4×9	横ナズ	●		側面削り、広端面削り	灰白色	468	

第13表 興道寺廃寺第9～13次調査出土瓦観察表(2)



種別	遺物番号	調査区	遺構・層位	種別	残存部位	法量 (mm)	凸面叩き種別 本数/2cm・大きさ	凸面調整 (ナデ損し)	凹面布目 本数/2cm	凹面調整	断面・側面調整	色調	重量	備考
第27区	124	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	4	厚15	斜格子×7	横ナデ	●16)	側面削り	側面削り	赤褐色	200	
第27区	125	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	2	厚17	斜格子5×7	横ナデ	●	縦ナデ	縦ナデ	黒褐色	322	
第27区	126	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	2	厚18	斜格子5×6	横ナデ	●18)	糸切り痕	袋端面削り	黒褐色	182	
第27区	127	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	6	厚19	斜格子5×6	横ナデ	●	側面削り	側面削り	黒褐色	124	
第28区	128	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	1-3	厚19	斜格子8×11	横ナデ	●18	一部縦ナデ	側面削り、袋端面削り	黄灰色	2,016	
第28区	129	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	2, 3	厚21	斜格子3×4	横ナデ	●20	横骨痕	側面削り、袋端面削り	赤褐色	(2,284)	
第28区	130	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	4	厚21	斜格子3×3	横・縦ナデ	●21	横ナデ	側面削り	黄灰色	634	
第28区	131	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	6	厚27	横ナデ	横ナデ	●	縦ナデ	側面削り	灰色	418	
第28区	132	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	4	厚23	横ナデ	横ナデ	●	糸切り痕	側面削り	黄灰色	210	
第28区	133	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	3	厚20	横・縦ナデ	横・縦ナデ	●18)	一部縦ナデ	側面削り、袋端面削り	褐色	292	
第28区	134	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	1	厚21	横ナデ	横ナデ	●20	一部縦ナデ	側面削り、袋端面削り	暗灰色	246	
第28区	135	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	6	厚21	横ナデ	横ナデ	●22	横骨痕	側面削り	灰色	194	
第29区	136	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	9	厚21	横ナデ	横ナデ	●22)	横骨痕 糸切り痕	側面削り、広端面削り	灰色	438	
第29区	137	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	6	厚27	横ナデ	横ナデ	●21	横ナデ	側面削り、凹面側縁削り	黄灰色	586	
第29区	138	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	4	厚23	横ナデ	横ナデ	●16	横骨痕	側面削り、凹面側縁削り	黄灰色	344	
第29区	139	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	4	厚23	横ナデ	横ナデ	●27	横骨痕	側面削り	黄灰色	406	
第29区	140	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	3	厚25	横・縦ナデ	横・縦ナデ	●22	布縫し合わせ痕	側面削り、凹面側縁削り、袋端面削り	灰白色	682	
第29区	141	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	1	厚18	横ナデ	横ナデ	●19	横ナデ	側面削り、袋端面削り	赤褐色	244	
第29区	142	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	6	厚25	横・縦ナデ	横・縦ナデ	●16)	横・縦ナデ	側面削り、凸面側縁削り	乳白色	272	
第29区	143	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	6	厚18	横・縦ナデ	横・縦ナデ	●21	糸切り痕	側面削り	乳白色	238	
第30区	144	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	9	厚16	横・縦ナデ	横・縦ナデ	●20	横骨痕	側面削り、広端面削り	褐色	(874)	
第30区	145	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	3	厚18	横ナデ	横ナデ	●18)	横ナデ	側面削り、袋端面削り	灰色	(630)	
第30区	146	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	4	厚22	横・縦ナデ	横・縦ナデ	●24	布縫し合わせ痕	側面削り、袋端面削り	暗灰色	(1,124)	
第30区	147	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	4	厚17	横・縦ナデ	横・縦ナデ	●14	横ナデ	側面削り、袋端面削り	乳白色	418	2片で同一個体を構成
第30区	148	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	3	厚19	横ナデ	横ナデ	●21	横ナデ	側面削り、袋端面削り	黄灰色	726	
第30区	149	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	7	厚26	横ナデ	横ナデ	●20	横骨痕	側面削り、広端面削り	褐色	748	
第30区	150	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	9	厚20	横ナデ	横ナデ	●18	横ナデ	側面削り、広端面削り	黒褐色	418	
第31区	151	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	6	厚24	横ナデ	横ナデ	●18	横ナデ	側面削り	黄褐色	364	
第31区	152	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	3	厚20	横ナデ	横ナデ	●19	横ナデ	側面削り、袋端面削り	黄褐色	222	
第31区	153	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	4	厚18	横ナデ	横ナデ	●22	横ナデ	側面削り	赤褐色	214	
第31区	154	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	4	厚16	横・縦ナデ	横・縦ナデ	●21	横・縦ナデ	側面削り、凹面側縁削り	暗灰色	448	2片で同一個体を構成
第31区	155	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	4	厚17	横・縦ナデ	横・縦ナデ	●18	横・縦ナデ	側面削り	褐色	300	
第31区	156	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	6	厚18	横ナデ	横ナデ	●17	横ナデ	側面削り	乳白色	398	
第31区	157	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	4	厚18	横ナデ	横ナデ	●21	横ナデ	側面削り	黄灰色	352	
第31区	158	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	3	厚18	横ナデ	横ナデ	●24	横ナデ	側面削り、袋端面削り	灰色	564	
第31区	159	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	6	厚19	横・縦ナデ	横・縦ナデ	●22	一部縦ナデ	側面削り	暗灰色	274	
第31区	160	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	4	厚14	横ナデ	横ナデ	●23	横ナデ	側面削り	暗灰色	196	
第31区	161	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	6	厚18	横ナデ	横ナデ	●20	横ナデ	側面削り	乳白色	210	
第31区	162	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	4	厚18	横・縦ナデ	横・縦ナデ	●21	横・縦ナデ	側面削り、広端面削り	灰白色	228	
第32区	163	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	1	厚18	横・縦ナデ	横・縦ナデ	●18	横骨痕	側面削り、広端面削り	黄灰色	340	
第32区	164	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	2, 3	厚18	横ナデ	横ナデ	●19	横骨痕	側面削り、袋端面削り	黒褐色	622	
第32区	165	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	7	厚20	横・縦ナデ	横・縦ナデ	●20	横ナデ	側面削り、広端面削り	褐色	292	
第32区	166	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	2	厚17	横ナデ	横ナデ	●20	横ナデ	袋端面削り	黄褐色	216	
第32区	167	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	2	厚19	横ナデ	横ナデ	●24	横骨痕	袋端面削り	灰色	212	
第32区	168	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	8	厚22	横・縦ナデ	横・縦ナデ	●25	横骨痕	広端面削り	灰色	724	
第32区	169	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	2	厚20	横ナデ	横ナデ	●16	横ナデ	袋端面削り	暗灰色	360	
第32区	170	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	2	厚16	横ナデ	横ナデ	●19	横ナデ	袋端面削り	暗灰色	254	
第32区	171	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	8	厚25	横ナデ	横ナデ	●16)	横骨痕	側面削り	黒褐色	420	
第32区	172	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	1	厚18	編4	横ナデ	●15	横骨痕	側面削り、広端面削り	乳白色	166	
第32区	173	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	6	厚20	編5	横ナデ	●21	横骨痕	側面削り	黄灰色	154	
第33区	174	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	9	厚18	編6	横ナデ	●16	横骨痕	側面削り、広端面削り	暗灰色	298	

第14表 興道寺廃寺第9～13次調査出土瓦観察表(3)

種別	遺物番号	調査区	遺構・層位	種別	残存部位	法量(mm)	凸面吹き種別 本数/2cm・大きさ	凸面調整 (ナズ消し)	凹面調整	断面・側面調整	色調	重量	備考
第33区	175	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	3	厚18	細6	横ナズ	横骨直	側面削り、装端削り	黄灰色	202	
第33区	176	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	2	厚17	細6	横ナズ	横骨直	装端削り	黄褐色	486	
第33区	177	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	4	厚17	細	横ナズ	横骨直	側面削り	黒褐色	618	2片で同一個体を構成
第33区	178	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	7	厚23	細6	横ナズ	横骨直	側面削り、広端削り	乳白色	904	
第33区	179	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	9	厚18	細6	横ナズ	横骨直	側面削り	淡灰色	272	
第33区	180	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	6	厚16	細6	横ナズ	横骨直	側面削り	淡赤褐色	186	
第33区	181	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	6	厚19	細5	横ナズ	横骨直	側面削り	黄褐色	(632)	
第33区	182	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	3	厚21	細5	横ナズ	横骨直	側面削り、広端削り	黄灰色	486	
第33区	183	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	1	厚17	細6	横ナズ	横骨直	側面削り、装端削り	暗灰色	174	
第34区	184	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	6	厚20	細7	横ナズ	横骨直	側面削り、広端削り	灰色	248	
第34区	185	第11次5tr	SB110501北側堆積層	平瓦	9	厚21	細7	横ナズ	横骨直	側面削り、広端削り	黄灰色	472	
第34区	186	第11次5tr	SB110501北側堆積層	契斗瓦	7	厚21		横ナズ	横骨直	側面削り、広端削り	黄灰色	300	
第36区	4	第12次6tr	SB120601西側堆積層	素弁十葉蓮華文軒瓦	8	瓦当厚21		横ナズ	横骨直	側面削り	暗灰色	300	
第36区	5	第12次6tr	SB120601西側堆積層	無段式丸瓦	4	厚15	平行4	横ナズ	横骨直	側面削り	暗灰色	154	
第36区	6	第12次6tr	SB120601西側堆積層	無段式丸瓦	2	厚27		横ナズ	横骨直	装端削り	赤褐色	402	
第36区	7	第12次6tr	SB120601西側堆積層	無段式丸瓦	6	厚18		横ナズ	横骨直	側面削り	灰白色	216	
第36区	8	第12次6tr	SB120601西側堆積層	無段式丸瓦	7	厚18		横ナズ	横骨直	側面・凹面側縁、広端削り	暗灰色	426	
第36区	9	第12次6tr	SB120601西側堆積層	無段式丸瓦	6	厚21		横ナズ	横骨直	側面・凹面凸面側縁削り	灰色	454	
第36区	10	第12次6tr	SB120601西側堆積層	無段式丸瓦	2	厚23	細4	横ナズ	横骨直	装端削り	灰色	316	
第36区	11	第12次6tr	SB120601西側堆積層	有段式丸瓦	4	厚22	細5	横ナズ	横骨直	凹面側の側面削り、凸面側の側面は破面	灰色	228	
第36区	12	第12次6tr	SB120601西側堆積層	平瓦	4	厚22		横ナズ	横ナズ	側面削り	黄灰色	256	
第36区	13	第12次6tr	SB120601西側堆積層	平瓦	3	厚22	斜格子×6	横ナズ	横骨直	側面削り、装端削り	黒褐色	310	
第36区	14	第12次6tr	SB120601西側堆積層	平瓦	3	厚18	斜格子2×4	横ナズ	横骨直	側面削り、装端削り	黄灰色	462	
第36区	15	第12次6tr	SB120601西側堆積層	平瓦	6	厚20		横ナズ	横骨直	側面・凹面側縁削り	褐色	218	
第37区	16	第12次6tr	SB120401西側堆積層	平瓦	3	厚23		横ナズ	横骨直	側面削り、装端削り	暗灰色	224	
第37区	17	第12次6tr	SB120401西側堆積層	平瓦	6	厚22		横ナズ	横骨直	側面削り、装端削り	暗灰色	448	
第37区	18	第12次6tr	SB120401西側堆積層	平瓦	4	厚18		横ナズ	横骨直	側面削り	黒褐色	294	
第37区	19	第12次6tr	SB120401西側堆積層	平瓦	4	厚22		横ナズ	横骨直	側面削り	黒褐色	280	
第37区	20	第12次6tr	SB120401西側堆積層	平瓦	4	厚18		横ナズ	横骨直	側面削り	乳白色	202	
第37区	21	第12次6tr	SB120401西側堆積層	平瓦	4	厚18		横ナズ	横骨直	側面削り	褐色	238	
第37区	22	第12次6tr	SB120401西側堆積層	平瓦	6	厚27		横・横ナズ	横骨直	側面削り	乳白色	286	
第37区	23	第12次6tr	SB120401西側堆積層	平瓦	6	厚26		横ナズ	横骨直	側面削り	褐色	226	
第37区	24	第12次6tr	SB120401西側堆積層	平瓦	5	厚24	細6	横ナズ	横骨直	側面削り	灰白色	516	
第37区	25	第12次6tr	SB120401西側堆積層	平瓦	6	厚21	細5	横・横ナズ	横骨直	側面削り	褐色	432	
第37区	26	第12次6tr	SB120401西側堆積層	平瓦	6	厚18	細7	横ナズ	横骨直	側面削り	暗灰色	300	
第39区	5	第10次5tr	金堂基壇東側 堆積層	素弁十葉蓮華文軒瓦	瓦当片	外縁幅24		横ナズ	横骨直	素弁・間弁の一部に范傷	暗灰色	282	
第39区	6	第10次5tr	金堂基壇東側 堆積層	無段式丸瓦	6	厚17	平行6	横ナズ	横骨直	側面・凹面側縁削り	黄褐色	236	
第39区	7	第10次5tr	金堂基壇東側 堆積層	無段式丸瓦	1-6	厚19	平行5	横ナズ	横骨直	側面・凹面側縁に削りを重ね 装端面形状工具によるナズ	黄褐色	1,050	
第39区	8	第10次5tr	金堂基壇東側 堆積層	無段式丸瓦	6	厚18		横ナズ	横骨直	側面・凹面側縁削り	灰色	188	
第39区	9	第10次5tr	金堂基壇東側 堆積層	無段式丸瓦	4	厚22		横ナズ	横骨直	側面・凹面側縁削り	灰色	532	
第39区	10	第10次5tr	金堂基壇東側 堆積層	無段式丸瓦	9	厚14		横ナズ	横骨直	側面二段削り、凹凸面側縁削り	赤褐色	186	
第39区	11	第10次5tr	金堂基壇東側 堆積層	無段式丸瓦	9	厚22		横ナズ	横骨直	側面削り、広端削り	乳白色	252	
第39区	12	第10次5tr	金堂基壇東側 堆積層	三重瓦文軒平瓦	8	厚21		横・横ナズ	横骨直	側面削り、広端削り	黄褐色	366	
第39区	13	第10次5tr	金堂基壇東側 堆積層	平瓦	9	厚26	斜格子10×10	横ナズ	横骨直	側面・凹凸面側縁削り	淡灰色	388	
第39区	14	第10次5tr	金堂基壇東側 堆積層	平瓦	7	厚16	斜格子か?	横ナズ	横骨直	側面・凹面側縁削り	灰色	162	
第39区	15	第10次5tr	金堂基壇東側 堆積層	平瓦	9	厚24		横ナズ	横骨直	側面・凹面側縁削り	黒色	262	
第39区	16	第10次5tr	金堂基壇東側 堆積層	平瓦	9	厚17		横・横ナズ	横骨直	側面・広端削り	乳白色	346	
第39区	17	第10次5tr	金堂基壇東側 堆積層	平瓦	6	厚17	細6	横・横ナズ	横骨直	側面削り	暗灰色	178	
第39区	18	第10次5tr	金堂基壇東側 堆積層	平瓦	1	厚20	細	横ナズ	横骨直	側面削り、装端削り	乳白色	300	

第15表 興道寺廃寺第9～13次調査出土瓦類表(4)

種号	遺物番号	調査次数 調査区	遺構・部位	種別	残存部位	法量 (mm)	凸凹の 本数/2cm・大きさ	凸凹調整 (ナデ削し)	凹面布目 本数/2cm	凹面調整	断面・側面調整	色調	重量	備考
第40図	1	第11次6tr	SB110601西側堆積層	無段式丸瓦	2, 5	厚21	横ナデ	横ナデ	●17	側面削り、装飾面削り	側面削り、装飾面削り	乳白色	668	
第40図	2	第11次6tr	SB110401西側堆積層	無段式丸瓦	7	厚17	横ナデ	横ナデ	●17	側面削り、装飾面削り、広端面削り	側面・凹面側削り、広端面削り	黄褐色	518	
第40図	3	第11次6tr	SB110401西側堆積層	無段式丸瓦	7	厚22	横ナデ	横ナデ	●25	側面削り、装飾面削り、広端面削り	側面・凹面側削り、広端面削り	黄褐色	422	
第40図	4	第11次6tr	SB110401西側堆積層	無段式丸瓦	4	厚17	横ナデ	横ナデ	●15	側面削り	側面削り	乳白色	652	2片で同一個体を構成
第40図	5	第11次6tr	SB110401西側堆積層	無段式丸瓦	7	厚22	横ナデ	横ナデ	●18	側面削り、装飾面削り	側面削り、装飾面削り	乳白色	388	
第40図	6	第11次6tr	SB110401西側堆積層	無段式丸瓦	3	厚16	横ナデ	横ナデ	●20	側面削り	側面削り	暗灰色	210	
第40図	7	第11次6tr	SB110401西側堆積層	無段式丸瓦	2	厚18	横ナデ	横ナデ	●16	側面削り	側面削り	暗灰色	174	
第40図	8	第11次6tr	SB110401西側堆積層	有段式軒平瓦	8	瓦当厚30	横ナデ	横ナデ	●(22)	横骨葺	横骨葺	乳白色	82	
第40図	9	第11次6tr	SB110401西側堆積層	三重弧文軒平瓦	8	瓦当厚47	横ナデ	横ナデ	●17	横骨葺	横骨葺	灰色	456	
第40図	10	第11次6tr	SB110401西側堆積層	扇行唐草文軒平瓦	8	瓦当厚47	横ナデ	横ナデ	●21	横骨葺	横骨葺	褐色	530	
第40図	11	第11次6tr	SB110401西側堆積層	扇行唐草文軒平瓦	8	瓦当厚65	横ナデ	横ナデ	●18	一部横ナデ	側面・凸面側削り	黄褐色	674	4片で同一個体を構成
第41図	12	第11次6tr	SB110401西側堆積層	平瓦	4, 7	厚25	横ナデ	横ナデ	●18	側面削り	側面削り	淡灰色	270	
第41図	13	第11次6tr	SB110401西側堆積層	平瓦	3	厚17	横ナデ	横ナデ	●26	側面削り、装飾面削り	側面削り、装飾面削り	淡灰色	234	
第41図	14	第11次6tr	SB110401西側堆積層	平瓦	1	厚24	横ナデ	横ナデ	●26	側面削り、装飾面削り	側面・凹面側削り、装飾面削り	淡灰色	346	
第41図	15	第11次6tr	SB110401西側堆積層	平瓦	6	厚24	横ナデ	横ナデ	●26	側面削り、装飾面削り	側面・凹面側削り、装飾面削り	乳白色	338	
第41図	16	第11次6tr	SB110401西側堆積層	平瓦	6	厚26	横ナデ	横ナデ	●14	側面削り、装飾面削り	側面・凸面側削り	暗灰色	228	
第41図	17	第11次6tr	SB110401西側堆積層	平瓦	2	厚18	横ナデ	横ナデ	●18	側面削り	側面削り	灰色	618	
第41図	18	第11次6tr	SB110401西側堆積層	平瓦	8	厚18	横ナデ	横ナデ	●26	糸切り葺	側面削り	灰色	400	
第41図	19	第11次6tr	SB110401西側堆積層	平瓦	7, 8	厚17	横ナデ	横ナデ	●21	側面削り	側面・凹面側削り、広端面削り	乳白色	196	
第41図	20	第11次6tr	SB110401西側堆積層	平瓦	7-9	厚20	横ナデ	横ナデ	●21	一部横ナデ	側面削り、装飾面削り	乳白色	1428	
第41図	21	第11次6tr	SB110401西側堆積層	平瓦	6	厚22	横ナデ	横ナデ	●18	糸切り葺	側面削り	灰色	180	
第41図	22	第11次6tr	SB110401西側堆積層	平瓦	4	厚22	横ナデ	横ナデ	●18	糸切り葺	側面削り	灰色	278	
第41図	23	第11次6tr	SB110401西側堆積層	平瓦	6	厚18	横ナデ	横ナデ	●19	側面削り	側面削り	乳白色	300	
第42図	7	第10次6tr	金堂基壇北西隅 礎層	無段式丸瓦	4	厚13	横ナデ	横ナデ	●17	側面削り	蓮弁の一部に凸筋	乳白色	22	
第42図	8	第10次6tr	金堂基壇北西隅 礎層	無段式丸瓦	6	厚21	横ナデ	横ナデ	●17	側面削り	側面・凹面側削り	灰色	186	
第42図	9	第10次6tr	金堂基壇北西隅 礎層	無段式丸瓦	4-6	厚19	横ナデ	横ナデ	●20	側面削り	蓮弁の一部に凸筋	灰色	254	
第42図	10	第10次6tr	金堂基壇北西隅 礎層	扇行唐草文軒平瓦	8	瓦当厚46	横ナデ	横ナデ	●19	横骨葺	側面削り、装飾面削り	乳白色	688	
第42図	11	第10次6tr	金堂基壇北西隅 礎層	平瓦	1	厚19	横ナデ	横ナデ	●21	横骨葺	側面削り、装飾面削り	黄褐色	186	
第42図	12	第10次6tr	金堂基壇北西隅 礎層	平瓦	3	厚22	横ナデ	横ナデ	●20	横骨葺	側面削り、装飾面削り	乳白色	356	
第42図	13	第10次6tr	金堂基壇北西隅 礎層	平瓦	7	厚17	横ナデ	横ナデ	●16	横骨葺	側面削り、装飾面削り	乳白色	222	
第42図	14	第10次6tr	金堂基壇北西隅 礎層	平瓦	6	厚22	横ナデ	横ナデ	●17	横骨葺	側面削り、装飾面削り	暗灰色	390	
第43図	4	第10次6tr	金堂基壇北西隅 堆積層	車弁八葉蓮華文軒平瓦	瓦当片	外縁幅20	横ナデ	横ナデ	●20	布縫じ合わせ葺	側面削り、装飾面削り	灰色	38	
第43図	5	第10次6tr	金堂基壇北西隅 堆積層	車弁九葉蓮華文軒平瓦	9	厚11	横ナデ	横ナデ	●20	横骨葺	丸瓦部凹面広端面に瓦当接合葺	灰色	220	
第43図	6	第10次6tr	金堂基壇北西隅 堆積層	無段式丸瓦	4, 5	厚13	横ナデ	横ナデ	●18	側面削り	側面削り	灰色	336	2片で同一個体を構成
第43図	7	第10次6tr	金堂基壇北西隅 堆積層	無段式丸瓦	4	厚20	横ナデ	横ナデ	●32	布縫じ合わせ葺	側面削り	赤褐色	154	
第43図	8	第10次6tr	金堂基壇北西隅 堆積層	無段式丸瓦	4	厚11	横ナデ	横ナデ	●18	布縫じ合わせ葺	側面削り、装飾面削り	赤褐色	68	
第43図	9	第10次6tr	金堂基壇北西隅 堆積層	無段式丸瓦	3	厚19	横ナデ	横ナデ	●15	側面削り	側面削り	赤褐色	228	
第43図	10	第10次6tr	金堂基壇北西隅 堆積層	無段式丸瓦	6	厚19	横ナデ	横ナデ	●23	側面削り	側面削り	乳白色	196	
第43図	11	第10次6tr	金堂基壇北西隅 堆積層	扇行唐草文軒平瓦	9	瓦当厚50	横ナデ	横ナデ	●17	横骨葺	側面・凹面側削り	乳白色	720	
第43図	12	第10次6tr	金堂基壇北西隅 堆積層	平瓦	4	厚22	横ナデ	横ナデ	●17	横骨葺	側面削り	乳白色	244	
第43図	13	第10次6tr	金堂基壇北西隅 堆積層	平瓦	4	厚18	横ナデ	横ナデ	●23	横骨葺	側面削り	乳白色	228	
第43図	14	第10次6tr	金堂基壇北西隅 堆積層	平瓦	3	厚26	横ナデ	横ナデ	●23	横骨葺	側面削り、装飾面削り	黄褐色	236	
第43図	15	第10次6tr	金堂基壇北西隅 堆積層	平瓦	9	厚17	横ナデ	横ナデ	●18	横骨葺	側面削り、装飾面削り	暗灰色	408	
第43図	16	第10次6tr	金堂基壇北西隅 堆積層	平瓦	9	厚16	横ナデ	横ナデ	●18	一部横ナデ	側面削り、装飾面削り	黄褐色	432	
第44図	17	第10次6tr	金堂基壇北西隅 堆積層	平瓦	4	厚19	横ナデ	横ナデ	●19	横骨葺	側面削り	黄褐色	242	
第44図	18	第10次6tr	金堂基壇北西隅 堆積層	平瓦	3	厚16	横ナデ	横ナデ	●22	横骨葺	側面削り、装飾面削り	黄褐色	324	
第44図	19	第10次6tr	金堂基壇北西隅 堆積層	平瓦	4	厚19	横ナデ	横ナデ	●16	糸切り葺	側面削り	淡灰色	460	
第44図	20	第10次6tr	金堂基壇北西隅 堆積層	平瓦	6	厚19	横ナデ	横ナデ	●19	横骨葺	側面削り	乳白色	278	
第44図	21	第10次6tr	金堂基壇北西隅 堆積層	平瓦	6	厚22	横ナデ	横ナデ	●18	横骨葺	側面削り	黄褐色	256	
第44図	22	第10次6tr	金堂基壇北西隅 堆積層	平瓦	1	厚23	横ナデ	横ナデ	●12	横骨葺	側面削り、装飾面削り	黄褐色	310	

第16表 興道寺廃寺第9～13次調査出土瓦観察表(5)

種別	遺物番号	調査次数 調査区	遺構・部位	種別	残存部位	法量 (mm)	凸面吹き種別 本数/2cm・大きさ	凸面調整 (ナズ損し)	凹面布目 本数/2cm	凹面調整	断面・側面調整	色調	重量	備考
第44図	23	第10次str	金堂基壇北西隅 堆積層	平瓦	8	厚22	縦目6	横ナズ	●22	横骨直	広端面削り	暗灰色	196	
第44図	24	第10次str	金堂基壇北西隅 堆積層	平瓦	8	厚13	縦目6	横ナズ	●20	横骨直	広端面削り	乳白色	150	
第45図	7	第10次str	素弁十葉蓮華文軒丸瓦	瓦当片	外縁幅21	厚22	平行5	横ナズ	●20	横骨直	側面削り	灰色	62	
第45図	8	第10次str	素弁十葉蓮華文軒丸瓦	無段式丸瓦	9	厚15	平行5	横ナズ	●20	布縁し合わせ直	側面削り、装端面削り	青灰色	182	
第45図	9	第10次str	堆積層(金堂基壇南側)	無段式丸瓦	1	厚15	平行5	横ナズ	▲(20)	側面削り、広端面削り	側面削り、装端面削り	青灰色	250	256.2片で同一個体を構成
第45図	10	第10次str	堆積層(金堂基壇南側)	無段式丸瓦	1	厚8	横・縦ナズ	横ナズ	●19	側面削り、装端面削り	側面削り、装端面削り	淡灰色	60	
第45図	11	第10次str	堆積層(金堂基壇南側)	無段式丸瓦	2.4	厚19	横ナズ	横ナズ	●(20)	側面削り、装端面削り、装端面削り	側面削り、装端面削り	灰色	306	2片で同一個体を構成
第45図	12	第10次str	堆積層(金堂基壇南側)	無段式丸瓦	2.4, 8	厚14	横ナズ	横ナズ	▲13	側面削り、装端面削り、装端面削り	側面削り、装端面削り	灰色	624	8片で同一個体を構成
第45図	13	第10次str	堆積層(金堂基壇南側)	無段式丸瓦	4	厚23	横ナズ	横ナズ	●20	布縁し合わせ直 糸切り直	側面削り	淡灰色	954	
第45図	14	第10次str	堆積層(金堂基壇南側)	無段式丸瓦	4	厚23	横ナズ	横ナズ	●20	側面削り	側面削り	淡灰色	954	
第45図	15	第10次str	堆積層(金堂基壇南側)	三重弧文軒平瓦	7	瓦当厚34	花卉型押し 横ナズ	横ナズ	●20	側面削り	側面削り	灰色	686	
第46図	16	第10次str	堆積層(金堂基壇南側)	偏行唐草文軒平瓦	8.9	瓦当厚52	横ナズ	横ナズ	●16	横骨直	側面二段削り	暗黄褐色	1228	
第46図	17	第10次str	堆積層(金堂基壇南側)	平瓦	9	厚22	平行5	横ナズ	●20	横骨直	側面削り、広端面削り	黄褐色	288	
第46図	18	第10次str	堆積層(金堂基壇南側)	平瓦	4	厚23	横ナズ	横ナズ	●20	横骨直	側面削り	乳白色	132	
第46図	19	第10次str	堆積層(金堂基壇南側)	平瓦	3	厚19	横ナズ	横ナズ	●20	横骨直	側面削り	灰色	610	
第46図	20	第10次str	堆積層(金堂基壇南側)	平瓦	1	厚16	横・縦ナズ	横ナズ	●18	横骨直	側面削り、装端面削り	黄褐色	218	
第46図	21	第10次str	堆積層(金堂基壇南側)	平瓦	3	厚25	横ナズ	横ナズ	●18	横骨直	側面削り	黄褐色	866	
第46図	22	第10次str	堆積層(金堂基壇南側)	平瓦	8	厚23	横・縦ナズ	横ナズ	●20	布縁し合わせ直	側面削り、装端面削り	乳白色	240	
第46図	23	第10次str	堆積層(金堂基壇南側)	平瓦	4	厚18	横・縦ナズ	横ナズ	●18	横骨直	側面削り、広端面削り	黄褐色	272	
第46図	24	第10次str	堆積層(金堂基壇南側)	平瓦	4	厚18	横・縦ナズ	横ナズ	▲10	横骨直	側面二段削り	黄褐色	190	
第47図	3	第10次str	SD100401理土(整地層)	素弁九葉蓮華文軒丸瓦	6	厚18	横ナズ	横ナズ	●20	側面削り、装端面削り	側面削り、装端面削り	暗灰色	718	
第47図	4	第10次str	SD100401理土(整地層)	丸瓦	6	厚13	平行4	横ナズ	●20	側面削り	側面削り	黒灰色	104	
第47図	5	第10次str	SD100401理土(整地層)	丸瓦	6	厚14	平行4	横ナズ	●16	布縁し合わせ直	側面削り	黒褐色	378	2片で同一個体を構成
第47図	6	第10次str	SD100401理土(整地層)	丸瓦	1-3	厚18	横ナズ	横ナズ	●18	布縁し合わせ直	側面削り	暗灰色	546	
第47図	7	第10次str	SD100401理土(整地層)	平瓦	7	厚21	平行4	横ナズ	●18	側面削り、装端面削り	側面削り、装端面削り	乳白色	268	
第47図	8	第10次str	SD100401理土(整地層)	平瓦	6	厚20	横ナズ	横ナズ	●20	横骨直	側面削り	灰色	178	
第47図	9	第10次str	SD100401理土(整地層)	平瓦	4	厚15	横・縦ナズ	横ナズ	●16	横骨直	側面削り	黒褐色	510	
第50図	8	第11次str	SB110401西側堆積層	無段式丸瓦	3	厚17	平行4	横ナズ	●11	横骨直	側面削り	乳白色	130	
第50図	9	第11次str	SB110401西側堆積層	無段式丸瓦	1	厚16	平行4	横ナズ	●11	横骨直	側面削り、装端面削り	灰色	350	
第50図	10	第11次str	SB110401西側堆積層	無段式丸瓦	3	厚11	横ナズ	横ナズ	●19	側面削り、装端面削り	側面削り、装端面削り	黄褐色	70	
第50図	11	第11次str	SB110401西側堆積層	無段式丸瓦	1	厚18	横ナズ	横ナズ	●18	側面削り	側面削り	黄褐色	382	
第50図	12	第11次str	SB110401西側堆積層	無段式丸瓦	7	厚23	横ナズ	横ナズ	●20	布縁し合わせ直	側面削り、装端面削り	乳白色	250	
第50図	13	第11次str	SB110401西側堆積層	無段式丸瓦	3	厚15	横ナズ	横ナズ	●22	横骨直	側面削り、装端面削り	乳白色	146	
第50図	14	第11次str	SB110401西側堆積層	平瓦	3	厚24	平行4	一部横ナズ	●21	一部横ナズ	側面削り、装端面削り	乳白色	648	
第50図	15	第11次str	SB110401西側堆積層	平瓦	3	厚19	平行4	一部横ナズ	●20	一部横ナズ	側面削り、装端面削り	淡灰色	148	
第50図	16	第11次str	SB110401西側堆積層	平瓦	4	厚17	正格子6×10	一部横ナズ	●18	横骨直	側面削り	淡灰色	204	
第50図	17	第11次str	SB110401西側堆積層	平瓦	6	厚17	正格子3×8	一部横ナズ	●21	横骨直	側面削り	乳白色	224	
第50図	18	第11次str	SB110401西側堆積層	平瓦	3	厚18	正格子3×8	一部横ナズ	●21	横骨直	側面削り	黄褐色	232	
第50図	19	第11次str	SB110401西側堆積層	平瓦	5	厚17	斜格子2×14	一部横ナズ	●(22)	横骨直	側面削り	黄褐色	96	
第50図	20	第11次str	SB110401西側堆積層	平瓦	6	厚15	正格子	横ナズ	●20	横骨直	側面削り	灰色	340	2片で同一個体を構成
第51図	21	第11次str	SB110401西側堆積層	平瓦	1-3	厚19	横ナズ	横ナズ	●(20)	横骨直	側面削り、装端面削り	黄褐色	1516	
第51図	22	第11次str	SB110401西側堆積層	平瓦	4	厚24	横ナズ	横ナズ	●(16)	布縁し合わせ直	側面削り、装端面削り	黄褐色	572	
第51図	23	第11次str	SB110401西側堆積層	平瓦	4	厚19	横・縦ナズ	横ナズ	●22	糸切り直	側面削り	黄褐色	174	
第51図	24	第11次str	SB110401西側堆積層	平瓦	4	厚27	横・縦ナズ	横ナズ	●(20)	横骨直	側面削り、装端面削り	褐色	408	
第51図	25	第11次str	SB110401西側堆積層	平瓦	1	厚19	横ナズ	横ナズ	●18	布縁し合わせ直	側面削り、装端面削り	灰色	190	

第17表 興道寺廃寺第9～13次調査出土瓦観察表(6)

挿図 番号	遺物 番号	調査回数 調査区	遺構・層位	種別	残存部位	法 量 (mm)	凸面叩き種別 本数/2cm・大きさ	凸面調整 (ナデ消し)	凹面布目 本数/2cm	凹面調整	断面・側面調整	色調	重量	備考
第51図	26	第11次4tr	S8110401西側堆積層	平瓦	4	厚18	細	横ナデ	●20	側面削り		黄褐色	240	
第51図	27	第11次4tr	S8110401西側堆積層	平瓦	6	厚18	細	横ナデ	●19	側面・凸面側縁削り		乳白色	234	
第51図	28	第11次4tr	S8110401東側堆積層	平瓦	4	厚25	平行4	横ナデ	●19	側面・凹面側縁削り		黄褐色	184	
第51図	29	第11次4tr	P110402埋土	平瓦	6	厚23		横ナデ	●	側面・凹凸面側縁削り		乳白色	718	
第51図	30	第11次4tr	P110403埋土	平瓦	4	厚19		横ナデ	●23	横骨痕		黄褐色	152	
第51図	31	第11次4tr	P110404検出	軒丸瓦(瓦瓦部)	7	厚18		横ナデ	●(22)	側面削り		乳白色	356	瓦との接合痕残る
第52図	32	第11次4tr	P1104012検出面	平瓦	3	厚26		横ナデ	●	側面削り、装飾面削り		黄褐色	246	
第52図	33	第11次4tr	P1104012検出面	平瓦	4	厚23		横ナデ	●19	側面削り		黄褐色	290	
第52図	5	第11次3tr	S8110301堆積層	丸瓦	7	厚17		横ナデ	●14	側面・凹面側縁削り、広端面削り		乳白色	128	
第52図	6	第11次3tr	S8110301堆積層	丸瓦	7	厚17		横ナデ	●19	側面・凹面側縁削り、広端面削り		赤褐色	298	
第52図	7	第11次3tr	S8110301堆積層	三重弧文軒平瓦	8	瓦当厚30 瓦当厚15		横ナデ	●(20)	横骨痕		乳白色	272	
第52図	34	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	葺弁十葉蓮華文軒丸瓦	瓦当片								38	
第52図	35	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	無段式丸瓦	1, 2, 5	厚11	平行5	強い横ナデ	密17	布綴じ合わせ痕	側面削り、装飾面粉砕工具による押さえナデ	灰色	(888) 釘穴痕	
第52図	36	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	無段式丸瓦	兜形	厚21		強い横ナデ	密16	布綴じ合わせ痕	側面・凹凸面側縁削り、広端面削り 装飾面押さえナデ、装飾凹面削り	灰色	3,196	
第52図	37	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	平瓦	3	厚20	平行	強い横ナデ	密21	横ナデ	側面・凸面側縁削り、装飾面削り	青灰色	430	38と同一個体か 凸面赤色顔料付着
第52図	38	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	平瓦	7	厚21	平行5		●16	横ナデ 布綴じ合わせ痕	側面・凹凸面側縁削り、広端面削り	淡灰色	346	37と同一個体か
第52図	39	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	平瓦	1	厚17	平行5			横ナデ	側面・凸面側縁削り	灰色	378	
第52図	40	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	平瓦	1	厚18		横ナデ		横ナデ	側面削り、装飾面削り	黄褐色	340	
第52図	41	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	平瓦	6	厚23	平行(4)	横ナデ	●20	横骨痕	側面二段削り	赤褐色	344	
第52図	42	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	平瓦	9	厚13		横ナデ	●21	布綴じ合わせ痕 横骨痕	側面削り	赤褐色	192	
第52図	43	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	平瓦	9	厚18		横ナデ	●19	横骨痕	側面・凹凸面側縁削り、広端面削り	赤褐色	196	
第52図	44	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	平瓦	9	厚21		横ナデ	●18	横骨痕	側面削り、広端面削り	赤褐色	170	
第52図	45	第9次1tr	堆積層(中門基壇西側)	平瓦	4	厚21	外縁二重弧文	横ナデ	●22	横骨痕	側面削り	赤褐色	232	
第52図	7	第9次1tr	彫地層(中門基壇西側断層)	葺弁八葉蓮華文軒丸瓦	瓦当片							灰色	76	
第52図	8	第9次1tr	彫地層(中門基壇西側断層)	葺弁八葉蓮華文軒丸瓦	瓦当片							灰色	112	
第52図	9	第9次1tr	彫地層(中門基壇西側断層)	無段式丸瓦	6	厚10	平行6	横ナデ	●22	側面削り		黒褐色	94	
第52図	10	第9次1tr	彫地層(中門基壇西側断層)	無段式丸瓦	6	厚10	平行5	横ナデ	●17	側面・凹面側縁削り		淡灰色	306	37で同一個体を構成
第52図	11	第9次1tr	彫地層(中門基壇西側断層)	無段式丸瓦	6	厚22		横ナデ	●(20)	側面・凹面側縁削り		灰色	288	
第52図	12	第9次1tr	彫地層(中門基壇西側断層)	無段式丸瓦	3, 6	厚18		横ナデ	●21	側面・凸面側縁削り、装飾面ナデ		灰色	638	37で同一個体を構成
第52図	13	第9次1tr	彫地層(中門基壇西側断層)	無段式丸瓦	4	厚19		横ナデ	●26	布綴じ合わせ痕	側面・凹面側縁削り	灰色	148	
第52図	14	第9次1tr	彫地層(中門基壇西側断層)	無段式丸瓦	1	厚19		横ナデ	●18	側面削り	側面・凹面側縁削り	乳白色	136	
第52図	15	第9次1tr	彫地層(中門基壇西側断層)	備行唐草文軒平瓦	8	瓦当幅58		横ナデ	●17	横骨痕	側面削り	淡灰色 (2,138)	906	
第52図	16	第9次1tr	彫地層(中門基壇西側断層)	平瓦	2, 5	厚22	平行5	横ナデ		横ナデ	装飾面削り	黄褐色	304	
第52図	17	第9次1tr	彫地層(中門基壇西側断層)	平瓦	4	厚17		横ナデ		横ナデ	側面削り	乳白色	180	
第52図	18	第9次1tr	彫地層(中門基壇西側断層)	平瓦	9	厚19		横ナデ		横ナデ	側面削り、広端面削り	灰色	400	27で同一個体を構成
第52図	19	第9次1tr	彫地層(中門基壇西側断層)	平瓦	8	厚32		横ナデ	●25	横骨痕	広端面削り、広端面押さえ	赤褐色	186	
第52図	20	第9次1tr	彫地層(中門基壇西側断層)	平瓦	8	厚28		横ナデ	●18	横骨痕	広端面削り	赤褐色	186	
第60図	21	第9次1tr	彫地層(中門基壇西側断層)	平瓦	2, 3, 5	厚23		横ナデ	●19	横骨痕	側面二段削り、装飾面ナデ	赤褐色	(1,032) 37で同一個体を構成	
第60図	22	第9次1tr	彫地層(中門基壇西側断層)	平瓦	2	厚23		横ナデ	●21	横骨痕 布綴じ合わせ痕	装飾面ナデ	赤褐色	378	27で同一個体を構成
第60図	23	第9次1tr	彫地層(中門基壇西側断層)	平瓦	1, 2	厚25		横ナデ	●24	横骨痕	側面・凸面側縁削り、装飾面ナデ	赤褐色	298	
第60図	24	第9次1tr	彫地層(中門基壇西側断層)	平瓦	3	厚22		横ナデ	●21	横骨痕	側面・凹面側縁削り、装飾面ナデ	赤褐色	242	
第60図	25	第9次1tr	彫地層(中門基壇西側断層)	平瓦	3	厚25		横ナデ	●20	横骨痕	側面・凹面側縁削り	赤褐色	254	
第60図	26	第9次1tr	彫地層(中門基壇西側断層)	平瓦	4	厚23		横ナデ	●21	横骨痕	側面・凸面側縁削り	赤褐色	568	37で同一個体を構成
第60図	27	第9次1tr	彫地層(中門基壇西側断層)	平瓦	3	厚22		横ナデ	●20	横骨痕	側面三段削り、装飾面削り	黄褐色	596	
第60図	28	第9次1tr	彫地層(中門基壇西側断層)	平瓦	6	厚19		横ナデ	●25	布綴じ合わせ痕	側面・凸面側縁削り	黄褐色	576	37で同一個体を構成

第18表 興道寺廃寺第9～13次調査出土瓦観察表(7)

種別	遺物番号	調査年度	遺構・構位	種別	残存部位	法量(mm)	凸面吹き離別 本数/2cm・大きさ	凸面調整 (ナデ指し)	凹面布目 本数/2cm	凹面調整	断面・側面調整	色調	重量	備考
第66図	29	第9次1tr	塀地層(中門基壇西側断層)	平瓦	6	厚25		横ナデ	●20	横骨直	側面三段削り、凹面側縁削り	黄褐色	166	
第66図	30	第9次1tr	塀地層(中門基壇西側断層)	平瓦	7	厚18		横ナデ	●27	横骨直	側面・凹面側縁削り 広端部分ナデ、広端凸面削り	暗黄褐色	500	2片で同一個体を構成
第66図	31	第9次1tr	塀地層(中門基壇西側断層)	平瓦	9	厚18		横ナデ	●23	横骨直	側面・凹面側縁削り、広端凸面削り	暗黄褐色	290	
第66図	32	第9次1tr	塀地層(中門基壇西側断層)	平瓦	7,9	厚22		横ナデ	●22	横骨直	側面削り、広端面削り	暗黄褐色	818	3片で同一個体を構成
第66図	9	第11次1tr	中門・南門基壇西側堆積層	無段式丸瓦	1	厚12	平行4	横・縦ナデ	●26	横骨直	側面削り、狭端面削り	乳白色	78	
第66図	10	第11次1tr	中門・南門基壇西側堆積層	平瓦	6	厚19	斜格子5×8	横ナデ	●17	横骨直	側面削り	黒色	408	
第66図	1	第11次1tr	SD110101検出	素弁十葉蓮華文軒平瓦	瓦当片	外縁幅10					瓦当薄い、瓦当の一部に糸切り痕	灰色	128	
第66図	2	第11次1tr	SD110101検出	素弁十葉蓮華文軒丸瓦	瓦当片	外縁幅18					瓦当厚い	灰色	86	
第66図	3	第11次1tr	SD110101検出	素弁九葉蓮華文軒丸瓦	瓦当片	厚9		横ナデ	●17	横骨直	側面削り	黄褐色	136	
第66図	4	第11次1tr	SD110101検出	無段式丸瓦	4	厚9		横・縦ナデ	●	横骨直	側面削り	淡灰色	40	
第66図	5	第11次1tr	SD110101検出	無段式丸瓦	4	厚20		横・縦ナデ	●	横骨直	側面削り	黄褐色	192	
第66図	6	第11次1tr	SD110101検出	無段式丸瓦	4	厚17		横・縦ナデ	●19	横骨直	側面削り	暗灰色	292	
第66図	7	第11次1tr	SD110101検出	無段式丸瓦	2,3,5,7,8	厚25		横ナデ	●20	横骨直	側面削り・広端面削り	黄褐色	(3,250)	
第66図	8	第11次1tr	SD110101検出	三重弧文軒平瓦	7	厚27		横ナデ	●	横骨直	側面削り	黒色	312	
第66図	9	第11次1tr	SD110101検出	平瓦	9	厚20	平行5	横ナデ	●25	横骨直	側面削り、広端面削り	黄褐色	190	
第66図	10	第11次1tr	SD110101検出	平瓦	2	厚21		横ナデ	●16	横骨直	側面削り、凹面側縁削り	褐色	550	
第66図	11	第11次1tr	SD110101検出	平瓦	3	厚19		横ナデ	●23	横骨直	側面二段削り、狭端面削り	暗灰色	208	
第66図	12	第11次1tr	SD110101検出	平瓦	8	厚23		横ナデ	●	横骨直	側面削り、凹凸広端ナデ	褐色	224	
第66図	13	第11次1tr	SD110101検出	平瓦	9	厚28		横ナデ	●19	横骨直	側面・凹面側縁削り 狭端面削り、凹凸広端ナデ	褐色	468	
第66図	14	第11次1tr	SD110101検出	平瓦	2,6	厚22		横・縦ナデ	●22	横骨直	側面・凹面側縁削り、狭端面削り	褐色	394	2片で同一個体を構成
第66図	15	第11次1tr	SD110101検出	平瓦	4	厚18	細5	横ナデ	●20	横骨直	側面削り	乳白色	227	
第66図	6	第11次1tr	SD110101理土	素弁八葉蓮華文軒丸瓦	瓦当片	外縁幅19		横ナデ	●28	横骨直	側面削り	乳白色	468	
第66図	7	第11次1tr	SD110101理土	無段式丸瓦	3	厚16		横ナデ	●19	横骨直	側面・凹凸側縁削り、狭端面二段削り	灰色	238	
第66図	8	第11次1tr	SD110101理土	無段式丸瓦	6	厚20		横ナデ	●29	横骨直	側面・凹面側縁削り	灰色	138	
第66図	9	第11次1tr	SD110101理土	無段式丸瓦	7	厚20		横ナデ	●20	横骨直	側面・凹面側縁削り	淡灰色	144	
第66図	10	第11次1tr	SD110101理土	無段式丸瓦	7	厚20		横ナデ	●18	横骨直	側面・凹面側縁削り	淡灰色	386	
第66図	11	第11次1tr	SD110101理土	無段式丸瓦	5	厚12	細5	横ナデ	●18	横骨直	側面削り	灰色	204	
第66図	12	第11次1tr	SD110101理土	偏行唐草文軒平瓦	瓦当片		細	横ナデ	●	横骨直	相互部との接合面	灰色	236	
第66図	13	第11次1tr	SD110101理土	平瓦	4	厚22	平行5	横ナデ	●	横骨直	側面削り	黄褐色	250	
第66図	14	第11次1tr	SD110101理土	平瓦	6	厚22	正格子2×9	横ナデ	●19	横骨直	側面削り	黄白色	116	
第66図	15	第11次1tr	SD110101理土	平瓦	1	厚19	正格子4×8	横ナデ	●19	横骨直	側面削り	黄白色	116	
第66図	16	第11次1tr	SD110101理土	平瓦	7	厚17		横ナデ	●18	横骨直	側面・凸面側縁削り、広端面削り	黄褐色	168	
第66図	17	第11次1tr	SD110101理土	平瓦	9	厚20	斜格子3×6	横・縦ナデ	●18	横骨直	側面二段削り、広端面削り	暗灰色	144	
第66図	18	第11次1tr	SD110101理土	平瓦	2	厚13	斜格子3×3	横ナデ	●21	横骨直	側面削り	灰色	146	
第66図	19	第11次1tr	SD110101理土	平瓦	1	厚12	斜格子	横ナデ	●19	横骨直	側面削り、狭端面押さえナデ	灰色	170	
第66図	20	第11次1tr	SD110101理土	平瓦	3	厚18		横ナデ	●22	横骨直	側面・凹面側縁削り、広端面・凸面広端削り	灰色	234	
第66図	21	第11次1tr	SD110101理土	平瓦	8	厚23		横ナデ	●26	横骨直	側面削り	灰色	310	
第66図	22	第11次1tr	SD110101理土	平瓦	9	厚25		横・縦ナデ	●24	横骨直	側面・凹面側縁削り、広端面削り	乳白色	506	
第67図	7	第11次1tr	中門・南門基壇西側断層(断層)	無段式丸瓦	2	厚18		横ナデ	●17	横骨直	側面削り	褐色	194	
第67図	8	第11次1tr	中門・南門基壇西側断層(断層)	平瓦	2	厚15	斜格子4×6	横ナデ	●19	横骨直	側面削り	乳白色	(530)	
第67図	9	第11次1tr	中門・南門基壇西側断層(断層)	平瓦	6	厚15	細6	横ナデ	●20	横骨直	側面削り	暗灰色	140	
第68図	5	第12次1tr	SB120701北側堆積層	無段式丸瓦	4	厚18		横・縦ナデ	●21	横骨直	側面削り	暗灰色	148	
第68図	6	第12次1tr	SB120701北側堆積層	無段式丸瓦	4	厚16		横・縦ナデ	●26	横骨直	側面削り	暗灰色	238	有段式丸瓦か
第68図	7	第12次1tr	SB120701北側堆積層	無段式丸瓦	4	厚18		横・縦ナデ	●17	横骨直	側面削り	黄褐色	460	有段式丸瓦か
第68図	8	第12次1tr	SB120701北側堆積層	無段式丸瓦	6	厚17		横・縦ナデ	●23	横骨直	側面削り	黄褐色	192	
第68図	9	第12次1tr	SB120701北側堆積層	無段式丸瓦	4	厚19		横ナデ	●26	横骨直	側面削り	黄褐色	378	
第68図	10	第12次1tr	SB120701北側堆積層	平瓦	5	厚20	斜格子4×6	横ナデ	●18	横骨直	側面削り	黒褐色土	280	
第68図	11	第12次1tr	SB120701北側堆積層	平瓦	6	厚19		横・縦ナデ	●22	横骨直	側面削り	灰白色	(446)	

第19表 興道寺廃寺第9～13次調査出土瓦類表(8)



種別	遺物番号	調査次数 調査区	遺構・層位	種別	残存部位	法量 (mm)	凸凹叩き種別 本数/2cm・大きさ	凸凹調整 (ナデ消し)	凹面布目 本数/2cm	凹面調整	断面・側面調整	色調	重量	備考
第65図	12	第12次2tr	SB120701北側堆積層	平瓦	4	厚21	横ナデ	横ナデ	●19	側面・凹面側縁削り	側面・凹面側縁削り	黄灰色	244	
第65図	13	第12次2tr	SB120701北側堆積層	平瓦	9	厚17	横ナデ	横ナデ	●19	側面・凹面側縁削り	側面・凹面側縁削り	黄灰色	160	
第65図	1	第13次2tr	SB130201南側堆積層上層	兼弁八葉蓮華文軒丸瓦	瓦当	瓦当厚25						黄灰色	158	
第65図	2	第13次2tr	SB130201南側堆積層上層	無段式丸瓦	6	厚19	横ナデ	横ナデ	●20		側面削り	黄灰色	112	
第65図	3	第13次2tr	SB130201南側堆積層上層	平瓦	5	厚16	正格子1×9	横ナデ	●17		側面削り	黄灰色	212	
第65図	4	第13次2tr	SB130201南側堆積層上層	平瓦	4	厚20	横ナデ	横ナデ	●19		側面削り	黄灰色	232	
第65図	5	第13次2tr	SB130201南側堆積層上層	平瓦	6	厚28	細6	横ナデ	●17		側面削り	乳白色	634	
第65図	9	第13次2tr	SB130201南側堆積層	廂行唐草文軒平瓦	瓦当							黄灰色	46	
第65図	10	第13次2tr	SB130201南側堆積層	鬼板瓦もしくは湯尾	5	厚26	蓮華文押し型	横ナデ	●18	横ナデ	側面削り、装端面削り	赤褐色	100	
第65図	11	第13次2tr	SB130201南側堆積層	無段式丸瓦	3	厚19	平行4	横ナデ	●	側面削り、装端面削り	側面削り、装端面削り	黄灰色	132	
第65図	12	第13次2tr	SB130201南側堆積層	無段式丸瓦	4	厚20	横ナデ	横ナデ	●18	一部横ナデ	側面・凹凸面側縁削り	黄灰色	180	
第65図	13	第13次2tr	SB130201南側堆積層	無段式丸瓦	1	厚25	横ナデ	横ナデ	●27		側面削り、装端面削り	褐色	146	
第65図	14	第13次2tr	SB130201南側堆積層	平瓦	1	厚18	平行4	横ナデ	●21	横ナデ	側面・凹凸面側縁削り、装端面削り	灰色	726	
第65図	15	第13次2tr	SB130201南側堆積層	平瓦	6	厚21	細5	横ナデ	●18	一部横ナデ	側面二段・凹面側縁削り	黄灰色	172	
第65図	16	第13次2tr	SB130201南側堆積層	平瓦	6	厚16	正格子5×6	横ナデ	●22	横ナデ	側面削り	黄灰色	120	
第65図	17	第13次2tr	SB130201南側堆積層	平瓦	8	厚20	正格子3×3	横ナデ	●22	横ナデ	側面削り	黄灰色	90	
第65図	18	第13次2tr	SB130201南側堆積層	平瓦	5	厚22	斜格子8×9	横ナデ	●24	永切り瓦	側面削り、装端面削り	黄灰色	434	
第65図	19	第13次2tr	SB130201南側堆積層	平瓦	3	厚22	横ナデ	横ナデ	●20	横ナデ	側面削り、装端面削り	黄灰色	146	
第65図	20	第13次2tr	SB130201南側堆積層	平瓦	1	厚20	横ナデ	横ナデ	●18	横ナデ	側面・凹凸面側縁削り	黄灰色	120	
第65図	21	第13次2tr	SB130201南側堆積層	平瓦	4	厚19	細5	横ナデ	●18	横ナデ	側面削り	灰白色	170	
第65図	22	第13次2tr	SB130201南側堆積層	平瓦	3	厚19	細5	横ナデ	●17	横ナデ	側面削り、装端面削り	黄灰色	102	
第65図	23	第13次2tr	SB130201南側堆積層	無段式丸瓦	6	厚10	平行5	横ナデ	●16	横ナデ	側面削り	灰色	94	
第65図	24	第13次2tr	SB130201南側堆積層	有段式丸瓦	2	厚32	横ナデ	横ナデ	●22	横ナデ	側面削り	黄灰色	366	
第65図	25	第13次2tr	SB130201南側堆積層	平瓦	2	厚15	横ナデ	横ナデ	●16	横ナデ	装端面削り	黄灰色	152	
第65図	26	第13次2tr	SB130201南側堆積層	平瓦	8	厚20	横ナデ	横ナデ	●25	横ナデ	装端面削り	黄灰色	182	
第65図	27	第13次2tr	SB130201南側堆積層	無段式丸瓦	8	厚26	横ナデ	横ナデ	●	横ナデ	装端面削り	乳白色	364	
第65図	28	第13次2tr	SB130201南側堆積層	有段式丸瓦	5	厚19	横ナデ	横ナデ	●21	横ナデ	側面・凹凸面側縁削り	灰色	258	
第65図	10	第12次8tr	SB120801北側堆積層	無段式丸瓦	4	厚17	細6	横ナデ	●20	横ナデ	側面削り	黄灰色	204	
第65図	11	第12次8tr	SB120801北側堆積層	平瓦	4	厚18	細6	横ナデ	●19	横ナデ	側面・凹凸面側縁削り	褐色	234	
第65図	12	第12次8tr	SB120801北側堆積層	平瓦	4	厚18	細6	横ナデ	●20	横ナデ	側面削り	黄灰色	260	
第65図	5	第11次2tr	中門基壇北側整地層	兼弁十葉蓮華文軒丸瓦	瓦当片	外縁幅15					瓦当薄い、蓮華の一部に范傷	乳白色	48	
第65図	7	第11次2tr	中門基壇北側整地層	無段式丸瓦	4	厚18	横ナデ	横ナデ	●29	横ナデ	側面削り、装端面削り	淡灰色	62	
第65図	8	第11次2tr	中門基壇北側整地層	無段式丸瓦	5	厚19	横ナデ	横ナデ	●20	横ナデ	側面削り	赤褐色	162	
第65図	9	第11次2tr	中門基壇北側整地層	無段式丸瓦	9	厚19	横ナデ	横ナデ	●22	横ナデ	側面・凹凸面側縁削り	灰色	330	
第65図	10	第11次2tr	中門基壇北側整地層	無段式丸瓦	4, 5, 9	厚20	横ナデ	横ナデ	●16	横ナデ	側面削り、装端面削り	乳白色	460	
第65図	11	第11次2tr	中門基壇北側整地層	三葉蓮華文軒平瓦	9	厚23	横ナデ	横ナデ	●20	横ナデ	側面削り、装端面削り	乳白色	872	8片で同一個体を構成
第65図	12	第11次2tr	中門基壇北側整地層	平瓦	4, 5	厚28	平行5	横ナデ	●20	横ナデ	側面削り	乳白色	470	
第65図	13	第11次2tr	中門基壇北側整地層	平瓦	8	厚26	平行5	横ナデ	●23	横ナデ	側面削り	黄褐色	444	
第65図	14	第11次2tr	中門基壇北側整地層	平瓦	2	厚18	斜格子3×5	横ナデ	●21	横ナデ	側面削り	黄褐色	302	
第65図	15	第11次2tr	中門基壇北側整地層	平瓦	7	厚21	横ナデ	横ナデ	●19	横ナデ	側面削り、装端面削り	黄褐色	174	
第65図	16	第11次2tr	中門基壇北側整地層	平瓦	8	厚20	横ナデ	横ナデ	●19	横ナデ	側面削り	灰色	360	
第90図	19	第11次11tr	表上下 礎層	無段式丸瓦	4	厚13	平行4	横ナデ 削り状横ナデ消し	●20	横ナデ	側面削り	灰色	124	
第90図	20	第11次11tr	表上下 礎層	平瓦	9	厚22	斜格子	横ナデ 削り状横ナデ消し	●22	横ナデ	側面削り	淡灰色	276	
第90図	21	第11次11tr	表上下 礎層	平瓦	6	厚25	横ナデ 削り状横ナデ消し	横ナデ 削り状横ナデ消し	●18	横ナデ	側面削り	黄灰色	364	
第90図	22	第11次11tr	表上下 礎層	平瓦	8	厚22	横ナデ 削り状横ナデ消し	横ナデ 削り状横ナデ消し	●20	横ナデ	側面削り	灰色	238	
第90図	23	第11次11tr	表上下 礎層	平瓦	6	厚27	横ナデ 削り状横ナデ消し	横ナデ 削り状横ナデ消し	●20	横ナデ	側面削り	黄褐色	264	

第20表 興道寺院第9～13次調査出土瓦観察表(9)

種別	調査次数	遺物	調査区	遺構・層位	種別	残存部位	法量	凸面向き種別	凸面調整	凹面調整	断面・側面調整	色調	重量	備考
番号	番号	番号	番号	番号	番号	番号	(mm)	本数/2cm・大きさ	(ナテ消し)	(ナテ消し)				
第91図	24	第11次1tr	SB11101	北側堆積層	無段式丸瓦	6	厚24	横ナテ	●(24)		側面・凹面側縁削り	灰色	194	
第91図	25	第11次1tr	SB11101	南側堆積層	無段式丸瓦	6	厚20	横・縦ナテ	●(20)		側面・凸面側縁削り	黄灰色	454	
第91図	26	第11次1tr	SB11101	南側堆積層	平瓦	6	厚17	横ナテ	●(19)		側面削り	黄灰色	336	
第91図	27	第11次1tr	SB11101	南側堆積層	平瓦	6	厚19	横ナテ	●(20)		側面・凹面側縁削り	黄灰色	198	
第91図	28	第11次1tr	SB11101	南側堆積層	平瓦	8, 9	厚28	横・縦ナテ	●(24)		側面・凹面側縁削り	褐色	540	
第92図	1	第11次1tr	SD110102	埋土	表八葉蓮華文軒丸瓦	瓦当片	瓦当厚9	横ナテ	●(20)		側面削り	暗灰色	(196)	
第92図	2	第11次1tr	SD110102	埋土	平瓦	1	厚15	横ナテ	●(19)		側面削り	暗灰色	266	
第92図	3	第11次1tr	SD110102	埋土	平瓦	4	厚18	横ナテ	●(18)		側面削り	暗灰色	(814)	
第93図	3	第12次2tr	表土下 礫層	表土下 礫層	表八葉蓮華文軒平瓦	8	外縁厚22	横ナテ	●(27)		表八葉蓮華文軒平瓦	灰色	182	
第93図	4	第12次2tr	表土下 礫層	表土下 礫層	平瓦	2	厚21	横ナテ	●(18)		表八葉蓮華文軒平瓦	黄灰色	164	
第93図	5	第12次2tr	表土下 礫層	表土下 礫層	平瓦	4	厚23	横ナテ	●(18)		側面・凹面側縁削り	灰色	240	
第93図	6	第12次2tr	SB12020	西側堆積層	無段式丸瓦	6	厚11	横ナテ	●(18)		側面削り	灰色	80	
第93図	7	第12次2tr	SB12020	西側堆積層	無段式丸瓦	3	厚17	横ナテ	●(16)		側面削り、表八葉蓮華文軒平瓦	乳白色	218	
第93図	8	第12次2tr	SB12020	西側堆積層	平瓦	8	厚22	横ナテ	●(22)		広縁面削り	灰色	448	
第93図	9	第12次2tr	SB12020	西側堆積層	平瓦	6	厚22	横ナテ	●(22)		側面削り	乳白色	246	
第94図	1	第12次4tr	再建階層	表八葉蓮華文軒平瓦	表八葉蓮華文軒平瓦	8	外縁厚10	横ナテ	●(16)		側面削り	灰色	68	
第98図	3	第10次10tr	寺域北側 堆積層	無段式丸瓦	無段式丸瓦	8	厚16	横ナテ	●(18)		広縁面削り	灰色	288	
第98図	4	第10次10tr	寺域北側 堆積層	平瓦	平瓦	9	厚21	横ナテ	●(18)		側面・広縁面削り	黄白色	460	
第98図	6	第10次10tr	SK101002	埋土	表八葉蓮華文軒丸瓦	瓦当片	外縁厚11	横ナテ	●(22)		瓦当溝、蓮弁・間弁の一部の溝れと范筋	暗灰色	282	
第98図	7	第10次10tr	P10102	埋土	無段式丸瓦	4	厚17	横ナテ	●(22)		側面削り	黒色	142	
第114図	4	第11次7tr	SD11070	埋土	平瓦	4	厚20	横ナテ	●(18)		側面・凹面側縁削り	黄褐色	422	
第115図	5	第12次3tr	SD12090	埋土	無段式丸瓦	7	厚17	横ナテ	●(25)		側面削り	暗灰色	110	
第115図	6	第12次3tr	SD12090	埋土	無段式丸瓦	1, 2, 4, 5, 7	厚15	横ナテ	●(25)		側面・凹面側縁削り、広縁面削り	赤褐色	178	
第115図	7	第12次3tr	SD12090	埋土	有段式丸瓦	2	厚18	横ナテ	●(22)		側面削り、表八葉蓮華文軒平瓦	乳白色	(704)	
第115図	8	第12次3tr	SD12090	埋土	平瓦	3	厚27	横ナテ	●(22)		側面削り、表八葉蓮華文軒平瓦	黄灰色	460	
第118図	9	第9次8tr	SK090803	埋土	平瓦	3	厚21	横ナテ	●(22)		側面削り、表八葉蓮華文軒平瓦	灰色	254	
第125図	16	第10次12tr	概乱瓦埋土	概乱瓦埋土	無段式丸瓦	4	厚15	横ナテ	●(17)		側面・凹面側縁削り	淡灰色	326	
第125図	17	第10次12tr	概乱瓦埋土	概乱瓦埋土	平瓦	8, 9	厚21	横ナテ	●(18)		側面削り、広縁面削り	乳白色	194	
第125図	18	第10次12tr	概乱瓦埋土	概乱瓦埋土	平瓦	6	厚23	横ナテ	●(19)		側面削り	黄褐色	682	
第125図	18	第10次12tr	概乱瓦埋土	概乱瓦埋土	平瓦	6	厚23	横ナテ	●(19)		側面削り	黄褐色	560	

第21表 興道寺院寺第9～13次調査出土瓦観察表(10)

種別	調査次数	遺物	調査区	遺構・層位	種別	残存部位	法量	凸面向き種別	凸面調整	凹面調整	断面・側面調整	色調	重量	備考								
番号	番号	番号	番号	番号	番号	番号	(mm)	本数/2cm・大きさ	(ナテ消し)	(ナテ消し)												
第17図	29	SB110502	北側堆積層	(第11次調査5トレンチ)	砲弾型	(27)	器高(47)	器口径(27)	底径(25)	重量(14.9)	形状(14.9)	右巻き	螺旋方向	螺紋巻数(4)	底面穿孔	穿孔径(7)	穿孔深さ(19)	底面削り	有?	色調	上部欠損、1箇所	型合わせ痕、底面全体を斜めに削り?
第17図	30	SB110502	北側堆積層	(第11次調査5トレンチ)	砲弾型	47	22	26.1	型作り	右巻き	10	有	21	無	淡灰色	変形、2箇所	型合わせ痕、頂部に被熱痕(軸付着)					
第17図	31	SB110502	北側堆積層	(第11次調査5トレンチ)	砲弾型	48	27	29.3	型作り	右巻き	9	無	—	有	淡灰色	変形、頂部	側面に被熱痕、底面を斜めに2面に削り					
第34図	187	表土	(第11次調査5トレンチ)	砲弾型	(42)	23	(19.5)	型作り	右巻き	9	有	7	32	有	淡灰色	上部欠損、側面	2面に削り、底面を斜めに削り					
第62図	35	SK110401	埋土	(第11次調査4トレンチ)	円錐型	20	18	7.0	型作り	右巻き	6	有	8	無	灰色	変形						
第68図	4	SB110701	北側堆積層	(第12次調査7トレンチ)	砲弾型	(45)	23	(24.5)	型作り	右巻き	(8)	有	6	14	無	淡灰色	上部欠損、2箇所	型合わせ痕				
第69図	8	SB130201	南側堆積層	(第13次調査2トレンチ)	砲弾型	(43)	—	(18.3)	型作り	右巻き	10	有	6	(20)	—	黒褐色	上部欠損、側面	側面に型合わせ痕				
第71図	29	表土	(第13次調査2トレンチ)	砲弾型	(24)	21	(16.5)	型作り	右巻き	(4)	有	7	13	有	淡褐色	上部欠損、2箇所	型合わせ痕、底面を斜めに削り					
第71図	30	表土	(第13次調査2トレンチ)	砲弾型	(24)	23	(12.5)	型作り	右巻き	(2)	有	6	14	有	褐色	上部欠損、2箇所	型合わせ痕、底面を斜めに2段削り					
第71図	31	表土	(第13次調査2トレンチ)	砲弾型	(29)	—	(12.8)	型作り	右巻き	(6)	有	4	(7)	—	黄灰色	上部欠損、2箇所	型合わせ痕					
第85図	8	表土	(第10次調査2トレンチ)	砲弾型	(24)	21	(10.1)	型作り	右巻き	(4)	有	4	6	有	淡灰色	上部欠損、2箇所	型合わせ痕、底面全体を斜めに削り					

第22表 興道寺院寺第9～13次調査出土型像観察表

※ 螺旋方向は、底面から上部にかけての螺旋方向を示す。